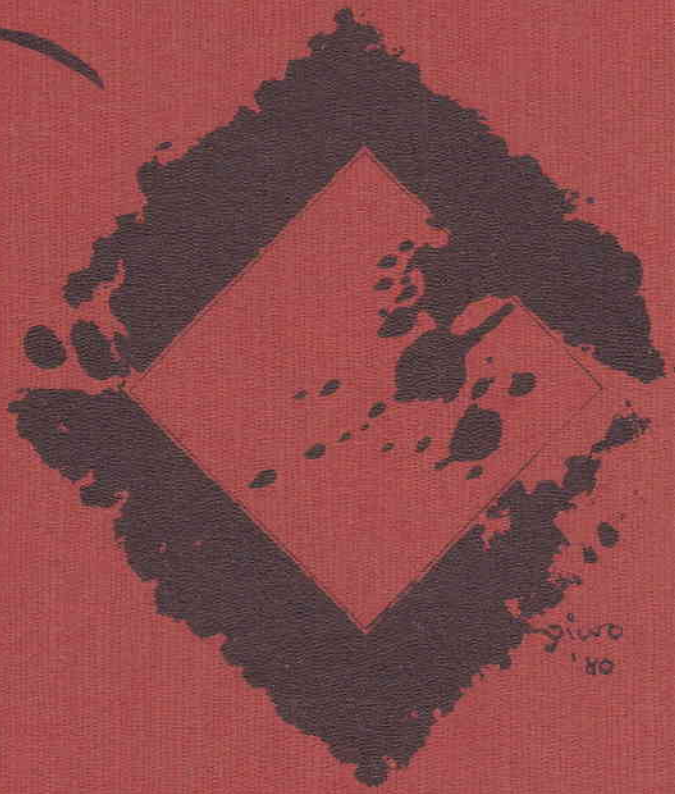
創造の炎



北海道造形教育連盟30年記念誌

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

『創造の炎』目次

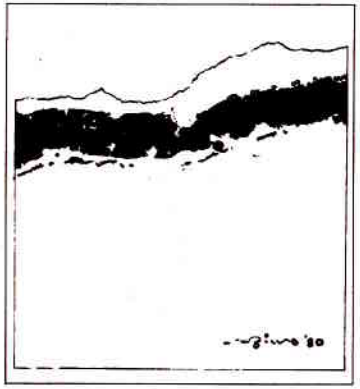
○「創造の炎」発刊に寄せて／委員長・辻悦平……4
○「創造の炎」発刊を祝して／道教育長・中川利若……6
○「創造の炎」の前進のために／初代委員長・野村英夫……8
○追想のままに／四代委員長・和田芳郎……10
○造形教育へ期待／五代委員長・伊東将夫……11
○想い出の中から／六代委員長・高橋栄吉……12

◆PART Ⅰ 創造の足跡……13

○北海道造形教育連盟活動年表（昭和24年～昭和44年）……14
○第20回全道造形教育研究（旭川）大会……45／○第21回全道造形（札幌ゼミナール）……55
○第22回全道造形教育研究（帯広・十勝）大会……71／○第23回全道造形教育研究（室蘭）大会……77
○第24回全道造形教育研究（美幌）大会……85／○第25回全道造形教育研究（江別）大会……95
○第26回全道造形教育研究（岩見沢）大会……105／○第27回全道造形教育研究（札幌）大会／第30回全国造形教育研究（札幌）大会／第3回造形センター北海道支部大会……116
○第28回全道造形教育研究（函館）大会……127／○第29回全道造形教育研究（旭川）大会……148

◆PART Ⅱ 創造の泉……168

○その1　第10回大会～第29回大会公開授業案抄……169
○その2　研究論文ダイジェスト／新妻清・伊藤恵・荒木愛子・高橋良助・和田芳郎・池本良三・佐藤吉五郎・早弓弘行……231



◆PART Ⅲ 創造の山脈……245

○その1　各地区のこの10年　本部／松島輝男……246●渡島／近堂俊行……248●桧山／三浦敏勝……250●胆振／笠原金一……253●日高／越後光雄……254●室蘭／石塚潔……256●苫小牧／片桐勉……257●札幌／坂口清一……259●空知／寺谷安雄……262●留萌／佐々木忠……264●旭川／渡辺正勝……266●根室／川野上彰……268
○その2　北海道教育美術展のあゆみ　●鹿島健……270　立体造形展・伊藤恵……272

◆PART Ⅳ 創造へ拍手……275

○先輩からのメッセージ　天才／繁野三郎●連盟30周年を祝す／藤野高常……276
楽しくなった大会／朝倉力男●絵による対話／高林繁雄……277
創立30周年に寄せて／畠山三代喜●私のホームグランド／泉秀雄……278
写生と模写／橋本富●造形教育をいとおしむ／荒木愛子……279
○支えてくださった方よりのメッセージ
造形連盟との「きずな」とその流れ／太斉　正……280●連盟に育くまれて／後藤卓生……281●連盟と私／清水　昇……283
○座談会／連盟30年をふりかえる／野村英夫・伊東将夫・高橋栄吉・伊藤恵・辻悦平・森川昭夫・坂田武夫・中村矢一……301
編集委員
○随想　造形連盟30年のあゆみの中で／伊藤恵・長谷川伝・種市誠次郎・成田一男・荒川恵吾・坂田武夫・高橋清・菅原陵三・新谷純鋪・平山満・葛西良子・伊藤英世・後藤誠功・蛯子信也・鈴村幸司・鶴賀孝三・岩間歳仁・村谷利一・長野祐平・藤塚愛子・花田正雄・毛馬内国夫・富所玲・今裕子・菅原清貞・広沢正俊・富田泰……323
●編集後記……324●付・北海道造形教育連盟規約……325●昭和54年度北海道造形連盟役員名簿●題字／東志隆●カット／香西富士男／装丁／佐野千尋

北海道造形教育連盟三十周年記念誌発行に際して

「創造の炎」

北海道造形教育連盟委員長
辻　悦平

北海道造形教育連盟三十年のあゆみは、北海道造形教育三十数年のなまなましい歩みでもある。

人間の生き方を原点から見つめ、互に心をさらけ出し、理論に実践に体ごとぶつかりながら造形教育の道しるべをつけてきた三十数年でもあった。

意欲が実践を生み、実践が創造の芽を育て創造の心が又意欲をかきたてる。その三十年の歴史は誠に「創造の炎」と称するに値する。

昭和二十四年に誕生した札幌美育連盟は自己研修と研究組織の強化をめざして全道図画工作教育講習会を学芸大学札幌分校で開催し更に二十五年には教員一、二級免許状取得にかかわる講習会を同じく学芸大学で開催している。

又同年十一月には情操教育振興第一回全道図画工作教育研究集会が札幌で開催され、爾来この全道研究大会が全道各地を巡って開催され、数多くの業績を残しつつ現在に至っている。

民間教育団体が主となって研究大会を開催したのは本道では当連盟が最初であるように思う。全国的な美術教育誌「美育文化」の二十六年一月号に「地域が広大で連絡が困難であり、かかる全道的な大会を持つことは、かってなかったことである」と此の第一回大会について報告されていることが印象的である。

札幌美育連盟は二十五年十一月北海道美術教育会と改称され更に二十六年十一月には北海道図画工作連盟となって再出発している。

この図画工作連盟では、準教科書の編集を手がけており、次のようにその編集方針を示している。

「新教育の提唱以来、本道の実情に即した図画工作科の準教科書作成が全道実践家の声として要望されておりました。図画工作科のカリキュラム構成にあたっては地域性に立脚することが特に必要であり、更に学習の裏づけとして資料が豊富でなければ円滑に学習が展開できないことはいうまでもありません。準教科書編集は本道の図画工作教育振興のための緊急欠くべからざるものでありました。」

本連盟がこの目的に即して、本学習書を刊行することになったものであります。

二十七年三月準教科書「北海道図工の学習」が発刊されたが全学年がそろい全道の編集陣が参加してのものは勿論はじめてであったので全道的に普及し、やがて昭和三十年の検定教科書の時代に移行していったのである。

昭和三十四年三月全道地区委員総会の折、会員の意志により図画工作連盟は北海道造形教育連盟と改称され現在に至っている。

「歴史をひもとき造形連盟三十年のあゆみをじっくりかみしめたい」というのが「創造の炎」発刊にあたっての私の心境である。

連盟三十周年にあたり、造形教育のあり方が人間そのものの生き方に連なることを再確認して、互に意欲をもやし、心と心を結びあい、はだかになって人間としての夢を探究し続けることを願う。

造形教育連盟三十年を祝して

北海道教育委員会教育長
中川利若

北海道造形教育連盟が、昭和二十四年に発足して以来すでに三十年を経過し、ここに創立三十周年を記念して、造形教育連盟の歴史の変遷や、先輩諸氏の残された功績、教訓等を集録して、その御努力の足跡を後世に伝え、本道造形教育の今後の指針とすべく三十年史を発刊されることは誠に意義深いことであり、心からお喜びを申し上げるとともに、今日まで本連盟の充実、発展に御尽力なされた関係者の方々に対して、深じんなる敬意を表するものである。

顧みると、戦後三十年の本道教育の歴史は、苦難と混迷の中にあって、新生日本の初等教育の再建を目指し、新しい教育の芽生える基盤の整備とそれをはぐくむ人材の開発、育成にまい進してこられた、まさに試練の歳月であったかと思われる。

この間にあって、造形教育連盟が三十回にも及ぶ研究大会を実施するとともに、全道各地において毎年実技講習会や展覧会を開催し、教職員の指導力の向上を図り、児童生徒の造形意欲と豊かな情操を養うことに努め、本道の図工、美術教育の充実、発展に大きく貢

献してきたことは高く評価されるものである。

今ここに三十年の歴史を振り返ってみるとき、会員の皆さんにおかれては、その道が極めて険しく、貴重な体験の連続であっただけに、感慨無量のものがあろうかと考えられる。

さて、今日の北海道における教育は、五百万道民の期待と要望の中で、山積する諸問題の解決を目指して大きく転換しようとしているが、申すまでもなく進展する時代に対応する造形教育を実現するためには、新たな視点に立ってその内容や方法を見なおし、それを改善していく不断の努力が必要である。

造形教育のねらいは、究極のところ児童生徒の心にうるおいをもたらし、豊かな人間性をはぐくむことにあるものと考えるとき、これからの教育に当たっては、児童生徒に成就感を味わわせることや体験的な学習を大切にし、基礎的な知識や技能をしっかり身につけるとともに、造形的な能力や個性を十分伸長する創意に満ちた教育活動を展開することが期待される。

道教育委員会としても、造形教育が豊かで明るい本道文化を築く基盤となることに思いをいたし、教育行政の執行に当たってはその実現に鋭意努力して参る所存である。

終わりにあたり、北海道造形教育連盟が、この栄えある三十周年を一つの節として大きく飛躍し、本道教育推進の一翼を担ってますます御発展なされることを祈念するものである。

「創造の炎」の前進のために

初代委員長
野村英夫

連盟創立三〇周年記念誌の発刊を心から祝福するものである。私は第一代の委員長としてこの三〇年間の諸君の美術教育に対するたゆまざるご努力と熱意に対し敬意を表したい。今日全道に三千名からの会員を有し、こども等の幸せを願い互に手をつないで美術教育に邁進している姿こそ尊いものである。私は連盟のともしみを最初にともした一人として当時のことを記してみたい。

○戦後の美術教育／戦後の民主教育では、子どもの欲求や興味が尊重されるようになり子どもの心理学的研究もすすみ、昭和二十七年には子どもにかかせながら、心理解放を行ない、「創造力を育てる」ことをねらいとする「創造美育協会」が発足し、その運動はしだいに全国に及んで、チゼック流の欧米の美術教育の流れがようやく日本でも行なわれるようになった。このように新しい民間美術教育団体の動きが、全国図画工作連盟、西日本教育美術連盟、造形教育センター、日本児童画研究会、色彩教育研究会、日本ユネスコ美術教育連盟、美術教育学会、教育美術振興会、新しい絵の会、日本教育版画協会等いろいろな形で影響を与えながら、多彩な研究や実践が行われるようになった。

○道内の動き／終戦後混迷期を漸く脱出したというものの戦の傷痕は人々を苦しめていたし、どの人も心の光を求めていた頃、過去のゆがめられた教育から脱出して、こどもたちに生命創造の表現活動を与えたいと考え、美術教育の振興を図ろうとする同志、小中高大三十五名が札幌美育連盟を組織したのは昭和二十四年四月であった。まず自己研修と組織強化を目ざして全道図画工作教育講習会を開いた。同年十二月、道内五地区から個人的に美育連盟に加入したいとの報告をうけ全道的に展開する気運がみえた。昭和二十五年十一月に第一回全道図画工作教育研究集会が開かれ第三日目に全道的に基盤を拡げるため札幌美育連盟を北海道美術教育会と改称した。

○連盟の発足／昭和二十六年十一月二十四日札幌市薬事会館に於いて全道各地区から代表者と発起人その他地元札幌市小中学校図工担当の人々も加え、来賓には札幌市教育部長道教委指導主事、北教組文教部長、同書記長、教育評論社々長、画材関係各社の出席を得て開催の運びとなり、前年発足した北海道美術教育会との関連については美術教育会を構成している会員の殆んど全部がそのままこの図工連盟の結成にふみきったというのは、ともに本道の美術教育を前進させようという熱意をもっていたからである。

かくして現在の北海道造形連盟が今年三十年を迎えようとしている。その間全道各地区を巡り全道美術教育のために目ざましい発展を遂げた。今北海道図画工作連盟結成当時をしのび創立総会の出席者と共に連盟の三十年に当り、発足の経過と精神を伝え、祝辞としたい。

追想のままに

第四代委員長

和田芳郎

「原稿依頼」をいたゞいて連盟も30年の歳月が経ったのかと改めて自分のよる年なみを痛感する。そして「物忘れするのも当然だ」と自分を肯定する。

10月9日、第3代委員長赤石武士先生が交通事故で急逝された。第2代新妻清先生も既に他界し、今日の連盟を築きあげられた人材で、全道的に故人となられた方々も少くない。また大会、講習会等で貴重な助言、資料を与えて下さった湯川尚文、霜田静志、桑原実先生も故人となられてしまった。

また、図工教育と絵具メーカー、及び教科書会社との縁も極めて深かった。ぺんてる、さくら、ギター、王様、イーゼルペイント、等の外商の方々は、絵具材料は勿論であるが、遠く関西、関東の美術教育の動向、情報の提供者として貴重であった。

本道が、関西、関東方面と時間的、空間的に距離のあることから美術教育が遅れをとらないためには、本州方面の動向、作品の傾向等が情報として必要であった。北海道の郷土性に即した美術教育を推進し、独創的特色のあるものを樹立しようという意気込みに燃えていても、時代の流れを参酌すべきことは、論をまたないことである。

私が現職中は連盟創成期であったから、移入活動も活発であった名のある講師もしばしばお招きし、第二回全国大会から参加した会員もある。

私ごとになるが、私の卑屈感と内地に対するコンプレックスが、逆現象となって、「北海道は、お前たちに負けてはいないぞ」といった気負と空元気から、湯川尚文、桑原実、高橋正人、山形寛、久保貞治郎、室靖先生方、先輩、後輩の方々にも、いろいろな場面で暴言を吐き、今日、慚愧に堪えない思いを深くしている次第である。

終戦前は、図工を強調する教師の評価は極めて低かった。しかし戦後は美術教育を推進する教師の評価は非常に高くなった。教育は人のすることであり、人として、教育者として、すぐれた人材が、美術教育の実践家に実在することが証明された。すぐれた学校経営者は、又すぐれた学校美術教育の推進者でもあるように思う。

本道も、作品のレベルにおいて、又実践者の活動において、全国の水準並になったと思う。しかし、底辺にある現場教師の、この教科についての認識や、指導法、技術は双手を挙げ喜ぶところまでにはいってないように思う。すぐれた指導者をもつ連盟の会員の方々が、今後更に課題として考えられることは、この多ぜいの底辺の掘り起しと、きめ細い助言活動が必要でなかろうか。これは、何時の時代にも同じ課題だと思う。

晩秋がまた訪れ、雪雲が去来する昨今である。今日もまた美術教育の課題を数多く背負って、現場では苦斗されていることであろう御健勝でご活躍されますよう心から祈ります。

造形教育への期待

第五代委員長

伊東将夫

造形連盟が発足して既に三十年を経たということは、私にとってもまことに感慨深いものがあります。

私にとって、連盟とのかかわりは、個人としても、教育人としても深いものがあり、色々な面で育てられました。それは、造形教育が教育の一分野ではありはすが、その性格上全教育の骨格をなす要素がじかに感じられ子どもの人間形成の原点のような気がしてなりませんでした。これは決して我田引水といったものではなく、人間形成に果す芸術教育の重要性を強く意識させられたものに外なりません。

私は人間の成長に占める知的教育を十分尊重するものですが、反面異質ともいえる情意の教育や審美的教育をおろそかにしてはなりません。H・リードが理性への背後に必ず影像の裏付けがあるといっていますがこの影像の世界こそ芸術を支えるものといえましょう。

現代文明を支えるものは科学的知能であることは論をまちませんが、人間存在のすべてを科学に依存することはできません。むしろ人間には、科学で処理し得ない分野が厳として存在することは否定できません。

私たちは、今こそ人間らしい復活を声高に叫びたい思いで一杯です。それは科学を越えた人間の魂や生命感の問題を捉まえ、そこに教育の回復の希望をつなぎたいものです。

芸術教育が教育の全分野の中に正当な位置を占め、調和ある展開のうちに格調のある人間形成を期待したいものです。

特に造形教育はその性格上単的に創造活動へつながる分野ですから教育分野の中で特殊な位置を占めてよいのではないかと、秘かに考えているものです。

造形教育が、子どもたちの頭と手と心の総合された営みの中に成立します。しかもこれらを駆使するものは想像のエネルギーであり豊かな想像力の育成があってはじめてよい表現となるものですから何よりもまずこの能力の育ちを造形教育の骨格に据えていきたいものです。想像力は常に全人的活動であり知情意の諸能力を綜合したまとまりの中に発揮されていきますので、人間としての深い洞察に達していくものと考えられます。しかも望ましい想像活動は強い個性化を伴い、子どもひとりひとりの表現を生み、いわゆる創造活動ともなるはずです。このような教育活動の筋道を単的に満たしてくれるのは造形教育でありますので、この教科のもつ特殊性でもありますので、これに携わる私たちは、強い信念とともに、教科の正当な位置づけと、他の分野への波及の動きかけも怠ってならないでしょう。

連盟三十年の流れは、常に前むきでした。多くの貴重な実践やその集約は誇るべき成果であったと思います。「今後共暖い友情と厳しい行動に終始されますことを期待します。

創造の足跡

PART I

想い出の中から

第六代委員長

高橋栄吉

第九回全国大会が札幌で開かれたのが二十年の前で小生も三十七才の血気ざかり、野村委員長が円山小学校におられ、佐藤麟太郎先生が大会長ということで、道教委の土肥指導主事先生など、連日、日藤商会（北三西二）を会場に、すべての運営構想は、校務の傍ら、なかなか切ないお立場のなかで成功裡に終り爾来北海道の造形連盟は、国際美術会議に「指導の構築」が注目の的となり、全国大会でも極めて高い評価を受け、教育課程の先導的研究が、全国造形教育の推進的役割を果たす端緒となった。

日藤商会の開催準備では、まだ若かった小生など、走りつかいのなかにあって、野村先生が買ってくる「五色五種類」の「豆の色」と「多彩の味のするおいしい豆」をずいぶんたべさせられた。考えてみると、野村先生の胃の調子もよくないのに（当時野村先生は五十才を少し出た頃）豆とお菓子はよくないのにと心配していましたが、その豆は極めて「やわらかく、そして香りのある、美しい色どり」のものが、お盆の上に毎回変化した。この次はどんな豆だろうなど和田大酒豪とにやにや語りながら賞味していた。しかし野村先生の影の運営活躍は、大変なご苦労であったことが、後で述懐されはじめてわかったような次第であった。また、当時としては、土肥先生が紳士然とした金縁めがねをかけて端坐し、どこの英国紳士かと、あまり先生のタイプでない印象がいまでも目にうかびます。書の樋口さんも、ずいぶん、後援してくれたようであり、全体計画など末輩の知るよしもなかった。

このことが第三十回を是非北海道へとの全国要望があり、毎年全国大会前日の理事会で三、四年間ことわりつづけて来た経過があった。理由は、大会運営のスタッフは充実しているが開催予算に地力に安定性が実らず、連盟存亡の危機をむかえていた秋であり、これが蓄積するまで数年を要したのであった。

この六年間、現委員長の辻校長が敏腕の冴えを示し、卓抜な運営によって着々とその充実を図ってこられ第三十回大会を北海道に開催することを決意したのである。

夏の日盛りを東京都内四日間の後援団体まわりと地元の固めは種市、遠藤、森川、伊藤恵、長谷川伝役員各先生には大変なご苦労をおかけした次第である。

厚生年金会館に三千の全国会員の参加と堂垣内知事、気境教育長が北海道造形連盟は「まことに健全な本道造形教育研究団体として美術教育推進の優秀機関であり極めて期待される、今後の発展と寄与を望みます」と感銘された。

三十周年をむかえる本連盟のますますの発展を心から祈念する次第です。

PART I 創造の足跡目次

○北海道造形連盟の活動年表（昭和24年～昭和44年）

第20回（旭川）大会……15
第21回（札幌ゼミナール）45
第22回（帯広十勝）大会…54
第23回（室蘭）大会……88
第24回（美幌）大会……88
第25回（江別）大会……99
第26回（岩見沢）大会……109
第27回（札幌）大会……123
第28回（函館）大会……139
第29回（旭川）大会……161

北海道造形連盟の活動年表（昭和24年～昭和44年）

年度	連盟の活動	全国の主な動き（教育・美術・社会）
昭24	**4月** 過去のゆがめられた教育から脱却して、子どもたちに生命創造の表現活動を与えたいとの考え、美術教育振興を図ろうとする同志35名（小15／中・6／高・9／大学・5）により**札幌美育連盟**を組織する **会長・藤野高常**（札学大）副会長・野村英夫（札幌・円山小）／幹事長・佐藤熊蔵（札幌・大通小）を選ぶ **8月・4・5・6日　於北海道学芸大学札幌分校** 自己研修と組織強化を目指して**全道図画工作教育講習会**を開く、講師・松田義之氏・西田正秋氏・高畠達四郎氏、参加会員・二百名 **10月** 第2回全国図画工作教育大会（京都市）に和田芳郎・伊藤恵が研究発表	1月 学術学会、機関紙〝スクールアート〟創刊 4月 「カラー」創刊　○法隆寺壁画焼失 4月 「美育通信」「学校美術」復刊 5月 国立新制大学69校発足 7月 教育美術振興会・機関紙〝教育美術〟復刊 7月 国際学童水絵展開催 9月 西日本教育美術連盟設立　第1回大会（大阪市） テーマ「図工科カリキュラム」 10月 第2回　全国図画工作教育大会、京都市〝図画工作教育振興の具体案如何〟 ○中華人民共和国成立 10月 毎日子でも美術展開催 11月 湯川秀樹博士のノーベル物理学賞受賞発表 ※高橋正人・川村浩章「現代図画工作教育」同学社
昭25	**4月** 役員改選、正副会長再任、幹事長・新妻清（札幌・幌西小） **8月** 小学校教員資格更新のための講習会開催、講師・山形寛氏　小絲源太郎氏 **9月** 総会において、全道研究大会開催を決める。道教委の情操教育振興の事業と連携して行うこととした **11月13・14・15日　情操教育振興第1回全道図画工作教育研究集会**／会場・学芸大学札幌分校附属小学校	6月 朝鮮戦争始まる 6月 第2回西日本図画工作教育研究大会（布施市）テーム「図工科カリキュラム」 8月 美育文化協会設立・機関紙〝美育文化〟創刊 第2次米国教育使節団来朝 文化保護法施行 10月 第3回　全国図画工作教育大会・広島市〝図画工作科にお

	テーマ・本道図工教育の現状報告をワークショップの形体で行い具体的共通問題について結論を見出す／本道図工教育振興のため全道小中高大の教員の大同団結を図り組織をつくる ○講師・高橋正人氏／講演・現代図画工作の理解とその方法　後藤福次郎氏／講演・自信を新にしましょう ○実演授業／石川勇・伊藤恵・三谷哲司 ○研究発表／中川大三・佐藤熊蔵・高橋良助 大会の第三日　全道的に組織の基盤を拡げるため札幌美育連盟を**北海道美術教育会**と改称す	ける評価の実際〟 11月 ＰＴＡの全国組織なる ※美術教育学会編「現代の美術教育」河出書房 ※長谷喜久一「図工科学習相談」朝倉書房
昭26	**3月** 役員改選・会長・佐々木兼次郎（札学大）副会長・野村英夫（札幌・円山小）寺井信一（札学大） **6月** **色彩教育講習会開催**・於札幌市中島中学／講師・細野尚志氏／参加者一五〇名 各地区サークル代表31名集合し「**北海道図工の学習**」編集会議及び連盟結成の予備会議を開く **8月** 北海道図画工作連盟の規約草案検討 **11月** 札幌市小・中校図工教師（各11名）による結成発起人会を開く、更に、連盟結成の地区準備委員23名を決め、結成大会の準備にわたり協議 **11月24日　北海道図画工作連盟創立総会・於札幌市薬事会館** **委員長・野村英夫（札幌・円山小）／副委員長・井田俊末（小樽・花園小）泉　秀雄（旭川・日新小）鈴木嘉吉（札幌・向陵中）／事務局長・新妻　清（札幌・幌西小）** 進行中の「**北海道図工の学習**」の編集を正式に連盟の事業	3月 学習指導要領改定 4月 全国美術指導主事会設立 日本美術教育学会設立 文部省「道徳教育手引書要綱」発表 5月 「児童憲章」制定 7月 中学校教科書展示（14社） 日教組「教師の倫理綱領」発表 9月 サンフランシスコ対日講和条約調印 日米安全保障条約調印 10月 全国図画工作教育大会　福岡市〝鑑賞教育について〟 日教組の第一回教育研究大会開く 12月 日本教育版画協会設立 12月 小学校学習指導要領図画工作編（議案）文部省発行 12月 民間放送開始 ※滝村虎雄「図画工作指導要義」逍遥書院

として取り上げる。編集は連盟常任委員に一任され、北海道教育評論社に発行を依頼する

昭27

1月　連盟機関紙第1号発行

王様クレヨン商会より連盟旗の寄贈をうける

8月9・10・11日　第2回全道図工工作教育研究大会／札幌市立曙小学校／講師・室　靖氏・湯川尚文氏

研究主題・図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育について・附記「ユネスコ国際美術教育ゼミナールの報告」

○実演授業・お話を絵に描く／湯川尚文

○研究討議（六つの課題に分けてグループ研究協議）

●創造主義美術教育とは●美術教育の位置●低学年少年期の指導法と材料●子供の絵の見方と展覧会●子どもの絵の発達段階●美術教育者の像

（前年度の北海道美術教育会主催のものと、実質的運営メンバーが同じなので本大会を連盟主催の第2回目とすることに全員が諒承した）

10月　「図工の学習」改訂版のための編集協議会・於札幌市町村会館

昭28

5月　日仏協会提供の美術映画による全道図画工作教育研究集会於・札幌市幌東中学校／講師・末松正樹氏／授業者・中山敏秀氏（工作）

8月8・9・10日　第3回全道図画工作教育研究大会／旭川市立日新小学校

※トムリンソン／久保貞次郎訳「芸術家としての子供達（美術出版社）

1月　日本ユネスコ美術教育連盟設立

4月　文部省芸能科教育強化を決定

中学校図工教科書使用

○メーデー皇居前流血事件起る

5月　創造美育協会設立

6月　中央教育審議会設置

6月　第4回西日本図画工作教育研究大会（岡山市）テーマ「図画工作指導上の具体的な諸問題の解明」

7月　教育美術振興会〃財団法人〃となる

芸術教育研究所設立

8月　第1回創美ゼミナール（土浦）

10月　全国高等学校美術工芸教育研究会設立

第5回全国図画工作教育大会、金沢市〃生活と美術〃

日本PTA全国協議会発足

11月　市町村教育委員会発足

12月　日本教育版画協会　月刊〃はんが〃創刊

ブリヂストン美術館・国立近代美術館創設

※北川民次「絵をかく子供たち」岩波書店

1月　中央教育審議会発足

2月　日本美術教育連合設立・委員長・山形寛・事務局長・岩崎喜久雄

NHKテレビ放送開始

4月　小学校図工教科書検定制度布かる

研究主題「美術教育における指導とは何か」

○講演●造形指導の理論と実践・森桂一（千葉大教授）

●近代美術の動向・今泉篤男（国立近代美術館次長）

●生活と色彩・朝倉力男（北海道学芸大教授）

●造形教材における具象と抽象の概念・手塚又四郎（山形大学教授）

○公開授業／小学校・海の思い出（描）2年・附属・柳原寿夫／楽しい夏（描）4年・中央・矢野正男／花台（工）6年・近文・高野克郎／中学校・額ぶち工作・1年・附属・松本謙太郎／抽象図画・3年・聖園・森田喜昇

○研究発表／私の学級の児童はどんな色を好むか・室蘭知利別小・大類敏憲／美術教育における当面の諸問題・札幌北光小・和田芳郎／半立体について、札幌附属小・伊藤恵／指導上の一考察・空知神威中・森谷英夫／七項目の指導内容に対する生徒の関心・留萌留萌中・橋場昌三

9月　図工の検定制が実施され、北道道「図工の学習」を検定教科書にするため、東京書籍株式会社と連携をもつ、高橋正人を中心とする東京側編集委員会と合同協議会をもつ

昭29

8月8・9・10日　第4回全道図画工作教育研究大会於・函館市立大森小学校

○研究主題　**図画工作教育実践上の諸問題について**

○講師と講演「美術教育の経験を語る」北川民次氏

「図工教育における諸問題について」渡辺鶴松氏

○公開授業／小1・元気なおともだち（想画共同製作）柏野小・鈴木利彦／小2・港まつり（はり絵共同制作）高盛小

6月　第5回西日本図画工作教育研究大会（岐阜市）

テーマ「図画工作教育の具体的な諸問題の解明」

7月　朝鮮戦争休戦協定に調印

8月　日本児童画研究会設立

11月　第6回全国図画工作教育大会・大阪市〃指導要領〃

12月　文部省「わが国教育の現状」（教育白書）発表

※手塚又四郎「造形教育」岩崎書店

※北川民次「子どもの絵と教育」創元社

※外山卯三郎「リュケの児童画論」造形美術協会

※日本ユネスコ美術教育連盟「新しい児童画の見方」美術出版

※太田耕士編「版画の教室」青銅社

5月　教育二法案施行

5月　第6回西日本図画工作教育研究大会（泉大津市）

テーマ「図画工作教育の具体的な諸問題の解明」

7月　第1回小学校教科書展示会（18社21種）

8月　第7回全国図画工作教育研究大会・仙台市〃指導要領ならびに指導内容の検討〃

9月　ユネスコ美術教セミナー（東京プリンスホテル）

越田一喜／小5・好きな魚（写生）新川小・漆崎繁雄／小5・給食調理室（描画・構成）青柳小石塚健一／中1・立体のおもしろさを学ぼう・動物（彫り）谷地頭中・古谷格／中3・人物・描画鑑賞・新川中・平賀徳行／高校・自由制作（クラブ活動）西高・伊達幸太郎

○分科会／図工科の教科性の確立と望ましい教科課程の構成／高学年における想画指導と抽象的なものの指導／概念模倣からの解放と創造性の伸長について／色彩・形体の指導とデザイン学習について／工作的指導と題材資機施設上の問題／鑑賞指導／評価

○北海道「図工の学習」使用今年限りとなる

昭30

5月○構成教育に関する研究会・於札幌中央創成小学校

○講演「現代美術教育の動向について」特に工作教育の不振とその対策について究明・小池藤雄氏

○授業・配置配合について・平山　潔

8月7・8・9日　第5回全道図画工作大会／釧路市旭小学校

研究主題「図画工作教育における学習指導上の問題点の解決」

○講師と講演題　ヨーロッパの美術教育　倉田三郎氏（東京学芸大教授）子どもの創造性を培う　岡田　清氏（京都市教委美術指導員）

○公開授業／小1・のりもの・描画工作・新川小・高橋和信／小2・たのしい遊び・想はり絵・旭小・梅島裕幸／小3・水族館・工作・城山小・佐藤潔／小4・いれもの工作粘土・日進小・小川恵子／小6・おかあさんの着物・図案・

※リード／周郷博訳「平和のための教育」岩波書店

※久保貞次郎「児童画の見方」新教育協会

※井手則雄「造形教育論」共同出版社

※松原郁二「図画工作教育法」誠文堂新支社

※湯川尚文「絵を描く子供」誠文堂新支社

※太田耕士「版画をつくる子供たち」大蔵出版

※和田三造「色彩の話」美術出版社

3月　国際学童美術研究会設立

4月　小学校で図工検定教科書使用

5月　日本美術教育連合総会　理事長・山形寛

5月　第7回西日本図画工作大会（高松市）

テーマ「図画工作教育の具体的な諸問題の解明」

6月　造形教育センター設立

8月　自由民主党〝うれうべき教科書問題〟の第一集出す

第8回全国図画工作教育大会　東京都〝現下の図画工作教育をはばむものはなにか、これが改善について〟

11月　保守合同なる（自由民主党）

12月　文部省　高等学校学習指導要領一般編を発表

※武井勝雄「構成教育入門」造形社

※岩崎喜久雄「新しい色彩教育」日本色彩社

※熊本高工「教師のための図画工作」河出書房

12月　日進小・岡田和夫／小6・園集を作ろう・木版画・桜ケ丘小・中戸川秀夫／中1・半立体図案・図案・共栄中・松田玲子／中1・石膏の人物・工作・弥生中・中川智靖

○分科会　描画指導上問題となる点を如何に解決するか／色彩・図案指導上問題となる点を如何に解決するか／工作指導上問題となる点を如何に解決するか

昭31

2月4日　第9回全国図画工作教育大会を札幌市で開催するための準備委員会の結成を地区代表委員とあかしや荘で協議する

8月7・8・9日　第6回全道図画工作大会・第9回全国図画工作大会／本会場・札幌市中島スポーツセンター／分科会会場／A会場・中島スポーツセンター・B会場・幌南小学校・C会場・曙小学校・D会場・中央創成小学校

○研究主題「造形教育においてつくり出す力を養うにはどうしたらよいか」

○全体講師・今泉篤男（国立近代美術館副館長）勝見勝氏（美術評論家）井手則夫（美術評論家）

○記念講演「アイヌの造形文化について」河野広道氏（北大教授）

○分科会／A会場・造形教育においてつくりだす力をどう理解したらよいか。（提案者／伊藤　恵（附属小）堂野重治（苗穂小））（司会者・北村又治（京都豊園小）滝村虎雄（亀田小）新妻　清（西創成小）赤石武士（二条小））（指導講師・富田民治（大阪府指導主事）森桂一（千葉大）志田達三（東京・淡路小）福井勇（京都嵯峨小）戸坂太郎（札学・、

※ハーバード・リード周郷博訳「美術と社会」牧書店

※北川民次・井島勉「現代美術教育」金子書房

2月　「幼稚園教育要領」制定

3月　国際美術教育懇談会設立

6月　「形（Forme）」創刊

6月　「カラーサークル」創刊

6月　第8回西日本図画工作教育研究会（鹿島市）

テーマ「図画工作教育の具体的な諸問題

9月　文部省・全国抽出学力検査を実施

9月　教育課程改訂問題起きる　日本美術教育連合その対策に立つ

10月　高等学校図画工作科・芸能科美術・工芸に

11月　地行法による全国自治体の任命制教育委員会発足

12月　愛媛県教委・勤評実施決定

国際連合へ加盟

※新しい絵の会編「幼児画の指導」小山書店

※川口勇「創美をこえて」黎明書房

※箕田源二郎・池田栄「教師の実践記録」三一書房

※小池岩太郎「基礎デザイン」美術出版社

※勝見勝「現代のデザイン」河出書房

昭32

9月7・6日　第7回全道図画工作大会
会場／室蘭市立常盤小学校
○研究主題「のぞましい造形教育における具体的諸問題について」
○講演「抽象的表現と新しい造形教育」
東京お茶の水女子大附属中学校　熊本高工氏
○公開授業／小1・ぼくらの汽車・工作・常盤小・石丸雅晟／小3・造形あそび・図案・朝陽小・石塚潔／小5・明るい学校・図案・天沢小・中野桂子／中3・抽象的な立体・工作・蘭東中・高坂敬二／聾・へやをかざろう・工作・室蘭聾・高野欣郎
○分科会／第1分科会・助言・畠山三代喜（札学大）
司会・高橋栄吉（札幌北九条小）・テーマ説明・石丸雅晟（常盤小）／第2分科会・助言・戸坂太郎（札学大）・司会・泉秀雄（旭川日新小）・テーマ説明・石塚潔（朝陽小）
第3分科会・助言・藤川基（札学大）司会・平塚義雄（帯広小）・テーマ説明・高城敬二（蘭東中／第4分科会・助言・宮林繁雄（函学大）・司会・滝村虎雄（亀田小）・テーマ説明・中野桂子（天沢小）／第5分科会・助言・寺井信一（札学大）・司会・小山田武（釧路市教委）・テーマ説明・大類数憲（武揚小）／第6分科会・助言・藤野高常（岩見沢学大）・司会・三浦慶次郎（室聾）・テーマ説明・諏訪英雄（鶴ケ崎中）／第7分科会・助言・花岡一（函学大）・司会・和田芳郎（札幌中央創成小）・テーマ説明・安田辰夫（鶴ケ崎中）

1月　南極観測の昭和基地設営
2月　児童画をテーマにした松竹映画「黄色カラス」上映
6月　第9回西日本図画工作教育研究大会（静岡市）
テーマ「図画工作教育の具体的な諸問題の解明」
7月　NETテレビ図工番組開始
7月　日教組による国民教育研究所発足
9月　図画工作振興対策委員会結成（時間削減反対運動起きる）
9月　週刊朝日　児童画コンクール実施
10月　第10回全国図画工作教育研究大会（松山市）
テーマ「現代日本の図画工作教育の反省と今後の方向について考えよう」
10月　ソ連・世界最初の人工衛生打上げ成功
11月　道徳の時間の特設
12月　都道府県教育長協議会・勤評議案決定
12月　日教組臨時大会で「非常事態宣言」を発表
12月　全国図画工作教育振興会総決起大会（東京・永田町小）
●教育課程に於ける美術科時間削減反対運動起こる
※久保貞次郎「色彩の心理」大日本出版
※倉田三郎「図画工作科99の相談」明治図書
※ケーラー／倉田三郎訳「新しい美術教室」美術出版社
※外山卯三郎「児童画研究講座」暁教育図書
※林健造・藤沢典明・熊本高工「子どもの工作」美術出版社

12月　中学図工科危機突破運動推進
文部省教育課程審議会中学分科会から中学図工科の分離・時間削減の答申案の反対運動

昭33

4月　黒と黄のコントラストの美しい連盟バッチ出来る
7月29・30日　第8回全道図画工作研究大会・会場／小樽市立富岡小学校
○研究主題「図画工作学習によって、児童生徒の人間性がどのように培われるか」
○講師と講演題／千葉大教授　森桂一氏・国際的にみた日本の美術教育／工作教育のねらいは、どこにあるか　東京都窪町小学校　公楽源一郎氏
○授業者／幼・みよし幼稚園・麻生喜久子／小1・富岡小・高橋好子／小4・若竹小・相沢一夫／小5・富沢謙／中1・長橋中・氏家和夫
○分科会（助言・司会・テーマ説明者）
●第1分科会・幼児における自己表現遊びとしての造形活動／重野孝三（道教委）戸坂太郎（学大札幌分校）・若松六弥（小樽北山中）・阿部頼俊・サーレス・ヴイッテル
●第2分科会・低学年における生活経験を豊かにする造形活動／藤野高常（学大岩見沢分校）・滝村虎雄（渡島亀田小）中山啓（小樽天神小）・村三郎
●第3分科会・中学年における表現材料を活用する造形活動・藤川基（学大札幌分校）・石崎義政（室蘭常盤小）・黒川与市（小樽手宮小）・庄司忠直
●第4分科会・高学年における構成能力を高める造形活動・

1月　図画工作教育振興対策委員会・啓蒙パンフレット作成
1月　米国、初めて人工衛生打上げ成功
3月　文部省「道徳実施要綱」通達
5月　図画工作教育振興対策委員会解散
6月　第10回西日本図画工作教育研究会（大津）
テーマ＝図画工作の学習指導をどのように進めるべきか
8月　第11回全国図画工作教育研究大会（長野）
テーマ＝図画工作科の本質を再検討し今後の対策を立てる
9月　日教組、日高教、勤評阻止全国統一行動実施
10月　小・中学校学習指導要領告示、中学校図画工作科を廃し、「美術」・「技術、家庭」となる。（美術の週時間は、2・1 1となる）
10月　NHK全国図画コンクール実施
※マンフォード・生田勉訳「芸術と技術」岩波新書
※井手則雄「美術入門」青春出版社
※久保貞次郎「子どもの創造力」黎明社
※上野省策「美術教育」国王社
※扇田博元「絵による児童診断法」黎明社
※「新しい児童画指導講座」国際学童美術研究会
※山形寛「美術教育概論」宝文館
※リチャードソン・稲村退三訳「愛の美術教師」
※周郷博「幼児の美術」博文社

畠山三代喜（学大札幌分校）大和屋厳（東京）・伊東将夫（札幌幌西小）富田弘（小樽朝里小）・樋口忠次郎（小樽長橋小）

●第5分科会・中学校における創造的表現を高める造形活動／寺井信一（学大札幌分校）・鈴木嘉吉（札幌向陵中）山本泰夫（小樽未広中）・新党吉郎

●第6分科会・現在直面する図工教育の危機を打破するための方策は如何にあるべきか／宮林[illegible]（学大函館分校）・土門孝（札幌幌東中）・斉木杲一（札幌啓明中）

9月　全国高校美術教育連盟に加入

昭34

3月　33年度の地区委員総会で、図画工作教育の本質的な観点から、本連盟は、**北海道造形教育連盟と改称／第1回総会での研究発表会を開催・発表／造形教育の感動源の追求・金井秀男（滝川一小）**

8月2・3日　第9回全道造形教育研究大会／会場・帯広小学校

○研究主題「新段階における造形教育のあり方」

○講師・講演題／松原郁二（東京教育大教授）・造形教育における芸術性と技術性／坪内千秋（学習院附小）デザイン学習について／公楽源一郎（東京窪町小）

新指導要領の工作分野の指導について

○授業者・テーマ説明者・助言・司会

●第1分科会・大貫正雄・1年（帯広西小）・村田順之助（帯広光南小）・戸坂太郎（札学大）滝村虎雄（渡島亀田小）・富田鉄雄（十勝音更小）高橋栄吉（札幌北九条小）

●第2分科会・1・2・6年・岡田宏平（上清川小）観野繁雄（帯広大正小）・藤野高常（札学大）佐藤哲夫（札幌八条中）・加納利雄（帯広清川中）中村知久（綱走西小）

●第3分科会・幼稚園・井上節子（帯広幼稚園）・英三四子（帯広幼稚園）・重野孝三（道教委）小山田武（釧教委）・和田芳郎（札幌中央創成小）若松六弥

1月　NHK教育テレビ本放送開始

4月　美術教育を進める会設立

6月　第11回西日本図画工作教育研究大会（鳥取）

テーマ＝生活に根ざした感動を

8月　新しい絵の会、全国的組織に改組

9月　ドル為替の自由化実施

10月　第12回全国図画工作教育研究大会（神戸）

テーマ＝図画工作教育の現状を明らかにし、その新しい建設への具体策を講じよう

11月　第1回教育白書「わが国の教育水準」発行

※ハーバド・リード／植村鷹千代・水沢考策訳「芸術による教育」美術出版社

※中西良男「児童画の読み方」―知性と

（小樽北山中）

●第4分科会・6年・河野路明（明星小）・石川邦夫（帯広一中）・寺井信一（札学大）伊藤恵（札幌附）・三谷哲司（札幌附属中）石崎義政（室蘭常盤小）

●第5分科会・3年・頼田晃（帯広小）・熊代弘志（帯広小）・畠山三代喜（札学大）土門孝（札幌幌東中）・樋口忠次郎（小樽長橋小）長谷川保（札幌曙小）

●第6分科会・中1・武田伸一（十勝下音更中）・安達大元（十勝御影中）・望月正雄（釧学大）伊東将夫（札幌幌西小）・本田哲也（空知教育研究所）斉木杲一（札幌啓明中）

●第7分科会・助言・高橋良助（札幌西高）・松原郁二（東京教育大）・伊藤正（札幌東高）

○各地区研究発表

●第1分科会／父母の図工科に対する関心理解を深めるには、どんな働きかけをしたらよいか。／小林弘治（砂原村掛澗小）入井峡生（旭川市北鎮小）側瀬宇太郎（上砂川町東小）

●第2分科会／新段階における地域の問題点について／釧路サークル

●第3分科会／幼児期における造形的表現活動をゆう導した・寺館国治（三笠奔別小）幼児の造形的表現指導の実際・横田ふみ（釧路市かすみ幼稚園）

●第4分科会／工作的内容の学習と郷土で得られる素材をどのように利用しているか・高城敬二（室蘭市室東小）工作的学習の移行期におけるカリキュラム案について・佐賀井勇（江別小）

●第5分科会／デザインの指導をどのようにするか・山下泰宏（月形中）デザイン教育熟成への五カ年計画・浅野日出男（美唄東明中）

●第6分科会／中学校における美術的学習の指導内容について・太田達雄（札幌北辰中）

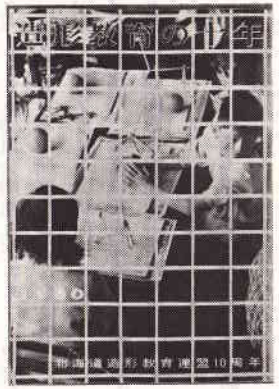
8月　創造美育協会北海道大会開催・於札幌市円山ハウス

発達段階の研究――黎明社

※文部省「色彩学習の範囲と系統の研究―図画工作実験学校の研究報告―博文堂

7月

北海道造形教育連盟10年史発刊



昭35

10月　小学校図工カリキュラム自主編成のための協議会を札幌市北九条小学校で開く

3月　地区委員総会・第2回研究発表会・規約一部改正

○連盟カリキュラムを基にして指導書編集会開く（地区委員出席）於　札幌あかしや荘

4月○中学校指導書の編集協議会・2・2・2・2復元運動推進協議・**全国中学校図画工作連盟に加入**を決定・於札幌あかしや荘

7月30・31日　第10回全道造形教育研究網走大会／会場・網走市立網走小学校

○研究主題「本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう

○講演・講師「デザインのあり方と指導の系統」東京都今川小・藤沢典明氏

○授業者

●網走幼稚園・松野敏子／網走中央小・手／三浦巌／網走西小4年・須貝喜久晴／網走小6年・武田俊夫／網走第一中1年　堀北淑子／網走平和小1・2年・谷口寿美子

○分科会テーマ／テーマ説明者／司会者

●第1分科会・豊かな心を表現をさせるための絵の指導はどうしたらよいか／横田敬介（網走呼人中）／和田芳郎（札幌中央創成小）高橋栄吉（札幌北九条小）

●第2分科会・豊かな心象表現をさせるための版画の指導はどうしたらよいか／吉田義晴（置戸・置戸小）／木村晴一（遠軽・遠軽中）遠藤未満（苫小牧緑小）

●第3分科会・豊かな心象表現をさせるための粘土や彫塑の指導はどうしたらよいか／林　進（留辺蘂小）／本田哲也（芦別・芦別中）諏訪英雄（室蘭鶴ケ崎小）

●第4分科会・豊かな適応表現をさせるためのデザインの指導はどうしたらよいか／豊島務（網走卯原内小）／伊東将夫（札幌幌西小）斉藤富男（赤平茂尻中）

●第5分科会・豊かな適応表現をさせるための工作の指導はどうしたらよいか／河瀬渉（美幌・美幌中）／砂金隆（札幌山畠小）三谷哲司（札幌附属中）

●第6分科会・望ましい造形感覚を育てるにはどうしたらよいか／横田勇吉（斜里・斜里中）／小山田武（釧教委）・佐藤哲夫（札幌八条中）

●第7分科会・鑑賞指導や評価はどのようにしているか、またよりよい方法を見出そう／井上裕光（遠軽・遠軽小）／滝村虎雄（亀田・亀田小）越田一喜（函館松風小）

●第8分科会・父母とともに造形教育を話し合おう／芳賀四郎（網走西小）／土門孝（札幌幌東中）荒木アイ（札幌桑園小）

○学校種別部会テーマ／テーマ説明者／司会者

●第1幼児部会・どうすれば幼児の造形活動がさかんになるか／江口博（網走愛香幼）／高野年男（余市沢町小）長縄武（網教委）

○第2小学校（都市地区）部会・造形教育を前進させるための教育課程の自主編成はどうしたらよいか地域の実態に即して考えてみよう／松田陽一郎（北見中央小）／樋口忠次郎（小樽長橋小）平塚義雄（帯広帯広小）

●第2部会・小学校（農漁業地区）／高橋忠昭（小清水清水小）／古賀武治（遠軽東社名渕小）斉藤一雄（札幌琴似小）

●第2部会・小学校（工鉱業地区）／中坪市郎（空知奈井江小）／高橋彦七（夕張夕張第一小）側瀬宇太郎（上砂川東小）

●第3部会（中学校）教育課程自主編成のための当面の諸問題を検討し、具体的な実践の方法を見出そう／浅野道弘（網走第一中）／但野栄一（岩見沢東光中）三上享（美瑛美瑛小）

●第4部会（高等学校）教育課程の改訂に対する芸術科（美術科）のあり方を検討し今後の発展を講じよう／山田信夫（網走向陽高）／伊藤正（札幌東高）高橋良助（札幌西高）

1月　第2次日米安全保障条約調印・6月発効

4月　FEA委員会開催（ベニス）・12回会議を日本で開催することを協議

5月　国際デザイン会議開催（東京）

5月　衆議院、深夜に新安保条約承認を可決

6月　第12回西日本図画工作教育研究大会（堺）

テーマ＝たくましい子供を育てる造形活動

6月　安保阻止統一行動激化、全学連のデモ隊国会に乱入、女子学生一名死亡

8月　文部省内藤初中局長、日教組の教師の倫理綱領は革命思想と論難

8月　新しい絵の会第1回全国協議会（早大）

8月　第13回全国図画工作教育研究大会（箱根）

テーマ＝生きる喜びの基をつくりだす造形教育

9月　自民党「所得倍増政策」発表

11月　経済審議会「国民所得倍増計画による長期教育拡充計画」発表

※浅利　篤「児童画の秘密」

※熊本高工「図画工作の系統的指導計画」

昭36

3月　定期委員総会・第3研究発表会・於札幌市市民会館

7月28・29日　第11回全道造形教育研究大会・滝川市立滝川第一小学校

○研究主題・子どもたちの芸術性を育てるために、私たちは〝いま何をあたえ、

※霜田静志「児童画の心理と教育」

※中谷健次・藤沢典明編「小学校教師のための図画工作」

※ローウェンフェルド／水沢考策訳「児童美術と創造性」

3月　科学技術庁・文部省に対し科学技術者養成計画の大幅拡充を勧告

3月　日教組「教科書白書」発表

何をしなくてはならないか。〟

○講演と講師／植村鷹千代氏（美術評論家）「芸術教育の今日的把握」

○公開授業／幼（1年保育）造形遊びフイングーペンテイグ・渡辺マス子（滝川市立幼稚園／小1・造形遊びフロッタージュ・藤原明氏（滝川一小）／小2・集団制作・外国の童話を絵にする・中島幸男（滝川一小）／小3・描画・ぼくの願いごと・金井秀男（滝川一小）／小4・紙彫刻・王様・中村多恵子（滝川一小）／小4・版画・日本民話の版画集をつくる・石原等（滝川西小）／小5・粘土・昆虫・村重信（滝川二小）／小5・立体構成・オブジュエ魚・中山知（滝川一小）／小6・色紙立体構成・林・山尾進（滝川第三小）／小6・デザイン・役にたつもののレイアウト・青山清輝（滝川一小）／中1・デザイン・飾る・東光隆（滝川江陵中）／中2・彫塑・人工石をつかって・新しい形・白鳥友二郎（滝川東栄小）／中2・金工・スチールをつかって・塊・渡部昭吾（滝川明苑中）／中3・立体構成（集団制作）標識塔・高田幸三（滝川江陵中）

○パネルデスカション／伊藤　恵（札幌附属小）佐藤哲夫（札幌八条中）酒井明（札幌幌西小）上条雄也（旭学大）水谷五一（中空知連合ＰＴＡ会長）

○部会／分科会／テーマ／司会／提言者／発表者

●父母と新しい会員／父母・子どもの成長を子どもの造形作品を通してくみとれる両親になるにはどうしたらよいか／滝村虎雄（亀田亀田小）／橋本富（札幌琴似小）／三浦ヨシ（滝川ＰＴＡ）／新しい会員・子どもの造形作品を通して造形教育の理解を求め造形教育の果す役割をとらえよう／遠藤未満（苫小牧）／本部研究部

○幼稚園・個性を大切にし力強い意欲的な子どもを育てるため、幼児の造形活動をどうあたえたらよいか／小山田武（釧教委）／滝川市幼稚園研究部／守野綾子（旭川きくし幼）

○小学校・描画／発想をゆたかにし表現内容を高めるための指導はどのようにしているか／荒木アイ（札幌桑園小）／佛瀬字太郎（上砂川東小）／中野照雄（留萌・留萌小）後藤朝夫（奈井江・三井奈井江小）

●共同製作・共同製作の学習手順や教育効果を作品を通して考えてみよう／諏訪英雄（室蘭鶴ケ崎小）／山下孝（奈井江住友奈井江小）／土肥昭雄（砂川豊沼小）赤司賢二（室蘭日新小）

●彫塑・技術的な段階の踏まえ方を考え心理表現へ高めるためにはどのようにしているか／古谷　格（函館汐見小）／松永吉満（栗山・栗山小）／谷村宏己（芦別緑ケ丘小）

●デザイン・子どもの本来の姿としてのデザインはどんなものか究明した仕事を紹介しあう／樋口忠次郎（小樽長橋小）／山本栄蔵（沼田町共成小）佐々木謙一（歌志内中央小）武川康彦（余市沢町小）

●版画・版をつかっての造形の意味を考えその発表と方法についてどのようにしているか話し合う／和田芳郎（札幌中央創成小）／一戸信雄（砂川豊沼小）田島修（歌志内文珠小）

●工作・子どものアイデアを大切にするとともに系統的な基本的技術の修得をどうしているか話し合う／砂金　隆（札幌山鼻小）／渡辺信一（沼田共成小）／信太七郎（新十津川吉野小）

○中学校／描画・思春期の子ども思考感情をできるだけ素直に表現させるための制作経験／木村晴一（紋別遠軽中）／金際　巌（赤平・赤平中）／和田竜郎（上砂川町第二中）

●デザイン・形や色を通してデザインとしての基本的トレーニングはどうしているか新しい指導方法を紹介しあおう／伊賀　明（名寄・智恵文中）／周田定吉（栗山継立中）／山下泰宏（月形・月形中）・片桐　勉（苫小牧弥生中）

●技術・生活においての技術をどのように考え指導しているか／三谷哲司（札幌附属中）／堀忠男（秩父別・秩父別中）／佐々木久夫（赤平茂尻中）・浅野道

4月　ソ連人間衛星船打上げ成功

4月　テレビの受像機の学校における普及率（小学校62・8％・中学校44・6％）

4月　義務教育諸学校教科用図書無償給与に関する法律を公布

6月　「農業基本法」公布

6月　第13回全日本（旧西日本）図画工作教育研究大会（福島）

7月　テーマ／根強い心を育てる造形活動

11月　国際美術教育会議（東京）のテーマ・原案決定

11月　第14回全国図画工作教育研究大会（大分）

テーマ／生き生きとした生活をつくりだす造形教育

10月　文部省・中学校2・3年全員対象5教科全国一斉学力調査実施（北海道・岩手・福岡・京都など950校不実施）

11月　全国小学校図画工作教育連盟成立

※倉田三郎・森桂一編「美術教育概説」美術出版社

※稲村耕雄「色彩論」岩波新書

※川添　登「デザインとは何か」角川書店

※高橋正人「デザイン技法ハンドブック」ダヴィット社

※勝見勝・小池岩太郎・山城隆一・田中正明編「グラフィックデザイン大系・ビジュアルデザイン・美術出版社

※武藤重信「デザインの世界」―その発展と創造―造形社

弘（網走第一中）
●彫塑・構想にもとずいた立体制作の中でイメージを定着化させ高めるにはどうしているか／本田哲也（芦別芦別中）／森谷一（歌志内歌志内中）／島垣純男（芦別・芦別中）
○高校・高校の美術教育振興のための活動をどう押しすすめ発展すべきか／伊藤正（札幌高）／本部高校研究

昭37

7月28・29日　第12回全道造形大会・名寄市立名寄南小学校
○主題「子どもが生活をみつめて、造形的にたかまって行くために、われわれはどのようにしたらよいか」
○講演「デザイン教育の問題点」西光寺亨氏（東京教育大学附属竹早小学校）
○公開授業／幼・想画みんなでかこう・白井法子（名寄大谷幼）／小2・もようあみ・山田昭二（名寄西小）／小3・共同制作・町をつくろう・村山佳成（名寄南小）／小5・立体構成・建物・河合正仁（中名寄小）／小6・彫塑・いろいろな生き物を作ろう・高橋正雄（名寄東小）／小6・機構玩具・あきかんでつくる・原良三（名寄小）／複3・4・工作・こまあそび・山本輝信（名寄弥生小）／中1・デザイン・表紙・小林正勝（名寄中）／中2・共同製作・働く人・服部幸男（名寄東小）
○分科会／テーマ／司会者／発表者
●父母一般・作ったり描いたりすることが人間の成長にどう影響するか話し合いましょう／長谷川伝（札幌曙小）植草義二（釧路城山小）／田チヨ子（名寄市）
●幼稚園・遊びの中の造形活動をいかにとりあげ、どう指導したらよいかを話し合いましょう／荒木アイ（札幌桑園小）・石丸雅晟（室蘭常盤小）
●小学校描画・内容の乏しく生活に結びつかないような絵をかく子どもの指導方法はどうしたらよいか話し合いましょう／高橋栄吉（札幌北九条）・中村知久（網走西小）／小笠原正嗣（上川・中富良野小）

4月　全国絵を描く運動の会（上野公園）
4月　第11回ＦＥＡ会議（ベルリン）
6月　第14回全日本図画工作教育研究大会（熊本）
テーマ／真実を求めてやまぬ造形活動
10月　第15回全国造形（旧図画工作）教育研究大会（富山）
テーマ＝人間づくりの造形教育を確立するために
11月　文部省・教育白書（日本の成長と教育）発表
11月　文部省・第1回小・中学校教育課程研究集会開催
12月　人づくり懇談会初会合
※西田秀雄「児童画指導の技術より絵の描かせ方」創元社
※松上茂「デザインによる教育」美術社版社
※フランケルシュタイン・林文雄訳「美術はどう生活を表現するか」造形社
※本明寛「造形心理学入門」美術出版社
※真鍋一男「造形の基本と実習」美術出版社
※岡田　清「子供デザイン」―その理念と導き方―創元社
※伊東正明「新しい表現技法の研究」東京書籍

●小学校彫塑版画・彫塑・版画の性格を明かにし、表現力をたかめるための指導の具体例について話し合いましょう／越田一喜（函館千代田小）橋本富（札幌琴似小）／久我宏（稚内稚内小）金子誠（上川近文第二小）
●小学校デザイン・生活を深めるためのデザイン学習を子どもの発達に応じてどう指導したらよいか話し合いましょう／石崎義政（室蘭市教委）高橋彦七（夕張第一小）／笠原亮（札幌苗穂小）鮫島恒（上川当麻北星小）
●小学校工作・地域にあるいろいろな素材を生かした指導経験について話し合いましょう／志村猛（留萌・潮静小）側瀬宇太郎（上砂川東小）／松坂清市（旭川東五条小）橘　宏（上川占冠中央小）
●小学校評価・望ましい評価はどのようにあったらよいでしょう／滝村虎雄（渡島亀田小）森松治（空知西長沼小）／種市誠次郎（札幌大通小）
●中学校・描画（版画を含む）思春期の生徒の作品と表現活動における問題点を話し合いましょう／市村晴一（遠軽・遠軽中）金子武志（旭川北都中）／浅野富士男（上川比布中）
●中学校デザイン・デザイン学習の問題点と指導の系統性について話し合いましょう／三上亨（上川鷹栖一中）今野隆二（稚内南中）／萩原常良（旭川常盤中）
●中学校立体表現（彫塑材料経験を含む）立体表現の性格を明かにし表現力をたかめるための指導の具体例について話し合いましょう／土門孝（札幌一条中）岩田勇治（根室・根室中）／本間篤（名寄・名寄中）
●高校・芸術科の編成について話し合いましょう／中村矢一（札幌月寒高）
○パネルデスカッション／子どもが生活をみつめて、造形的にたかまっていくためにはわれわれはどのようにしたらよいか／司会・遠藤未満（苫小牧東小）／提言者・田中和子（名寄市ＰＴＡ）上条雄也（旭川学大）松本謙太郎（上川教育局）湊　勲（札幌体育連盟）金井秀男（滝川第一小）前川辰治（名寄作文連盟）

○部会／テーマ／司会／研究提案
●幼稚園一般・作ったり描いたりすることが子どもの成長にどのように影響するか話し合いましょう／斉藤一雄（札幌琴似小）
●小学校・指導内容の系統性と、発達段階をいかにとらえたらよいか話し合いましょう／伊東将夫（札幌幌西小）広畑一雄（上川・咲来小）／一戸信雄（砂川豊沼小）
●中学校・教育の全体構造の中で美術科の位置について話し合いましょう／諏訪英雄（室蘭・鶴ケ崎中）吉田徳夫（宗谷浜頓別中）／永地恒夫（北見南中）三谷哲司（札幌附属中）
●高校・芸術課の編成について話し合いましょう／中村矢一（札幌・月寒高）

昭38

7月31日・8月1日　第13回全道造形教育研究大会／余市町立黒川小学校

○主題「子どもが生活をみつめて造形的にたかまっていくために我々はどのようにしたらよいか」　(1)幼・小・中・高のつながりに立ち学習内容の系統づけをしよう　(2)デザイン、工作領域のたちおくれについて考えよう　(3)子どもの生活と造形活動のつながりを作品を通して考えよう

○講演「子どもの生活と造形教育の体系化」井手則夫（白梅短大教授）

○パネルデスカション／小中高の一貫性に立つ・造形認識の発達、教材構造の発展系列を指導体験から考察する・造形教育構造の再編成と系統性の性格と明確にする・系統性を確立するためと手続きの具体策をたてる・現代における造形文化の生活構造と造形教育の使命を相関的に究明する
司会／伊東将夫（札幌・桑園小）提言／正木正（後志野塚小中）長谷川伝（札幌曙小）吉田徳夫（宗谷浜頓別中）中村矢一（札幌月寒高）
○分科会・共通テーマ・(1)造形能力を高めるための用具・材料について話し合いましょう　(2)鑑賞・評価の在り方や方法について話し合いましょう　(3)子どもの作品を通して問題を究明しよう　(4)幼・小・中・高のつながりの上に立って

3月　国際美術教育会議（東京）パンフレット配布
4月　高等学校新教育課程実施
5月　国際美術教育会議準備委員会
　　第一回企画会議
8月　幼美の会設立
8月　第16回全国造形教育大会・東京都〝美術教育の原理と方法・伝統科学、諸芸術〟
9月　教育課程審議会、幼稚園教育課程改善について答申
11月　一九六三年図画工作・美術教育研究大会（広島）
　　テーマ／ひとりひとりを生かす造形活動

話し合いましょう　(5)造形活動を進める上に施設設備の問題を話し合いましょう　(6)現場で作られた教科課程の問題点を話し合いましょう。

●部門／司会者／提言者
●父母／一橋精（後志岩田西小）／坂本シズ（後志銀山中P）・幼稚園／荒木アイ（札幌桑園）／荒木アイ（札幌桑園小）・小描／寺館国治（三笠森別中）越田一喜（函館千代田小）／武川康彦（後志余市沢町小）・小版／志村猛（留萌潮静小）神田耕治（名寄南小）／大森亮三（後志然別小）・小彫／側瀬宇太郎（上砂川東小）笠原亮（札幌苗穂小）／斉藤一雄（札幌琴似小）・小デザイン／滝村虎雄（函館船見中）中川大三（札幌東北小）／長谷川伝（札幌曙小）小松崎勇三（後志赤井川小）・小工／伊藤恵（札幌附属小）高橋彦七（夕張福住小）／砂金隆（札幌山鼻小）・中描／富樫貢平（札幌東栄中）中川清（札幌一条中）／柴田義美（後志双葉中）岩内広次（後志原歌中）・中版／木村晴一（網走遠軽中）太田達雄（札幌北辰中）／諏訪英雄（室蘭鶴ケ崎中）・中版／三上亨（上川鷹栖一中）三谷哲司（札幌附中）／吉田広仕（札幌陵北中）・中デ／泉秀雄（旭川神威中）土岐禎次（札幌中島中）／尾川和彦（後志蘭越中）・高デザイン／中村矢一（札幌月寒高）／寺井孜（札幌北高）・単複／小山田武（釧教委）橋本富（札幌琴似小）／初山武（後志比羅夫小）・特殊／石崎義政（室蘭市教委）斉木杲一（札幌啓明中）／伊藤潤楽（余市沢町小）
○特設公開授業／小1・かたちならべ（デ）・三浦崇（余市沢町小）／小2・はたらく人（描）寺沢一郎（余市沢町小）・海水浴（共）砂川時夫（余市大川小）／小3・もようつくり（デ）・高橋繁治（余市黒川小）／小4・町の人のくらし（版）今八重子（余市沢町小）／小5・トーテムポール（工）吉田敏之（余市黒川小）／小1・2・海の中（共）松浦孝子（余市豊丘小）／小特殊・水族館を見学したこと（描）芳賀豊（余市大川小）／中1・素描・板垣玲子（余市旭中）／中2・状さし（デ）小泉哲（余市西中）／中3・レタリング（デ）岡

※岡田清「工作による創造教育」—新しい造形への道—創元社
※手塚又四郎編「世界の美術教育」美術出版
※栗岡英之助「生活リアリズムの美術教育」明治図書
※美術教育学会編「図画工作技法事典」講談社
※間所春「子どもの眼とデザイン」造形社
※アルンハイム著波多野完治・関計夫訳「美術と視覚」美術出版社

田州弘（余市東中）

10月　造形センター北海道支部の小ゼミ開かれる委員長・寺井信一（札学大）事務局長・高橋栄吉（札幌北九条小）

昭39

3月　委員総会において　第二代委員長・新妻清氏（札幌月寒小）事務局長・赤石武士（札幌東小）選出される

8月2・3・4日　第14回全道造形教育研究札幌大会／第9回全国造形教育センター北海道大会・北海道造形センター創立研究大会　於　札幌市立北九条小学校

○主題　子どもの造形能力とは何か／発達段階に立つ学習内容のたしかめ・たて、よこの関連を考えた学習内容を検討することの中で子どもの造形能力を究明する／子どものデザインとは何か・デザイン教育の理念を明らかにし、実際指導の方向を子どもの造形能力研究の角度から明確にする

○講演／子どもの造形能力の発達について・武井勝雄氏（美術教育評論家）

○パネルデスカッション

テーマ／子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか／司会・佐藤哲夫（札幌月寒中）／提言・川村浩章・林健造（造形教育センター）滝村虎雄（函館船見中）池本良三（追分町追分小）金井秀男（札幌東小）

○分科会／主題／司会者／提言者

●描画／描画指導の系統性をおさえ、子どもの造形能力をたしかめよう／描1／吉田義晴（常呂置戸小）三谷哲司（札幌附中）／種市誠次郎（札幌発寒小）／描2／三上悟（石狩恵庭中）辻悦平（札幌西創成）／富樫貢平（札幌東栄中）／描3／諏訪英雄（室蘭鶴崎中）伊藤鉄雄（札幌大谷地小）／太田達雄（札幌陵陽中）／描4／後藤庸也（札幌琴似小）今野隆二（稚内南中）／側瀬宇太郎（札幌月寒小）／描5／遠藤未満（苫小牧東小）斉藤洪人（札幌幌東中）／中川大三（札幌東北小）佐藤圭（札幌北九条小）／描6／石丸雅晟（室蘭東園小）土岐禎次（札幌中島中）金井秀男（札幌東小）

3月　改訂幼稚園教育要領告示

6月　一九六四年図画工作・美術教育研究大会（和歌山）

テーマ「つみあげる造形大会」

9月　藤山愛一郎ＩＮＳＥＡ東京会議協力会長に就任

10月　東海道新幹線（ひかり）走る

10月　オリンピック東京大会開催

11月　第17回全国造形教育研究大会（宇都宮）

テーマ「造形教育の実践を通して豊かな個性を育てる」

12月　文部省教育白書「わが国の教育水準」発行

※信大附属松本小学校「立体造形の指導」―表現過程を中心として―明治図書

※羽場徳蔵「たのしいデザイン」国土社

※久保貞次郎「児童画の世界」大日本図書

※玉川大学「美術と工芸」玉川大学出版部

○版画／版画指導の系統性をおさえ、子どもの造形能力をたしかめよう／版1／木村晴一（北見遠軽中）一戸信雄（滝川第三小）／橋本富（札幌山鼻小）／版2／越田一喜（函館千代田小）新谷純鋪（札幌琴似中）／笹原亮（札幌苗穂小）

●彫塑／彫塑指導の系統性をおさえ、子どもの造形能力をたしかめよう／彫1／佐藤秀男（網走二中）成田一男（札幌豊平小）／斉木杲一（札幌啓明中）／彫2／村三郎（小樽手宮小）森谷一（歌志内中）／吉田広仕（札幌陵北中）

○部会／主題／司会者／提言者

●幼児父母／幼児の造形活動の現状をみつめて、その進め方を考えよう／小山田武（釧路柏木小）荒木アイ（札幌桑園小）／中居千枝子（札幌こひつじ幼）

●中学校／美術の現状と対策（二・二・二問題の究明）／佐藤哲夫（札幌月寒中）但野栄一（岩見沢東光中）／中川清（札幌一条中）

●高校／高校造形教育の現状とその対策）／中村矢一（札幌月寒高）高橋良助（札幌西高）／寺井孜（札幌北高）

●特殊教育／特殊教育における造形教育をどうすすめたらよいか／石川ハル（札幌豊水小）花田吉朗（札幌一条中）／野本醇（札幌桑園小）

●単複／小規模学校における造形教育の問題と打開策／高野年男（余市沢町小）中村知久（網走西小）／蝦名亮二（札幌小野幌小）

●総合Ａ／分科会のまとめ／高橋栄吉（札幌北九条小）遠藤久男（三笠中央中）

●総合Ｂ／デザイン部会のまとめ／橋本富（札幌山鼻小）三上亨（上川鷹栖一中）

○デザインの部会／主題・子どものデザインとはなにか／司会・土門孝（札幌一条中）伊藤恵（札幌東園小）坪内千秋（学習院大附属小・造形教育センター）／提言／造形教育センター委員・佐藤諒（基礎デザイン）大和屋巌（機能デザイン）米倉正弘（視覚デザイン）藤沢典明（装飾）林健造（こどものデザイン）／発表・森川昭夫（札学大附属小）佐々木理温（札幌北九条小）

昭40

7月28・29日　第15回全道造形教育研究大会（稚内）於・稚内市稚内南小学校

○主題「子どもの造形能力とは何か」―教材の面からのたしかめ―

○講演／ヨーロッパの美術について・藤川叢三氏（札教大教授）

○パネルデスカッション／子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか／造形教育を通して子どもにどんな能力をつけるか／造形能力を伸ばすためにわれわれはどうしたらよいか／造形能力と効果的な教材題材の選択設定をどうとらえたらよいか／造形学習における造形能力の焦点化をどうとらえたらよいか

司会／斉木杲一（札幌伏見中）吉田徳夫（浜頓別中）／提言／種市誠次郎（札幌発寒小）諏訪英雄（室蘭成徳中）伊賀明（名寄南小）清水　久（稚内市P）

○公開授業／幼・工・さかなつり：須藤礼子・高山祐子・渡辺紀子（稚内鈴蘭幼）／小1・工・つるすかざり・加藤広志（稚内南小）／小2・彫・ねんどのどうぶつ・大谷伸也（稚内北小）／小2・デ・ならべもよう・川原一成（稚内東小）／小4・デ・わたしたちの町・関忠夫（稚内北小）／小5・彫・楽しい顔・松川仁（稚内小）／小6・工・丈夫なくみたて・藤井常雄（稚内南小）／中2・描・ガラス絵・金丸雄司（稚内中）／中3・彫・野外彫刻（共同）・木立博康（稚内南中）／高校・デザイン・表紙デザイン・表紙のデザイン・中村昭夫（稚内高）／小4・5・6・彫・トーテムポール・阿部正（東浦小）／特殊・工作・一輪ざしづくり・野田誠（稚内小）／盲校・彫・ねんどでつくる・山田光幸（稚内盲）

8月2日～9日　第17回国際美術教育東京会議に参加する「造形学習における体系について」連盟本部・新妻清・金井秀男・側瀬宇太郎が発表「日本の近代化に影響をあたえる美術教育」木村晴一（北見・東陵中）発表

昭41

3月　地区・委員総会において、委員長に赤石武士（札幌東小）事務局長に和田芳郎（札幌月寒小）選出される

1月　社団法人日本美術教育連合設立発起人会開催

1月　中教審「期待される人間像」中間発表

2月　米国・本格的な北ベトナム爆撃開始

6月　家永三郎教科書検定を違憲として東京地裁に提訴

8月　第17回ＩＮＳＥＡ会議（東京文化会館・国立教育会館）参加19カ国千八百人テーマ「科学と美術教育」

8月　第18回全国造形教育大会・国際会議の分科会として代表者会議

10月　朝永振一郎・ノーベル物理学賞受賞

11月　ハーバード・リード来日

11月　文部省教育白書「わが国の社会教育」刊行

6月　文部省・全国一斉学力調査実施

6月　一九六六年図画工作・美術教育研究大会（南河内）

テーマ「ものの見方・感じ方を深める」造形活動

6月　「国民祝日法」改正公布（敬老・体育の日）

8月　中共「プロレタリヤ文化大革命に関する決定」発表

10月　第19回全国造形教育研究大会（盛岡）テーマ「たくましい創造力を育てる造形教育の実践」

●教育美術振興会・佐竹賞設定

●美育文化・国際版発行

●月刊「デザイン教育」発刊

10月　中教審「後期中等教育の拡充整備について」答申

●小学校全学年教科書無償配布となる

12月　建国記念の日を2月11日と決定

7月27・28日　第16回全道造形教育研究（室蘭）大会・於・室蘭市立武揚小学校

○主題「子どもの造形能力とは何か」―指導の構築はどうあるべきか―

○講演「造形能力の意味」上条雄也（旭教大教授）

○オリエンテーション／指導の構築とは何か／司会・種市誠次郎（札幌・発寒小）／提言者・佐々木理温（札幌元町小）側瀬宇太郎（札幌月寒小）金井秀男（札幌東小）吉田広仕（札幌陵北中）中村矢一（札幌月寒高）

○公開学習／幼稚園・描・色ぬりあそび・大須田恵美子・藤井幸子（室蘭清泉幼）／幼・粘・粘土であそぼう・本田紀子（室蘭めばえ幼）／小1・デザイン・ふしぎなかたちのくに・成重恒夫（室蘭東園小）／小2・デザイン・めずらしい鳥をつくろう・佐々木博（室蘭武揚小）／小3・描・港で見てきたことを・片平浩史（室蘭常盤小）／小5・描・物語の絵をかこう・杉山久子（室蘭常盤小）／小5・描・左手をかこう・赤司賢二（室蘭日新小）／小6・彫・学校生活を浮き彫りにしよう・中村民夫（室蘭武揚小）／中1・デザイン・学校生活に関するポスター・石川孝一（室蘭東中）／中2・彫・友達の顔を造ろう・高橋昭五郎（室蘭向陽中）／中2・描・過去と未来・金子照代（室蘭港北小）／中2・デザイン・ポスターをデザインしよう・青野昌勝（室蘭北辰中）／中3・彫・不思議な魚を作ろう・伊藤晋（室蘭蘭東中）／中3・描・工場を主とした風景かこう・武田貢（室蘭成徳中）／特殊・描・お話の絵をかこう・高木黙（室蘭武揚小）／高クラブ・デザインのための鉛筆デッサン・渡辺真利（室蘭栄高）

○分科会／共通テーマ・こどもの造形とは何か（指導の構築はどうあるべきか）何を・どのように指導したか・あなたは／分科会名／司会者／提言者

●小学校低Ａ／種市誠次郎（札幌発寒小）・高橋元春（帯広稲田小）／佐藤圭（札幌東札幌小）清水健（石狩鉄北小）／小学校低Ｂ／辻悦平（札幌大通小）今野正治（旭川中央小）／松島輝男（札幌幌西小）梅井旬（室蘭大沢小）椿弘司（歌志内文珠小）／小学校低Ｂ／長井孝二（札幌北小）志津照男（岩内東小）

／佐々木理温（札幌元町小）高間政子（網走小）／小学校中A／長谷川伝（札幌中の島小）西弘治（釧路旭小）／金井秀男（札幌東小）山口武（余市沢町小）／小学校中B／成田一男（札幌豊平小）／佐藤吉五郎（札幌幌南小）高橋隆司（室蘭朝陽小）／小学校C／伊藤鉄男（札幌月寒東小）越田一喜（函館千代田小）／遠藤久男（札幌美香保小）信永昭三（函館巴小）／小学校高A／橋本富（札幌山鼻小）藤井昭三（室蘭知利別小）／池本良三（胆振追分小）古屋栄隆（旭川大成小）／小学校高B／山本慶一郎（札幌二条小）泉秀雄（旭川朝日小）／側瀬宇太郎（札幌月寒小）五福興三（中富良野小）／小学校高C／中川大三（札幌月寒東小）遠藤満男（苫小牧東小）／伊藤恵（札幌東園小）江津明（室蘭天沢小）／中学校A／中川清（札幌平岸中）木村晴一（北見・東陵中）／千葉光男（札幌陵北中）佐久間恭子（室蘭成徳中）／中学校B／斉木杲一（札幌伏見中）大友一夫（沼の端中）／吉田広仕（札幌陵北中）森田喜昇（旭川北都中）／中学校C／三谷哲司（札幌附属中）／香西富士夫（札幌北栄中）畠山三郎太（網走二中）

○部会／部門／司会者／提言者

●幼稚園一般／荒木アイ（札幌こども美研）穴倉寿満子（札幌いずみ幼）／前田ひろみ（札幌本郷幼）山本知恵子（室蘭富士鉄こばと幼）／特殊／野本醇（札幌東橋小）花田吉郎（札幌一条中）／佐々木寛（室蘭港南中）／高校／土岐禎次（札幌北高）／中村矢一（札幌月寒高）

○フレッシュマン部会／新しい会員のため／司会者／助言者

●A部会／大類敏憲（室蘭高砂小）／野村英夫（顧問）滝村虎雄（函館松川中）小山田武（釧路柏木小）／B部会／青野一郎（室蘭鶴ケ崎中）／新妻清（顧問）伊東将夫（札幌石山小）石崎義政（市委）／C部会／古川義裕（室蘭武揚小）和田芳郎（札幌月寒小）高橋栄吉（札幌元町小）一戸信雄（空知研究所）

昭42

8月5・6日　第17回全道造形教育研究（函館）大会・於・函館市立青柳小学校

5月　「ほっかいどうぞうけいのひろば」発行（東京書籍北海道支社）

8月　「公害対策基本法」公布

○主題「指導の構築を具体化する」／新しい教材と新しい授業づくり／何を学ばせるか／どのような教材を選定して／どのような授業を組みたてるか

●講演／コンピュートピア時代における美術教育／上　昭二氏（千葉大学講師）

○公開授業／幼・工・港まつりのかざり舞台・岡田恵子（函館幼）／幼・描・魚の幼稚園をつくりましょう・斉藤幸子（函館幼）／小1・描・のってみたい乗物・柴田雅史（駒場小）／小1・描・わたしはタイ・寺山光弥（柏野小）／小2・彫・動物・藤井昭夫（常盤小）／小2・デ・すきなもよう・九十勝子（東川小）／小3・デ・虫の国・井沼聖子（湯川小）／小4・工・画用紙を使って八木橋哲郎（大森小）／小4・デ・楽しいコップを作ろう・本川陽子（港小）／小5・描・わたしの町の建物・佐野忠男（弥生小）／小6・版・港まつり・千葉利子（金堀小）／中1・彫・鳥ののしりーづ・高野政忠（新川中）／中1・デ・立体を作る・越田喜忠（大川中）／中2・絵・太陽と人と樹・長政　裕（的場中）／中2・絵・造船所で見たこと・村山義幸（港中）／中2・デ・飾りものを作ろう・進士継昭（松川中）／中3・デ・統計図・安井孝（五稜中）／高・絵・外山欽平（大谷高）／特殊・デ・自然のもよう・工藤トシ（青柳小）

○分科会　総合助言者・宮林繁雄氏（北海道教育大函館分校助教授）

幼児／司会・戸村キエ（函館幼）／提言・斉藤幸子（函館幼）／小1・大橋三雄（函館巴小）成田一男（札幌豊平小）長谷川伝（札幌中の島小）／種市誠次郎（札幌発寒小）松島輝男（札幌幌西小）石丸雅晟（室蘭東園小）／小2・谷口幸一（函館・大森小）辻悦平（札幌大通小）／信永昭三（函館巴小）佐々木理温（札幌元町小）／小3・乳井邦衛（渡島臼尻中）砂金隆（札幌藻岩小）／側瀬宇太郎（札幌明園小）松原望（函館附属小）吉田義晴（北見開盛小）／小4・清野満敏（渡島大中山小）橋本富（札幌山鼻小）／金井秀男（札幌東小）佐藤吉五郎（札幌幌南小）小岩俊（苫小牧大成小）／小5・木村良（渡島森小）中川大三（札幌月寒東）津村彰広（松山栄浜小）／遠藤久男（札幌美香保小）

10月　第20回全国造形教育研究大会（新潟）
テーマ＝人間形成をめざす造形教育の現実的課題と解決策

○日本美術教育連合第一回研究発表会

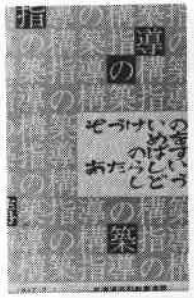
○日本美術教育史（山形寛）刊行

○一九六七年図画工作・美術教育研究大会（宮崎）
テーマ＝ゆたかな人間性を培う造形教育

10月　教育課程審議会・小学校教育課程改善を答申

11月　能力開発研究所・学力テスト実施

8月　「指導の構築・第一集（一〇〇P）」発刊



佐藤圭（札幌東札幌小）／中1・中村光蔵（函館旭中）三谷哲司（札幌附属中）／千葉光男（札幌麥北中）／中2・三箇三郎（函館大川中）森健（札幌日章中）／木村訓丈（函館深堀中）斉木杲一（札幌伏見中）／中3・漆崎繁雄（函館中央中）太田達雄（札幌陵陽中）／吉田広仕（札幌陵北中）畑中義和（渡島森中）／高校・伊達幸太郎（函館西高）中村矢一（札幌月寒高）渡辺宏（小樽工業高）寺井孜（札幌南高）土岐禎次（札幌北高）／梅谷利治（函館東高）高井澄夫（帯広柏葉高）河副穆敬（芦別高）高橋棋六（札幌開成高）／特殊・蝦名啓史（函館港中）／久美屋竜二（札幌東橋小）／フレッシュマンA・乙部幸吉（函館金堀小）／野村英夫（顧問）木村晴一（北見東陵中）金子幸正（函館愛宕中）秋山修正（道教委）／フレッシュマンB・加藤彬（函館港中）／新妻清（顧問）小山田武（釧路柏木小）今野隆二（稚内南中）田中俊也（日高教委）／フレッシュマンC・滝村虎雄（渡島汐首小）和田芳郎（札幌月寒小）諏訪英雄（室蘭成徳小）村三郎（小樽手宮小）日野栄之助（函館松風小）

昭43

7月30・31日　第18回全道造形教育研究（苫小牧）大会・於・苫小牧市苫小牧東小学校

○主題「指導の構築を具体化する」―教材の新しいとらえかた―

○講演「造形教育における構造と過程・森桂一氏（千葉大学教授）

○パネルデスカッション／司会・伊東将夫（札幌平岸小）池本良三（苫小牧東小）／提言・荒木アイ（児童画研究所）辻悦平（札幌大通小）遠藤久男（札幌美香保小）種市誠次郎（札幌発寒小）成田一男（札幌豊平小）佐藤圭（札幌東札幌小）松島輝男（札幌幌西小）佐々木理温（札幌元町小）側瀬宇太郎（札幌明園小）金井秀男（札幌東小）森川昭夫（札幌附属小）伊藤恵（札幌東園小）佐藤吉五郎（札幌幌南小）吉田広仕（札幌美香保中）斉木杲一（札幌伏見中）森健（札幌日章中）土岐禎次（札幌北高）日野常子（苫小牧大成小）片桐勉（苫小牧啓北中）

4月　小笠原返還協定調印

6月　文部省の外局文化庁発足

6月　一九六八年図画工作へ美術教育研究大会（鳥取）

テーマ＝創りだす鳥取の子ども

7月　小学校学習指導は要領改訂

8月　第21回全国造形教育研究大会（高知）

テーマ＝造形教育の今日把握を究明）

ゆたかな感情とたくましい表現力を育てよう

○第一回アジアINSEA会議開催（東京）

○公開授業／幼・絵・汽車にのって・日野常子（市立幼）／幼・製・うごくのりもの・藤波明子（いずみ幼稚園）／小1・デザイン・どうぶつの親子・佐藤嘉子（東小）／小1・版・紙はんが・内潟光尚（若草小）／小1・工・足のたくさんある虫・中村真知子（大成小）／小2・デ・虫のえんそく・船着昭弘（東小）／小2・描・お話のえ・金子京子（東小）／小3・描・お話のえ・清野恒夫（緑小）／小3・彫・おもしろい魚・岡崎光輝（大成小）／小4・デ・身につけるかざり・和田弘（東小）／小4・描・港・千葉哲（西小）／小5・彫・牛の頭・小岩俊（大成小）／小5・描・工場とそのまわり・長沢晃（西小）／小6・デ・楽しいちょうちん・鈴木誠治（東小）／中1・デ・樹木のポスター・福井宏（東中）／中1・描・想像による世界・坂東軍治（光洋中）／中2・デ・前庭のレイアウト・沼田卓（弥生中）／中3・版・港のようす（共）・三上保（啓北中）

○分科会／司会者／提言者

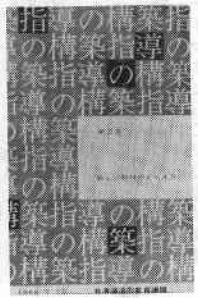
●幼／砂金隆（札幌手稲中央幼）／石附省子（札幌第一幼）芝木捷子（札幌中の島幼）松浦くに（苫小牧市立幼）／1年A・荒木アイ（児童画研究所）和田芳郎（札幌月寒小）／辻悦平（札幌大通小）内潟光尚（苫小牧若草小）遠藤久男（札幌美香保小）／2年A・橋本富（札幌山鼻小）／種市誠次郎（札幌発寒小）船着昭弘（苫小牧東小）／2年B・長谷川伝（札幌本郷小）／成田一男（札幌豊平小）／3年A・山本慶一郎（札幌豊園小）／佐藤圭（東札幌小）白井禎二（苫小牧緑小）／3年B・高橋栄吉（札幌藻岩小）／松島輝男（札幌幌西小）／小4A・越田一喜（函館金堀小）／佐々木理温（札幌元町小）佐藤幹夫（苫小牧清水小）／小B・笹原亮（札幌東橋小）／側瀬宇太郎（札幌明園小）／5年A・斉藤一雄（札幌新川小）／金井秀男（札幌東小）小岩俊（苫小牧大成小）／5年B・伊東将夫（札幌平岸小）／森川昭夫（札幌附属小）／6年A・伊藤英世（札幌附属小）／伊藤恵（札幌東園小）金子正（苫小牧西小）／6年B・

9月　東大・日大など51大学で学園紛争発生激化

10月　明治百年記念式典・東京で開催

12月　大学紛争のため東大・東京教育大入試中止

8月　「指導の構築・第二集（一〇〇P）」発刊



小山田武（釧路柏木小）／佐藤吉五郎（札幌幌南小）／中1年・斉藤洪人（札幌美香保中）原田省吾（苫小牧東中）／2年・太田達雄（札幌手稲中）／斉木呆一（札幌伏見中）江川佳徳（苫小牧和光中）坊坂博（苫小牧弥生中）／中3年・三谷哲司（札幌附属中）／森健（札幌日章中）片桐勉（苫小牧啓北中）／高校・中村矢一（札幌月寒高）／土岐禎次（札幌北高）

昭44

2月　定期委員総会において、委員長・和田芳郎（札幌月寒小）事務局長・伊東将夫（札幌平岸小）が選出される

7月31日・8月1日　第19回全道造形教育研究（札幌）大会／於・札幌市立中央小学校

○主題／造形能力はどのような指導によって育てられるか

○オリエンテーション／司会・伊東将夫／提言・高橋栄吉（札幌藻岩小）種市誠次郎（札幌発寒小）辻悦平（札幌澄川小）金井秀男（札幌中央小）荒木アイ（札幌児童画研究所）遠藤久男（札幌美香保小）森川昭夫（札幌附属小）佐藤圭（札幌東札幌小）佐藤吉五郎（札幌幌南小）吉田広仕（札幌美香保中）中村矢一（札幌月寒高）小山田武（根室標津中）滝村虎雄（渡島長万部中）今野正治（旭川明星中）

○公開授業／幼・絵・私と子どもの対話・芝木捷子（中の島幼）／幼・製・王様になったら・佐藤綾子（手稲幼）／小1・絵・ふしぎな木・高畑睦子（真駒内曙小）／小1・工・紙のいえ・伊藤恵（羊丘小）／小2・絵・お馬にのって・遠藤久男（美香保小）／小1・デ・水族館・長津喜代（創成小）／小3・絵・ともだちをかこう・側瀬宇太郎（平岸小）／小3・デ・ぼくとわたしのつくったお話・嶋山恵子（幌西小）／小3・彫・なにかしている動物・成田一男（豊平小）／小3・工・坂をカチカチおりる動物・森川昭夫（附属小）／小4・絵・ちいさなおうち・金井秀男（中央小）／小4・版・学校のこと・松島輝男（幌西小）／小4・絵・高さをあらわそう・佐藤圭（東札幌小）／小5・デ・

4月　中学校学習指導要領改訂

5月　「第一回公害白書発表」

6月　一九六九年図画工作・美術教育研究大会（山口）
テーマ＝よろこびの造形教育

7月　米国の宇宙船アポロ11号初の月着陸成功

8月　第22回全国造形教育研究大会（那覇）
テーマ＝造形教育を風土の中でどのようにいかすか

8月　「大学運営に関する臨時措置法」公布

9月　教育課程審議会「高等学校教育課程の改善について」答申

10月　新左翼各派・初の統一行動
○この年国民総生産、資本世界第2位

夢の家族写真・佐々木理温（藻岩小）／小5・彫・友だち・伊藤英世（附属小）／小6・工・小さいペットの家・佐藤吉五郎（幌南小）／小6・絵・楽器をもつ友だち・坂口清一（平岸小）／中1・絵（外）花の表現・奥野郁男（向陵中）／中1・絵（構）物語の表現（版）武田郁代（信濃中）／中1中1・彫（写）顔のある壺（テラコッタ）多田紘一（北栄中）／中2・彫（構）新しい塊の表現・石岡博昭（啓明中）／中3・デ・童話の表現（アニメ）菅原稜三（平岸中）／高・平面構成・中村矢一（月寒高）／版画・高橋棋六（開成高）／立体構成・寺井孜（南高）／基礎構成・土岐禎次（北高）

○分科会／種別／司会者／発表者／記録者

●幼／小山田武（根室・標津中）芝木マサ（札幌中の島幼）荒木アイ（札幌児童研）／芝木捷子／伊藤澄子（札幌中央幼）金内信子（札幌中の島幼）梶原慈子（札幌中の島幼）

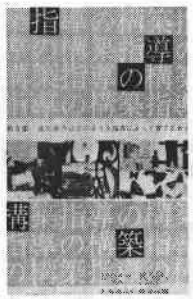
●小1／野崎信雄（登別登別小）後藤庸也（札幌円山小）／高畑睦子（札幌真駒内曙小）伊藤恵（札幌羊丘小）／菅原豊子（札幌曙小）村谷利一（札幌豊園小）山崎清（札幌上白石小）

●小2／鈴木利彦（函館弥生小）種市誠次郎（札幌発寒小）秋田武蔵（札幌発寒西小）／遠藤久男（札幌美香保小）／手代木淳（函館附属小）船着昭弘（苫小牧東小）原良三（名寄小）／伊勢谷弘志（札幌苗穂小）中山きく代（札幌南小）花田正雄（札幌藤の沢小）

●小3A／荒木健一（小樽・花園小）長野昭一（札幌北園小）一戸信雄（赤平赤間小）笹原亮（札幌東橋小）／側瀬宇太郎（札幌平岸小）藤井正（石狩当別小）大沢真理子（根室・標津小）／白井圀毅（札幌大通小）三浦哲（札幌南小）坂本昌三（札幌和光小）

●小3B／笠原金一（夕張・楓小）鷲尾徹（東札幌小）／成田一男（札幌豊平小）橋場昌三（留萌留萌小）／町田博正（札幌曙小）蛯子信也（札幌中の島小）

8月　「指導の構築・第三集（二〇〇P）」発刊



●小3C／清野満雄（渡島大中山小）諏訪英雄（室蘭知利別小）／森川昭夫（札幌附属小）三枝祐喜（釧路寿小）／栃内信子（札幌山の手小）吉田倭夫（札幌発寒小）

●小4A・池本良三（苫小牧東小）西弘治（釧路城山小）／金井秀男（札幌中央小）／堀忠夫（札幌羊丘小）池田修（札幌八軒小）

●小4B・菅原隆治（北見・佐呂間幌岩小）佐々木忠（羽幌旭ケ丘小）／松島輝男（札幌幌西小）／小川晃平（札幌豊平小）北倉武（札幌北園小）

●小4C・高橋元春（帯広稲田小）辻悦平（札幌澄川小）／佐藤圭（札幌東札幌小）／出間すず（札幌豊園小）山本金次郎（札幌・発寒西小）

●小5／久我宏（稚内中央小）片岡和悟（札幌北小）／佐々木理温（札幌藻岩小）成瀬登（帯広柏小）／日高晴美（札幌・東札幌小）清水健（札幌・鉄北小）

●小5B・神田耕治（下川一の橋小）藤原明（赤平小）／伊藤英世（札幌附属小）宮川（夕張達幌小）／国分照子（札幌東札幌小）豊口永（札幌北郷小）

●小6A／上野義之（日高平取小）岡田義己（札幌月寒東小）／佐藤吉五郎（札幌南小）／高橋一美（札幌白揚小）阿部保夫（札幌発寒小）

●小6B／岩間昇（旭川永山東小）井内利道（札幌創成小）／坂口清一（札幌平岸小）花田晃陳（札幌澄川小）若狭忠平（札幌発寒小）

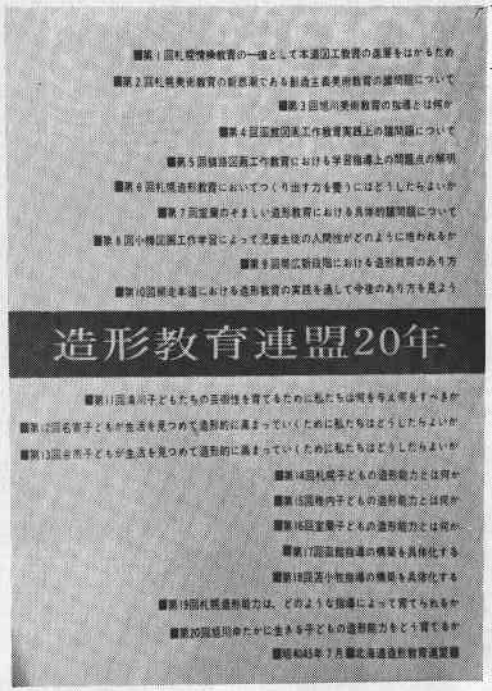
●中・絵画／斉藤洪人（札幌幌東中）高野政志（函館船見中）加地保良（十勝本別中）大谷勝美（上川美瑛置杵牛中）／小松吉隆（名寄東中）佐久間恭子（室蘭成徳中）森健（札幌中島中）鈴木吾郎（石狩恵庭中）／角力山旭（札幌日章中）高村悦子（札幌真駒内中）／中・彫塑／中谷有逸（岩見沢光陵中）田村幸夫（深川一己中）佐久間昭夫（夕張継立中）酒井盛行（石狩浜益中）新谷純鋪（札幌発寒中）／小室吏（十勝上士幌中）三谷哲司（札幌附属中）萩原常良（旭川常盤中）／斉藤征夫（札幌中島中）田中三美枝（札幌・石山中）／中・デザイン／横田勇吉（紋別汐見中）尾川和彦（後志倶知安中）斉木杲一（札幌

伏見中）／坂田武夫（札幌八条中）宮川美樹（岩見沢東光中）松岡義和（網走小清水中）阿部将（釧路緑陵中）／香取正人（札幌平岸中）坪野秀子（札幌北陽中）

●高校／田村広（岩見沢女子高）笠原康正（留萌高）渡辺宏（小樽工高）木下勘二（夕張南高）／中村矢一（札幌月寒高）高橋棋六（札幌開成高）寺井孜（札幌南高）土岐禎次（札幌北高）／笠原康正（留萌・留萌高）渡辺宏（小樽工業高）

○フレッシマン部会／司会・泉秀雄（旭川朝日小）中川大三（札幌羊丘小）木村晴一（北見東陵中）長谷川伝（札幌本郷小）加藤彬（渡島桔法華小）越田一喜

（函館金堀小）



造形教育連盟20年史

○昭和45年7月30日発刊

編集委員

○伊藤　恵（羊丘小）
太田　達雄（本郷小）
成田　一男（白石小）
中村　矢一（月寒高）
金井　秀男（幌西小）
斉木　杲一（伏見中）
香西富士夫（北辰中）

第20回全道造形教育研究大会（旭川大会）

○とき
昭45年7月30・31日

○ところ
旭川市立北星中学校

研究主題

『ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか』

○幼稚園・幼児期ののぞましい造形指導

○小学校低学年・あらわすことの喜びをもつ子どもを育てるための指導

○小学校中学年・たしかなものを創る子どもを育てるための指導

○小学校高学・自分の願いをゆたかに表わす子どもを育てるための指導

○中学校・表現をゆたかにするための基礎的能力を生かす指導

○高等学校・技法練習と創造表現を関連させての指導

1、主題の設定

指導の構築化がさけばれて数年経ていた。旭川大会では、この指導の構築化を主題の中でどう受けとめ、どう発展させていくかが最大の課題であった。

まず日々の授業の中で「子どもが豊かに生きる」ことを願い、指導の系統性をはかり、理論と実践と子どもの作品とを通して検証しようとする研究が進められた。特に授業を主体においた考え方を第一として、教師の願いを子どもは、どう受けとめ、どう感じ、どう変容していったかをとらえることに集中した。子どもの見方、考え方を通して、本大会の主題にせまろうと試みた訳である。

当日の公開授業及び提言も20の多きに亘っている。

◎　大会運営について

旭川の大会は、すべて旭川市教育研究会図工、美術部会が中心となり、部員一二七名で運営された。

全道造形教育研究大会は、二度目の開催である。連日連夜の各部の細密な打ち合わせや各領域ごとに集まって討議、研究する努力は若いエネルギーが部全体を支配していた。総て三十才前後の先生方で大会が推しすめられた力は大きい。末筆になり恐縮ですが陰に陽に大会をいろいろと支えて載いた、根守悦夫先生（教育大教授）の死は悲しい。心よりご冥福を祈る次第です。

■日　程

第１日目	受付	開会式（研究の歩み）	アニメーション制作の在り方（こころみと映写）	オリエンテーション 旭川学校紹介（映写を中心に）	公開授業	昼食	分科会A〈集約〉（生徒参加）	パーティー
	8:30	9:00	10:00	10:45	11:15	12:05	13:00 16:00	18:00
		9:00				12:00	13:00 16:00	
第２日目	受付	分科会B（各地提言）〈集　約〉				昼食	分科会C（作品を中心に）	閉会式

2、研究の概要

美術教育の世界で、系統性ということが、やかましく云われるようになったのは、十年位前からでしょうか。その間、各方面で多くの研究がなされております。全道造形大会も数年来より、指導の構築がさけばれ、昨年の第十九回札幌大会で一応の成果を見ております。

しかし、全道的には一部の研究の深まりはあっても、数々の疑問や問題点も残しております。現段階では、これらの問題の解決として、研究の積み上げや検証の必要性にせまられていると考えています。

第二十回旭川大会は、指導の構築をどう受けとめ、それをどう展開させるかという今後の研究方向をさぐる点で重要な大会でした。

本大会の旭川提言の特色は、公開授業と提言内容を密着させたことです。それは、図工・美術教育の全体を見なおし、これまでの理論的な研究をより具体的な研究として、児童・生徒の日々の授業の中に見い出そうとしたのです、私たちは、授業の中で「子どもが豊かに生きる」ことを願い、指導の組み立てを考えていますが、その目的を達成できないとすれば、何故、どこに問題点があるのか、と

■公　開　授　業

No.	学　年	領　域	題　材	授業者	学校名
1	幼稚園A	絵　画	おもちゃの国へ行く乗り物	荒川晃子	さくら幼稚園
2	幼稚園B	製　作	ぼくの私の汽車がとおる道（粘土）	平山エイ子	神楽幼稚園
3	小学校１年A	工　作	どうぶつえん	青柳明雄	向陵小学校
4	小学校１年B	絵　画	おまつり	脇神玲子	東町小学校
5	小学校２年A	デザイン	ふしぎな花，めずらしい花がいっぱい	朝倉るみ子	啓明小学校
6	小学校２年B	版　画	ゆかいなサーカス	本田幸市	春光小学校
7	小学校３年A	絵　画	旭川まつり	飛弾野弘尚	春光小学校
8	小学校３年B	デザイン	きれいなもようでかざろう	野尻春興	大有小学校
9	小学校４年A	工　作	ぼくたち，私たちの塔	新井絹枝	千代田小学校
10	小学校４年B	彫　塑	中庭のうさぎ	川口幸和	朝日小学校
11	小学校５年A	版　画	鳥と私	古屋栄隆	大成小学校
12	小学校５年B	彫　塑	さけんでいる顔	飯塚礼二	教大附属旭川小学校
13	小学校６年A	工　作	未来の体育館	角邦雄	北鎮小学校
14	小学校６年B	デザイン	きりぬきポスター	沢田透	神居小学校
15	中学校１年A	絵　画	友だち	島本捷夫	神居中学校
16	中学校１年B	デザイン	美しい飾り皿	大西勤	光陽中学校
17	中学校２年A	版　画	黒い紙との対話(陰刻による簡易多色版画)	築山尚明	北都中学校
18	中学校２年B	彫　塑	動きある人物	重山恵	永山中学校
19	中学校３年A	鑑　賞	カレーの市民	大久保正義	教大附属旭川中学校
20	高等学校	デザイン	ポスター＝我々の学校祭のために	宮本俊雄	北都商業高校

ということを明確にして、理論と実践を子どもの言葉や作品を通して解釈したいと考え生まれたものです。

ご参会の先生方には、この意を充分にご理解下さいまして、この意義深い本大会を一層稔り豊かなものにしていただいたことを嬉しく思っています。

今大会の概要は、第一日目には、連盟のこれまでの歩みと旭川での実践の積み上げを中心とした研究討議がなされて、各地区の参会下さいました先生方の意見をいただき、大会のテーマにせまろうとしたのです。

第二日目は、各地区の実践者による提言を中心として全道的な問題としてとらえ、研究が深められたのです。午後からは、豊かな子どもの造形性とは、いったいどんなものなのかということを、子どもの作品を通して考え望ましい作品評価のあり方等について話し合いました。

以下順を追って内容を紹介しますと、

第一日／アニメーション制作のあり方／（教育大旭川分校教授　根守悦夫）近年ますますこの教科との関連を深めつつある、アニメーション制作について、見方、考え方、あり方等について、具体的に解りやすく解

押していただき効果をあげました。

公開授業／幼稚園から高校までを、各領域に分け、旭川の二十名の若手の実践者が広く全道の皆様に旭川の実践のプロセスを紹介しました。なお、公開する授業の題材が、どんな考えでとり扱われているかについては、旭川提言集を参照して下さい。

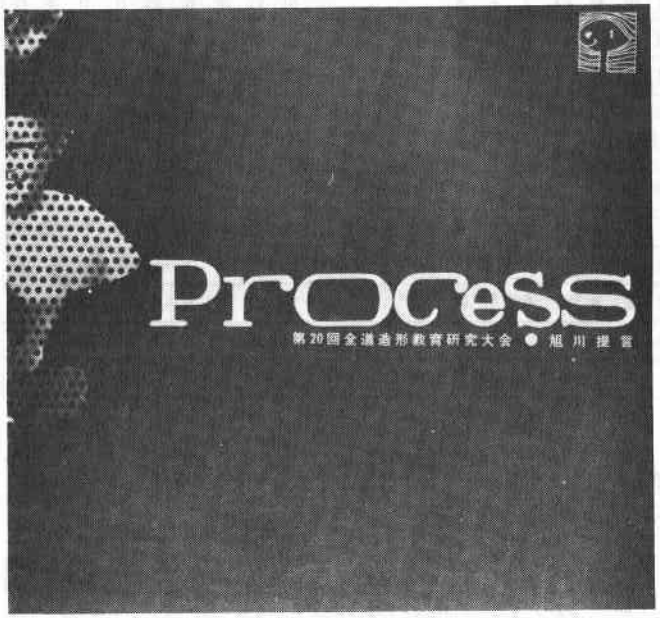
分科会　Ａ／（公開授業についての話し合い）授業は子どもが主体であると考えることから、話し合いの中に児童、生徒を参加させ指導者の願いを子どもがどうとらえ、どう表現したかを参会者の先生方と直接話し合って問題点を見いだし、テーマにせまろうとしました。

旭川提言／これまでの連盟の積み上げを旭川では、どうとらえ具体化したかということを軸にして、題材の系統をおさえ、他領域、他教材との関連のもとに、今ここでは、何をどう指導しているかについての考え方を提言いたしました。

第二日

分科会　Ｂ／幼稚園から高校までを十一分科会に分けて各地区の実践者による提言をいただき、今大会のテーマである「豊かに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」を理論と実践を通して明らかにしてゆく分科会でした。

分科会　Ｃ／子どもの作品だけを見て、その子どものねがいや傾向、力のすべてをよみとれるわけではありません。



○しかし多くの目と、いくつかの視点から、その作品を見つめる中から、ねがう子どもの立ち向い方子どもを認める方向が出てくるのではないでしょうか。

○分科会Ｃでは、ある作品をきっかけに、代表者や参会者全員の発言をもらい、その中にできるズレを話題の柱として語り合うことから、子どもの作品をよみとることの意味や、その傾向性をおさえた分科会でした。

■分　科　会

分　科　会　Ａ　（第１日目）

司会者名	領域	提　言　者	司　会　者	記録者
1.幼稚園	絵画製作	○池島みち子（さくら） ○平山エイ子（神　楽） ○泉　秀雄（朝日小）	○石丸　雅晟（室蘭・東園小） ○砂金　隆（本部・手稲中央） ○工藤　正（旭川・朝日小）	辻（藤） 塚田（藤） 中島（藤）
2.小学校1年A	工作	○宮田　静二（向陵小）	○岩田　宏一（根室・標津小） ○柳原　寿夫（旭川・教大附小）	島（向陵小） 阿部（神居小）
3.小学校1年B	絵画	○脇神　玲子（東町小）	○遠藤　久男（本部・美香保小） ○刑部千加雄（旭川・大町小）	吉本（新富小） 今関（東町小）
4.小学校2年A	デザイン	○島田　俊英（雨紛小）	○吉田　義晴（北見・開成小） ○阿部　国良（旭川・啓明小）	山（江丹別小） 広瀬（日新小）
5.小学校2年B	版画	○川島　信也（春光小）	○松島　輝男（本部・白揚小） ○首藤　薫（旭川・青雲小）	中村（神楽岡小） 永倉（青雲小）
6.小学校3年A	絵画	○新飯田　登（北光小）	○青山　清輝（美唄・峰延小） ○深瀬　智旦（旭川・大町小）	千葉（永山小） 山本（永山西小）
7.小学校3年B	デザイン	○渡辺　正勝（正和小）	○森川　昭夫（本部・本町小） ○小川　猛（旭川・教大付小）	工藤（新町小） 沢田（新富小）
8.小学校4年A	工作	○小倉　考（神居小）	○安久　達雄（帯広・明星小） ○飯塚　強（旭川・神居小）	山本（千代田小） 四十物（神居古潭小）
9.小学校4年B	彫塑	○宮下　林（近文小）	○側瀬宇太郎（本部・平岸小） ○氏本　利光（旭川・永山中）	相内（神居小） 永沢（第七小）

分科会名	領域	提　言　者	司　会・社	記録者
10.小学校5年A	版画	○古屋　栄隆（大成小）	○鈴木　私彦利（函館・　生小） ○伊藤　仁志（旭川・第三小）	小笠原（神楽小） 根本（神楽小）
11.小学校5年B	彫塑	○飯塚　礼二（教大附小）	○金井　秀男（本部・幌西小） ○山田　武（旭川・北星中）	地徳（聖和小） 小笠原（豊岡小）
12.小学校6年A	工作	○松藤　浄治（北鎮小）	○池本　良三（苫小牧・東小） ○西村　隆（旭川・常盤中）	高橋（北鎮小） 永沢（北鎮小）
13.小学校6年B	デザイン	○西道　喜代（神楽岡小）	○佐藤吉五郎（本部・幌南小） ○松浦　正美（旭川・中央小）	木村（神楽岡小） 中田（春光小）
14.中学校1年A	絵画	○中西　清治（常盤中）	○加地　保良（十勝・本別中） ○森田　喜昇（旭川・雨紛中）	中田（養護） 真岸（北星中）
15.中学校1年B	デザイン	○鈴木　俊昭（光陽中）	○森　健（本部・中島中） ○沢　繁雄（旭川・六合中）	鳥本（六合中） （上川地区）
16.中学校2年A	版画	○築山　尚明（北都中）	○三上　亨（旭川・北都中）	山野（ろう） （上川地区）
17.中学校2年B	彫塑	○及川　輝夫（東光中）	○坂田　武夫（本部・八条中） ○寺原　実（旭川・常盤中）	関（旭川中） （上川地区）
18.中学校3年A	鑑賞	○杉山　徹（聖園中）	○大谷　勝美（上川・置杵牛中） ○滝田　明男（旭川・北門中）	朴谷（北星中） （上川地区）
19.高　校	絵画 彫塑	○野上　好彦（旭川東高） ○佐藤　範夫（旭大高）	○笠原　康正（留萌・留萌高） ○土岐　祐次（本部・北　高） ○小林　健児（旭川・北　高）	（市内高校）

○提言発表
幼児期の、のぞましい造形指導
――よくみてかくことの一考察――

一、題材について

幼児が自己中心的であって、客観的に物を把握し描写することができないとして、いつも想像やあいまいな経験の思い出しだけでなく、ものをみることから物をとらえるという活動をさせたいと考えた。人間のからだをいろいろな視点からみてあらわしていくなかで、ひとりひとりが自信をもって表出できるようにしたいと考えた。

一年保育五才児（30名）を対像に、日常保育を中心に実践し、次のような課題を解決しようとした。

○その一

描けないといって泣く子に、ぬったくり遊びなどの精神解放をするとともに、じっくり考えたり発見したりすることのよろこびと描くことを結びつけ、あらわす楽しさをあじわわせる。

理解力、表現力の未発達な子、消極的で自信のない子にとって、描くということは不安な、苦しいことである。「目はどうかく、石は丸いよね、……。」

○その二

人物とは、こうかくのだと、何の工夫も苦心もみられない、概念的な絵をのりこえさせたい。

ものを見ることから、記号化した、人形の絵を自分から変えていくきっかけをつくっていく。

二、実践から

①頭（髪の毛）

〈幼児の活動〉

・髪の動き（流れ、つむじ）を知る

〈指導の観点〉

・ひとつづきの線のひき方

・線の太い細いと、あらわし方を知る

・鉛筆の持ち方、描き方

※結果から

・流れ、強弱がわかるように描けた　9人

・流れはあらわれた　14人

・感じをつかめないでいる　7人

・クレヨンや2Bくらいの鉛筆を使った方が効果的である。

髪の毛は黒いということで、平面的にべ、ったりぬる子には、手でふれさせ、目でみることから実感として受けとらせた。

②横むきの顔

〈幼児の活動〉

・前向きと横向きではちがうところがある。

・にらめっこなどの目、はな、耳、口などの形や数のちがいを知ってかく

〈指導の観点〉

・見えるものと見えないもの。

・にらめっこなどのあそびから表情の変化に興味をもたせる。

※結果から

見たことから、目、口、はななどの変化した部分はよくとらえられたが、あごにまで目を向けたものはわずか一人であった。しかし髪の毛については、前経験から70％の子どもたちは意識して描こうとしていた。

このあと、手のひらとゆび、動いている人などの実践を重ねてみたが、次のような反省も出てきた。

・よく見ることを通して、発見があり、おどろきもあるが、描くということとつなげてみると教師のおしつけが強い。

・描けたという指導者の満足はあるが、子どもにとって必然性があるかどうかという点では疑問も残る。

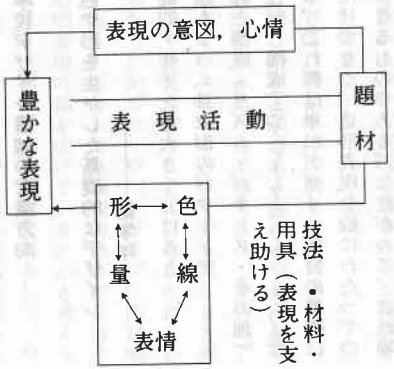
小学校絵画領域の実践方向

わたしたちは、常に、具体的な授業を通して子どもととりくみ、課題を解決していくことをねがってきた。

絵画領域では次のような指導の構造をえがき、低学年（学級のたがやしと発想）中学年（技法的な側画）高学年（自己のうちだし）のねらいを焦点化し、系統表をうちだした。

・表現したい子どもと育てたい教師の深い結びつきをきっかけとする

〈描画指導（学習）の構造〉



	1年	3年	5年
ねらい			
観察表現	知っていることを中心に大小などの特徴がかける。	比べて、ちがい（大小、はじめとおわりなど）がかける。	課題にあった視点でものをみつめ、自分の見方がわかるように描ける。
生活の表現	自分のしたことを中心に知らせるように、わかりやすくかける。	学級の中での活動（人と人、人とものの関係）のようすがかける。	身近かな生産（働く人を中心に）の場がかける。
構想表現	お話の好きなところを大きくかける。	中心になるものと、まわりのものの関係のようすがみたてられる。	物語の中心になる場面をみんなで選びだし自分の受けとりを強くうちだす。
材料・技法			
線について	太い線、強い線ではっきりかく。	太い線、細い線、直線、曲線、長く続く線、短い点のような線のいろいろな組み合わせ。	線による質のちがい。線の集まりと面・量のつながり。・クロッキー
色について	色のかたまりでかいていく。	対象物の色に近い色をつくる。もとになる色と、まぜる色の量を考える・混色	透明描法と不透明描法の組み合わせ、明度による対比を生かす。点描のとり入れとタッチ。
指導の要素	・クレヨン・不透明水彩	・描線を生かした彩色のしかた。・混色の方法。・中心になるものを強くあらはす方法・物の位置（遠い近い高い低い）の表現	・ものの ふくらみ、明暗の追求、。・遠近感の表現方法。・速く印象的に描く工夫。・テーマを生かすあらわし方
	・余白をぬらない。	・水彩組具の準備、後しまつ。	・好きな色をえらべる・筆のもち方、ぬり方

小学校デザイン領域の実践方向

1、色や形を生かした基礎的なデザイン
――低学年――

基礎的デザインを大きく分けると

- 絵もよう（具象形のパターン）
- 線と構成（リズム・バランス・その他）
- 色彩と構成（モダンテクニック・その他）

となり、これ等は単にデザイン学習の基礎になるだけでなく、造形表現全般にわたっての基礎になるものである。したがって、これ等の中には即効的な面と、くりかえしによって身についていく広い意味での造形感覚をみがくという二面性をもっている。

造形的な遊びを通して育てる。

低学年では、あそびの中にこそ造形の目を見開かせる場が必要である。その場とは。

①ものがある（いる）こと。

自由に動かし、並べたり、作ったりできる物と場を与えることから出発したい。

②条件を加えていくこと。

・ものそのものには意味がなくとも、並べ方、組み合わせ方で、子どもなりの表現がうちだせる条件（興味、抵抗）を与えたい。

2、装飾的な活動を通してのデザイン
――中学年――

○ 人間的欲求にもとづく装飾活動を通して身につける飾りから自分をとりまく環境の装飾へ向わせたい。

○ 装飾する場を通して自己表現の可能性を高めてやりたい。

以上のようなねらいから題材が選ばれた。

虫のきもの（一年） ・自然の力に感動 ・想像する楽しさ ・思いきった形と色で表現	ハンカチ（四年） ・わたしのハンカチ ・くりかえしの単位 ・色の制限	
とりで飾る（二年） ・教室を飾る計画	かべ飾り（五年） ・楽しいかざり ・大きさと形 ・彫るしごと ・しあげ	
かぶるもの（三年） ・ぼうしの機能 ・かざるためのぼうし ・わたしのかざり方	つるす飾り（六年） ・空間に動くもの ・置く場所と大きさ ・材料の特徴 ・技法の研究	

3、伝達を中心にしたデザイン活動
――高学年――

自分の作ったものが他の人々に何かを与えるということは、子どもたちにとって大変な感動である。（ポスターなど）

伝達とは、単に知らせるということだけでなく、みんなの願いや訴えを色や形、文字の組み合わせによって多数の人にわかるように表現し伝えることである。

そこで内容をおさえる視点として次のような高まりを考え具体的な題材をえらびだした。（紙面の都合で三・六年のみ）

3年	6年
学級や学校で知らせたいことを絵や図や文字を組み合わせて表現する ・発表会の案内状 ・見てもらう人は？ ・見やすく、楽しさのあるくみたて	自分のねがい、みんなのねがいを効果的な構成技法をくふうして表現する。 ・テーマの受けとめ ・ポイントは○○で ・平面、半立体、立体 ・単純化の生かし方

中学校彫塑領域の実践方向
――面のとらえをたしかに――

彫塑学習は立体を表現する活動である。立体には既に〝面〟が存在するはずであり、このことをどのようにとらえるかが基本である。

この面の把握が、物の量や空間の深さや広がりを感覚的にとらえさせる基礎的な能力であると反説し三年の実践を重ねてきた。

一年では、対象をいくつかの大きな面でとらえること。面がつくりだす量の把握や、量と量のバランスを考えさせていくこと。彫る削るの両方を扱うことにより彫塑表現材料の経験を豊かにさせ、表現の豊かさへと発展させたいと考えた。

二年では、対象全体の動きから、立体のつり合いや、動きと関連する面の方向を、対象の基本的な形とあわせて考えさせ、非対称ではあるが、バランスのとれている美しさを表現させる。表現方法として、これらのねらいに合った〝じかづけ〟や〝レリーフ〟を経験させ、ねらいに合わせた表現方法ができるように彫塑表現の幅を広げていきたいと考える。

三年では、観察による表現をとおして、今までに積みあげてきた面の持つ意味をほりさげたい。つまり同質素材で対象を表現するが、内側から盛りあがった面とか、内側におさえられた面、硬い面と柔らかな面など面の強弱や軽重といったものを考えさせながら表現させていきたい。

一貫した面の指導を根底として生徒の観察による表現を重視しとりくんできたわけであるが、これは構想表現そのものを無視したわけではなく、生徒は観察表現を通して認識を深め、考え方を身につけていくのであり、こうして身につけた基礎的な表現力を構想の分野へ発展させると考えたからである。したがって、題材のとりあげ方も比較的観察表現が容易な、生徒の身近かな友だちの中に求めることになったのである。このことは、個から周囲へと生活の広がる中学生のには適当であると考えた。

時間不足や設備不足を問題にする前に、どんな題材を、どのような順序で指導するかを考えることであった。

（文責／渡辺正勝／旭川・知新小）

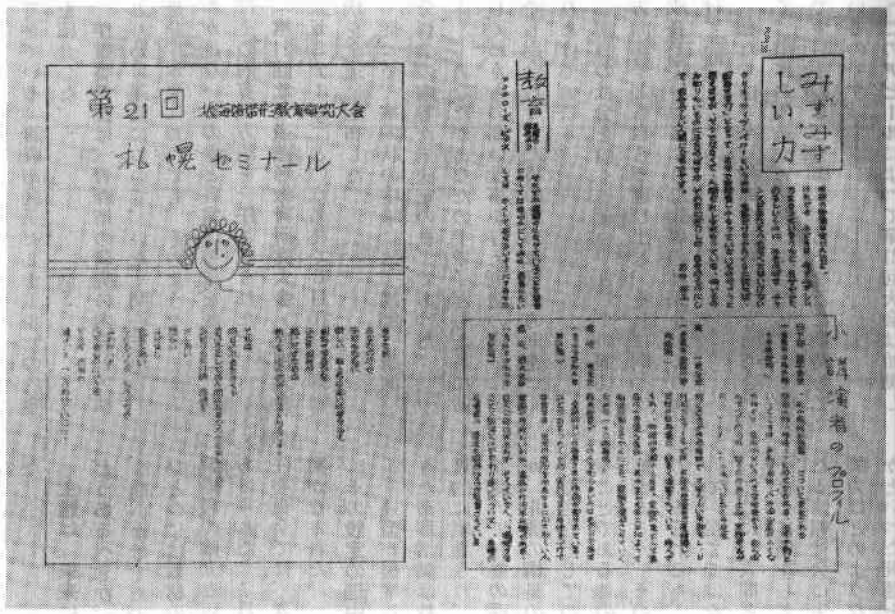
――表現（制作）過程――

感動 → 表現意欲 → イメージ → 立体表現 → 感動
イメージ → 平面表現 → 感動

	指導要素	指導の視点	題材名
一年	量感――・面――・粘土を削る――・わらうおめん 大きな面――・見る，さわる――・友だちの頭像 木取り，彫る おこるおめん		
二年	非対称のバランス――・面の方向――発泡スチロールによる肉づけ――・動きのある人物（スポーツ） 合わせのバランス多様な組み――・面の流れ――・粘土の高低削る――・学校での友人レリーフ		
三年	内面化された動き――面の強弱・疎密の軽重――・粘土を削る――・感情のあらわれた顔		

分科会Ｂ　（第２日目）				分科会名（第２日目）
司会者名	領域	提言者	司会者	分科会名 司会者
1.幼稚園	絵画 製作	○北間　恵子（札幌・手稲中央） ○斉藤　幸子（函館・函館）	○石　丸（室蘭） ○砂　金（本部） ○工　藤（旭川）	1. 幼稚園 小学校低学年 ○脇神　玲子（旭川・東町小） ○刑部千加雄（旭川・大町小）
2. 小学校 低学年A	工作 絵画	○源　紀一（上川・維文小） ○富久尾　豊（帯広・豊成小）	○岩　田（根室） ○遠　藤（本部） ○柳　原（旭川） ○刑　部（旭川）	
3. 小学校 低学年B	デザイン 版画	○志津　照男（後志・倶知安小） ○小野　博正（札幌・月寒東小） ○高橋　忠昭（網走・低草原小）	○吉　田（北見） ○松　島（本部） 阿○　部（旭川） ○首　藤（旭川）	
4. 小学校 中学年A	絵画 デザイン	○牧野　和夫（上川・扇山小） ○長野　昭（札幌・北園小）	○青　山（美唄） ○森　川（本部） ○深　瀬（旭川） ○小　川（旭川）	2. 小学校 中学年 ○飯塚　礼二（教大・附属小） ○青山　清輝（美唄・峰延小）
5. 小学校 中学年B	工作 彫塑	○水本　凱也（空知・砂川小） ○土井　誠（日高・賀張小）	○安　久（帯広） ○側　瀬（本部） ○飯　塚（旭川） ○氏　本（旭川）	

分科会Ｂ　（第２日目）				分科会Ｃ（第２日目）
分科会名	領域	提言者	司会者	分科会名 司会者
6. 小学校 高学年A	絵画 彫塑	○清野　満敏（渡島・大中山小） ○吉田　倭雄（札幌・発寒小）	○鈴　木（函館） ○金　井（本部） ○伊　藤（旭川） ○掲　田（旭川）	3. 小学校 高学年 ○古屋　栄隆（旭川・大成小） ○新飯田　登（旭川・北光小）
7. 小学校 高学年B	工作 デザイン	○加藤　広志（稚内・東小） ○北林　年彦（上川・風連小）	○池　本（苫小牧） ○佐　藤（本部） ○西　村（旭川） ○松　浦（旭川）	
8. 中学校A	絵画 版画	○藤井　正治（稚内・稚内中） ○宮崎　弘（上川・当麻中）	○加　地（十勝） ○森　田（旭川） ○三　上（旭川）	
9. 中学校B	デザイン	○清水　克美（根室・標津中） ○島　昇二（札幌・新琴似中）	○　森（本部） ○　沢（旭川）	4. 中学校 高等学校 ○中西　清治（旭川・常盤中） ○佐藤　範夫（旭川・旭大高）
10. 中学校C	彫塑 鑑賞	○上田　勲（留萌・増毛中） ○片桐　勉（苫小牧・啓北中）	○大　谷（上川） ○坂　田（本部） ○寺　原（旭川） ○滝　田（旭川）	
11. 高等学校		○中村　矢一（札幌・月寒高）	○笠　原（留萌） ○土　岐（本部） ○小　林（旭川）	



第21回大会　札幌ゼミナール

テーマ　未来に生きる子どもの造形教育

・とき　昭和46年８月５，６日

・ところ　札幌市中央区宮ケ丘円山公園
北海道神宮参集殿

第21回は　従来の大会と全く形を変えて開催された。それも**ゼミナール**という形であった。

というのも、46年は連盟として、大きな財政的な問題をかかえていた情況でもあり、全道の造形道盟支部の組織もひとつの世代の交替期を迎えていたことに加わって、民間教育団体の研究の時期が重なりあうという大問題が複雑にからみあっていたのであった。

これまで連盟の研究の主軸で、絶えず理論的方向を示していた名研究部長の伊東将夫先生が委員長として就任しての、初めての大会が、連盟がかって経験したことのない情勢の下で開催されることは、なんともいえない複雑な気持ちであった。

５月末に、大会を従来通りの形で開くことができないことが決った。しかし、８月上旬にそれに代わるものとしての研究会を持つには、おそくとも６月中旬までには、なんらかの形で全道の会員に研究大会について通知しなくてはならないといった節羽つまった段階となった。

連盟の本部は、連盟の二十年の歴史と伝説を守るために、連日のように会合をし、議論をした。その議論の中で私は40年より参加し

ている「青森市図工ゼミナール」の内容を紹介した。

伊東委員長は、青森市の研究の内容と方法とりわけ運営について、いたく関心を示し、是非、本来においても、そのようなゼミナールが出ないものかと各常任委員を説得し、私にその内容と方法を一任させられた。

「**第21回北海道造形教育研究大会・札幌大会（ゼミナール）**」という名称で6月10日に案内状を全道に配布した。

従って、案内状の中味には、講師、講演、分科会の内容が未決定のままであった。

――あなたがあなたの手で子どもたちに新しくねうちの高い仕事を与え創造の喜びに子でも出合わせるための造形教育の方向をつくりあげていこう。

明日の社会をつくる荷い手としての適切な方向を子ども自らが選び出し、それに向って成長していけるような指導の体系をつくりあげていこう。

私たちは、今、指導の経験と力ともち合って、指導の体系や方法をつくりだしていく時です。そのことを参加するあなたに期待しているのです。――

このアピールによって第21回大会は始動した。

主題は〝未来に生きる子どもの造形指導はどうあるべきか〟という造形指導への本質的な問いかけであった。したがってこの主題はひとつには教材の精選と構造・ふたつには学習過程の確立といった研究の視点からつくりあげられた。7月上旬の大会準備のための常任委員会では、次のような主題に対しての提案がなされた。

その**設定の理由**には、こう述べられている。

――連盟が提案し、全道の仲間が積み上げてきた造形活動は教科性を明確にし、指導が論理的に組織され、子どもたちは造形の全領域に亘って技能の深まりを得たことを評価するが、指導の構築の本来のねらいは……ユニークな存在としての子どもひとりひとりを育てることであるこの目的としての方法として技能があるが、その狭い技能についてのひろがりはみられるも、それは造形能力の一部であって、全てではない。

ここに、人間として、未来をきり拓きゆく子どもに何をしてやるのか、この複雑多岐にわたる情報社会に生きていくための価値選択の能力はどのような手だてによって育て得るのかといった問題と、教師自身の現在の仕事を子どもの未来につながるものはなにかという視点にたって再編成しようではないか。――というものであって、更に次の四つの箇条書が付記されていた。

- 教育全般について巾広い視野と視点を持つ
- 造形活動の構成と選択のための理論づけ
- 造形のための技能と指導法のたしかめ
- 教師のための技能演習

といったものであった。

方向は決定した大会の運営は常任委員全員が事に当ることとなった。

第21回はゼミナール形式もさることながら会場を札幌市宮ケ丘円山公園・北海道神宮参集殿としたことであり、全員泊り込みの研究で会場の都合で、定員を250名としたことであった。

参加会費は千円、宿泊費は一泊して四食で二千円という、これまでの大会の中では最低のものであった。

このように当時においては民間教育団体が考えもつかない神宮参集殿を会場にしたこと男女が雑寝で夜通し語りあう方法など、まことに異例づくめの形で第21回は進行していったのであった。

次の表は当時の大会準備の役員一覧である。

第21回　札幌大会ゼミナール運営委員一覧表

●統　轄…伊東委員長／運営委員…常任委員全員

係	業務内容	係氏名
総務	会全体の総括、事業推進	・高橋，橋本 ・斉藤，辻 ・中川
会計	・会費・更正予算 ・食事・飲物 （間食） ・パーテイ・宿泊 ・部屋割当	・橋本，斉藤
庶務	・参加者名簿・速報 ・規納・バッチ・謄写ガリ板 ・表示・必要品・西洋紙 ・受付要領 ・作品展示用紙	・種市，橋本 ・長谷川，長津 ・金井，松島 ・三谷，谷
会場	・看板・表示貼・机，椅子 ・放送・部屋別割当 ・寝具（置場も考える） ・洗面（用具，要領） ・器具	・種市 ・坂口 ・山田 ・奥野
研究	・各会の持ち方進め方 ・ガイドブック ・研究会以外の時間のあり方 （朝の散歩、ラジオ体そう、ニュース、歌、レクリーション）	・長谷川，芝木，島，新谷 ・金井，反橋，森，中村 ・森川，斎藤（洪），武田 ・佐藤）圭），側瀬 ・船着，三谷
編集	・記録の仕方 ・大会記録の編集方針と内容 ・大会集録印刷 ・写真 ・発送準備	・辻，成田，土岐 ・伊藤（恵），斉木，寺井 ・伊藤（英），香西，芝木 反橋

第21回　札幌ゼミナールの日程

■オリエンテーション	■分科会	■分科会	■散策
● ごあいさつ 伊東委員長 ● 会のねらうもの 研究部／長谷川 ● 分科会について 研究部／金井 ● 室長のプロフィル 研究部／森川 ● 遠来の友紹介 研究部／金井 ※ ユーモアこそ心のきづなとなることをわすれずに	分科会　A　ガイド・ホスト ・室に分かれること 〈必要な準備をして〉 ● 開会　ガイド ・室長紹介 ・自己紹介〈指導理念などを〉 ・会の進行について 1輪になって歌おう 2柱をたてて 〈好ましい絵とは…… 立場の主張が…… 初心者への心づかい 3このましい言葉と このましくない言葉と 4問題の作品 〈整理して全体協議に〉 ※ 楽しく　握手して	分科会　B　ガイド ・実践発表者紹介 ・発表〈指導法と作品〉 ・発表者別グループ ・幼小・中高 ・領域別 ※ 認めよ　さらばむくいられん	天然記念物の円山は植物の宝庫です 一人で歩くより二人で歩くのが楽しい 相手を見つけるのにためらいのある方はホストにどうぞ 語るもよし 語らぬもよし 世間ばなしはつまらない エノコログサでチョコチョコと　楽しい 時には 俗界を忘れ去り 虫の交尾は神聖である ※ いいふりしないで自然にかえろう
■分科会	■分科会	■フリータイム	■眠い朝のために
分科会　C 中学校 美術科における学力とはなにか ではどのように学力を高めることができるか ひとつひとつの教材を通して考えてみましょう	分科会　C 高等学校 ・新指導要領にもとづく教育課程の編成について語りましょう ・全道の組織を考えましょう ・私の指導実践を語りましょう ・写実的表現について ・構想による表現について ・デザインについて ・美術工芸について ※ 美意識を最後まで表現に	眠りたい方は　どうぞ安らかに…… ・語りあかそうグループ 床をピッタリ並べ 魚河岸のマグロのように 頭と口だけは冴えている ときには フランス小譚もよし Hは大いによろしい 寝ぐるるしい人は 森にいこう 森は安らぎを与えるでしょう すべて責任は 神様　あなたのものです ※ フリーとはなかなか考えないことがフリーなのです	朝のあいさつ 森の中から挨拶をおくろう 森の中から挨拶をかえそう 朝飯は草の上で おいしい空気と おいしいごはんと おいしい小鳥の声と ミルクを一杯そえて 盛りあがるフアイトで 9：00から大広間で 思いのたけを　語ろう ※ 挨拶はあなたのもの

■分科会	■分科会	■分科会	■分科会
分科会　C 幼稚園・保育園 ・魅力ある先生と子どもの作品 ・これが子どもの顔です ・体験を生して　お互を認めあえる　それがこの会の収穫です ・そろそろ他の室を訪問しましょうか ※ 恥をさらせる人には心がゆるせる	分科会　C 小学校低学年 ・自分の子どもの自慢をしましょう どれだけできるか うんと　がんばって ・この絵を私はこう読みとります ……この絵の指導はこうして…… ・この絵をこのましいことばで語りましょう ・ことばは生きている 子どもはそれを シャーベットのように 心の中にとけこます ※ もの言わぬは腹ふくれるわざ	分科会　C 小学校中学年 ・私の子どもの作品を見てください ・このましいことばで語ってください ・文部大臣として 好ましい美術教育を語ってください ※ ユニークに語るときは共感するものが少ないものである	分科会　C 小学校高学年 ・この絵を裁こう 私は弁護士 あなたは検事 〈神の国の裁きはどのように展開するのが、望ましいのか〉 ・実践の軌跡を述べ ・実践によって論争し ・実践によって接点をみいだす ・できるだけ豊かなことばで　コンテストする ※ 神は事実のみにほほえむ
■全体協議会	■閉会	■パーティー	■あとしまつ
・学校種別毎の発言がある ・領域ごとの発言がある ・人間　芸術　人間 芸術　人間　芸術 ※ 高い知性はユーモアを感ずる	歌声 あいさつ 声を大きく輪を大きく かたく手と手を 掌に汗を感じ　共鳴する鼓動を 又あう日まで 又会う日まで カメラマンよ走れ ※ 握手　すべてが了解される	・会費　安い 酔　早い ネプチュンファイブを飲もう 人魚に会えるかもしれない 酔って　ふらっと　手をつないで 森の小廸は　いきな小廸 来年も又おあいしましょう そちらは　バスの停留所ではありません 和田さんの進軍ラッパがなりわたる ※ よかったね　またあいましょう	まず　お掃除をしよう 神様あなたのおかげです みなさん　ありがとう ※ さいごの一筆で絵が完成する

大綱が決まった。青森のゼミの形を借りぬにしても、ゼミの目玉のようなものがほしかった。大会には決し得られないものがほしかった。私は予てから案として持ちつづけていた一つのプランを提出してみた。

それは東北の美術指導、とりわけ青森市の美術実践の交流であった。きびしいまでも誠実で、子どもについて確固たる見識をもち、決して美術だけといった狭いものの考えに立たず、教育とはなにかを常に問い続けてきている実践家を是非とも北海道に紹介し、教育するということ、研究するということについて真剣な討議が行なわれたならば、こんな素晴しいことはないという考えであった。

常任委員会の多くはこの意見に賛意を示してくださった。そして講師の人選の一切は私にまかせてくださった。

早速に青森に連絡をとり、絵画・版画指導の理論家と実践家をペアにして招くことにした。連盟が財政的に困難な時に四名の講師を招き得たのも、このゼミにかける実践の実質を最も大事にする伊東委員長の並々ならぬ意気が大きな力であった。

長谷川研究部長がユニークなゼミの日程表をつくりあげた。

●ゼミの研究内容

このゼミの研究記録は一枚の色画用紙に刷られたパンフレットと講師が講演に用いられたガリ刷りのプリントだけですから、私のメモを絡ぎあわせて綴ってみることにします。

色画用紙のパンフレットには次のような、散文詩が掲げられている。

あなたが
あなたの手で
子どもたちに
新しい
ねうちの高い仕事を与え
創造する喜びを
子ども自身が
自らの手で
つかみだす
新たな
造形教育の方法を見つけだそう

それは
明日の社会をつくる
荷い手としての
人間になるために必要な経験を
互いにだしあい、語らい
はげまし
おぎないあって
子どもたちが
自らの力で
見わけられる
内なるものにできる
そんな
造形の指導の道すじを
築きあげていこう

そして、その裏に、〝教育に未来をたくすのは、ロマンチックなことではあるが、それは、しばしば大人自身が人生の困難から逃避していることを意味します。〟と述べ、更に〝子どもの眼は正直で、子どもが人生について学ぶのは大人からである。〟からしてこんな子どもにしたいという前に教師自身が自己を教育するしかありません、それが確実な教育でこのほかの奇蹟も手品もありえないとつづきこのゼミのもつ性格を研究する精神にたとえてかかれている。

そして最後の結びで、〝大人が現在をすてて、過度に子どもに期待するのは、教育がおとろえた時代のあらわれです。今日の世界は、一方に科学、技能の進

歩をみながら、他方に人類を絶滅する戦争の危機をはらみ、大人自身にとって生きぬくことが精一杯な時です。子どもに期待する前に大人がまず、生きるみちを探し求めることです。このような生きぬこうとする大人の精神は子どもに　必ず受けつがれるでありましょう。〟

と教師の自主性をアピールし、子どもが人間として復活するふたつの条件をあげています。ひとつは、安定した感情と強固な意志、もうひとつは知的実践的に環境を統制する能力をあげて、

〝子どもたちが、レーダーのような外界の動きに反映するのではなくて、ジャイロスコープのように、自分が開拓していく方向を正確に測定し、これに従って一歩一歩進む能力をもつことで、変化にたえ、しかも変化を人間の理想にしたがって再構築する人間として育つこと。〟と述べて論理を進め、ものをつくる意味にふれています。

『つくられたものからつくるものへ』の中で歴史は進展するのであるから、自ら創造し、工夫し、つくられたものから、つくるものへの成長の下地を教育によって養わねばならないとし、教育がつくられつつ、つくるものにしなければと論を発展させ、このことが人間回復のために、最も重要な人間教育の中心になるべきであり、人間が人間として存在することはつくるものを獲得したときに始めて可能になる。と造形の教育の人間的形成への役割を述べています。

そして表現活動の本質にふれ、

●表現活動は心を解放したいという欲求を満たすための活動であって、生きる営みとしての根本的なものである。

●表現活動は、主体的なものを展開していく活動であるが、その結果、必ず外部から客観的に感知できるものを生みだす行為である。

●表現活動は衝動的なものでなく、意図的計画的な行動である。心を解放し、楽しませるという期待によって意図された行為であって、意図された行為と共に、心は開かれ欲求は満され、新たな期待と計画が生まれ次の活動を導いていくものである。

●表現活動は、非功利的、非実用的な活動である。あくまで表現したいという根本的な欲求を満すための活動である。

このような表現活動は、その活動内容の深さにしたがって・素朴な段階／計画的な目標をもって行う段階／自己の生がいとして精根をこめて行う段階・といった三つの段階に大きくわけられるとし、運営によって自己の心の中のあいまいなものを取り除いて、ぎりぎりの真実をみがき出す。自己の心の真実をさぐりだす行為を表現活動の本質であると論じている。

このように、やや科学的、理念的なパンプレットをもって、ゼミの中で子どもの絵や版画に接するように、そこから子どもの息づかいを見出すように、そこから教師の自由というものを深く考えるように、そこから教師の自立のための表現ということを真剣に考えていくようにといったことをアピールしていたのであった。

●四人の講師の実践発表

私の紙版画指導

日下部道子先生

青森市田茂木野小学校に勤務、市内の萬町小より、自ら求めて八甲田山麓の小さな学校に赴任し、版画指導を核にしたすぐれた学級経営を展開し、十数名の児童全てが、全日本版画コンクールに入賞する。

昭和32年、青森で版画の研究会が開かれたこの時、全国コンクール入賞作品の展覧会もあった。版画といえば葉書大の朴の板に彫るものだと思っていたので、8メートル9メートル大の共同製作や4つ切大にのびのびと表現された人物や動物、汽車などを見て、ただおどろくばかりだった。これらの作品は梱というベニヤ板を使っていること、この板は銘木店で求めればよいことなども初めて知った。

迫力ある木版画のほかに、私をひきつけたのは「紙はんが」だった。「紙をはり重ねることによって、物を表現できる」ことを知った。新聞をとっている家族が数えるほどしかいない貧村の中でも、紙ならなんとか準備できる。明日からでもやろうと思って学校に帰った。

一番初めは「自分の顔」を作らせることにした。研究会でフロッタージュ(こすり出し)も覚えたので、画用紙で顔の形を切らせ、それにカタログの紙などで髪をはらせた。

早速、こすり出して見る。次は鼻、目、口というように、はってはこすり出して次第にできあがっていくと顔を見せ合っては喜んだ。

そのうちに、子どもたちの中から、「高くはったところが、濃くうつるだね。」とまとめてくれる子がでてきた。「どうでも でこぼこを作れば、うつるんじゃないかな。」と問題を投げかけてくれた子もあった。自画像集ができあがった。山で遊ぶしか楽しみのない子どもたちは「はんが」に熱中した。特に材料集めは男の子の遊びになった。

●パーマネントの髪の毛――ほどいた毛糸
●かにのこうら――セルロイド・つるつるしたボール紙
●しゃぼん玉――輪ゴム・野原・野の草
●馬のしっぽ――木綿毛や小包のひも

子どもたちは、紙より実物に近づこうと努めた、このように子どもと共に、手さぐりで仕事をすすめていった、この仕事を通して次のことを学びとった。

①紙版画は材料費が少なくて済み、どこにでも材料がある。
②子どもは喜んで意欲的にとりくむ
③紙以外の実物を使うと思わぬ効果をあげることもあるが、ねり版やローラーがよごれやすく、刷りがむずかしい。
④初めはできるだけ、紙だけで表現させたほうがいいように思われる。
⑤集団画や共同製作の指導がしやすい。

昭和35年、子どもたちの描画にでてくる人物に立ったままの表現が多すぎる。おとなしく、すなおであるが、動きの中に美しさを発見できる子どもに育てたいと考えた。

「魚がつれるまで」動きの表現には紙版画の学習は効果的であった。動作化させて動きの中から美しい形をとらえるには、首、胴、手足をバラバラに作っておいて組み立てさせてみる。これらの仕事から紙版画の特徴を考えてみると。

①「紙版画」は糊ではる前に動かしてみることができる。
②物と物の関係に気づかせることができる。足を胴とつないでからスボンを貼る首と顔とを、どちらを上に貼るか。
③大きな面から小さな面に、また、遠い順から近いものにはる。
④あまりこまかなところまでくわしく表現しようとすれば、刷に困難が加わる。

昭39〈昆虫のしおりづくり〉

45分の時間内で完成できるような題材はないものかとうか、小さなもので紙版画を生かすものはないだろうかと考えた末、流書最もふえてきている6年の子どもに、この題材を考えついた。さわれば粉のおちるような蝶。透きとおっていてザラザラしたはねをもっているトンボ。かたくてつやつやしたはねをもっている甲虫などの条件を出し、その質感を出すための材料さがしが始まった。

●蝶――布、しわのような紙、紙やすり、
●トンボ――もんだり、たたんだりした紙、こまかい目の網、ガーゼ、
●甲虫――ボール紙、表紙がみ、ポスター、

このような学習の中から

①質感に関心をもたせることができた。
②予想をたてて計画的に仕事をした。
③友だちと作品の交換が手軽にできた。
④紙版画で象表現をする場合は、あまり技術や質感にかたよらないように留意したい。感動がうすれて技法が目立つようになるから。

このような実践の中から、いままで紙版画の指導について次のようにまとめることができる。

(1)画題材について

●身近にいる動物をとりあげることである、子どもは動物と共に生 しているといってもよい。動物を思う気持ちや動物の気もちを織りこんで表現しようとする態度が育てられるまた動物は大きなかたまりとして、画でとらえて表現することが出来、紙版画に適している。

●○○をしている自分(ぼく、わたし)自分のことだから、一番興味があるし、さわったり、手足を動かしたりして、動物の再現やくふうがしやすいので、形や動きをたしかめられる。

(2)技法指導について

●牛や人物を頭、首、胴、手足のように分けて切り、それを組み立てることを教える。

白い紙から鋏で余分なところを切りおとして、形を残す仕事はゆっくり形を思い出しながら切る能力を伸ばす。形がはっきりしていない子や左手で紙をまわしながら切る技術の劣っている子は直線で切ってしまい、仕事もすぐおわる、そこでこのような子には形をたしかめさせ鋏の使い方も指導する。

●動作を表現させることができる、首、胴、手足などを組みたてる時、物と物の関係をしっかりおさえておかないと、胴体の片側にだけ足が4本ついたり、ズボンの上に足がついたりする。

●画面の構成をくふうさせることができる。

一番表現したいものは、何がどうしているところか。それを助けるものは何か、動物や人物を台紙の上に配置し、それをいろいろに動かしてみて、最もテーマに合った構成をさせる。こんな仕事ができるのは紙版画の長所である。場画全体を考えながら位置を決める時主題がはっきりしている子は生き生きとした仕事をする。

●刷りについて

はじめはならべずりで指導する。

a インクのつけ方はねり板にたいらにインクをのばす。ローラーをまわしながらのばすとローラーにもたいらにつくことを教える

原版につけて眠の高さにしてみると一様にキラキラ光る。低学年ほどやって見せておぼえさせることができる。

b 紙のあし方、原版をおく台紙は刷りとる紙と同じ大きさにして、原版をのせる位置に印をつけておく、原版をのせたら、友だちから紙のはじを合わせて、しっかりおさえてもらう。静かに紙をおろし、中央から軽く紙を密着させる。

c バレンのあて方、先ず正しくにぎり、おや指の方に力を入れ、体重をかけてバレンをまわすようにして刷る。裏から刷れたところとそうでないところとを見分けることを教える。

●展示・合評・反省

かならずよいところを見つけてほめてやる次の作品を作るとき気をつけることをひとつ見つけてやる。自分の作品の反省をかかせると共に、友だちの作品のよいところを見つけださせるようにさせる。特に工夫したところ、、発見したところを見つけさせるようにする。

版画は刷り上った実感のよろこびにひたった時に次の作品をつくる意欲が湧いてくる。

だから第一回目の作品には成功させるように特に気をつけて指導している。殊に第一回目の一番はじめの刷りは長時間の努力の集点だと思っているので、ひとりずつていねいに教えて刷らせ、刷りあがった瞬間の大きな喜びにひたらせるようにしている。

条件を考えるということについて

東　一宏先生

青森・造道小学校、ＮＨＫ図画コンクールで文部大臣賞を二度、ＮＨＫ賞を一度獲得している。実践の東として東北にその名が知られている。現行の教科書の物像画の多くは先生の指導の作品である。

条件を与えるということについて

（創造と認識ということにかかわって）

1・わたくしたちの願い

『子どもたちの側から、よく好きな絵をかかせてほしい、というのでまかせておくと、必ず途中であきてしまったり、絵にならないようなことやものばかりかいてくる。』ということをよく耳にする。

この実態の中に創造教育で考えなければならない重大な意味があると考え、さまざまな実践を通して確かめ、あるいは考え直させられながら、容　次のような結論にたどりついた。

「好きなもの」をかくということは、創造教育上の出発点であって、最終到達点でなければならない。

「好きなもの」をかくという出発点から「好きなもの」をかくという到達点を目指して、現在いろんな試みを重ねた10年を図にしますと下の標に示すことができる。子どもひとりひとりの自発性、自主性、主体性というものが、創造活動の根源を流れるものであるという視点から、わたしの実践の見通しを図にしたのである。

●好きなもの

2、現在わたしが実践していること

——教師の心構え——

●イメージと創造性について

本来イメージは自分の内にある受容点（もの）と外的な価値のある刺戟（もの）とのぶつかり合いの葛藤から生まれるものでないかと思われる。

そこで、個々の子どもに様々なものを価値づけて受け入れることのできる人間性と対象を価値づけて見、自己に合うように価値づけて自分のものにすることのできる選択力と処理力を育てなければならない。

このような視点で創造活動の根源と創造教育の根源をとらえる時、私は創造性について次のように考える。

創造性とは、自発性、自主性、主体性をかまえた上で、自己の変革を目指し、「もの、ごと」の相関々係を自分なりにとらえ、反応し、表示していく個人個人の認識過程のようすの背景にあるものなのではないか、という考え方である。そして、この創造性を支えているのがひとりひとりのイメージ活動であるというとらえ方である。

このように考えてみた時、私は人間形成の中に位置づけられる造形教育の意味、文学教育の意味の大きさをより強く感じさせられ、いろいろな会合を通して、話し合い、その関連性をたしかめてきた。そこで私はこの10年間の実践をまとめ特にイメージ活動と物語画の構成についての指導について、ひとつの方法を述べてみたい。

仮説としては次のようなものである。

〝自主性を基盤にした創造活動を意味づけ、系統づけ、自己の変容を目指しながら活動させ、それを通して、子どもたちの認識を深めていくような絵画表現の指導法があるのではないか。

●テーマの選択

子どもたちに作品完成の満足感を与えないことには自主的な創造活動はのぞめないと思われる。子どもが発想段階では非常に活発に働きながら途中であきて作品としてまとまらないで投げ出してしまうことは、子どもの発想が作品として定着するまでの段階で、教師がしなくてはならない仕事が数多くあるのであって、教師はただその事実に余り心を動かさないのである。子どもの表現意欲が最後まで続き、作品としてまとまるようなテーマの選択や与え方というものが大事になってくる。

時間の無駄を少なくし、イメージ活動を一斉におこなわせるということから、少ない条件で多くのイメージがふくらむようなテーマを選び出すことである。

テーマの選択、設定にあたっては、創造教育を通して、ひとりひとりの「もの、ごと」に対する考え方や認識が深まっていくように個人の発達段階と学年の発達段階を考慮し、系統的に与えるようにする。

●系統性を考えた条件

〈低学年〉

意表をつく条件やテーマを与える。〝変だぞ〟〝おもしろいな〟〝ふしぎだなあ〟というような心理葛藤を起こさせ、空想を軸にお話を構成させ、それを定着させようとするものである。

〈中学年〉

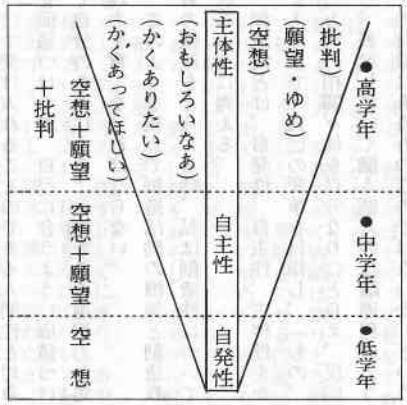
最少の条件を与える、少ない条件で多くのイメージをふくらませて〈かくありたい〉という願いとか夢を軸に現実の生活を見なおさうような心理葛藤を起こさせ、完想を軸にお構成させ定着させようとするものである。

〈高学年〉

現実の生活環境にあるものごとを軸に構成させることである。いろいろな角度からの現実に対する考えを《かくあってほしい》とい

う批判的な願望を持った視点に立たせ、お話を構成させ、現実を見直させながら創造させ定着させていこうとするものである。

この方法（考え方）を図にまとめてみると



このような実践を通して考えるのは、図工指導のみでは生みだされないということである。その背景にある学級経営や他の教科との関連や視点の適確なトレーニングとかが、重要な位置を占める。

ここに、指導法の基本的な留意事項をあげてみたいと思う。

①学級目標を背景に一年間を通してどんな子どもに育てるのか、学級の目標や個人個人の子どもの成長の見通しをはっきりとさせる。

②そのためには、子どもと子ども、教師と子どもとの対話を大事にし、その中にある可能性の要因を見のがさないこと。

③「もの・ごと」の受けとめ方の基盤を常に自分におき、自分の立場で受けとめ、読みとり、自分の立場で判断させること。

④「もの・ごと」の関係をつねに意味あるものとしてとらえさせ、自分なりの判断をくださせること。

⑤子どもの創造活動の中にあるお話の三層性（心の中でのお話／かきながらのお話／仕上げたときのお話）と円運動（発想・こんなことを／製作・これとこれはどんな関係が／完成・こうなったけれど、こうすれば／新しい感動発想・かきたい）的な関係を重視すること。

⑥常に自分なりに新しいものを見つけ、喜びや悲しみを持って「もの・ごと」を受け入れる態度を身につけさせること。

⑦観察角度を工夫させ観察意欲を持たせること。

⑧トレーニングとして、部分スケッチ、全体スケッチを重ねて、イメージを適確に深めさせておくこと。

⑨文学作品の読みとりの視点や方法を工夫させ、感想文の表現内容を深めさせること。

⑩絵画は「もの・ごと」を画用紙に写しとるのではなく「もの」と自分とのかかわりあいの中でわきおこった気持ちを画用紙に構成するのだという時点に立たせること。

版画指導の歩みから

柿崎　実先生

青森・浪打小学校・版画指導においては東北のリーダー・誠実な指導と堅牢な指導分析で教育版画への尊敬をかち得ている。

●版画指導の歩みから

わたしが版画指導を始めたのは、昭29の頃であり、約15年の経験から「これが版画指導のエキスだ。」といったものをわたしなりにお話してみたいと思います。

●木版画について

(1)下絵つくりにおける白黒の問題

木版画のむずかしさは、マイナスの造形であり、彫り残した結果から絵を予想して、彫り進める逆思考が要求されることと、白と黒に平等に意識を働かせて、その呼びかけによる美しさをフルに発揮させなければならないところにある。白黒に対する相互意識がないと、「ものは黒、いらないところは白」と単純にわりきってしまう結果、作品は形式化しハンコ的になりその生命を失うことになる。それだけに仕事に対する見通し、計画というものが大切になってくるが、それは下絵づくりにかかわる問題である。

(2)はじめに大きな白黒を決定すること

下絵の段階で、主題の強調という点を考え大づかみに画面の安定、動勢も勿論考慮に入れて白黒をまず決定することである。

この際に表現対象の白黒如何に左右されることは一切いりません。あくまでも版造形をより効果的にという観点から白黒を考え、あとは全体的な白黒のバランスをくずさないように、次第に細部を決めていきます。

また、彫りの全体的な方向として、陽刻主体にもっていくか、陰刻か、半陰陽かという問題がありますが、それはやはり下絵の内容によって決定されることで、一概にはどれがいいといい切れませんが、選択の一般的な観点としては

●主題強調と画面の緊密度を高める

●可視性の高いものにする

●バランス、安定、動きの点から考察する

●量感、質感、遠近感等が考えられるが、絵としての伝達性を高めるという点では版画と同じである。

●彫りの方向、彫りあと、画面構成上必要な白黒についても考慮する

(3)彫りについて

●まず第一刀を見究めること

どこから、どの刀で、どう彫るかということは、何時でも重要な問題であるが、初歩の子や低学年の場合は主として線彫り主体であるだけに、第一刀をよく見てやり彫りの全体的な方向を見定めてやる必要がある。一本の輪郭線がとてつもなく太くて、しかも刀勢がなく、絵を完全に殺してしまっているケースが多い。

外彫りにもっていくか、内彫りにもっていくか、彫りの方向など、第一刀をおろす前に充分見通しをつけさせる指導が大切である。このことは造形意識にかかわる問題であり、その意識を培うという点からも慎重に扱うようにしたいものです。

●線のない版画をつくれという助言

線彫りから半陰陽、陽刻へと発達するのが一般的ですが、陽刻の段階に移行しても尚輪廓線に頼り、絵をうるさくし、ひ弱なものにしている例が多い。そこで学年が進み、版画経験を多く重ねるにつれて、次第に説得性の高い面で勝負する心構えをつくるために、「線のない版画をつくれ。」という助言が大切になってくる。説明的な線に頼っているうちはどうしても伝達性の高い絵はつくれないからである。

●陰刻表現を大切にすること

木版画は、線彫り即ち陰刻表現から出発するが、ややもすると陰刻を低次な表現と軽視する結果、陽刻への移行を急ぎすぎるきらいがある。その結果は、作品が様式化し、やはりハンコ的表現におちいる。そこで陰刻の段階を着実に踏ませ、その良さ、美しさというものを存分に感得させる必要があると思う。

陰刻の段階を着実に踏ませた場合は、陽刻に移っても、やはり陰刻の良さ、美しさが画面の要所要所で生かされ、作品全体を引き締め、深みを与えていくものである。

(4)間接表現の問題について

版画は「版による絵」であり、間接的な表

現である。したがって複数性をもっている。しかしそのことは版画の芸術性や教育性を少しも薄めるものではない。

版画指導の主眼は、あくまでも版による造形というところにあり、多数化が必ずしも目的ではない。だが、わたしたちは版画の複数性をもっと積極的に教育の中にとり入れる仕事を抜きにして版画教育の目的を達成できないのではないだろうか。

版画集作り、他教師と手を結んだ版画活動カレンダー作り等、わたしたちに教育は場を無限に与えてくれているものと思う。版画はそういった社会性をもっている訳であるからそのために、何を彫るべきかという主題の問題とも無縁ではないのである。

(5) 技法・技術の問題について

版画の世界は材料、用具、手段、方法が複雑で多様である。それだけに技術の占める領域は大きい。

しかし、版画も又描画と同じ平面造形である限りにおいて、その教育目的を同じにすることは勿論である。したがって、版画だからという誤まった既成概念から専ら技術中心の指導に終始することは、問題である。子ども自身の創造的な活動を無視した版画指導は、作品を作らせることは出来ても教育にはならない、版画のもつ教育機能を充分に発揮させるには、単なる技法の領域にとどまらず、描にない版画独自の造形性や教育性というものを確立し、明確な意見のもとに子どもに与えるとともに、子ども自身の創造活動の場を吟味し、その力を存分に発揮させるように仕向けなければならないと思う。

学級の質に応じた導入のあり方

猪股哲夫先生

青森・浅虫中学校・現論の猪股といわれ、青森市の造形の方向づけには欠かせない方、「構想することと観察とのかかわりについて」など多くの指導論文が全国誌に掲載されている。

●学級の質に応じた導入のあり方

子どもが絵をかくという仕事は、このことによって、人間形成がなされる。もっとも効果的な根本的なものだと私たちは考えてきたのである。また、その中心となるものとして創造というものを重視して、そのことだけでもいろいろと苦労を重ね現在も研究しつづけている。

●創造は進歩していく。

このことは、はじめには幼稚な児童画をかいていても、児童画を反省することによってまた表現する対象の意味を理解することによって、つぎの段階へと飛躍的によくなっていくことをなんかいともなく経験したことである。このような自然性と理知性との弁証法的発展によって、全ての経験は生きたものとして活用されるものと思われる。

このことを学習の中で考えてみるならば、どうしても主観的な目標にばかり走りすぎて偏重な学習を展開してはいないかということである。

教育の基本のひとつとして、個性を伸ばすということがあるが、それが必ずしも個人的進展ばかりを願うものではないのであって、ふだんいわれるように、個と集団（社会）、集団と個とのからみあいによって、みがきだされてくるものなのである。

それで、この発表では学習形態のひとつとしての学級集団というものをとりあげて考えてみたい。

●学級集団について

学級集団は学校組織の有機体としてのもつとも基本となるものであり、教師の学級経営と交錯することによって、生活体としての機能を発揮しつづけるものと思われる。その中で中心となるものの一つとして、思考する生活をどのような教育方法によってつづけさせ未来において発展させるかということである「人類の大部分は、幼年時代の探究心に富んでいるとき以外は……多くの場合、衝動や習慣に頼り、自分たちは本質的な答の全てをすでに知っているものと考えて、あまり質問もしないで生きつづけてきた」といわれてみれば、わたしたちの教育する場で考えてみると、前述のことが強く心をこめてくるのである。

教育するということを、もう一度本質的に組み立ててみる必要を、毎日の学習の中で、かきたてられ、自分だけの生活に不安を感じそのいらだちが、つめ込むという強圧手段となっているのではないか。

わたしは、特に図工科の学習の中で、学級集団として思考することを、子どもたちに経験させ、その発展する中で、個人としての思考することへと伸ばしていきたいと思うのである。

「思考する習慣を培おうと決心しないような人は、人生最大の楽しみをのがしている。人生最大の楽しみをのがすばかりでなく自分を最大限に伸ばすことができない。すべての進歩、すべての成功は思考によって始まるのである。」（エジソン）といっているが、思考することを個人から社会全体へとひろげていく態度を教師に与えられた一つの機会としてとらえ、実行していきたいと思うのである。

しかも、全ての思考は心に導かれた創造であるから、個性の伸長もなり、主体的な生きかたとする人間になるのではないかと思うのである。

●感動を中心に導入する

惰性的な生活状態の場合は、感動（おどろき）することを出発点としたい。いわば日常のマンネリをやぶって新しい活動にめざめさせてやることである。

●興味を中心に導入する

好奇心のある場合は、この状態は軽いある程度の期待をいだいているものであるから、ちょっとしたきっかけによって興味をもち、探究していくものである。この時期は、さっと描きはじめる割合に創造的な絵ができないのは、子どもの側の興味のもたせ方が教師サイドの一方的な導入が多く、子どもをリラックスな状態にしているのではないか、また題材内容が結論づいて興味をなくしたり、教師の導入時間がながすぎ、意欲をなくさせてはいないかといったことがあげられる。好奇心を刺戟するものとして

●子どもの体が触れあうほどにすわらせて連帯感をもたせる

●シンボル的なものをみせて子どもの心をひきしめる。

●意欲的な場合の導入する

子どもが自発的になってきて教師のもっている個性、立場、見識、人間味などが、子どもの心情に想像以上に影響を与える状態である。

イメージの確立もこの状態からだと思われる。認識している内容とからみあわせて題材を考えることが即導入となろう。学級の子どもの意識内容もみちこんで「何を・何が・何で」の内容をいちはやく感知する状態にできる時期である。

●信頼を中心に導入する

ここでは教師個人と学級全体との関係をのりこえて、教師個人と子ども個人との関係まではっきりしてくるようである。

つまり教師のもっている人格、個性、性格に対して、ひとりひとりの個人的な信頼が必要になってくる。従って絵をかく時は平等でできるだけの相談相手になることがキー・ポイントになる。つまり人間的な親近感を生みだして、第三者の理解できないようなところで学習のうまみがでてくるのである。たゞ、ここで教師が努力（人間的なもの）を忘れると「なれあい」の学習が生まれ、生命力のないうまいだけの絵のできるのも、この時期である。

●方向づけを中心に導入すること

ここまでくると学級全体が、一つの有機体になっているので、子どもはどんな方向にも自由に、力強く進んでいくようである。つまり、他の教科で学習したいろいろなことがらから、子どもたちの位置、考え方など実質的な内容が必要になってくるのである。子どものものの見る目が観察的になり、考え方がリアルになり、きわめて建設的になってくるのである。よい絵が多くでてくるが、ひとつのパターンが強く生みだされるおそれもあるので、新しい見通しのある方向へ、転換することが必要になってくる。

以上のように分析的な考察をしたが、何分にも包括的になりすぎた。導入の質が、感動、興味・意欲・信頼・方向の一連の力学的運動の中で、子どもたちが次なるものへの見通しができるように育てることを中心として絵をかかせたいものだと願っているのである。

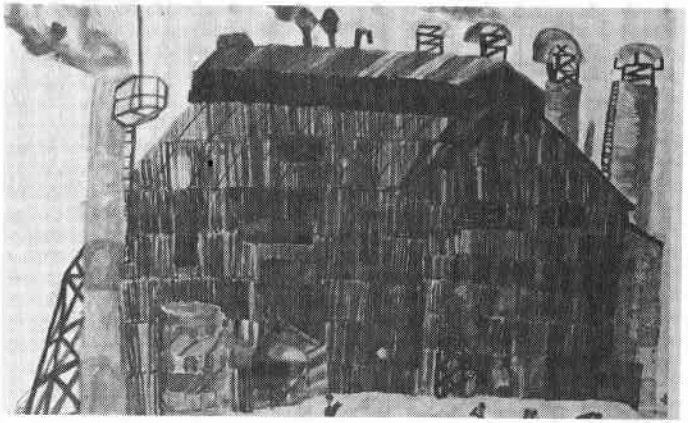
実践者としての講師の特色ある講演を中心に、真夜中まで児童の作品を中心に語りあった。参集殿いっぱいの寝床で足のふみ場もないところを寝床を巻きあげての語り合いである。参会一六九名は、子どもの絵を通して語られる学級経営のあり方に、深く驚き、かつ感じ入り、子どもを育てることと教師自身の人格力量を高めることとが両輪となっていなければならないことを学びとった。

8月6日ゼミは熱気の裡に終了した。伊東委員長は終わりに、こう述べている。

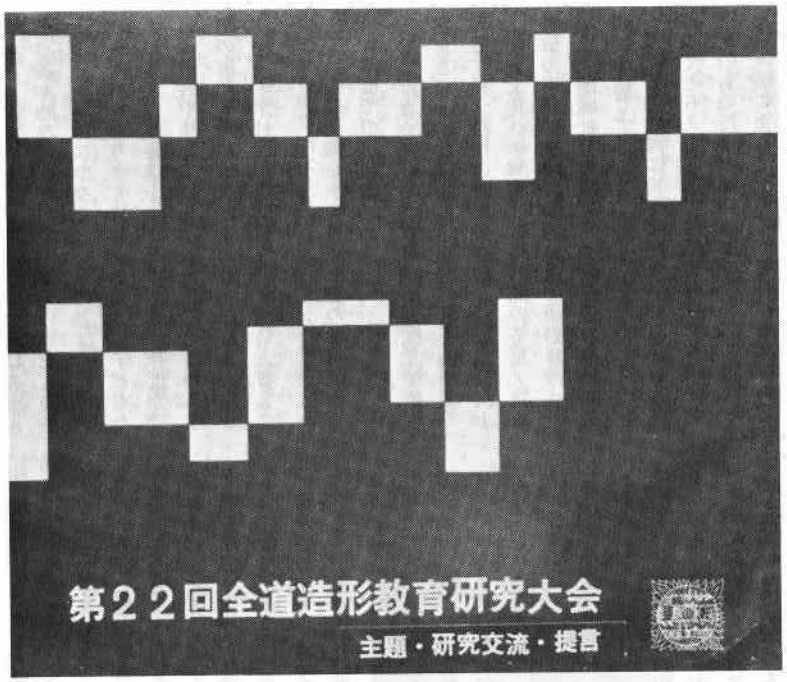
〝非合理、非論理の論理が埋没するようではこまる。情緒・感情や人間の魂がつかまえられ、その上に論理が組み立てられなければならない。今迄われわれの教育の運動が育ってきたものをもう一度考えて、これからの美術教育を展望する必要がある。この意味で今回のゼミはこれから連盟が学ばなければならないものが多くあった。〟と。

四時から円山公園の草芝の上で、樽からの生ビールのうまさと共に、故斉藤一雄先生の姿が思いだされて仕方のないゼミだった。

（文責　金井）



第22回帯広・十勝大会



テーマ　未来に生きるこどもの造形教育
－生活に根ざした造形表現をどう高めるか－

と　き　昭和47年７月30・31日
ところ　於　帯広市立柏小学校

1　主題について

(1)未来に生きる子供の造形教育について

子供たちをとりまく　社会情勢は過去数年前とは大きな変化をみせた。複雑多岐な情報化社会を生きぬくために造形学習で心をつちかい阻害された人間性の回復を図り、また現実の社会を科学的に正しく見きわめる目を養ない勇気をもって未来に力強く生きぬく力と創造の力を養ないたい。

(2)生活に根ざした造形表現をどう高めるか

・幼稚園／幼児期におけるたのしい造形活動
・小学校低学年／あらわすことの喜びをもつ造形活動
・小学校中学年／進んで創り出す造形活動
・小学校高学年／たしかな目でみつめる造形活動
・中学校／生活に根ざし課題に迫まる造形活動
・高等学校／技法の制約をどう生かして個性的な表現をさせるか
・単複学校／表現活動を豊かにするための図工科指導

帯広。十勝では大会の基本テーマに基づき、造形教育全般を通じて　どのような人間像をめざし、図工美術教育を推進していくかに研

究のスポットをあて、今回の研究会にのぞんだ。基本的な考えとして、支えられたものをそのまま学習につなぐというのではなく、子どもたちをとりまく背景をさぐり、子どもたちの考え方や要求を見きわめ、最も身近かである生活や社会に目をむけさせ、そこから学習の展開を始めることにより、これから生きていく未来社会への展望を開きたいと考えている。

(3) 造形活動をすすめる上での諸問題

○行政面での諸問題

・なにげなく過している毎時間の図工美術教育をとりまく行政面の諸問題に目を向けてみると、科学技術の優先の姿勢からの生気向上／消費文化への弊害／教科時間の不足／施設設備の不足／教師の労働過重／知的教科への偏重／地域社会の無関心／教育費の不足等問題は山積している。

・図工美術教育は義務教育の中での普通教育としてとらえるとき、図工美術教育の研究か特定のものだけではいけない。一部の限られた名人芸によって進められるものでもない。図工教育が全教育活動の中での一部であるという意識をもってとり組む姿勢がより大切である。

・施設設備については、特に予算が不足である。特別教室があっても、普通教室につぶされているという現状では望ましい授業を進めれといっても無理な事である。学習の成果が児童生徒の人間づくりに役立つんだという事を考えれば関係行政における理解と協力が切に望まれる。

・芸能教科の軽視について

何らかの形で、父母教師共々芸能教科軽視の考え方はあるように思う。人間づくりに知識だけ優先するようでは本物ではない。知識教科では育てる事に大きな働きをもっている図工美術を含めた芸能教科の重視を置きざりにしては全人教育の立場から大変な誤ちをおかすことになるだろう。この面から中学校における美術科の時間縮少は絶対反対しなければならない。

・教師の労働過重について、小学校では連絡や研修の時間が他の雑用のため圧迫されていることを訴えている、中学校では持ち時間が24～26時間と多く、更に他教科と併わせて持たされているため充分な準備や評価ができない。これは都条令なみの最高20時間におさえられるべきであり、良い条件で良い学習効果を造り出すよう教師として働きかける必要がある。

○　教師の側からみた図工美術教育の諸問題

・全道的に見られる過疎化現象はこの地も同様である。帯広市郊外への流入が多く、市全体をみてもドーナツ現象をていし、より合い集団間の連体性の欠如、人間性のふれあいの不足など子どもたちの特殊な生き方が見られる。

・依田勉三の晩成社の開拓から、この地だけの歴史なども、戦争やマスコミ等の急行文化に押し流された感が強く、きびしい北国の中で自然を開拓し、生きぬいてきた人間像はどこへ行ったのかと思わずにはいられない、自然をよりよく開拓するのが逆に自然破壊に拍車をかけはじめている。

・この教科の目的からいえば、この教科は情操教育であるという漠然とした考え方がある美しい絵をかいたり　美しいものを作ったりする中で、美しい心情、やさしい心情が教育される。このとらえ方は、あまりにも一面的であろう。知識や経験を使いこなしながら現実の本質を造形の中に定着していく行為、造形の中で追求していく行為が　美術の仕事の本質と考えたい。

・主題追求について、毎週の図工美術指導が

ややもするとカリキュラム通りの流れ作業に終ってしまうという例が良くあるが、題材の系列とか、子供たちの生活とのかかわりあいとか学年間のたての系列など、多角的な分析の上にたっての指導がもっと重視されなければならない。特に題材ひとつにしても、何をどのように表現するかという主題の追求にはもっと教師の側としても研究の余地があろう。題を与えて〝さあ描こう〟〝造ってみよう。〟では深まりがみられず、そこには創造の芽も育たないように思う。

・指導法の展望欠如について、〝大胆に描こう〟とか〝のびのびと描こう〟という言葉（指導法）に集約されるように、戦後の美術教育のこの新らしさが、現時点では、かえって子供たち弊害となってきているようである。たしかに悪いことばではないが、技術も技法も全てこのこの言葉でまるめてしまって指導してきたきらいがある。合わせて教師ひとりひとりの実技能力の不充分とか評価基準のあいまいさカリキュラムの内部の矛質等教師の側の責任も多くある。

・カリキュラムについて、帯広・十勝とも図工美術サークルが主体となって作成したカリキュラムを使用して美術教育を進めているがその基本となるカリキュラムを各校の段階では、児童生徒の実態、地域性などを考えた自校カリキュラムによる指導を行なっているかについてはまだ不充分といわざるを得ない。

○児童・生徒にかかわる諸問題

・すべての教育に関連する事ではあるが、子

どもたちの力のみで創造的な仕事を期待することは不可能である。大人や教師の手をかりずに、自らの能力で創造的な仕事を造りあげていくことが教育の目的とするところであるが、それまでのプロセスとしては、教師からの創造性を刺激する働きかけは重要な仕事となってくる。実態としては、いろいろな観察力はもう一歩というところまできているが、それをどう表現していくかとなると、小より中学校段階で大きな悩みとなっている、この点、小～中～高への流れる表現の技術面の指導の系統が是非必要と思われる。

・学習（作業）の基本的な習慣が身についていない。学習にあたっての準備や後始末など要領よく整然とすることができない、また、基礎的な知識や技能の不足もみられ、使用する用具、材料などに関する知識も足りない。

・対称をどう認識し、どう理解するかという点であるが、破壊される自然（公害）から生まれる創造性の欠如、また創造性がみられないあそび（生活のゆとり）からくる情操の貧困化、情報過多による精神的散慢さと孤立感十勝の風土を愛する心の消滅等が挙げられる

・表現力の不足について、ねらいを達成するための適格で生き生きした表現がみられず、デザイン教育偏重（特に中学校）からくるデザイン的技法技術のみが向上し、仕上がりの小ぎれいさが目立ち、生命感の不足した作品が多いのは残念である。手でつくる行為がわずらわしくなる環境（プラモデルの流行など）から来る機能マヒ、刃物が使えない、とげない状態などもみられ、もっと生活に密着したものの手造の学習など大いに考えていかなければならない。

（研究部　富久尾　豊）

公開授業一覧

学年	領域	教材品	氏名	学校名
幼	製作	ふね	増田 綾子	帯広渡辺学園幼稚園
小 1	絵画	みんなでのろう	高橋 セツ子	帯広豊成小学校
小 1	デザイン	すてきなくびかざり	谷内 敏	十勝新得屈足小学校
小 2	工作	かんむり	寺本 吉明	十勝足寄西小学校
小 3	鑑賞	私達のまち	禁 厚夫	帯広東小学校
小 4	絵画	笛をふく人	高橋 ミチ	帯広稲田小学校
小 5	彫塑	運動をする人	成田 隆	十勝芽室小学校
小 6	彫塑	建築現場で働く人	森戸 春樹	帯広大空小学校
中 1	版画	働く人	小西 三雄	十勝鹿追中学校
中 1	デザイン	クラスの仕事	宮沢 克忠	帯広第1中学校
中 2	絵画	身近かなもの	岡沼 秀雄	帯広第3中学校
中 2	工芸	ひもによるかざりびん	斉藤 健昭	十勝幕別白人中学校
中 3	彫塑	仲間たち	小室 吏	帯広第6中学校
高校	版画	森の詩	中谷 有逸	帯広柏葉高等学校
単複	絵画	砂利工場で見たこと	大越 哲也	十勝清水下人舞小学校

分科会（1日目）30日

分科会名（公開授業）		司会	提言	記録者
幼稚園	絵	○長尾みつえ（札幌・みなみ幼） ○塩原 文（札幌・栄光幼）	○天野和幸（帯広・聖公会幼）	細川良雄（東小） 日塔幸子（上士幌）
小 1	絵	○中里 馨（空知・栗山小） ○中嶋 幸男（空知・赤平小）	○佐伯 進（室蘭・日新小）	荒井正春（上士幌小） 鈴木新子（稲田小）
小 1	デ	○吉田 義晴（網走・滝上小） ○小松 厚（紋別・元紋小）	○紺野哲明（十勝・屈足小）	赤津達治（白人小） 筒井一子（東小）
小 2	工	○岩田 宏一（根室・標津小） ○中村 彰（根室・標津中）	○金子 章（帯広・帯広小）	佐川春治（清水小） 後藤教子（北栄小）
小 3	鑑	○石塚 潔（室蘭・常盤小） ○片平 浩史（室蘭・常盤小）	○伊藤鴨記（札幌・本郷小）	出村英和（駒畠小） 糸川昌子（稲田小）
小 4	絵	○池本 良三（苫小牧・東小） ○内潟 光尚（苫小牧・北栄小）	○石井 久（函館・港小）	徳永晃（本別小） 安藤和江（西小）
小 5	彫	○早弓 弘行（空知・吉住小） ○藤原 明（室知・下鶏小）	○中村俊昭（帯広・川西小）	北信子（帯小） 橋口慧（東小）
小 6	彫	○伊藤 英世（札幌付属小）	○関 健治（釧路・桜ヶ岡小）	岡崎久憲（糠内小） 佐藤忠司（広野小）
中 1	版	○森 健（札幌・中島中） ○坂田 武夫（札幌・八条中）	○田口丕二（帯広・三中）	片倉武彦（清水小） 守谷通利（四中）
中 1	デ	○稲船 正男（釧路・東中） ○羽生 輝（釧路・景雲中）	○中西㊤昭（十勝・中札内中）	佐藤顕後（足寄中） 東英子（盲）
中 2	絵	○田辺 康夫（函館・新川中） ○藤井 昭夫（函館・附属中）	○丸谷雄次（帯広・五中）	谷内要（上士幌中） 田村富子（広野小）
中 2	工	○松川 仁（稚内・中央小） ○藤井 正治（稚内・稚内中）	○斉藤真琴（帯広・五中）	中谷茂弘（上士幌中） 間庭百合子（稲田小）
中 3	彫	○小杉 信雄（旭川・東光中） ○鈴木 俊昭（旭川・光陽中）	○横田裕美（十勝・幕別中）	佐藤龍明（広尾中） 石田恵子（清川中）
高校	版	○木下 勘二（釧・江南高高） ○長尾 教逸（深川・西高） ○田村 宏（岩見沢女子高）	○千葉光男（釧路・湖陵高） ○奈良孝哉（滝川高）	石川幸雄（赤平西） 青木清一（三条）
単複	絵	○山谷 礼司（渡島・亀田小） ○近堂 俊行（渡島・鹿部小）	○湯川 守（十勝・松沢小）	平直秀（光和小） 真鍋鍋暁士（清水小）

分科会（2日目）31日

分科会名	領域	司会	提言	記録者
幼稚園	絵・製作	○長尾みつえ（札幌・みなみ幼） ○塩原 文（札幌・栄光幼）	○得本 良子（札幌・札幌幼）	三国紘子（上栄小） 安藤利江（西小）
小低学年A	絵・工・デ	○吉田 義晴（網走・滝上中） ○小松 厚（紋別・元紋小）	○吉田 京子（苫小牧・大成小）	鈴木新子（稲田小） 北信子（帯小）
小低学年B	彫・版	○中里 馨（空知・栗山小） ○中嶋 幸男（空知・赤平小）	○高橋 元春（帯広・緑丘小）	橋口慧（東小） 赤津達治（白人小）
小中学年A	絵・版	○池本 良三（苫小牧・東小） ○内潟 光尚（苫小牧・北栄小）	○中坪 市郎（石狩・大森小） ○空 嘉英（十勝・豊頃小）	間庭百合子（稲田小） 田村富子（広野小）
小中学年B	工・デ	○石塚 潔（室蘭・水元小） ○片平 浩史（室蘭・常盤小）	○細見 浩（根室・中標津若竹小） ○前田 久茂（帯広・緑丘小）	筒井一子（東小） 後藤教子（北栄小）
小高学年A	版・絵	○早弓 弘行（空知・吉住小） ○藤原 明（空知・下鴨小）	○岡沼 淳一（十勝・上士幌小） ○鈴木 茂（北見・上常呂小）	糸川昌子（稲田小） 後藤忠司（広野小）
小高学年B	デ・工	○谷 勲（札幌・九条小）	○九瀬 登（帯広・上帯広小）	真鍋暁士（清川小） 細川良雄（東小）
中学校	デ・工	○森 健（札幌・中島中） ○田辺 康夫（函館・新川中）	○山元 勝雄（十勝・更別中）	東英子（盲） 岡久憲（糠内小）
中学校	彫・鑑	○稲船 正男（釧路・東中） ○大森 正明（釧路・取鳥中） ○藤井 正治（稚内・稚内中）	○浅野富士男（上川・上富良野中）	守谷通利（四中） 須田学（西当緑小）
中学校	彫・鑑	○小杉 信雄（旭川・東光中） ○鈴木 俊明（旭川・光陽中）	○及川 輝夫（旭川・東光中）	松山智子（明星小） 石田恵子（清川中）
高校	版	○木下 勘二（釧路・江南高） ○長尾 教逸（深川・西高） ○田村 宏（岩見沢女子高）	○千葉 光男（釧路・湖陵高） ○奈良 孝哉（滝川高）	中谷有逸（柏葉） 石川幸雄（赤平西）
単複	絵	○山谷 礼司（渡島・亀田小） ○近堂 俊行（渡島・鹿部小）	○山本 繁秋（渡島・東大沼小）	井上泉（盲） 藤山信雄（上居辺小）

昭和47年　第22回　大会役員一覧

大会委員長　北海道造形連盟委員長　高橋　栄吉
大会副委員長　帯広市立緑ヶ丘小学校長
幕別町立糠内中学校長　村上　悟
大会参与　帯広市教育委員会教育長　上田　章
北海道教育庁十勝教育局長　梅山　源悦
北海道教育庁十勝教育長部
会会長　村田　政之
十勝サークル協議会会長　柳谷　文雄
帯広市教育研究会会長　池田　健
十勝造形サークル顧問　富田　鉄雄
元帯広造形サークル委員長　平塚　義雄
十勝造形サークル顧問　安達　大元
帯広市立第二中学校長　太田　清
浦幌町立留真小学校長　村田順之助
帯広市立北栄小学校長　中村　和吉
運営委員長　帯広市立緑ヶ丘小学校　高橋　元春
副運営委員長　幕別町立糠内中学校　加地　保良
運営委員　帯広市立柏小学校　安久　達雄
〃　光南小学校　松浦　一平
〃　啓西小学校　大貫　正雄

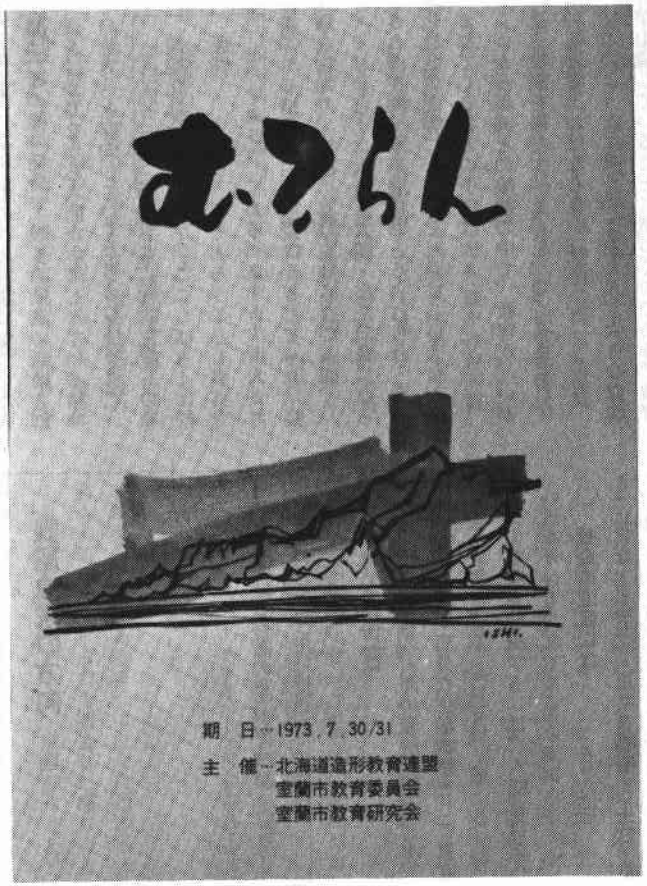
運営委員
〃　上帯広小学校　成瀬　登
〃　東小学校　森　厚夫
〃　川西小学校　中村　俊昭
〃　明星小学校　頼田　晃
〃　清川小学校　男沢　千里
〃　北栄小学校　豊田　晶子
〃　豊成小学校　富久　尾豊
〃　光南小学校　福井吉三郎
〃　柏小学校　本間　義視
〃　緑ヶ丘小学校　伊沢　隆司
〃　緑ヶ丘小学校　大塚　貫
〃　柏小学校　大戸　秀夫
〃　第一中学校　渡辺　禎祥
〃　第二中学校　小椋　武秋
〃　第三中学校　田口　丕二
〃　第四中学校　武田　伸一
〃　第五中学校　丸谷　雄次
〃　第六中学校　園部　信二
幕別町立幕別中学校　横田　裕美
北海道立三条高等学校　青木　清一

	芽室町立渋山小学校	嘉屋マサ子
	音更町立下音更小学校	山本三和子
	鹿追町立上幌内小学校	千葉恵美子
	帯広市立光南小学校	国中恵美子
記録部	帯広市立清川小学校	男沢千里
	〃 大空小学校	谷川敏
	〃 帯広小学校	北信子
	〃 広野小学校	田村富子
	〃 〃	佐藤忠司
	〃 稲田小学校	間庭百合子
	〃 清水小学校	真鍋暁士
	〃 北栄小学校	三国紘子
	〃 西小学校	安藤和江
	〃 東小学校	筒井一子
	〃 〃	橋口慧
	〃 明星小学校	松山智子
	〃 稲田小学校	糸川昌子
	〃 〃	鈴木新子
	〃 第四中学校	守谷通利
	〃 清水中学校	石田恵子
	北海道立盲学校	井上泉
	〃	東英子
	足寄町立足寄中学校	佐藤俊顕
	陸別町立上小利別小学校	藤山信雄
	上士幌町立上士幌中学校	中谷茂広
	清水町立清水中学校	片倉武彦
	〃 清水小学校	佐川春二
	忠類村立西当縁小学校	須田学
	本別町立本別小学校	徳永晃
	広尾町立広尾中学校	佐藤龍明
	幕別町立駒畠小学校	出村英和
	音更町立光和小学校	平真秀
	幕別町立人白小学校	赤津達治
	本別町立本別小学校	岡崎久憲
	上士幌町立上士幌中学校	谷内要
	帯広市立東小学校	細川良雄
記録部	上士幌町立上士幌小学校	日塔幸子
	〃 〃	荒井正春
	帯広市立北栄小学校	後藤教子
渉外部	帯広市立第六中学校	園部信二
	〃 第四中学校	武田伸一
	〃 第五中学校	熊代弘法
	〃 緑ヶ丘小学校	伊沢隆司
	〃 〃	中原三郎
	〃 稲田小学校	杉山慶三
	〃 第一中学校	川辺金吉
	〃 大正小学校	高金仁志
	〃 啓西小学校	奥山好広
	〃 東小学校	太田道次
事業部	帯広市立第一中学校	渡辺禎祥
	〃 明星小学校	頼田晃
	〃 第七中学校	霜村英靖
	〃 西小学校	唐沢亀三
	〃 栄小学校	佐藤竹舜
	新得町立勇足中学校	斉藤隆博
	忠類村立忠類中学校	小柳恒
	足寄町立足寄東中学校	高橋正美
	士幌町立中士幌小学校	葛西裕
編集部	帯広市立啓西小学校	大貫正雄
	〃 〃	加藤雄次郎
	〃 〃	中山稚敬
	〃 川西小学校	二瓶和雄
	〃 北栄小学校	渡辺朝男
	〃 明星小学校	坂垣美智夫
	〃 稲田小学校	桜井俊一
輸送部	帯広市立光南小学校	福井吉三郎
	〃 帯広小学校	鈴木大登
	〃 稲田小学校	実吉正良
	浦幌町立豊北中学校	橋本正三

第23回室蘭大会（昭和48年7月30・31日）研究主題について

於　室蘭市立常盤小学校

主題　未来に生きる子どもの造形教育



	帯広市葵南幼稚園	大高徳照
事務局長	帯広市立第三中学校	田口丞二
次長	〃 光南小学校	松浦一平
事務局員	帯広市立第五中学校	丸谷雄次
	〃 柏小学校	安久達夫
	〃 上帯広小学校	成瀬登
	〃 緑ヶ丘小学校	高橋元春
	〃 豊成小学校	富久尾豊
	幕別町立幕別中学校	横田裕美
	〃 糠平中学校	加地保良
	北海道立三条高等学校	青木清一
	帯広市葵南幼稚園	大高徳照
研究部	帯広市立豊成小学校	富久尾豊
	〃 第五中学校	丸谷雄次
	〃 北栄小学校	金沢孝英
	〃 〃	豊田晶子
	〃 豊成小学校	高橋セツ子
	〃 東小学校	森厚夫
	〃 稲田小学校	高橋ミチ
	〃 大空小学校	森戸春樹
	〃 第一中学校	宮沢克治
	〃 第三中学校	岡沼秀雄
	〃 第六中学校	小室吏
	〃 帯広小学校	金子章
	〃 緑ヶ丘小学校	高橋元春
	〃 〃	前田久芳
	〃 川西小学校	中村俊昭
	〃 第五中学校	斉藤真琴
	〃 第三中学校	田口丞二
	〃 北栄小学校	小棚木省一郎
	足寄町立足寄西小学校	寺本吉明
	新得町立屈足小学校	谷内敏
	芽室町立芽室小学校	成田隆
	鹿追町立庭追中学校	小西三雄
	幕別町立白人中学校	斉藤健昭
	〃 幕別中学校	横田裕美
	新得町立屈足小学校	紺野哲明
	士幌町立上士幌小学校	岡沼淳一
	豊頃町立豊頃小学校	空嘉英
	更別村立更別中学校	山元勝雄
	中札内村立内札内中学校	中西□昭
	清水町立松沢小学校	湯川守
	清水町立下人舞小学校	大越哲也
庶務課	帯広市立緑ヶ丘小学校	大塚貢
	〃 〃	坂上博昭
	〃 〃	高橋美喜子
	〃 〃	高井俊子
	〃 明星小学校	高橋重嬉
会計部	帯広市立第二中学校	小椋武秋
	幕別町立糠内小学校	野々村春雄
会場部	帯広市立柏小学校	安久達雄
	〃 〃	富谷道信
	〃 〃	本間義視
	〃 〃	須田哲也
	〃 〃	丸藤忠造
	〃 〃	石川雅代
	〃 〃	有沢文雄
受付、接待部	帯広市立柏小学校	大戸秀夫
	〃 〃	大道まさ子
	〃 〃	後藤ひさ
	〃 〃	白戸千代子
	〃 〃	富田愛子
	〃 光南小学校	西本つとめ
	〃 稲田小学校	刑部貞子
	〃 北栄小学校	平山シデノ
	〃 〃	藤川タイ子
	帯広市立北栄小学校	河瀬己巳子
	清水町立御影中学校	村上俊彦

研究主題について

連盟　研究部

自然と人間と科学の調和を指向する未来

今日の社会は　科学の時代であり、技術革新の時代である。このような時代は二十年前には予想もしなかったことである。

自動車、コンピューター、種々の電気機器は、手足として頭脳に代って働き、人間を労働の苦しさから解放した。しかし、それが必ずしも人間の幸福には結びついていないのが現状である。交通戦争・大気汚染・自然の破壊等々、人間のための努力が、結果的には不幸な事象を生みだすに至った。ここで改めて・人間の尊重・復興への仕事が渇望される。

明日からの教育は、まず人間の幸福と生きるための人間・自然・技術との調和を考えることから出発しなくてはならない。

外から内へとかかわる未来

人間が工業社会をつくって初めて、かって人間が地球に託した無限の夢はもはや成立しなくなった

ことに気づいた。ものへの有限に気づいた人間は、その後の社会で、幾多の価値の転換と創造をはかりながら人間が本来もっている精神の世界へと志向していくと考えねばならない。

さらに知的生産への希求が、ここしばらくは続くであろうことも事実である。ますます増大されあふれる情報の中で欲望はかきたてられ、軽薄な物知り、克己の喜びを知らない人間、バイタリティーに欠ける人間・また消費にならされ潜在的、求不満におとしいれられ、情報化社会の悪弊にむしばまれた貧しい大衆が生まれてくることの予想は大きい。

情報化社会の悪弊

かかる現実との接触の中で、教育が、いかなる役割を果たすべきかを、強くせまられていると考えねばならない。

このような未来を考えるとき、大きな課題が山積していることに気づくのである。教育は、これらの課題から逃避できない。とりわけ人間の内側から完成をねがっている造形教育は、その果たす役割の大なることを自覚しなくてはならない時である。

課題追求の方向

教育のヴィジョン

○ 環境の混乱には

人間性や物質の資源の荒廃、空気、水、地球の汚れを不充分な生活状態として見直すことである。

この混乱を解決するには、人間と自然への橋をかけることである。

○ 社会の混乱には

正常なアイデア・正常な感情・正常な希望の欠乏の解決は、人間と人間の間に橋をかけることである。

○ 内部自身の混乱には

個々人の調和の中に住む個人の無能・友情の中に住む感情・思想・個人の全体感の無能の解決は、私たち自身の内部に橋をかけることである。

造形教育の期待

真に必要なものを創造する主体性

1　ねばり強く、じっくり考え、つくり上げる持続的な意欲

2　自己を律するに厳しい精神の構えをもった情操

3　よいものをよいとするたしかな選択力を育てるための個性をみがく、

造形の仕事は、子どもが外なる事物への理解と認識を深める中で、自己の内なる心をみつめ、自己を開発する。その営みの中で、自己の力を一段一段とのばし高め、社会にかけがえのない一個の人格と個性のなかで充実した生活を築くためのベースをつくることである。

室蘭市研究主題

ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか

室蘭市造形部研究委員会

はじめに

本大会テーマである〝未来に生きる子どもの造形教育〟については、連盟の提言を室蘭の解釈にたって受けとめ本大会の研究基盤とした。

そのうえに立って、過去、室蘭市教育研究会造形部がとりくんで来た研究の成果を、〝ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか〟というサブテーマに位置づけ、授業実践を通して提示し、広く、具体的な諸問題について討議して、大きな成果を上げ得るよう期待しているのである。

1　表現力のおさえについて

昭和四三年度の室蘭市教育研究会の研究主題が「思考力を高めるための授業過程の実践研究」ということであったので、造形部では、その特性から、「思考力」の部分を「表現力」におきかえて研究の主題とし、以後四年間にわたって継続実践・実証をしてきたわけである。

当初、表現力とは何か——という仮説を立て、実践、実証をし、検討を加えていく中で次のようにおさえた。——

子どもをとりまく視覚の対象が、おそろしく増大し、著しく複雑化している。実生活の中で、人間を中心とした考え方や感じ方が、だんだん少なくなってきている。造形教育は、子どもたちが生活現実をしっかり見つめて表現することにより、現実の中から美や真実を選で分ける目、頭、心を育てる教科である。したがって、

イ）積極的で能動的な生き方を子どもたちのものにしてやる。

ロ）造形的な課題を、それぞれの発見によって解決できる子どもにしてやる。

ハ）伝統的形態の中にある美意識を発見し受受けつぐことのできる子どもにしてやる。

——ことを観点として、

《表現力とは、あらゆることを自己に写し見る・知る・感ずる力を統合した描こうとする力、表わそうとする、主張しょうとする力である》

式、おさえた。具体的には、——

『自己に写す』ということは、経験を豊かにすること、経験をほり起こすことにより、新しく認識していくことの営みであり、この経験が感動源になって発想を豊かにし、さらに稔り多い構想へと発展したり、審美的に受けとめる感覚や技能を高めていく力であり、創造やエネルギーを定着させることである。さらに、自分に語り働きかけ、社会に対する発言にまで発展させる力である。

2　表現力を高めるための指導過程の構造化

何のために、何を、どう指導していくのかという手だてを、科学的に考察し、整理し、用意してとりくまなければならないわけであるが、先生達の講演や文献に論拠を求めながら、実践し、実証してきたわけである。

・こういう子どもたちに

子どもたちのおかれている現状を正しく分析していく仕事として、社会的現実の直視、地域の特殊性、学年・学級実態の適確なは握が考えられるよう。そのことから——

・こういう教材を通して

教材の精選という仕事が、細部にわたって配慮され、見通しを持った中で進められなければならないだろう。

・授業の中で鍛えたい表現力

子どもの実態から、こういう表現力をつけ、伸ばさせたいという具体的な造形秩序や造形要素を用意しておかなければならないだろう。

・鍛えるためにとらせたい思考過程

どのような順序や方法で誘発させていくのかという、きめ細やかな配慮が必要であろう。

・求めるべき変容

ただ単に、子どものすばらしい創造力に期待するのではなく、子どもが現実に気づき、見つめ、発見していく中で、最終的には自らの能力、創造力を積極的に働かせていくように育てる教師のかまえが必要であり、たいせつなことであろう。

3　ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか

2でのべたような、基本的な教師のかまえに基づき、さらに具体的な手順や場の設定、準備が用意されなければならない。

・題材の決定

教材観を通し、子どもたちがとらえやすい、関心をそそるような、主題を要約したような方法で表現するものでありたい。

・授業の目標と指導過程

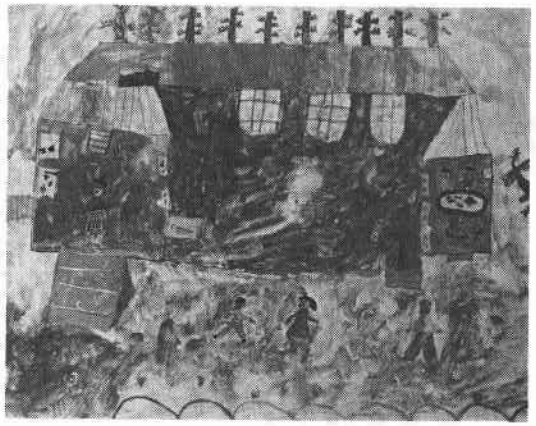
教材の中で子どもたちにさせたいもの、授業の中できたえたい表現能力（造形秩序・造形要素・技法など）を明確にしておき、関心・意欲・生き生きとした活動が持続していくような、完成のよろこびを心からあじわえるような指導の計画でありたい。

・授業構造

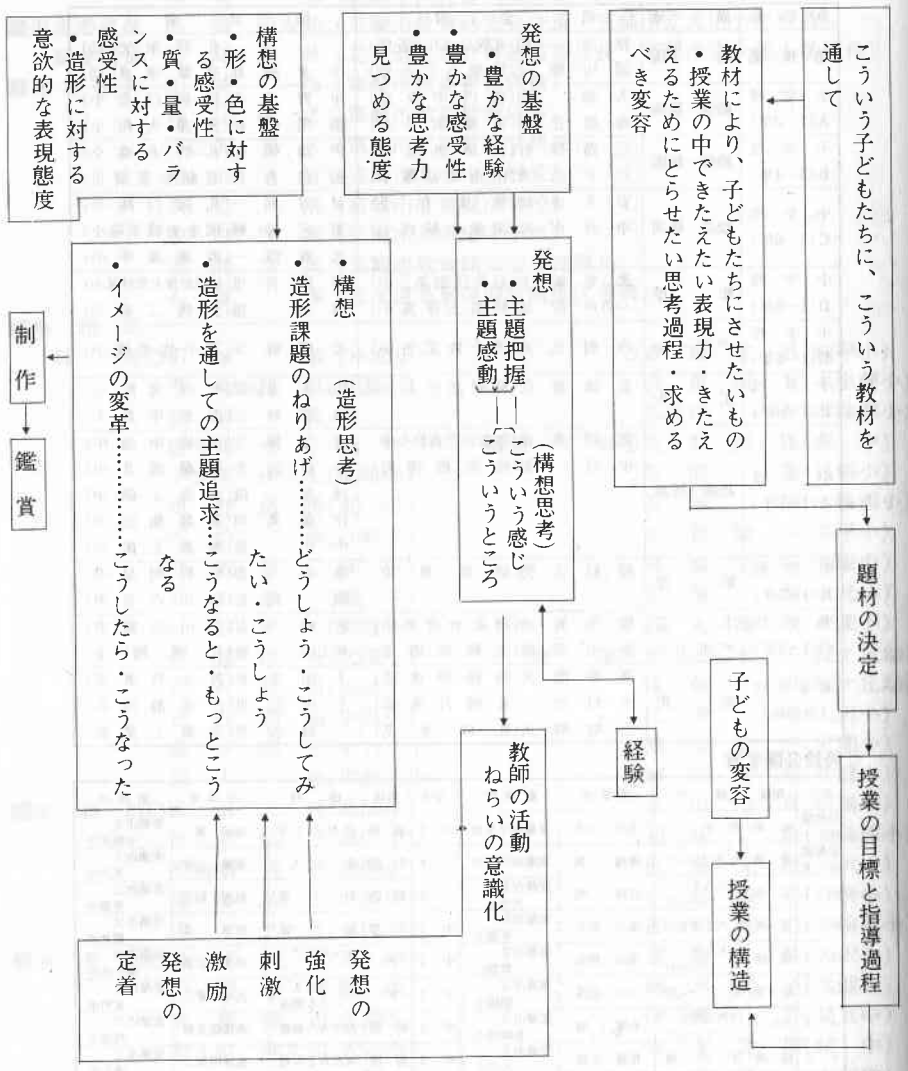
授業は、教師と子どもと教材の相互関係によって成りたち、この三者が関連し合いながら作りあげられるものである。教師の働きかけによっておこる子どもの反応、子どもどうしの働きかけによっておこる子どもの反応、それらの反応をどうほり起こすかという指導過程と、子どもの学習活動を吟味していく中で、次のような構造化を試みている。

・子どもの変容

教育の現代化、教科の現代的課題に迫る授業研究（昭和四七年度より市教研の研究主題）の中で「ひとりひとりの子どもの表現力がどう高まったか」そのことが、次の創造活動にどう結びついていく原動力となったか。その期待に応えてくれる子どもになるように育てていくのである。



—表現力を高めるための指導の構造—



記念講演「情報化時代における造形教育の役割と焦点」

十文字女子短期大学教授　**林　健造氏**

・時流と造形教育の役割／人間は人間であるのか／造形指導の６要素／イメージ／自己伝達認知／ことば／見る直接経験／ダンゴ造形教育論／ねらい一本主義

分科会

分科会	領域	司会者	提言者
幼稚園	絵画	林田一樹(札幌ひばりが丘保) 浦川環子(室蘭めぐみ幼)	(札幌栄光幼) 小倉勝郎(室蘭清泉幼)
小学校A(1・2年)	絵画・版画	久我宏(稚内中央小) 藤原正敏(室蘭高平小)	中野忠夫(胆振白老小) 栃尾俊秋(室蘭大和小)
小学校B(3・4年)	絵画・版画	近藤俊行(渡島鹿部小) 片平浩史(伊達東紋鶯小)	伊藤暢紀(札幌本郷小) 田口香苗(室蘭本室蘭小)
小学校C(5・6年)	絵画・版画	安久達雄(帯広柏小) 中坪市郎(室蘭本輪西小)	村谷利一(札幌白揚小) 黒河洋輔(網走美幌東陽小) 志賀健一(室蘭高平小)
小学校D(1～6年)	彫塑	逸見敏夫(石狩江別第三小) 一の戸信雄(胆振上厚真小)	伊藤英也(札幌教育大学付属小) 富田泰(札幌二条小)
小学校E(1～6年)	デザイン	内潟光尚(苫小牧北光小)	佐藤幹夫(苫小牧美園小)
小学校F(1～6年)	工作	長津喜代(札幌西白石小)	山本金次郎(札幌元町小) 飯田耕三(函館中島小)
中学校A(1～3年)	絵画・版画	諏訪英雄(胆振白老森野小中) 中村彰(根室標津町)	荒谷博文(札幌中島中) 中村民夫(室蘭港北中) 阿部隆(渡島上磯中) 伊藤英明(渡島亀田中) 中川諭(渡島七飯中)
中学校B(1～3年)	彫塑	稲船正男(釧路東中)	重山恵(札幌明星中) 関秋宏(旭川六合中)
中学校C(1～3年)	工芸 デザイン	横田勇吉(網走小清水中) 安田辰雄(室蘭向陽中)	宮崎弘(上川当麻中) 角力山旭(札幌曙中)
高等学校(全学年)	美術	高井澄夫(胆振伊達高) 中村矢一(札幌月寒高) 土岐頼次(札幌光高)	上田公夫(苫小牧東高) 玉田昭男(日高静内高) 二瓶吉美(室蘭工業高)

特設公開学習

学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園年少	絵画	形みつけ	本田公子	室蘭桜ケ丘幼
幼稚園年長	絵画	たのしいえ	後藤恵	室蘭桜ケ丘幼
小1	工作	ふくろをつかって	江津明	室蘭市立天沢小
小2	描画	わたしの先生	高谷節子	室蘭市立東園小
小3	描画	かもとりごんべい	塚田勝也	室蘭市立常盤小
小3	彫塑	動物	今川忠良	室蘭市立朝陽小
小4	デザイン	四角な形をつかって	石塚靖	室蘭市立本輪西小
小4	描画	月の夜	佐藤光雄	室蘭市立大沢小
小4	版画	工場で働く人	中村英子	室蘭市立日新小
小5	描画	港のようす	赤司賢二	室蘭市立本輪西小
小6	彫塑	働く人	遠藤昇	室蘭市立天沢小
小6	描画	群像	鈴木則子	室蘭市立常盤小
中1	工芸	絵皿	伊藤晋	室蘭市立蘭東中
中1	デザイン	タンポポになって	本多正義	室蘭市立鵜ケ崎中
中2	デザイン	コーラジュによる構成	大滝憲二	室蘭市立東明中
中2	彫塑	友だちの頭像	高橋昭五郎	室蘭市立港南中
中2	描画	友だちと学校	長谷川英二	室蘭市立港北中
中3	描画	友だちの顔	工藤善蔵	室蘭市立港南中
高クラブ	描画	人物のデッサン	木滑邦夫	室蘭清水丘高

第23回全道造形教育研究大会役員

■参　与　（室蘭市教育委員会教育長）

■大会委員長　高橋栄吉（北海道造形教育連盟委員長）
　副委員長　高橋徳太郎（室蘭市教育研究会会長）
　〃　山崎　強（室蘭市教育委員会教育課長）

■運営委員長　高橋徳太郎（室蘭市教育研究会会長・室蘭市立天沢小学校長）
　副委員長　石崎義政（北海道造形教育連盟委員長・室蘭市立大和小学校長）

■運営委員　山崎　強（室蘭市教委教育課長）
　増谷俊之（室蘭市教委教育係長）
　宇佐美基次（室蘭市立常盤小学校長）
　畠山　智（室蘭市北辰中学校長）
　茨目　浩（室蘭市立常盤小学校）
　安田辰雄（室蘭市立向陽中学校）
　道関良英（室蘭市教育研究会事務局長）
　石塚　潔（北海道造形連盟室蘭地区委員）

■事務局
　局長◎石塚　潔（水元小）
　○石丸雅晨（東園小）
　武田　貢
　佐久間恭子（鶴　中）
　小笠原伊三夫（東明中）
　車野昌勝（東　中）
　佐伯　進（日新小）
　高城敬二（東　中）
　石川孝一（鶴　中）
　米谷平一（常盤小）
　伊藤昭夫（武揚小）
　川村昌男（高砂小）
　松野満朗（中島小）
　藤井昭三（知利別小）
　鈴木　茂（御前水中）

■庶務部◎武田　貢（北辰中）
　○佐久間恭子（鶴　中）
　嵯峨峨英子（絵鞆小）
　遠藤英子（北辰中）
　中　タエ子（水元小）

■事業部◎高城敬二（東　中）
　○石川孝一（鶴　中）
　高橋隆司（武揚小）
　野々原健次郎（天沢小）
　大林茂夫（大和小）
　佐藤孝頼（陣屋小）

■渉外部◎小笠原伊三夫（東明中）
　○斉藤佳汎（絵鞆小）
　成重恒夫（本室蘭小）
　久保田　忍（本輪西小）

■研究部◎青野昌勝（東　中）
　○佐伯　進（日新小）
　石塚　靖（本輪西小）
　志賀健一（高平小）
　高橋昭五郎（港南中）
　石塚　潔（水元小）
　石丸雅晨（東園小）

　授業　本田田充子（桜ケ丘幼）
　後藤　恵（桜ケ丘幼）
　江津　明（天沢小）
　高谷節子（東園小）
　塚田勝也（常盤小）
　今川忠良（朝陽小）
　石塚　靖（本輪西小）
　佐藤光雄（大沢小）
　中村英子（日新小）
　赤司賢二（本輪西小）
　遠藤　昇（天沢小）
　鈴木則子（常盤小）
　伊藤　晋（蘭東中）
　本多正機（鶴　中）
　大滝憲二（東明中）
　高橋昭四郎（港南中）
　長谷川英二（港北中）

山本　仁(成徳中)
長谷川　恒　雄(蘭東中)
■会場部◎米谷　平　一(常盤小)
○伊藤　昭　夫(武揚小)
会場係○井沢　兵三郎(常盤小)
中田　晶　雄(　〃　)
島田　篤(　〃　)
菊島　か　よ(　〃　)
近藤　制　克(　〃　)
江渡　清(　〃　)
松下　忠　弘(　〃　)
田尾　孝　子(　〃　)
小亀　喜久雄(　〃　)
安井　桂　子(　〃　)
江守　寛(　〃　)
諸橋　道　雄(　〃　)
受付係○西村　謙　三(　〃　)
池淵　俊　一(　〃　)
鈴木　英　一(　〃　)
奈良　武　生(　〃　)
中村　敏　江(　〃　)
曽宇　淳　子(　〃　)
庄司　勝　興(　〃　)
石田　光太郎(　〃　)
今　悦　子(みずほ幼)
桜井　幸　子(　〃　)
接待係○木村　光　昭(常盤小)
七戸　健　一(　〃　)
阿部　京　子(　〃　)
中村　栄　子(　〃　)
○泉田　ヒデ(常盤小)
ＰＴＡ父母(　〃　)
放送係○難波　守　海(　〃　)
鈴木　茂(御前水中)
松本　康　男(常盤小)
松本　康　男(常盤小)
高野　欣　郎(鶴　中)
○藤井　康　寿(北辰中)
白崎　研　司(　〃　)

工藤　善　蔵(港南中)
木滑　邦　夫(清水丘高)
提言　小倉　勝　郎(清泉幼)
栃尾　俊　秋(大和小)
田口　香　苗(本室蘭小)
志賀　健　一(高平小)
中村　民　夫(港北中)
二瓶　吉　美(工業高)
司会　遠原　正　美(高平小)
中坪　市　郎(本輪西小)
安田　辰　雄(向陽中)
浦川　珍　子(めぐみ幼)
■記録部◎川村　昌　男(高砂小)
○松野　満　朗(中島小)
渋谷　義　子(みその幼)
広瀬　悦　興(　〃　)
舟橋　きくえ(朝陽小)
川村　良　一(　〃　)
山川　一　枝(天沢小)
斉藤　美代子(　〃　)
木村　末　子(　〃　)
新岡　英　子(大沢小)
田海　栄　子(大和小)
長崎　永　子(日新小)
門脇　睦　子(中島小)
高野　欣　郎(鶴　中)
佐藤　郁　人(ろう)
桑田　志　子(東園小)
越谷　斉　子(本輪西小)
野坂　美江子(陣屋中)
中　俱　夫(蘭東中)
豊田　正登喜(本室蘭中)
千葉　弘　治(　〃　)
高木　和　子(朝陽小)
小野　サキ子(朝陽小)
後藤　房　子(本室蘭小)
小林　裕　子(東園小)
赤井　秀　輝(武揚小)
佐々木　幸一郎(天沢小)

第24回美幌大会

●一九七四年七月三十日・三十一日

●美幌町立東陽小学校

主題

未来に生きる子どもの造形教育

連盟'74主題解説

はじめに　図工、美術科の学習の質の深さをめざす研究にむかって、ひとつ論をすすめることにする。いままでの連盟の研究のつみかさねの中から

ア、図工、美術のねがいはなにか

ロ、ひとつひとつの教材の価値、よこやたてのつながりはどうか。

ハ、よりよい指導の確立の必要性、教科の価値の確認を含め、方法をも含めた内容の再検討。

ホ、題材のあるべき姿の設定

といった問題が積極的に語られ、多くの実践を生んできたのである。

そこでそれを整理しながら今後の造形教育への展望をひとつひとつ提言として、ここに主題解説をかくことにする。

1、図工、美術科の本質にむかって

絵をかき、ものをつくっていくことが、なぜ美的情操につながるのか、それはわかって

いるようでむずかしい問題なのである。

主体が花をみて美しいと感じた時、主体の中に像が結ばれる。その像はしかしゆれうごくものであり、やがて消え去るものだ。絵にかきたい、つくりたい心はその像を永遠たらしめたいと願う心から発していく。その像は自己の内部に結ばれるものであるから、自己の永遠化ともいえる。〝たしかに生きている〟という自己への確かめが美術、図工教育の本質であると考える。

さて、永遠たらしめるためには観念の世界ではだめである。色や筆という用具材料が必要である。しかしその色はイメージにぴったりしたものでなければならない。材料と作者がイメージを媒介してしてかかわりあうところに技術を必要とするのである。

さて、その技術によって色がつくられたとしても画面での統一には追求の精神が必要である。さらに不一致の追求の連続作用が作者の精神を純粋にしていく営みである。

このイメージ、技術、追求心こそがわたしたちが願う図工、美術科の本質であるとしなければならないのではないか。

いま本質的正しい解彩をもたないかが、毎日の仕事が非連続的で、すすぺらなものになってしまうのである。

連盟の指導の構築というテーマはその三つをどう指導の中に位置づけ目の前に価値の伝達創造を図るかをひとりひとりの力量を交流しあうことを目的としたのでる。

Ⅲ、具体的実践の方向として

1、たくさんある題材に軽重をつけることのみに力量そそぐことも大事であるが、ひとつの題材に即することに併せて、各領域題材に共通なものはなにかといったものを考えんことである。例を描画にあげるならば

(イ) 対象をみること

(ロ) それを構成することであり

(ハ) 制作追求することである。

この段階のあるべき姿を典型として示してることが、本年度の研究の大きな課題である。

2、それらの視点が定まったならば、実践研究のなかで、子どもの実態にてらし、身につく学力に至る手だてがつくり出されると考える。

3、それは多くの型として「条件の学習」が試みられたものそのためのものであったと考える。目先の変わった学習をするというのでは子どもの本当の力にならない。

これを平易にかくとしたら（小学校むけに）

- ● 色や形で語ることをよろこぶ子になる
- ● 自分の色や形をつくろうとする子ども
- ● 色や形を自分の心でみとる子

ということになる。

Ⅲ、見るということの内容

(1) ものの見方が感じ方が自由であるということ。

(2) この自由な目と心があるからこそ彼らの視覚体験は心象的なかかわりがある。

(3) 自由な見方、感じ方と心象的なかかわりのある視覚から、現実的でない色や形の中にアリテイを表現するのである。

このように想像や空想が自由にはたらき、非現実の色や形の中に自分の生活を表現するという想像世界と現実世界とが相互にかかわりあって自己のリアリティを〈見る〉のである。これが低学年の〈見る〉ことへのひとつの大きな内容であると考える。だから想像のはてらきかけをし、新しい世界を生み出していく力を教師は沢山用意しなければならないということである。

見ることを伸長させる手だて

観察することも大切であるが、むしろ想像や空想のはたらきを意図的に導き出すことで

ある。

必ず、子どもが反応してくるであろうと予想できる想像へのアイデアをもって、子どもに刺激を与え、子どもの反応に対応し、対処していく方法開拓が一層のぞまれるのである。

「子どもたちが自然の外観の後にかくされている基本形式を習得するまでは、子どもたちにでたらめな外観から絵をかくことを許すべきでない」　フレーベル・恩物教育

図工、美術の教育も人為的な方法によらず、児童、生徒のひとりひとりが自己のまわりの自然や文化、社会など外界と呼ばれるものの諸現象と相互にかかわりながら、美しい内容や形態に変化させる能力が得られたり、あるいはまた、ものを作ったりする相互関係の中で美しい内容や形態に変化させる能力を得ることができるたらば、いいかえるならば自然学習の中で多くの経験を会得して行動変容を起こし、自分たちのまわりにあるひとつひとつの問題を解決できる力が高められていくならばすばらしいことであるが、現実には子どもたちは過去の文化遺産を受けつぐこと、新しい未来を切り開くことを、自然にしかも十分に、だれの力も借りずに身につけることは不可能である。

だからこそ、美しいもの、美しくないものをみる力、判別する力を引き出す視点の欠如からの脱出をしなくてはならない。

ひとりひとりの指導者が自分にあった情報や視点をもって切り込んでいかなければ対象の中にあるものはみることができない。

え心とイメージと
それをつなぐ
腕前をたしかに
育てあげていくには
いま私たちは
なにをしようとするのか

それをのぞいては、本物は生まれない。

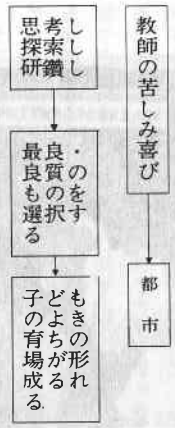
Ⅳ、歴史は、循環をくり返すといわれているが、現在、私たちの前にあるいくつかの問題や課題が、当然将来の問題や課題として、われわれの仕事の上にあがってくるであろう。

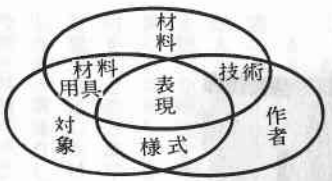
1、倫理的荒廃の中の人間の問題
2、さらに人間性の内容の吟味
3、日本の国際的共存の仕事
4、資源の問題と人口問題

といったものが当然、教育と共に語られるであろう。

そこに教育の特に造形教育の焦点をあてるならば人間の幸福、生がいといったものを〝芸術行事〟の意味づけの中に見い出し、それを共有しなくてはならない。

教育は目的々な〝選択という〟ことによってなちれる。その選択は





＊ 造形教育は、

瞑想をこととする哲学や宗教とも異ない。実験や観察によって思進を客観に近づけていく科学とも異なる。

＊ 造形教育とは、

自己の永遠化・たしかに生きている。といった自己の確めなのである。

それは、美を実現したという願い心に支えられた上図の三つの輪

が相より相重なって自己実現（表現）へと向わせる仕事である。

Ⅴ、現場の問題　問

そこでオホーツクの仲間は、次のテーマをもっている。

1、いきいきとした描画表現
2、効果的機能的なデザイン
3、技能の系統性をおさえた工作、工芸
4、造形感覚をゆさぶる鑑賞
5、特殊学級に於ける造形教育
6、幼児期における造形教育

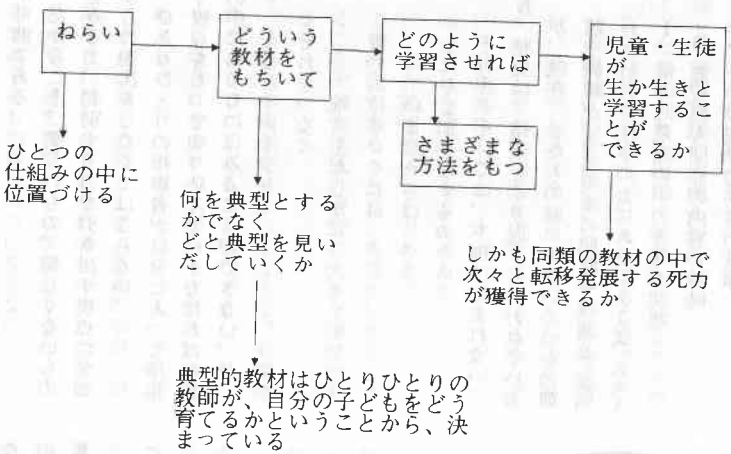
このテーマから次の問題をみつけだすことができる。

(1) 教材の急所が押えられていない。
造形教育の学習が作業に走っているということである。題材のもっている内容の急所、中核が明らかでないところからくる問題がひとつ。

(2) 題材の転移発展の脈絡がはっきりしない。
論理的な教科のように整然たる積み上げは期待できないまでも、次の学習に働いていく確かさの脈絡はつけられないものであろうか。

(3) 子どもに即した指導の手だての研究の不足。

指導法は、その子どもにぴったりしたものであってこそ、目のさめるような反応を示すのである。このくふうの欠除は惰性を招くこととなる。



たしかな表現力をどとように育てたらよいか

オホーツク造形教育連盟研究部

Ⅰ、私達の研究のあゆみ

私達オホーツク造形の仲間が過去5カ年の仕事を今、謙虚にふり返ってみて、目の前にいるすべての子ども達が、描いたり、作ったりすることに本当に喜びを持ち、本気になって造形課題に向って取り組めるように、どれ程育てることが出来たかを考えてみるとき、内心いささか恥入る思いである。

たしかに、絵のうまいこどもがいくらかは育てられた。ものをつくっても器用にまとめる子どももいないわけではなかった。しかし本当の造形教育とは、なんであるか。教師の良心にかけて、彼等の未来に何を安心してゆだねることが出来るかを考えるとき、私達の今までの仕事は如何にも底が浅く甘かったといわねばならない。

この地域の子ども達が、宿命的に通らねばならない学校教育のなかにあって、私達は、課された教育の使命を骨のずいまで感じとり読みとり堀り下げて、この教科の役割りを両手でがっちり受けとめ、彼等に十二分な能力を付与してやっているだろうか。

子ども達の未来に対して確信をもって、私達教師の仕事が営まれているならば、彼等の将来に豊かで潑剌とした心情、生活をきり拓く高い精神と技能、生き甲斐ある創造的人生がたしかに保障されていなければならない。今の私達の仕事を推量的に未来に連続させるとき、今、やっている仕事ぶりの中に、実りある未来に向けた播種と施肥が着実に行なわれているはずである。

小さな盆地が断続して連なり、何百という谷間の続くこの地域は、三つの小都市も含めて辺地校と小規模校を数多く抱える小さな町や村の点在である。五年前、私達は、ここに生まれ、ここに生きる子ども達に最大のものを与えたいという悲願から、谷間を越え貧地を縫って呼びかけ合ってきたのである。全く遅々とした歩みではあったが、除々に目覚めた連帯意識と、教科の重量感の中から、私達は先ず陥没した「表現力」の回復を考えたのである。なぜなら、すでに子ども達の心は乾いていたし、その手は悲しく小さくいじけていたからである。恵まれた豊かな自然にとり巻かれているのに、彼等の色感は逆にどろんと淀んでいた。幼児達は描いたり、つくったりすることへの魅力を喪失しかけていた。たまに喜んで描くことは無気力なテレビ漫画の絵であった。この火山灰と酸性土壌の地帯は造形能力まで不毛の危機にさらされていたのである。

それでは、専門職とまでいわれる私達教師は何もしていなかったというと、そうではなく、むしろなんでもしていたのである。

かって、私達は15年前に網走に集まり、全道の仲間とともに数多くの問題を語り合って燃えた時代があった。しかし氾濫が流れを変え肥沃な耕地を奪い去った如く、私達もまた多くのよきものを失いかけていたのである。何を、どの方法によって、どこまでという、計量や測定にかけていたし、重さと広さのたしかめが素通りしていたから、系統と関連、段階と発展、子どもの未来社会に対する確固たる見通しに暗かった。ここに私達の仲間はお座なりでは何も育たないし、育てられないそれは労力と時間と経費の無駄使いに過ぎな

いことを深く悟った。

Ⅱ、私達の提案と課題

1、表現力、すなわち表現するエネルギーとなるものは何かをたしかめること。

(イ) 幼児期の「かいたり、つくったり」することが好きになることを出発点として生活のなかから常に能動的に発見し、感動し、制作や創造への意欲を燃やしている人間そ、自らエネルギーをつくり出し、そのエネルギーの燃焼に更に大きなエネルギーを誘発して炸裂させる。感動こそ表現のエネルギーではないか。無邪気にびっくりできる人間は素晴らしい。感動のある人間ー誠実で見落しのない細やかな神経と、柔軟で粘り強い気力と、虚心無我な雅量と、如何なる障壁にも動じない剛気さを具えた人間、私達は一見矛盾のような人格の要素が調和しているこの「感動する人間」を育てなければならないと考えた。

(ロ) それでは感動する人間は如何に育てるかは、私達のこれからの課題であり、全道の仲間の支援に待たなければならないが、假説として次のことが考えられる。子ども達をとり巻く環境のなかから、少しでも値うちあるものを気づかせ、意識化させる「感動の訓練」が必要であると考えた。痛みや驚きや、美しさを常に語りまた語らせることである。幼児期に見られるように、彼等は感ずることから認知し認知したものー意識化や認識化されたもののみ立派に描いたり、作ったりするものである。

(ハ) 想像力を駆りたて創造の原理へ向けさせていかねばならない。感動はリアルな世界のみに存在するのではない。自己の中に世界があり、今の中に過去と未来が把握されるように、私達は現実の中にあって、常に想像や空想が去来しているのである。そのスケールや色合いは人間模様の綾となるであろうが、想像力の乏しい人間は石のように冷たく悲しいものではないか。

豊かな想像力は、限りなく人類の生活圏を広げてきた。物質的な豊かさも、精神的文化遺産を想像から生まれ創造されてきたのである。想像することは創造することへの橋わたしではないだろうか。これも又今後に実践と吟味が課題となることである。

2、表現する手段としての技能的訓練を十分に与えること。

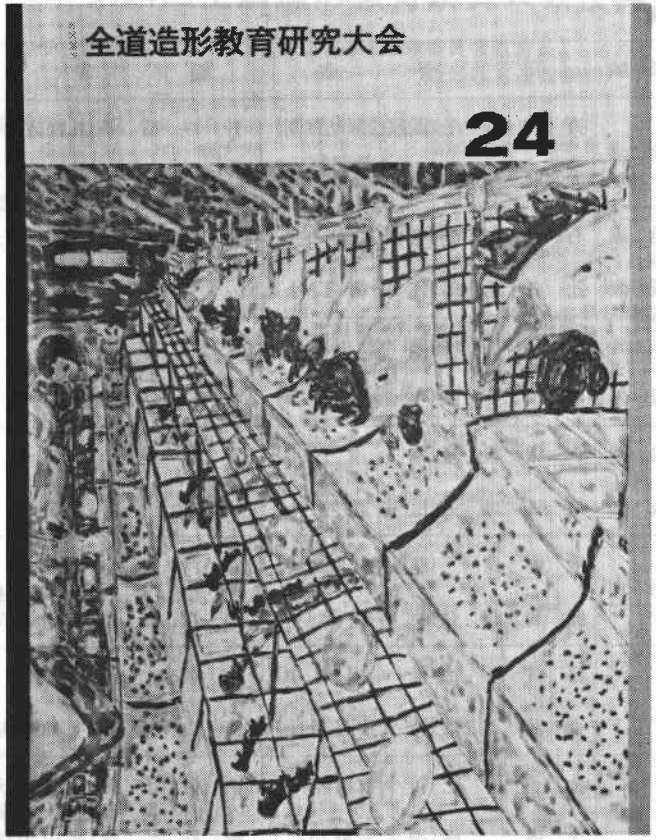
(イ) 意欲があっても方法の見通しがたたなければその意欲は不発に終らなければならない。描きなさい、やりなさいという楽天的指導は最高教育でもないし技術とは伝えない。しかしだからといって方法や技能オンリーで進めるなら幼稚園や小学校低学年の発達段階では「角を短めて牛を殺す」の愚に陥ることは明らかであろう。個に応じ、発達段階に応じた系統化が必要である。およそのものは既に多くの研究の中に明らかにされているが、それは一般的な事柄である。私達が願う技能的訓練は、より創造的に、より的確な表現を展開するみちすじである。

「発想の展開」「感動の具体化」「観察の方法と訓練」「材料や題材の適確な選択」などを、もっと分析的に、段階的に、究めたいのである。イメージが目標や課題の追求に向って制作の行動化が開始されるときから子どもも教師も満足する。完了をみるまでのプロセスを技能的訓練の段階の中でどのように抽出して与えるかを整理したい。技能は形式化した一応のパターンを持つであろうが、これ等を薬籠中のものにして自在に駆使出来てこそ真価を発揮するものである。

高い視野に立った的確な技能は何か、何

時、どんな方法で与えるかを私達は今後も探究を重ねていきたいし、全道の仲間達の惜しみないご協力を得たいと考えている。

〈文責・編集部〉



公開授業一覧表

学年	領域	題材	授業者	勤務校	学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園1年	絵画	おともだちのかお	岸浪 睦子	美幌幼稚園	小5	工作	花（きりえ）	黒河 洋輔	美幌東陽小
幼稚園1.3年	絵画	おさかなをかこう	高橋真知子	美幌幼稚園	小5	版画	工場	原 弘	美幌東陽小
幼稚園2.3年	絵画	すいぞくかん	山田 初恵	美幌幼稚園	中1	工芸	土の鈴	横田 勇吉	小清水中
小1	工作	どうぶつをかこう	山宮 喬也	美幌東陽小	中2	版画	山園の四季	今井 竜男	東藻琴山園中
小3.4年	デザイン	もようをつくる	三宅 良平	美幌都橋小	高校	美術クラブ	人物画	永吉 正彦	美幌高校
小4	絵画	友達	新藤 勇	美幌東陽小					

会科会一覧

分科会	領域	司会者	提言者
幼稚園	絵画	斉藤幸子(函館松風幼稚園) 天野和幸(帯広聖公会幼稚園)	井戸信子(札幌苗穂保育園)
小学校 A(1.2年)	絵画 版画	石丸雅晟(室蘭東園小) 辻井秀郎(江別第二小)	伊藤暢紀(札幌教育大付小)
小学小校 B(3.4年)	絵画 版画	山口重俊(網走南小) 中川真一郎(桧山江差小)	狩野鉄男(網走小) 神田耕治(上川協和小)
小学校 C(5.6年)	絵画 版画	吉田義晴(網走滝上小) 亀浦忠夫(根室花咲小)	斉藤純一(網走越川小) 阿部将(釧路桂恋小)
小学校 D(全)	彫塑	池本良三(胆振苫小牧東小) 船着昭弘(札幌豊水小)	森戸春樹(帯広大空小) 岡沼淳一(帯広柏小) 大越哲也(十勝下人舞小)
小学校 E(全)	デザイン	藤井正治(稚内中) 青葉不二雄(苫小牧日新小)	佐藤靖(札幌琴似小) 青山清輝(空知岩見沢小)
小学校 F(全)	工作	金子正(苫小牧清水小) 今内優(網走本岐小)	西村正義(網走上湧別小) 木村典義(旭川神楽岡小) 紙谷恒(旭川千代田小)
中学校 A	絵画 版画	森県蔵(網走活汲中) 伊藤善彬(江別二中)	青野昌勝(室蘭東中)
中学校 B	彫塑	畠山三太郎(網走一中) 岡崎公輔(北見上常呂中)	寺島文憲(札幌柏丘中) 有我定雄(網走滝上中)
中学校 C	デザイン 工芸	瀬下信行(北見東陵中) 稲船正男(釧路東中)	成中康男(網走東藻琴中) 田中潤(札幌信濃中)
高等学校	美術 クラブ	中村矢一(札幌月寒高校) 土岐禎次(札幌北高校)	安孫子公治(根室中標津高) 渡辺芳夫(北見柏陽高)

第24回全道造形教育研究大会役員

◇参与
三木公（美幌町教育委員会教育長）
古賀武治（オホーツク造形教育連盟顧問）
小路隆（〃　〃）

◇大会委員長　高橋栄吉（北海道造形教育連盟委員長）
副委員長　近江幸之助（オホーツク造形教育連盟委員長・美幌町立東陽小学校長）
〃　棚川音一（美幌町小中学校長会会長・美幌町立北中学校長）

◇運営委員長　近江幸之助
副委員長　矢野清（美幌町教育委員会次長）
中村知久（オホーツク造形教育連盟副委員長網走西小）
小松厚（〃　〃　網走津別小長）
佐藤秀雄（〃　〃　地区委員網走置戸中長）
運営委員　菅原隆治（北海道造形教育連盟副委員長・オホーツク造形教育連盟事務局長・網走東藻琴中長）
木村晴一（北海道造形教育連盟監査・網走、北見東陵中）
山越定照（網走教育局）
豊島豊（網走、美幌田中小長）
金子尚三（網走、美幌東陽小）
神清美（網走、美幌東陽小）
高橋□（網走、美幌北中学校）
宮川和夫（網走、美幌小学校）
鎌田博（網走、美幌中学校）

◇紀要編集部
◎中村知夫（網走西小）
○畠山三郎太（網走一中）
山口重俊（網走南小）
狩野鉄男（網走小）
山越定照（網走教育局）
瀬下信行（北見東陵中）
畠山嘉康（斜里日の出小）
畠山三太郎（網走一中）
橋本弘（東陽小）
高橋登（〃）
菅原幸喜（〃）
猪谷憲博（興部秋里小）
岡崎公輔（上常呂中）

◇研究部
◎森県蔵（活汲中）
○横田勇吉（小清水中）
平山弘（興部中）

◇授業部
◎小松厚（津別小長）
○菅原隆治（東藻琴中長）
吉田義晴（滝上小）
加藤美寿恵（東藻琴小）
大場正三（東陽小）
大橋茂（〃）
菅原幸喜（〃）
笹木祐二（〃）
赤塚修（〃）
授業
山宮喬也（東陽小）
黒河洋輔（〃）
新藤勇（〃）
原弘（〃）
山本正美（〃）

◇記録部
西村重治（美幌中）
白根勇（〃）
松本生時（〃）
河瀬渉（美幌北中）
星謙司（〃）
富士政雄（美幌小）
柴田義弘（〃）
水谷紀生（〃）
伊勢賢治（〃）
山本信子（東陽小）
橋本弘（〃）
滝口恵美（〃）
加藤美恵子（東モ琴小）
内藤栄子（北見三輪小）

○事務局長
金山尚三（東陽小）
庶務部
大橋茂（東陽小）
藤井孝子（〃）
側瀬正夫（〃）
滝川享（〃）
会計部
金山尚三（東陽小）
板垣武（〃）
渉外案内部
神清美（東陽小）
山下修（美幌小）
大場正三（東陽小）
木村正昭（美幌北中）
夏井敏夫（美幌中）
○会場部
会計係
赤塚修（東陽小）
山下信子（〃）
中村武（美幌北中）
沢田繁（〃）
佐藤知義（〃）
接待係
佐藤洋子（東陽小）
Ｐ・Ｔ・Ａ（〃）
○事業部
菅原隆治（東藻琴中）
中村知久（網走西小）
内藤栄子（北見三輪小）
金子尚三（東陽小）
神清美（〃）

三宅良平（美幌都橋小）
横田勇吉（小清水中）
今井竜男（東藻琴山園中）
永吉正彦（美幌高校）
岸浪睦子（美幌幼稚園）
高橋真知子（〃）
山田初穂（〃）
提言
狩野鉄男（網走小）
斎藤純一（網走越川小）
西村正義（網走上湧別小）
成田康男（網走東藻琴中）
司会
山口重俊（網走南小）
吉田義晴（網走滝上小）
森県蔵（網走活汲小）
畠山三太郎（網走一中）
岡崎公輔（北見上常呂中）
瀬下信行（北見東陵中）
今内優（網走本岐小）
富田久年（東陽小）
笹木祐二（〃）
佐藤栄和（〃）
高橋登（〃）
受付係
板垣武（東陽小）
大場正三（〃）
沢辺敏吉（〃）
元村経子（〃）
大橋勲（美幌小）
古沢博（〃）
前川満夫（〃）

昭和49年度北海道造形教育連盟役員名簿

委員長	高橋栄吉	（札幌宮の森小長）
副委員長	石崎義政	（室蘭大和小長）
	菅原隆治	（東藻琴中長）
	川村恒夫	（江別乙中）
	大谷勝美	（置杵牛中）
	近江幸之助	（東陽小長）
監査	小山田武	（釧路北中長）
	木村晴一	（北見東陵中）
事務局長	辻悦平	（札幌西野小長）
庶務会計部長	種市誠次郎	（札幌中の島小）
広報部長	吉田広任	（札幌篠路中）
渉外部長	中川大三	（札幌羊丘小長）
研究部長	金井秀男	（札幌幌西小）
事業部長	松島輝男	（札幌元町北小）

第25回 江別大会

●会場　江別市立大麻東小学校
●日時　一九七五年七月二十八・九日

大会までの経過

昭和48年の室蘭大会後、道造形連盟本部から、50年の25回大会を石狩の中心江別市で開催してくれないかとの要望があって、当時、造形連盟の石狩地区委員をしていた逸見敏夫先生は、石狩でやるとすれば今回以外には出来ないだろうと考えていたそうである。

その頃の石狩教育研究会（以後石教研）図工美術部会は、中坪市郎先生（現在室蘭市）の力によって、着実な歩みを続け、毎年、江別、千歳、恵庭、石狩、当別各地より、すぐれた実践が発表されてその記録を、「あしあと」としてまとめられていたのである。

江別市にも宮川誠一先生（彫塑）手島圭三郎先生（版画）辻井秀郎先生（絵画）関健治先生（絵画）加藤倬英先生（彫塑）笹原武丸先生（工作）村瀬千檻先生（工芸）吉田英夫先生（絵画）等々すぐれた実践家が活躍していた。

逸見先生は、引き受ける心積りで、この年のまとめの石教研集会の席上で、50年の25回大会を江別市で開催したい旨の提案をされたのである。

いろ〳〵論議されたが、次のような結論で準備に入ることになった。

- あくまでも日頃の実践の発表の場としてとらえる。
- 地域的にみて、開催地は江別市とすべきである。
- 江別を中心に石狩全体の実践発表とすること。
- 昭和49年・50年度の運営組織を2年継続として行う。

早速、下準備として、昭和48年の江別市教育研究会（以後江教研）図工美術部会の部長宮川誠一先生、副部長辻井秀郎先生と石造連地区委員の逸見先生とで市や、江教研等に打診に入った。

江別市でも今までに全道規模の教育関係の大会を開催したことがなく、なか〳〵難行したようである。逸見先生は、室蘭大会より資料をとり寄せたりして、予算や組織の資料をつくり何回かの折衝を続けながら、江別市の校長会から松下治芳先生を、又、石教研図工美術部長の佐賀井勇先生、石造連からは、三上晴先生、藤井正先生等の応援を得て市教育との交渉の中で、最終的には、当時の市教育長酒井洋氏の英断で江別市開催が決定されたのである。

以後、市の校長会、教頭会の協力のもとで会場校を大麻東小学校に決定というところまでこぎつけた。

ところが、4月の定期移動で大変なことが起きたのである。と言うのは、今まで大会準備を進めて来た準備委員長の逸見先生準備委員の辻井先生、吉田先生が、そっくり江別市を出てしまったのである。

このことは江教研図工美術部員並びに石教研の図工美術部員に大きなショックを与えたばかりでなく、一般会員にまでも、大会が開けるのだろうか、市教委は何を考えているのだろうかという不安と不信感をつのらせることになったのである。

しかし、サイは投げられた後でもあり、後もどりは出来る訳がなく、校長会の松下先生を中心に今後のあり方、組織をどうつくりなおすかを江教研図工美術部会で討議した。後に残った者が全て、今までの経過を知らない者ばかりだったので、とまどいと不安が先にたちなか〳〵討議が煮詰まらなかったことを覚えている。結局、誰れかが引き受けなければならないということから、江教研図工美術部長に伊藤善彬、副部長に関建治先生が決まり大会準備委員を兼ねることになり、委員に、手島圭三郎先生、佐賀井勇先生、宮川誠一先生、掛上延考先生、藤井正治先生、笹原武丸先生、須田秀夫先生、安部富雄先生、村瀬千樫先生、加藤倬英先生、早田クメ先生、佐藤泰子先生、露本清枝先生、中山尚博先生等があたることになった。

六月には、宮川研究部長から、江別大会の研究テーマの提案があり、今までの研究の反省やまとめから、「自から創り出す力をどう育てるか」を決定、すぐに石教研でもこのテーマについての話し合が行われて、石狩全体で同一歩調で進むことになったのである。

以後大会当日の授業者と学年、題材決定、予算獲得等々、準備委員は精力的に動いて、50年度を迎えたのである。

50年になって各部ともいろ〳〵と会議や打合せを繰かえしながら、準備が着々と進んで六月に入ってまもなく、この大会を引き受けるにあたって力となってくれた酒井洋教育長が突然死去されたことは、私たち運営委員や江教研全体に大きなショックを受けただけでなく、私たちの運営した全道大会を見届けてもらえなかったことを残念に思ったものだった。

研究主題
研究主題設定の経過と背景

昭和43・44年度は「自由さが不足する構想表現で空想力、想像力を高め、創造的欲求を強める指導はどのようにしたらよいか」を研究主題に、昭和45年～昭和48年度の4年間は2年継続の形で、2校の研究中心校（石教研体制で）を設けて「創造力を高めるための描画指導は、いかにあるべきか」を研究主題として実践を深めてきたところである。こうした課題のもとで、江教研では人物表現の指導法の研究を中心として行ない、その題材の系統と配列、構想、観察表現によって感動にもとずく内面性と造形の統一、そして1時間の指導過程を追求し、子ども達の創造的な表現力をめざしてきたのである。

したがってここ数年間は描画領域をとりあげ、特に人物表現を中心にしてきているので他の領域はほとんど各校の研究にとどまり、共同研究の域にまでその成果をみていないというのが実情である。

こうした経過から一昨年度の活動のまとめの話し合いで、次のような内容が出されてきた。

- 図工、美術でどんな子どもを育てようとするか、もう一度原点にかえって考えてみよう。
- 個性を生かす授業、むだのない授業をどう組みたてたらよいだろうか。
- 描画に限らず、全領域のかかわりを通して研究をもっと深めていきたい。

以上のような経過を中心としてふまえつつも研究大会主題「未来に生きる子どもの造形教育」を江別の解釈に立って受けとめ、本大会研究主題を「自から創り出す力をどう育てるか」として設定した。

この研究主題設定の根拠としている背景について記述すると、今の子ども達をとりまく環境は自分達が手足や頭を使い、汗を流して物を生み出したり、生産するという生活はほとんどないといってよいほど合理化され、規格化されている。与えられたものを受けとめ、消費することに慣れて、自分達の素朴な生活の欲求によって主体的、能動的につくり出していく生活基盤が極めて少なくなっている。

われわれの地域の子ども達もほぼ同様な実態である。親が子に受け継がせる生活実感のこもった文化遺産らしきものはほとんどなくなって来ている。古いものの中にあるよさ、美しさを見い出し、何を捨てて何を残していくかという主体性や、新たに築き生み出していく創造性は次第に見失われていきはしないだろうか。

やがで人類という視野で、日本、北海道、江別のあり方を見きわめ、切り開いていく次代を担う子ども達である。彼等は新しい時代に向って巾広い識見、果敢な行動力、決断力が必要とされてくることが予想されている。

そういう見通しに立つ造形教育の立場をふまえ、美を造形化することを手段として未来に生きる子ども達の課題にこたえるような確かな力を育てていくことをめざしているのである。

研究主題のおさえと研究内容

私達は造形教育を通じて未来（今後）に求

められる中心とすべき力は「自から創り出す力」であろうとおさえた。即ち主体的、創造的な態度の傾向や、そうした力を発揮しうる能力を含む、総合的な態度能力として把えたものである。更にかみくだいて、具体的な子どもの姿に現われ発揮されていくのは・工夫し追求する力・再構成し、意味づける力、・豊かな表現を求め続けていく力、でありそのことを通して心の豊かさを養い育てる大きな役割をもつものであると考えている。

そこで造形教育によって育て、身につけてやりたい確かな力を次のように大きく分けてとりだしてみた。

(1) 図工、美術が独自で育てる主となるもの

・美的観力　・想像力　・創意力　・構想力　・美的感受力　・構成力　・鑑賞力　・個性的表現力

(2) 図工、美術科から他教科へ発展していくもの、又は他の教科で培われたものが図工、美術科へという形で育てられる主なもの

・美を求め、美を大切にし、生活に生かそうとする心　・発想の豊かさ　・想像の豊かさ　・独創性　・計画性　・ねばり強くとりくむ持続性　・抵抗を克服する強い意志、等である。

もちろんこれらのそれぞれの力は、それぞれが独立してあるものではなく、互に有機的に関連しあってそれぞれを高めあうものである。

以上のような基本的なおさえをもとにして、どう育てるかを一時間毎の指導過程にくみたてて研究、実践してきた。主な研究内容を記述すると、

(1) 題材のとり上げと配列

子どもの発達にあうよう学年毎、興味や関心をもたせられ、かつ造形的な工夫をしていける内容を含んだ題材をとり上げていくこの造形的に工夫する内容を低学年では遊びの活動からとり出し順次高学年に進むにつれて造形的操作のくりかえし、積み重ねによって表現する喜びやつくり出す楽しさの追求の出来るものに配列していく。

どの題材の場合も事前で育てたことをどこに生かしていくか、又この題材から次に何に生かして発展させるのか見通しをもって題材間がつなげられていく必要がある。

(2) 題材観

とり上げられた題材は、授業者の明確な題材観によって生き生きした授業展開に構

	与えるもの	引きだすもの
発想	・鑑賞教材・参考作品の提示。 ・鑑賞の観点 ・材料 ・題材	・鑑賞作品からのイメージづくり。 ・素材の生かし方
構成	・制作上の条件，手順。	・条件を満たすためのくふう。 ・制作計画
技法	・未経験用具の基本的なあつかい方。	・用具の効果的なあつかい方。

成されていく。特に子どもの生活経験から発想させ、構想の輪を広げられる事がのぞましい。そうした題材観を中心にすえ、こんな力をつけるために子どもに与えていくもの、引き出していくものを発想、構成、技法について明確にしておき、発達段階や子どもの実態にあうようにどうしていくかを関連づけておさえておくことが大切である。

(3) 指導目標と指過程

題材の目標では、①造形的にどこまでもっていくか、②態度面、③子どもの能力面をおさえて設定し、本時の目標では、具体的な到達度（～ができる）で設定する。

それを達成するために教師、子ども、教材のかかわりで展開されていくよう指導過程にくみたてていく。特に子どもの感覚、技能を促しながら、子ども自身が何を造形的に工夫し追求したらよいかを知ってとりくめるよう授業の諸要素を構造化する。

・与えるもの引きだすもの

授業案をつくるうえで、一番苦労したのがこの点であった。一般化の項目が、実際場面では、より具体的なものが要求され、その題材で何を育てようとしているのか、指導の対象の発達段階、事前事後の題材、領域のつな

公開授業一覧表

学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園	デザイン	切り紙による花火	海野　洋	大麻幼稚園
幼稚園	版画	あそんでいる私	小山キヨ子	元江別わかば
小　2	描画	にらめっこの顔	露本　清枝	大麻西小
小　3	描画	うんていあそび	亀谷　武春	大麻西小
小　4	描画	絵をかく友だち	安部　富雄	江別第二小
小　3	描画	ガソリンスタンド	中山　尚博	江別第二小
小　4	版画	ぼくの顔・私の顔	金井　満子	大麻東小
小　3	版画	ぼくたちのトレーニング	関　建治	角山小
小　6	彫塑	飛ぶ鳥（石こう	加藤　倬英	江北小
小　6	彫塑	表情のある顔	藤井　正治	江別第二小
小　4	デザイン	あもしろい魚の葉書	綱渕　敏幸	大麻小
小　6	工作	動くおもちゃ	笹原　武丸	大麻東小
中　1	描画	両手のみえるポーズ	手島圭三郎	江別第三中
中　1	彫塑	木彫によるいろいろな顔	村瀬　千樫	大麻中
中　2	デザイン	美しい虫のデザイン	伊藤　善彬	江別第二中
中　2	工芸	風鈴をつくろう	掛上　延孝	江別第一中

提　言

中学校

デザイン学習で教えるもの、育てるもの

旭川市立光陽中学校　大西　勤
旭川市立北都中学校　築山　尚明

1　はじめに

美術科の指導要領や指導書、授業案などの目標に種々の能力を「養う」「育てる」「深める」「培う」等の言葉を多く目にする。

我々は、これらの種々の能力をどのようにとらえて指導すべきなのであろうか。

「○○の製作を通して用途に伴う条件をもとに構想を練り、美的にまとめる能力や態度を養い製作する喜びを味わわせる。」――これをあるデザイン学習の題材目標としよう。すでにお気づきのように、この目標のサイドライン部分は中学校学習指導要領の目標3からの引用である。デザイン、工芸の題材目標が常にこうであっては、はなはだ疑問になってくる。

題材の目標が「――を育てる、養う」等々あいまいな表現にとどまり、その力を培う具体的な手だての研究をおこたりがちであるのが現状である。我々は、それぞれの題材においてどのような力を育て養うために、どのようなものを与え教えて行かなければならないかを明確におさえなければならないと思っている。

2　旭川における　これまでのとりくみ

・指導手引きの作成

指導のポイントをわかりやすくするために図などを書きいれた資料づくりを実施し、言葉ばかりでない指導案づくりを試みた。

・それぞれの題材における造形要素の洗い出し他題材の要素との関連を明らかにしようとした。

・子どもの学習手引きづくり

工芸・工作の学習では技法的な問題にぶつかることが多くなりがちである。

そして、ひとつの題材でおさえる必要のある要素の選び出しを通して、教えること、子どもにまかせること、子どもと教師がつくり出すことを明らかにすべく努力するとともに、子どもの側にも手引きを作り、学習と計画、経過が見えるような方法を試みた。

3　今年度の研究から

(1)デザイン学習の実態調査

旭川市内の中学校数も20数校を数え、研究サークルとしては大規模になって来た。昨年までは工芸を中心に研究を進めて来たが市内各校の実態を把握できなかったのが実状である。今年度のデザイン研究に先だち旭川市内中学校の実態を調査し報告したい。

(2)美術科で育て養う能力の構造化

前記したごとく、美術科の題材に表されている目標があいまいになりがちである。

ここで美術科の評価が作品主義にならないためにも意義深いと思われる。

・教えるもの

創造的な活動は無から生じるものではない製作に向う目的、条件などを明確にとらえそのための知識をはっきりと与えなくてはならない。

・育てるもの

教師が、積極的に働きかけて作り出させる力であり、具体的な表現力、鑑賞力であるこの諸能力を育てるために教えるものが選出されてくるのである。

・養うもの

教え、育てる活動を通して子どもに自然に養われて行く力である。意欲、態度であり習慣であるが、これらは教え、育てるものの基盤となるものである。

(3)授業研究の実践を通して

前記の調査及び研究を通して、デザイン学習に関する生徒の実態を調査し、ひとつの題材について生徒に与えるもの、教師側から積極的に働らきかけ育てるもの、養われて行くものを明らかにし授業実践の中でそれらを検証したい。

具体的な実践報告についてレポートが提出された。

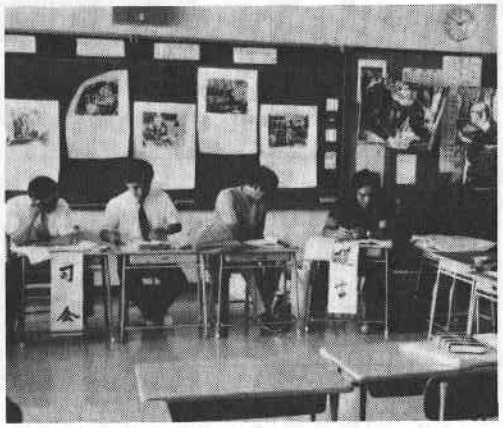
小学校

版画で考えること

深川市立入志別小学校　斉藤　悳

(1)　どんな力を育てるか

版画はその特性として㋑表現の間接性、㋺複数性をもっています。従って子どもたちは版の仕事を通して、㋑対象を抽象し、捨象して主題を表現する力、㋺計画的に仕事を進める力。㋩主題と版形式との関連を考える力、㋥社会性など広範な面での刺戟に出合うことになります。こうした特性や、戦後の版画教育のおかれた諸条件の中から、現在私たちは最も科学化され体系化された指導系統を美術教育の中でもっています。



①　版画は版の製作という過程を含む表現です版種は極めて多様ですが、子どもの版づくりの過程における諸問題を考慮し、紙版（単独版←台紙版）→板紙凸版→木版を小学校における基本的な版種とおさえます。

従って子どもたちが充分それらの素材を使いこなすだけの準備と段階を考えねばなりません。

（単色の版にあつては特に）対象を（主題を追求するために）抽象、捨象する力が求められます。これは対象を深く認識することであり、総合的にものを見る力なしには出来ないことです。

主題の表現と版形式は深くかかわり合いますが、授業の中では、教師が版形式を決め、子どもたちはその版の特質を知る中でより高い質の表現が出来るようにしたいものです。後で述べる技術の問題と関連して考えるとよいでしょう。

版のしごとの最も大きな特質としての複数性は、他への広がりを意味します。他の領域ではやれない仕事として位置づけます

②　題材選択の観点

他の領域と共通するこの問題については次の点が考えられる。

㋑　その題材が授業において求められる造形内容を浮きぼりにし易いものであること。

㋺　子どもの発達段階に応じて、色や形が判別し易いものであること。

㋩　日常的なかかわりの濃いものであること。

㋥　学級の全員が同一条件でとりくめるものであること。

分　科　会

	学校別	領　域	司　会　者	提　言　者	記　録　者
1	幼　保	絵　画	荒川　恵吾（札幌苗穂） 越後　光雄（静内高静小）	内海裕美子（札幌第１） 長谷川桂子（札幌第１）	佐藤　順子（第２大麻） 早田　クメ（江別二小） 原田　勝二（江別下の月小） 吉田　恵子（江別大谷）
2	小学校 A（1～3）	絵　画	中坪　市郎（室蘭大和小） 近堂　俊行（鹿部鹿部小）	福田　靖之（石狩東小） 山下　敬一（帯広大正小）	照本　章子（当別東裏） 葛西すみ子（西当別小）
3	小学校 B（4～6）	絵　画	藤井　正（広島西里小） 福田　隆次（函館柏野小）	日下　康夫（石狩当別小） 松原　道興（稚内沼川小）	林　初男（新篠津五小） 川村　裕子（石狩南線小）
4	小学校 C（1～6）	版　画	吉田　義晴（滝上滝上小） 中村　紀雄（釧路教大附）	田中　嘉（千歳緑小） 斉藤　□（深川入志別）	山崎　英男（浜益中央小） 岩崎　秀男（浜益尻苗小）
5	小学校 D（1～6）	彫塑鎮	佐藤　幹夫（苫小牧美園） 中村　紀雄（釧路教大附小）	谷藤　幸紀（千歳北栄小） 石井　久（函館新川小）	住友　俊郎（千歳高台小） 高橋みゆき（千歳末広小）
6	小学校 E（1～6）	デザイン	池端　外博（千歳日ノ出小） 一戸　信雄（厚真上厚真小）	柴井　義雄（広島東部小） 鈴木　秀明（根室成央小）	林　祥一（千歳緑小） 伝住　修一（厚田発足小）
7	小学校 F（1～6）	工　作	永浜　逸夫（千歳高台小） 奥野　郁男（札幌北栄中）	吉田　稔（新篠津三小） 江津　明（室蘭天沢小）	加藤　千春（恵庭島松小） 豊島　務（恵庭小）
8	中学校 A（1～3）	絵版画	三浦　恭三（美唄三井美唄中） 浅木　弘志（釧路東中）	伊藤　光悦（千歳駒里中） 吉田　宏（恵庭中）	辻岡　和子（当別中） 石川　康夫（石狩花川）
9	中学校 B（1～3）	彫　塑	宮川　誠一（江別大麻中） 佐野　千尋（札幌羊丘中）	中尾　孝典（札幌藻岩中） 佐藤　公毅（苫小牧啓北）	本田　章（広島大曲） 吉田　宏（恵庭中）
10	中学校 C（1～3）	工　芸 デザイン	酒井　盛行（浜益浜益中） 佐野　千尋（札幌羊丘中）	上田　充（恵庭恵北中） 築山　尚明（旭川北都中） 大西　勤（旭川光陽中）	吉田　英夫（新篠津中） 畑中　清一（石狩高岡中）
11	高　校	美　術	高橋　棋六（札幌開成高）	土岐　禎次（札幌北高）	
12	全員 討論会	全			白鳥　剛（広島広葉小） 佐久間俊雄（広島若葉小）

(2) 育てるもの・ひきだすもの

授業の中では、徹底して子どもの版画に対する眼を開いてやることに心がけたいものです。そのために、教師自身が先ず秀れた実践に学び、それを分析的に把握し、自分の授業の中に取り入れなくてはならないと思います。

教育の場における我流が、壁をつくり、子どもの成長を阻害することのないよう留意したいものです。

主題の決定は最も重視したいところです。子ども達の心の躍動なしには全ての活動が停止し形骸化します。現在の子ども達はその社会的環境の中で、ともすれば弾むような感激する心を失いがちです。教師はそこに心をとめ、ゆさぶり豊かな感情と表現する意欲を引き出す役目を果さなければならないと思います。そのために子どもの喜びも悲しみも分ち合える教師と学級集団が求められます。

教師の側から与えるものに技術の問題があります。

(3) 技術の位置づけ

主題の追求と技術の問題は深くからみ合っています。私たちはこれを切り離しては考えません。新しい欲求が新しい技術を求め獲得してゆく動機となります。子どもの認識の発達と手の能力の相関を正しく見極めてゆきたいものです。

子どもたちは新しい課題を解決するために先ず自分がこれまでに習得した技術をもって向ってゆきます。そこで生ずる子どもの欲求と技術の矛盾――高い欲求と低い技術――が動機となって教師の与える新しい方法（技術）を受け入れる素地が広がってゆきます。

授業スナップ

〈江別大会シンボルマーク〉

○大　会　日　程

日時	8.00	8.30	9.00	9.40	10.00	10.50	12.00	13.00	16.00	16.30	17.30	19.30
28日		提言者打合 司会記録	受付	テーション オリエン 開会式		公開授業	分科会	ション アトラク 昼食	提言 分科会	打合せ 司会記録者		会 親懇

日時	9.00		10.20	10.30		12.30
29日	受付	講演 西光寺亨氏		全員討論会		閉会式

ぎをどうしていくのかによって変わっていくもので、教師と子どもの実態の間に題材をおいた時点で一つ一つ考えていくべきものであると考えている。

大会役員
江教研図工美術部員

大会委員長　高橋　栄吉（北海道造形教育連盟委員長）
副委員長　三上　晴（石狩造形教育連盟委員長）
野原　正美（石狩教育研究会々長）
辻岡　聖信（江別市教育研究会々長）
理　事　岩渕　威雄（江別市校長会々長）
辻　悦平（北海道造形教育連盟事務局長）
富田充次郎（江別市幻稚園連合会々長）
三浦　興三（江別市教育研究会副会長）
真鍋　英行（江別市教頭会々長）
大石　英明（江別市支会友会長）
藤井　正（石狩造形教育連盟副委員長）
永浜　逸夫（〃　事務局長）
逸見　敏夫（〃　次長）
伊藤　悠平（江別市教育委員会副会長）
運営委員長　松下　治芳（江別市造形連盟会長）
副委員長　吉田　修（江別市教育研究会副会長）
事務局
局　長　佐賀井　勇（石教研図工美術部長）
次　長　伊藤　善彬（江教研図工美術部長）
局　員　手島圭三郎（石教研図工美術部副部長）
宮川　誠一（石教研図工美術部研究委員）
広田　寛三（江教研事務局長）
阿部　孝義（江教研事務局次長）
横山　正（会場校教頭）

笹原　武丸（会場校図工部長）
鎌田　米一（江別市教育委員会係長）
須田　秀夫（江教研図工美術部員）
安部　富雄（　〃　）
佐藤　泰子（　〃　）
関　建治（　〃　）
上野　武（　〃　）
酒井　盛行（石造連監査委員）
厳　信栄（　〃　）

江教研図工美術部員（研究部）
菊地　一夫（江別小）　早田　クメ（江別二小）
渡並　和雄（江別二小）　安部　富雄（江別二小）
塚原　敏雄（江別一小）　土井　勝典（江別一小）
小田桐優子（江別二小）　藤井　正治（江別二小）
今野　京子（豊幌小）　佐藤　泰子（豊幌小）
加藤　倬英（江北小）　綱渕　敏幸（大麻小）
野原ソトエ（野幌小）　笹原武丸（大麻東小）
金井　満子（大麻東小）　亀谷　武春（大麻西小）
露本　清枝（大麻西小）　関　建治（角山小）
中山　尚博（江別三小）　和田　成子（江別三小）
掛上　延孝（江別一中）　上野　武（江別一中）
伊藤　善彬（江別二中）　須田　秀夫（江別二中）
手島圭三郎（江別三中）　竹内　督人（北中）
宮川　誠一（大麻中）　村瀬　千樫（大麻中）
佐賀井　勇（美原小）
松下　治芳（江別太小校長）
平原　敏雄（江別二小校長）

第26回　岩見沢大会

第13回　空知子どもの作品を語る会

主題　すべての子どもに造形のよろこびを

●日　時　一九七六年七月二十六・二十七日

●会　場　岩見沢市立岩見沢小学校

むしぶろ大会の記

岩見沢大会を終えたのが、昭和五十一年の夏である。とにかく暑い日だった。暑い!!というより〝熱い〟という方がふさわしいような、日だった。いろんな苦労も喜びもあったのだが、「とにかく暑かった……」という感想だけが残って、他のことは、時の経過と共に、確実に忘却のかなたへと去りつつある。私の記憶は、六冊の記録の中へ凝縮された。これは、今私の机上にある。積みあげて、高さをはかったら十一センチある。

この記録を眺めながら、私の心境は複雑だ。「ものすごい記録をとったもんだ……」と思うのも、「あんなに力を合わせて、汗だくになってやったのに、たったこれだけの記録になってしまった……」と考えるのも、すべて主観の問題だからである。

記録の山を眺めながら、私はいまこんなこ

とを考えている。これは、岩見沢大会の骨箱だ。あんなにデカク見えたものが、いまは、こんなに小さくなつてしまった。大会の影響はいろいろあったけれども、本人は茶毘に付されて、書棚の隅でひっそりしている。もって冥すべし、ナムアミダブツ……

編集部でもう一度陽の目を見せてやろうという。一度昇天したものが、また現世に引きもどされて、さぞ戸惑っていることだろう。できれば、このまま昇天させたかった。

大会を受けるべきや否や？

――ゆきつ戻りつの昭和四十九年――

昭和四十九年七月十二日

岩見沢市の図工美術サークルで原案を作成する。メンバーは、宮川・堂下・内田・青山早弓である。全道大会が果して岩見沢で可能かどうかの検討をする。

同、七月二十三日

臨時サークルを開く。出席十七名。小委の案につき、宮川委員長説明し協力を求める。空知子どもの作品を語る会の大きいのをやるつもりでやろうと全員一致する。「しかし、気は重いなあ。」という気持ちと、「やれるのか」という不安とが交錯して、全員顔がひきつった。……

同、十月十五日

当時、連盟事務局長辻先生からの依頼のご信書を頂く。七月以来のモヤモヤに止めをさされた。折返し、電話で空知の状況をお伝えする。空美研徳梅会長、田家事務局長にも同趣旨の依頼があり、「全面的にバックアップするからがんばれ」と力強い声援。少し、元気が出てくる。

同、十一月八日

準備委員会を正式に発足させる。役員に、宮川、堂下、田中、青山の各氏を選出。構想の原案作成を分担する。このあと、何度も会合を重ねる。旅費なし、夕食代なし、ないないづくしの中で……。

同、十二月九日・十四日

岩見沢市振興会、同校長会へそれぞれ大会へ向けての取り組みと、協力を依頼する。（この前に、十一月三日岩見沢小へ会場権の協力をお願いする。）

同、十二月十七日

先の準備委員会を拡大し、左のメンバーにきりかえて、強力に推進する決意を固める。

青山清輝・堂下拓美・早弓弘行・内田暢一横山徹・岩井正明・椿弘司・冨所孝一・楠見隆・井内政治・青竹栄子・小松光男・宮川美樹・玉木憲治・増沢実・田中敏雄

同、十二月二十六日

十七日の決定に力を得て、年の暮れもおしつまったこの日、パーティのことまで一気に立案する。会合を終えて、街へ出れば、すでに正月気分。大晦日を迎えてざわめいている。

もうあとへは引けぬ。

――体制固めの昭和五十年――

昭和五十年二月二十七日

会場校の岩見沢小学校へ、教室のことや大会の流れ、授業の依頼など具体的なことを提示し、お願いする。（二月十三日・十七日大会の全容をプリントし、全体会議、出席六十名）大会準備委員長、光陵中学校長荒谷満夫氏を選任。

同、三月二十日

市内各校へ、大会へ向けての実践の視点を配布する。連盟本部よりお出でをいただいて、各関係機関、団体へ挨拶まわりをする。

四月以降、空美研役員会、ゼミナール、岩見沢市事務局会議、準備委員会、各部会など連日行われ、いよいよひっこみがつかなくなってきた。空知も徳梅会長ほか全員の力強い

援助、市内各校の協力体制も整い、役員一同汗だくになって走りまわる。

この年、クウエート日本人学校長で、三年間離れていた本田哲也先生も戦列へ復帰、百万の味方を得る。

各部委員は、次の通りである。

広報部　部長玉木憲治
大江慶典・長谷川元春・内田暢一

ＰＲ計画とＰＲ文の作成

総務部　部長広田忠邦
長田マサ・鎌田日出夫・尾崎裕子・横山徹
楠見隆・新津義昭・津沢千恵子

事業計画、当日の進行・パーテー・資料記録・写真・大会速報

研究部　部長青山清輝
根岸安三・板橋和子・石山博之・田村栄治
越沢和子・新谷和恵・石崎覚・小松光男・照井トシエ・岩井正明・石崎哲男・白幡貞郎・大谷武・加藤勉（以上企画担当）
青竹栄子（幼稚園担当）椿弘司（小学校担当）田中敏雄（中学校担当）田村宏（高校担当）

研究推進、研究紀要、大会日程、授業・分科会・コーナー設営・講師等の構成・当日の研究進行・・・・

庶務部　部長　冨所孝一
今井四郎・増沢実・岡妙子・井内政治・大盛昭秋・藤本富貴子

作品収集、提言依頼、文書発送・児童生徒の輸送、宿泊関係業務

この他に、顧問として本田哲也、渡辺昇両氏をお願いし、会場部は、大会が近づいたころに、他の部よりまわるということにした。

また、空美研の協力体制として、前記各部付の役員を選任した。

田村幸夫・水谷淳・氏家功・折笠博三・大脇基樹・藤原明・佐藤久子・野沢紀義・田家靖久・森谷一・橋本保隆・川西勝・山本美次枝広健二・三浦恭三・有村尚孝・山本栄蔵・中里蕊・徳梅英次郎

この年、ちょうど空美研結成十周年にあたり、全道造形大会の紀要とあわせて、記念編集をすることになった。委員は次の通りである。

山本美次・山本栄蔵・青山清輝・川村恒夫
本田哲也・藤原明

かくて、全道大会の体制は、がっちりと整った。空知がひとつになった、空美研の地道な日常活動が、結集し推進する原動力となった。しかし、業務を進めていく中途で一大痛恨事があった。それは、藤原さんの突然の死である。五十一年二月十二日、「藤原さんが倒れた!!」との報が伝えられた。空美の仲間の心からの礼りも甲斐なく、同年三月三日遂に不帰の客となった。惜しみても余りある死であった。

三月四日、中嶋幸男さん等がかけずりまわって、葬儀万端を進めた。上妙川町鶴の広い葬儀場に、空美の仲間が全員集まった。皆、声もなかった。私達は、空美の大きな柱を失なってしまった。……

あと三六五日!!

岩見沢市内各校の授業実践を高めるため、授業の視点やら、情報や資料を、どんどん流すことにした。青竹栄子さんの担当する幼稚園部会も、何度も何度も、授業担当の先生とひざつきあわせて相談や研修をもった。これらをまとめて「造形のひろがり」というパンフを配布して、交流を図った。

昭和五十年七月二十八日・二十九日、江別大会が開催される。立派な大会だった。岩見沢大会まで、あと三六五日……あと、三六五日……いよいよケツに火がついた。造形の

ひろがり第二号に井内さんは、こう書いた。

「全道研まで、余すところ三六五日となりました。ボケッとしてはいられないぞ、気持を引締めてかからなければ……と思いながらも、行事に追われている毎日です。個々の実践研究をより深め、確かなものにするためにも、お互いの実践を交流し、気軽に話し合いたいものです。」……と。

会場校の岩見沢小学校では、青山さんを中心に授業研が進められていった。ぼう大な作品が生まれ、先生方は汗だくで子ども達と共に次の作品に挑んだ。

九月には由仁町で、第十二回空知子どもの作品を語る会が行われた。寺谷安雄事務局長のほか衣川忠雄・楠野満さん等が中心となって、伝統ある大会を盛りあげた。もう空知は火の玉だ。結果は神のみぞ知る……といった悲壮な心境になっちゃった。夜遅く、街の紅灯をチラと横目で見ながら、ヘトヘトになって帰る。疲れをちょっと一杯で癒そうにも、予算はない。自分の財布もとうに底が見えている。「終るまでガマンするべやなァ。」という情ないセリフを何度吐いたことか……。

宮川美樹さんが、こんな私達に激をとばした。私達は、またシャンとなった。

ひろがり　ひろがり
むすびあい　さらにつらなる
流れとなって　子どもたちの足もとを
ひたひたと　洗い続けるために
わたしたちは
描き　創り　そしてこわす
さらに
描き続け　創り続ける
子どもたちの明日のかたちを
あなたへ　つなげ
あなたと　むすび
あなたから　ひろがる
子どもたちへ架ける
虹いろの祈りをこめて

玉木さん、内田さんは「造形のひろがり」の発行を続行する。十月を過ぎると、私（早弓）も各部の自主的な動きにまかせ、専ら接衝や各部間の連続調整に精力を向けた。

長老の冨所さんが、造形能力要素表を十数枚原紙をきってもってきてくれた。これには感激した。椿さんが印刷し、全員で製本した。部の中の結束は固く、だれいうともなく、よく動いた。

昭和五十年の暮れ近くになって、細案をにつめた。十二月十二日、会場いっぱいの熱気へ向けて、事務局の早弓はこう挨拶した。

「四十九年の七月二十三日、岩見沢市のサークル員十七名が集まって、大会開催の意思を統一し、今日まで、三十回を越える委員会と、無数の折衝を重ねて参りました。

この間、事務局の資料は優に五〇〇ページを越え、しかも、この一年五か月に要した費用が、わずか六〇〇〇円にすぎないということは、いかに多くの方々の善意と奉仕によって、支えられてきたかということを物語るものであります……以下略。」

構想―修正―変更のあけくれ

――昭和51年に入って――

年が明けた。1月7日、新年の挨拶がてら第1回の事務会議を開く。「遊びの造形」の考えをまとめ、授業体制を再確認する。

四月二十八日には、準備委員会を解消し、運営委員会にきりかえた。すでに宮川美樹さんのデザインになるシンボルマークもきまり、テーマは、「すべての子どもに造形のよろこびを」として、全員で決定した。大きな柱は実験授業と、実技コーナー、作品を語る会の三本立てとして、研究担当の青山清輝さんが大

活躍した。記念講演は、著名な熊本高工先生にお引受けをいただいて、大会に一層の華をそえることになった。実際に、この大会には、熊本先生のお話を聞きたくて、遠くから参加した方もずい分あったようである。

集まりをもつごとに、アイディアが続出した。「みんなでハッピを着てやるか？」というアイディアは、資金の関係で残念ながら見送った。代りに記念手拭いをつくった。

玉本憲治さんが、シルクスクリーンの見事なポスターをつくった。刷りには、研修会と準備とが併行するような形となった。「苦労が実って自分にかえってくる」喜びで、時間を忘れた。

会場の岩見沢小学校では、金野さんが中心となり、全体の協力を得て、精力的に準備を進めていった。特に、宮川登さんは、会場設営その他もろもろの業務を一手に引受け、ＰＴＡの絶大の支援を受けて活躍した。

灼熱の太陽の下で

――準備に全員火の玉となる――

昭和五十一年七月一日

七月に入って、暑さが増してきた。ギラギラと輝く太陽の下で、私達も益々熱くなった。一日から二十八日まで、一日とてあいている日のない日程表が配布された。まだやらなければならぬことは、たくさんある。どれか一つを延期しても、大会の開催は不可能となる。

同年七月十四日

天使幼稚園の園児たちが、会場を下見に来る。園長の目黒光世先生には、絶大なご支援をいただいた。土門・前田・津沢の三先生は、若くて、美しくて、熱心だ。私達は、この若い先生達と仕事をするのが、楽しかった。

同、七月二十五日（日）

今日中に、すべての準備を終らせなければならない。大会は明日に追った。もう理屈は言っていられない。ただ動くだけだ。ひたすらに動くだけである。

今日も暑い!!太陽は、あいかわらず灼熱の玉となって、私達の真上にある。日曜日。子どものいない、閉めきった校舎は、まるで蒸しぶろだ。グランドは乾ききって、時折りの風に、妙ぼこりを舞いあげる……。

空美研も、市のサークル員も、ただひたすらに、材料を運び、数千点の作品を飾りつけ、パネルの文字を汗だくで切りぬき、テントを設営し……会場はまさに、息つくひまもない戦場と化した。

午後四時……陽は少し、西に傾きかかったかに感じた。しかし、風はピタッと止まりあけ放した窓からは、ソヨとも入ってこない。

コーナーの設営を見にいく。田家さん、川村さん達が、裸になって、細木を削っている。明日の実技の準備である。

「こんな天候で、凧はあがるのかなァ。」と天を仰いでる人もいる。大会委員長の浪田先生が、くまなく激励に歩いている。一人ひとりに「ごくろうさん」とことばをかけ、冷たいジュースを大量に差し入れしてくださった。副大会長の渡辺昇・本田哲也両先生は、自ら金槌をもち、筆をとって、設営の小さな歯車の一つになってくれる。本当に、頭の下がる「先輩」である。

午後五時、細部の整理を残して、設営のおおかたが終了する。体育館に灯がともり、なんとなく皆が集まってきた。中央に大きなアピールの垂れ幕、連盟旗と、我が空知の象徴「空美」の旗、そして、何千点もの作品群、大会そのことよりも、ここまでに至るプロセスに重きをおいた私達は、正直いって「これで終った……」ような感じがした。

気休めの氷柱をもちこんで……

――熱気にうずまいた二日間――

昭和五十一年七月二十六日、大会一日目の朝を迎えた。午前八時、岩見沢小の先生方が出勤、児童も全員登校する。同時に、事務局員が全員集まる。今日も暑くなりそうだ。青空がいっぱいに広がって、燃える太陽を遮ぎる雲一つ見えない。

八時、岩見沢小の児童約千名が、担当の先生の引率で、会場の作品を鑑賞する。子ども達のざわめきが去ったあと、またつかの間の静寂が戻り、八時三十分、いよいよ本番である。受付、駐車係、会場係、進行係、それぞれが部署につく。なつかしい顔が、全道各地から続々と入場する。冨所さんの手配したバスで、授業をうける子ども達がワイワイ到着。名誉大会委員長成田虎男教育長・大会委員長高橋栄吉造形連盟委員長ほか連盟の方々、徳梅英次郎空美研会長・荒谷満夫岩見沢市教育振興会長・伊藤慶二岩見沢市校長会長・われらの大先輩斉藤富男校長……そのほかたくさんの来賓・先輩が、係の事務局の先生方へ、ねぎらいの言葉をかけている。連盟事務局長の辻悦平先生がかけよってきて、「よくやったね。」とがっちり握手をする。かつての空知の仲間、金井さん、中坪さん、側瀬さん等が、「よっ、ごくろさん……」と皆へ声をかける。岩見沢小の宮川登さんが、何十名ものお手伝いのお母さん方を指揮して、テントの前がごったがえしている……。

九時、公開授業がはじまった。研究部の青山・小松・椿・青竹・田中の各先生がねりに練って、授業者が工夫をこらし、「遊びの造形」を目ざしたものである。当日の進行は、原田隆興・長谷川正義の両氏が担当した。

十時になった。体育館へ移動し、開会式を行う。総務部の金野・横山徹・楠見さん等が分きざみ、秒きざみの流れ図を作り、これに従って、しかも雰囲気を盛りあげたいと思った。

体育館は蒸しぶろみたいだ。とにかく暑い。気休めみたいだが、四個の氷柱をおいた。これが意外と好評であった。ホッペタをくっつけてる人がいる。冷したタオルを頭にのっけてる人もいる。まるで、温泉組合の会合みたいになっちゃった。

十時きっかり、岩見沢市稔小の歓迎ドリル演奏がはじまった。三学級五十一名の学校が会場を圧倒する迫力で演奏した。ついで、高橋栄吉委員長の挨拶が力強く、来年の札幌市における全国大会へつなごうと宣言した。

十時十三分、二年間の労苦を共にしたスタッフの紹介をする。これは青山さんが担当した。

十時二十八分、岩見沢小の合唱部が整列した。中尾知幸先生が指揮して、同先生の作詩作曲による「ようこそ岩見沢へ」を静かにうたいあげる。感動的な歌声に、場内が静まりかえり、同三十分開会式の幕を閉じた。

これから昼までが「作品を語る会」である。小さな集団がいくつもできた。午後は分科会、実技コーナーで賑わった。この日参加者は一〇〇〇名を越えた。

翌二十七日、二日目はパネルディスカッションからはじまった。メインテーマは「全国大会へつなげるもの」とした。側瀬宇太郎・森川昭夫の両先生のやわらかな会場司会と、辻悦平先生の総司会で、金井・中坪・岩間・池本・藤井正先生等が提言された。

ついで、熊本高工氏の記念講演、二日目の最後を飾るにふさわしい名講演であった。

正午、全日程を終えた。連盟旗と空美の旗がはずされ、参加者が潮のひくように帰った

◇実験授業Ａ（系統性をさぐる）

学年	題材名	授業者	学校
小 1	友だちいっぱい　（全身）	今井　俊子	岩見沢小学校
小 2	ボールわたし　（連続）	多田　省三	〃
小 3	にもつをかついでいるおじさん（物語り風に）	白幡　貞郎	〃
小 4	釣りをする友だち	渡辺千和子	〃
小 5	ふりむいた友だち（明暗）	渋谷　正美	〃
小 6	作戦をねる友だち（ポート三人・重なり）	田村　栄次	〃

◇実験授業Ｂ（遊びを子どもに返そう）

学年	題材名	授業者	学校
幼（4才児）	キヤタピラあそび	土門　祐子	天使幼稚園
幼（1年年長）	ファッションショー	前田　敬子	〃
幼（2年年長）	さかなのくに	津沢　弘子	〃
小 1	粘土の中であくしゅをしよう（穴のあいた形からなにができるかな）	笹尾　寿雄	岩見沢小学校
小 2	はっけよいのこった（紙ずもう）	佐竹　史帆	〃
小 3	かわった鳥の小鳥屋さん	松田　剛	〃
小 4	まわるロケット	平山　竹男	〃
小 5	つ　つ　凧	田中　恒彦	〃
小 6	マジックカード	正岡　辰郎	〃

◇実験授業Ｃ（Ａ・Ｂを含めた内容）

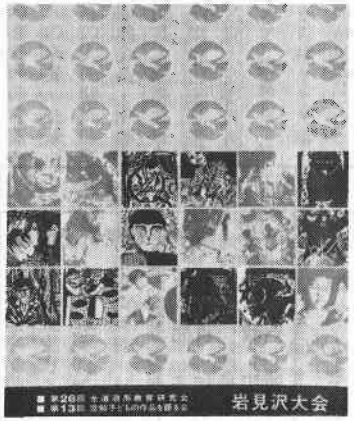
学年	題材名	授業者	学校
中 1	紙をつかって	加藤　勉	光陵中学校
中 2	動くハンガー	田中　敏雄	緑中学校
中 3	石をつかって	石崎　哲男	東光中学校

いった。作品をとりかたづけ、会場を元の状態に戻したとき、全員虚脱状態に陥った。大会を引受けるということは、大変なことだと実感で解った。

大会の終了をまって、次の日事務局長の早弓が病院へいった。ポリープの摘出手術で、即日入院した。二か月後退院して、それから打ちあげ会を虎杖浜のホテル本陣で行った。

もし、いくらかでも成功したとしたら、これは、市内の学校・関係団体の力ぞえはもちろん、全道各地の諸先輩のご支援によるものと深く感謝し、今後のご指導をお願いしたいものと思っている。

（文責　早弓弘行）



◇ 実技コーナー

コーナー	担当	内容
1 やきもの	塚本貞男	かんたんな焼きものをつくってみましょう。
2 動くおもちゃ	森川昭夫	基本になるようなやさしい実技です。
3 版画と民話	斉藤恵	版画製作のコツを、手を動して覚えましょう。
4 紙工作	伊藤恵	小学校の教材を主として作ってみましょう。
5 体験学習室	田家靖久 山本美次	むかしなつかしい吹き矢やコマのコーナーです実際に作ってみましょう。
6 フレッシュ	佐藤吉五郎	先生になりたての方。造形というものがサッパリわからないという方、歓迎。
7 造形病院	幼児…長谷川伝 小学生…金井秀男 中・高…小山田武	造形のなやみごと相談所です。作品をもってどうぞ。カルテを書いてくれます。
8 デザイン	佐野千尋	新しいデザインを体験してみましょう。

◇ 分科会構成

	分科会	共通テーマ	ガイドグループ（司会・提言）
1	幼・保 4才	・遊びの造形を子どもの学習や生活に、どうとりいれるか	・羽田野孝子（札幌栄光幼稚園）
2	〃（1年年長）5才		・大谷　邦彦（札幌もみじ台幼稚園）
3	〃（2年年長）5才		・竹下満喜恵（札幌円山幼稚園）
4	小（低） A	・どうしたら、子どもたちが生き生きして造形活動にとりくむか <認識・系統・領域から考えよう> <作品を通して話しあう>	・中村多恵子（妙川中央小）・手島とも子（滝川第一小） ・八木橋哲郎（峠下小）・長野祐平（信濃小） ・岩田　宏一（標津小）・桐沢　亨（北斗小）
5	〃 B		・佐藤　光正（赤間小）・佐藤　久子（芦別緑ケ丘小） ・山谷　礼司（亀田小）・石垣由美子（上湯川小） ・側瀬宇太郎（羊ケ丘小）・高杉　正和（新川中央小）
6	〃 C		・庄　栄一（江部乙小）・渡辺　貞之（妹背牛小） ・藤木　邦啓（千歳高台小）・藤井　正治（江別第二小） ・鈴木　将夫（和光小）・長津　喜代（伏見小）
7	小（中） A		・紅林　弘昭（空知太小）・橋本　保隆（空知太小） ・笠原　金一（伊達西小） ・鶴賀　孝三（駒岡小）・毛馬内国夫（月寒東小）
8	〃 B		・中里　馨（栗山小）・関　尚仁（滝川第一小） ・大友　一夫（平取川向小）・越後光雄（高静小） ・福井吉三郎（明星小）
9	〃 C		・田上　功（奈井江小）・横井　保（月形小） ・金子　正（清水小） ・池本　良三（若草小）
10	小（高） A		・森谷　一（妙川小）・佐々木賢明（豊沼小） ・野呂　憲一（若松小）・橋場　昌三（藤山小） ・中川真一郎（枝幸小）・佐々木　恵（増毛小）
11	〃 B		・楠野　満（由仁小）・広川　明男（浦臼小） ・原　良三（愛宕小）・佐藤吉五郎（西野第二小） ・佐藤　靖（琴似小）・旭川図工美術小学校部会
12	〃 C		・有村　尚孝（鹿の谷小）・水谷　淳（深川菊水小） ・藤井鷺雄（稚内港小） ・白井　圀豪（豊水小）
13	中学校 A	・絵画・版画	・寺谷　安雄（妹背牛中） ・山本　紘正（瀬城中）・枝広健二（美唄中） ・武田　貞（北辰中）・諏訪　英雄（東中） ・猪狩　肇基（北白石中）・荒谷　博文（白石中）
14	〃 B	・彫塑	・野沢　記義（滝川江陵中）・渡辺　稔（奈井江中） ・石岡　博昭（啓明中）・広沢　正俊（簾舞中） ・板東　軍治（苫小牧東中）・佐藤　公毅（啓北中）
15	〃 C	・デザイン・工芸	・川越　康男（沼田中）・三浦　恭三（三井美唄中） ・稲船　正男（景雲中）・阿部　将（桂恋中） ・浜田　五郎（泊中）・田丸公記（寿都中）
16	高校		・中村　矢一（月寒高）・富樫浩平（啓成高）

※〔A・B〕→絵画・版画を中心とした分科会
〔C〕→デザイン・彫塑・工作を中心とした分科会

大　会　役　員

名誉大会委員長　成田　虎男　岩見沢市教育長

大会委員長　高橋　栄吉　造形連盟委員長
大会副委員長　徳梅英次郎　空美研会長
荒谷　満夫　岩見沢市教育振興会会長
伊藤　慶二　岩見沢市校長会長
理　事　辻　悦平　造形連盟事務局長
戸田　省吾　岩見沢市教頭会長
松本　文明　岩見沢市幼稚園代表
田村　宏　岩見沢市高校代表
斉藤　富男　滝川第一小校長

大会運営委員長　浪田　博　岩見沢小学校長
大会運営副委員長　渡辺　昇　志文小学校長
本田　哲也　茶志内小学校長
加賀谷政治　岩見沢小学校教頭
運営委員　原田　隆興　岩見沢小学校
三谷　信男　中央小学校
山本　真悟　南小学校
山田　稔　第一小学校
花田　国明　美園小学校
和野　勝　日の出小学校
小松　光男　志文小学校
藤本　信也　上志文小学校
松田　勣　朝日小学校
金沢　重雄　毛陽小学校
福田　忠夫　第二小学校
風岡　一哉　幌向小学校
井内　政治　東小学校
日向　清　稔小学校
藤島　杲　大願小学校
中島　俊一　東光中学校
庄司　守一　光陵中学校

運営委員　一条　健二　緑中学校
樋口　孝一　志文中学校
梅内　信夫　栄中学校
石塚　喜法　上幌向中学校
沼上　忠夫　豊中学校
目黒　光世　天使幼稚園
山内　敏雄　市教委管理学務課長
鈴木　淳夫　市教委指導室長
井上　周三　市教育研究所員
吉村　隆次　空知教育局指導課長
宗広　義彦　空知教育局指導主事
田家　靖久　空美研事務局長
山本　美次　空美研研究部長

事務局

事務局長　早弓　弘行　南小学校
事務局次長　宮川　美樹　東光中学校
堂下　拓美　中央小学校
事務局員　金野　稔雄　岩見沢小学校
横山　徹　第一小学校
楠見　隆　朝日小学校
青山　清輝　岩見沢小学校
小松　光男　志文小学校
椿　弘司　第二小学校
青竹　栄子　毛陽小学校
田中　敏雄　緑中学校
富所　孝一　幌向小学校
井内　政治　東小学校
増沢　実　栄中学校
宮川　登　岩見沢小学校
玉木　憲治　光陵中学校
内田　暢一　南小学校

総務部

部　長　金野　稔雄　岩見沢小学校
副部長　横山　徹　第一小学校
楠見　隆　朝日小学校
部　員　長田　マサ　第一小学校
新津　義昭　南小学校
鎌田日出夫　中央小学校
津沢千恵子　第二小学校
出口　秀喜　岩見沢小学校
河内　省八　〃
竹内美津枝　〃
中尾　知幸　〃

研究部

部　長　青山　清輝　岩見沢小学校
副部長　小松　光男　志文小学校
椿　弘司　第二小学校
青竹　栄子　毛陽小学校
田中　徹雄　緑中学校
部　員　照井トミエ　第一小学校
板橋　和子　中央小学校
岩井　正明　美園小学校
石山　博之　美園小学校
石崎　哲男　東光小学校
田村　栄次　岩見沢小学校
白幡　貞雄　岩見沢小学校
大谷　武　中央小学校
加藤　勉　光陵中学校
西平由紀子　上志文小学校
田村　宏　緑陵高校
根岸　安三　緑中学校
越沢　和子　南小学校
新谷　和恵　志文中学校
石崎　覚　日の出小学校
原田　隆興　岩見沢小学校
長谷川正義　〃
北口　邦子　〃
兵井　昭一　〃
中村長五郎　〃

庶務部

部　長　富所　孝一　幌向小学校
副部長　井内　政治　東小学校
増沢　実　栄中学校
部　員　今井　四郎　朝日小学校
木村　一成　日の出小学校
藤本富喜子　第一小学校
大盛　昭秋　第一小学校
岡　妙子　中央小学校

広報部

部　長　玉木　憲治　光陵中学校
副部長　内田　暢一　南小学校
部　員　長谷川元春　岩見沢小学校
大江　慶典　南小学校

会場部

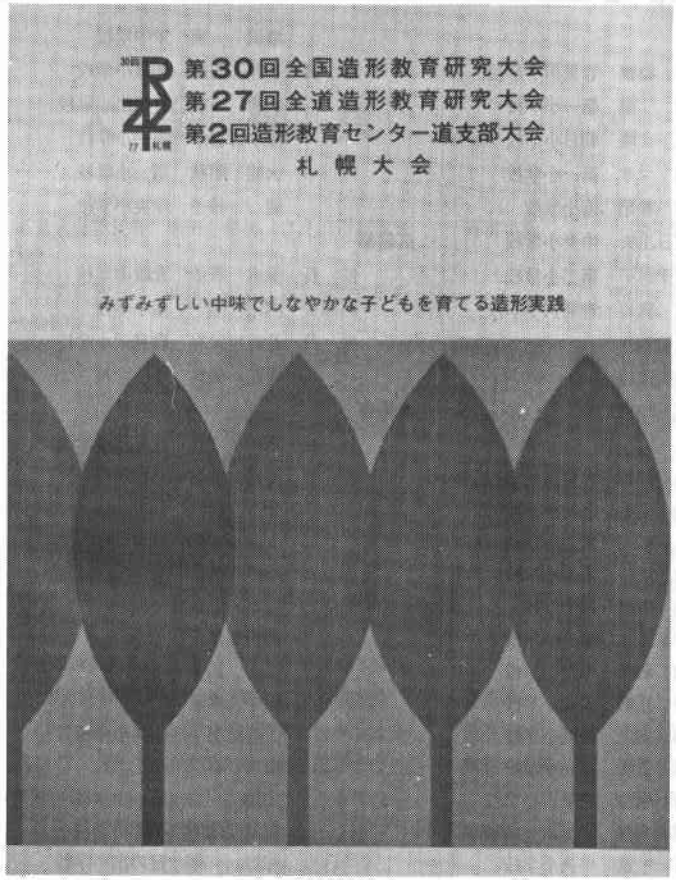
部　長　宮川　登　岩見沢小学校
部　員　佐藤　郁男　〃
井上　義浩　〃
大谷　幸弘　〃
小室　公子　〃
橋本　忠司　〃
山田美津子　〃
福田　節子　〃
田中　孝憲　〃
三谷信男　中央小学校
山本　真悟　南小学校
山田　稔　第一小学校
花田　国明　美園小学校
和野　勝　日の出小学校
藤本　信也　上志文小学校
松田　勣　朝日小学校
金沢　重雄　毛陽小学校
福田　忠夫　第二小学校
風岡　一哉　幌向小学校
中島　俊一　東光中学校
庄司　守一　光陵中学校
一条　健二　緑中学校
樋口　孝一　志文中学校
梅内　信夫　栄中学校
石塚　喜法　上幌向中学校
沼上　忠夫　豊中学校

会計部

部　長　内田　暢一　南小学校

※授業者前掲

第30回全国造形教育研究大会
第27回全道造形教育研究大会
第2回造形教育センター道支部大会



大会主題
「みずみずしい中味で
しなやかな子どもを
育てる造形実践」

全国大会にむけて教材の中味は

1、子ども自身がその究明に参加できるもの

2、多面的な事がらにつながっているもの

3、新しい問題を見つけ出せるようなものといった、新鮮で生命感のあるもの、子どもの追究によって深まり魅力のあるものを、「みずみずしい中味」のあるものを用意しよう。

造形の活動は、子どもの手によって、自己を拓く仕事であり、自由をつかみとっていく仕事である。しかもそれは、教師という人間性を通して、感動的な出合いでなければならない。「**みずみずしい中味**」は、子どもをとらえ愛しなおすことができる教師自身によってはじめて創りだされるべきものである。古い

教材を生きかえらせる力量ある、教師でなければならない。

また、これからの新しい時代に生きていく子どもは

1、個人の中に主体性の確立をすること、従って、嫌いなものを拒否し、本当に必要なものを選び出すことができる力をもつこと

2、ねばり強く、じっくり考え、必要なものをつくり出していく持続的意欲と集中力を育てること

3、自己を律するにきびしく、衝動的でない精神の構えのきちんとした情操を身につける

4、日本人という民族性をみがき、国際人にまで高めるということ

を考えていかなければならないだろう。特に造形教育では、弾力のある意志、柔軟な思考、そして、子どもが生来もっている「**しなやかな腕と手**」を結びつける仕事を活発に進めていく必要がある。

こんな願いをこめて、大会の主題を決定した。

林　健造氏は、このテーマを次の様に言っている。

この大会に参加して、テーマが凄く素晴らしいなあと思いました。

みずみずしい中味で、しなやかな心を持った子どもを育てようとしている。

とてもやさしくわかりやすいことばだけれども、中味は大変にきびしい。きっとこれを考えた人は、詩を作ったり俳句を作る人ではないのかなあ。

とにかく、みずみずしい、しなやかなということを考えると、造形という仕事は心を育てることなんだなあと思います。

造形するには、心を動し、身体を動かさなければならない。

自分の心の中に残っているものをさらけ出さなければどうしようもないものです。

この大会で心に残ったことがいくつかありますが、勿論市内の先生方もたくさん授業しておられて、素晴らしいと思いました。

しかし、ここの羊丘という会場校の教育ということに、どうしてもふれることになるのは仕方ありません、ご了承ください。

まず

素描力ということに強くひかれました。クワガタ虫を、ここの子はどこからでも描き出しますね。藤田嗣治画伯を想い出しました。

藤田さんは、どこから描き出してもひとつの絵になる人だったといいます。ここの子は藤田さんだなあと思いました。

つぎに

先生と子ども、子どもと子ども、親と子どもと先生との、ふれあいがとても濃いと思いました。……。

また、**小関利雄氏**は

現在の保育は子ども中心ではなく教師中心に習慣的に流れている。

子どもたちが造るということは、遊ぶということにつながっているものである。

「みずみずしく、しなやか」というのは硬直していない、習慣的になっていないものをいっているのである。

果して人間が遊びというものを取り去ることができるものかどうか。今日、遊びが人間の歴史と共に、人間の内部に切り離すことのできないものとして在るのは一体どういう意味をもつと考えるべきか。

「みずみずしさや、しなやかさ」は遊びのない人間には生まれてこないのである。遊びには目的というものがない、遊ぶことそのことが目的なのである。

自由な精神を持ち続けるのが「みずみずし

さ」ではないだろうか。子どもが「しなやかさ」を持って遊べるように、教師が援助することが、最も大事なことである。

子どもたちの生活の欲求の中で、ものが形となる、それが造形というものであり、その造形が子どもの遊びとなって、子どもの内面を豊かにする。また、遊びそのものが造形となるように、幼児の造形を考えていかなくては子どもに「しなやかさ」が生まれてはこないのである。

そして、**西光寺　亨氏**は次の様にいう。

大人の世界の持っている材料観と子どもの考えとは相違があるのではないか。メインテーマであるみずみずしい中味でしなやかな子どもを育てるためにはということで考えをまとめてみると第一に素材の発見であり何を（目的）作るのかという意識を強く持たせることである。第二には、その素材の持つ材質材料の扱い方は子どもにまかせて、子ども自身で創り出す事が大切であり、子どもがじっくり見つめるゆとりの時を持たせるべきである。第三に子どものイメージを大切にしてやり、みんなの財産としてやる事である。教師は子どもの素晴しさを認めてやる指導が大切である。

最後に、**西野範夫氏**は、こう言った

みずみずしい中味とは子どもが安心していろいろと試みたい破めたりできる学校・学級時間。それが中味だと思います。そこで子どもが育って、ころんでも立ちなおれる力、それがしなやかさだと思います。そういう風にテーマをとらえます。

○助言者よりのことば

たくさんの先輩達から、くめども盡きない指導の言葉を頂いた。北海道の連盟にとって今後、長い間かかって具体化し、確かめ、検証し、われわれの財産にしていかなければならない。そのいくつかを拾ってみたい。

①幼稚園部会から・西田秀男氏

教育とはなにか。教と育のちがいについて考えてみよう。教の世界は変わることがあるが、育の世界は不変なのである。芸術の世界は教えて出来るものでない、子どもの絵の仕事は育の世界なのである。教は縦の世界であり、それをつなぐのはきびしさであり、育は横の世界であり、それをつなぐのは賞揚なのである。

調和のあるおちついた色感を味わわせるためには、三原色を使うよりは、〈二色＋白〉の方が適切ではないだろうか。あまり多くの色をつかわせない方が、むしろ色感を高めるに役立つと考えている。

同じ中味で同じ方法で指導していながら、子どもの絵の味がまるきり違うのは、一体何故かという問題に、私は次のように考えている。「指導する教師がどれだけ芸術に足を踏み入れているかどうか。」ということである。

絵の指導では、上手ということばは禁句だと思う。絵は手でかいているのではなく、手を指示する目が絵をかかせるのである。目はまた心によって動かされるのである。即ち、知、情、意の綜合されたものが絵となるのである。

・同じく松井清人氏

私はいまの幼児の造形教育について、なぜ絵をかかせるかについて、意見をのべてみたい。

① のびのびとした心を育てること

技能の訓練を中心と考えた過去の教育、うまく上手に手際よくできるための教育から、のびやかな心を育てる精神成長を促す教育にねらいをおかねばならない。即ち子どもひとりひとりの個性的な絵を育てることでなければならない。

それは自由な解放された心を育てなくて

はならない。

② 生き生きとした心を育てること

新しい見方、感じ方、えがき方を刺激して創造性を高めることである。

③ たくましさを育てること

子どもたちとやる気を育ててほしい、自己の力を発揮させてやってほしい。ぼくはここまでやったという満足へのよろこびを味わわせてほしい。

④ ゆたかな心を育てること

ゆっくり対象をみつめ、関心と興味をもって、誠実に対象に接する心を養なわせ、子どもの生来の美意識を大切にはぐくんでいただきたい。

⑤ 工夫する心を育てること

考え、みつけださせる環境を与え、子ども自ら考えさせるように配慮すること。

・同じく、松村容子氏

よい保育をささえるのは、保育者の人生感がある。広い視野に立って子どもの人生をみつめてあげる見通しのある保育、明日のための今日の保育でなく、長い人生の幼児期という一点を考えてあげる。

・大阪の井上明子氏

子供の絵は、先生と子供の心のふれ合いから生まれてくるものである。

子供の造形教育は子供の心を育てる教育である。すぐに答えは出ないが、いつかは「よかった」とおもう事がきっとあるでしょう。1＋1＝2というこたえがないだけにふりまわされるけれども振りまわされながら子供を知る事が大切であり、そして使命である。

②小学校部会で**・谷井照夫氏**

ユニークな授業、作品がよかった。目的を持って校門にとびこんで来る子を育てたい。それから図工を生活の一部になるようにしたい。カリキュラムは共同で作っていくことが大切だ。

・西野政男氏

テーマがよく授業もよかった。ゆとりがあり放りっぱなしにすれば子どもはよい絵をかくかというとけっしてそうでない。子どもの側に立つことは子どもを知ることであり、子どもを知るための努力を、いろいろな面からしていきたい。

・相馬義雄氏

夢や願いをかなえる教材は身近な自然から取りあげられる、それよりもかなえさせられるような与え方が大事で一つの方法として子ども自身に物語化させることで一つの焦点ができ、感動をこめたものとなり、造形性を意識させないで進めることができる。領域をつなぐ仕事に視点を広げることで夢や願いをかなえさせることができる。

・今井智恵雄氏

絵の場合、主題をはっきりかけるような造形性を毎日の指導の変わりの中で育てていく図画工作とはいい絵をかくことがねらいでなく生活を明かるく豊かにしていくものであり教育としてと中にある教育のふへん性はそこにある。

・猪股哲夫氏

ポイントをはっきりさせ絵をかかせることだ。主体性があまりない現在の生活である。従って個性的なものをもっと組み入れてやる必要もある。なんでも一斉にする（格一化する）必要はない。経験を大切にすること、これが表現を豊かにしていくものだ。物を見る場合、もっと対象物と遊ぶ必要があると考える。

・小関武明氏

発想はその物を好きにするより他はない。導入が成功するとほかもみんな成功とは言えない。その時のイマジネーションが大切だと思う。手を使って考え深め生きることの大切

さを……。

・佐藤　諒氏

発想と材料とのかかわりは材料のふれあいとも遊びから、あつかい方を工夫し、材料を比較し材料の可能性を追究する事が大切である。一番大切な事は、教師自身が発想豊かでなければならない。

・松永繁雄氏

教育の主体は子どもである。機器にふりまわされることなく、ひとりひとりの子どもに学校を作ってもらいたい。その先端を図工科の先生方にやっていただきたい。教育は自己充実が究極のねらいでなければならない。

・井上武美氏

感動をもてる子であればよい。指導のテンポを遅く、あせらずに。

・大久保正義氏

一生懸命描ければ、好きになっていく。その姿を認めてやればよい。

・伊藤弥四夫

子どもが豊かに成長するには、手足を動かす（表現）なければ育たない。全校クロッキーなども、絵を描くための手段とするのは、誤りで、ものの見方、感じ方を育てるためになされるべきだ。自分の力で育った子は、途中では、決して投げださない。自ら求める子は、他の方面でも育っていく筈だ。

・堂本　保氏

日本の将来の姿を見通すことは大切であり子どもに対しても未来を見ぬかせるために教師自身が資源・人口・自然に対して問題意識をもって子どもに指導していくべきであり廃材利用によるデザイン学習が大切である。

③中学部会より　**・大谷勝美氏**

美術工芸の核心にふれる密度の高い話し合いであった。「高めたい力」の半数近くは美術科以外でも扱われるものである。美術科でも何を教育するか（教科性を高める）を指向することが大事である。

工芸では発想・構想が特に大事である。日常において子供が自分で表現製作出来るものを多く用意しておくとよい。工芸学習が子供の心情にふれ、形に現われる学習でありたい。

・山添克己氏

美術は人間性を育てる教科であるから、美術教師自身がそれを意識して活動しなければならないし、努力すれば、他教科の先生方からも重要性を理解してもらえる。しかし、学校内で美術教師だけが動いても力は小さい。お互いに情報交換しあい、連帯感を深め、組織として、校長会等他の組織へ働らきかけて授業時数・施設設備・配当予算等の問題を解決していくのが、全造連や全中美の使命ではないのだろうか。

・関　正己氏

独自性といっても、感による授業ではなくグループ研究は、非常に大切なことである。また、理論研究がなされていることは、美術の内容が洗い出された感じがする。

この研究については、どこで成功したか、どこをより精選化すべきか、検討を加わえる必要があるのではないか。

構想画は、創造性の基本的なものであり、それが中学校の中にとりいれられたことは、大きな貢献ではないか。

生徒数やカリキュラムなど美術教科教師は非常に多忙な状態におかれている場合が多いが、その中で、この研究が行われたことは、すばらしい。

・全体講師　田上義也氏より

物というものは、すべて中心があるものです。中心とは点ですね。この顔にもその中心があります。点があります。それは瞳です。それは個性でもありますね。

自然と調和する建築は、その中心を求める

仕事だと言えます。

私は思うのです。家というのは沈黙した森だと思います。日本の家は自然にとけこんだ自然になろうとしていますね。それなのに最近は街の中みたいな家が多くなりましたね。見た目はいいのですが、なんといっても騒々しい。ライトはアメリカに帰ってから自由に広げられる遠心的な日本間を好んでつくっています。

壁、天床、床、この三つの次元にリズムを加えて、四次元のシンフォニーを作っていく生活にはそういう立体感が必要だと思います。

建築家はもっと大きな視野で人間の住まいを考えなきゃならない時代だと思っています。

地域のコンプレックスから飛び出し、人間の感性を大事にして、自然から学ぶことを忘れずに、絶えず現代の原点にたちかえり、自然から学び自然をつなぐ連体感をもたなくてはなりません。

ベートベンも田園をつくったのは、ドイツの自然からであります。またそのときのベートベンの生涯は、ただ水とパンだけといいます。私は私の育てた札幌交響楽団をつれてミューンヘンに出かけた時、ベートベンが、かってあるいたところを散策しました。ベートベンは、水とパンだけであの第六番をつくったのです。人間は過保護の中からは創造は決して生まれてはきません。きびしい生活の中にこそ創造があります。人間が物を失った時ベートベンは耳を失いましたね。人間は物を失った時にはじめて人間は生きようとするのです。

○閉会式

「きょうの日は、さようなら」を弱く、バックに流す。

マイク「以上をもちまして、第三十回全国第二十七回全道、第2回造形教育センター北海道支部・造形教育研究大会札幌大会の全日程を終ります。（ＯＨＰに歌詞をうつす用意）

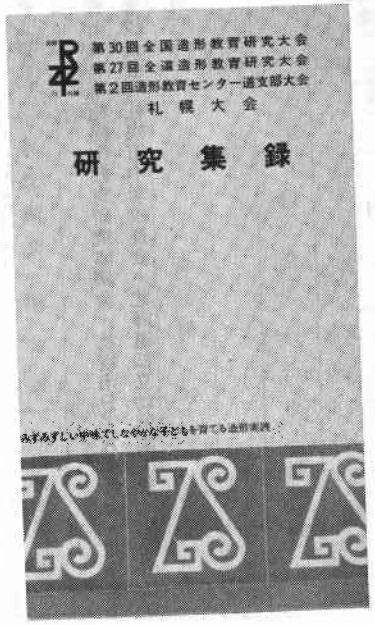
では、ここで、参会の皆様全部で歌をうたいましょう。『きょうの日は、ようなら』で、す。（投影）では、音楽おねがい致します。

いーつまでもー　たえることなくー友だちで、いよう！……　（三番のはじめ頃から…）

皆様、遠路はるばる、この札幌にお出で下さいました上に、熱心に研究大会に参加して頂きまして、本当にありがとうございました。

では、お元気でお帰り下さい。皆さん、さようなら、来年、埼玉で、またお合いしましょう。　さようなら、さようなら

（文責　森川昭夫）



1、主催　北海道造形教育連盟・全国造形教育連盟

2、後援　文部省・北海道教育委員会・札幌市・札幌市教育委員会・造形教育センター札幌市教育研究協議会・札幌市ＰＴＡ連合会・北海道小学校長会・北海道中学校長会・北海道高等学校長協会・札幌市小学校長会・札幌市中学校長会・北海道私立幼稚園協会・札幌市私立幼稚園協会・札幌市私立保育所連合会

3、会期　昭和52年7月28日㈭・29日㈮・30日㈯

4、会場

会場コード番号	会場	住所	内容
A	大通小学校	中央区2西11 ☎二五一―〇二二八	大会前日・校種別打合せ・都道府県代表者会
幼1	山の手幼稚園	西区山の手2条2丁目41の5 ☎六四一―二一九一	公開保育（3）・講演・分科会
幼2	なかのしま幼稚園	豊平区中の島2条2 ☎八二二―五〇六三	公開保育（3）・講演・分科会
幼3	大通幼稚園	中央区大通西16 ☎六二一―三三七一	公開保育（3）・講演・分科会
保1	光華保育園	南区南30西8 ☎五八二―一五八一	公開保育（全）・講演・分科会
保2	白石保育園	白石区本郷通3丁目 ☎八六一―一九一〇	公開保育（全）・講演・分科会
小1	東山小学校	豊平区平岸4条11 ☎八三一―六五三〇	公開授業（15）・講演・分科会（9）
小2	羊丘小学校	豊平区東月寒52の1 ☎八五一―九三五三	公開授業（15）・講演・分科会（9）
中	向陵中学校	中央区北4西28 ☎六一一―四二七一	公開授業（14）・講演・分科会（7）
高・大	北高等学校	北区北25西11 ☎七三一―三一九一	講演・高等学校分科会・大学分科会
B	厚生年金会館	中央区北1西12 ☎二三一―九五五一	大会行事・記念講演・パネルディスカッション　他

5、日程

●第1日（昭和52年7月28日㈭）会場　大通小学校（サッポロビール園）都道府県代議員会・校種別都道府県代表者会

13.00 受付
13.30 校種別打合せ（全中美連理事会）
15.00 休憩
15.10 都道府県代議員会
16.40 移動
17.30 レセプション
19.00

●第2日（7月29日㈮）……会場　光華保育園・白石保育園・山の手幼稚園・大通幼稚園・なかのしま幼稚園・東山小学校・羊丘小学校・向陵中学校・札幌北高等学校

	保育園幼稚園	小学校	中学校	高校	大学
8.30	受付	受付	受付	受付	受付
9.00	公開保育	オリエンテーション（学校紹介）	オリエンテーション	分科会	分科会
10.00	休憩（移動）	公開授業	移動	休憩（昼食）	休憩（昼食）
10.20	分科会（オリエンテーション）	休憩（移動）	公開授業	分科会	分科会
12.00	休憩（昼食）	分科会	休憩（移動）（昼食）	小講演	
13.00	分科会	休憩（昼食）	分科会		
14.30	小講演	分科会	移動		
16.00		小講演	（全中美連総会）		
17.00					

●第3日（7月30日㈯）……会場　厚生年金会館

9.00 受付
9.30 大会行事
10.30 パネルディスカッション
12.00 郷土紹介（昼食）
13.00 記念講演
14.30 閉会式
15.00 研修視察旅行出発

6．講演　記念講演

（全体会場）　北海道国際文化協会々長　田上　義也氏

（会場講演）
- 山の手幼稚園　美術教育家　西田　秀雄氏
- なかのしま幼稚園　逗子かぐのみ幼稚園長　小関　利雄氏
- 大通幼稚園　京都教育大教授　松井　清人氏
- 光華保育園　大阪泉大津穴師幼稚園長　井上　明子氏
- 白石保育園　横浜あゆみ幼稚園長　松村　容子氏
- 東山小学園　東京都北園小校長　大和屋　巌氏
- 羊丘小学校　十文字女子短大教授　林　健三氏
- 北高等学校　東京都西高校　向坂　一彌氏

7．パネルディスカッション

〝いままでの現場実践から共有財産となりうるもの〟

パネリスト　末石　幸雄氏（岡山県美術研究会）　野々目桂三氏（創造美育協会）
橋本　章氏（全中美連）　吉田　宏氏（東京都造形教育連盟）
東　一宏氏（青森県図工研究会）　金井　秀男氏（北海道造形教育連盟）
古市　憲一氏（造形教育センター）

司　会　藤沢　典明氏（和光大教授）

8．会費　3,000円

大会々長／高橋　栄吉（北海道造形教育連盟委員長）
副　会　長／亀川　豊（全国造形教育連盟委員長）
石崎　義政（北海道造形教育連盟監査）
大会実行委員長／辻　悦平（北海道造形教育連盟事務局長）
副　会　長／鷹野　改三（全国造形教育連盟事務局長）
山平　慧隆（北海道中学校美術教育会々長）
土岐　禎次（北海道造形教育連盟研究部次長）
総務部長／森川　昭夫（南月寒小）　会　計／種市誠次郎（中の島小）
庶務部長／松島　輝男（栄東小）　事業部長／佐藤吉五郎（西野第二小）
会場部長／遠藤　久男（栄西小）　研究部長／金井　秀男（幌西小）

9．分科会一覧

分科会番号	会場	領域	テーマ	提案者	司会者	助言者
幼 1	山の手		豊かに感ずる心を育てる指導	原本　芳雄（西小牧・ピノキオ幼） 山の手幼稚園研究部	坂本　行正（室蘭・ピノキオ幼）	西田　秀雄（愛知教育大） 屋原　三男（北海短大）
幼 2	中の島		自ら進り遊ぶことのできる指導	なかのしま幼稚園研究部	横山　省三（北見・恵母幼）	小関　利雄（神奈川・かぐのみ幼） 伊東　利夫（北海道女子短大）
幼 3	大通		身近な材料を豊かに使った造形活動	三好　悦子（西小牧・いずみ幼） 大通幼稚園研究部		金田　芳代（ひまらり子どものアトリエ） 松井　清人（京都教育大）
保 1	光華		おどろきや感動をすなおに表現する手だて	和泉田礼子（札幌・もいわ光華保）		砂金　隆（札幌・栄愛短大） 井上　明子（大阪・泉大津穴師幼） 岩本　三江（東京・武蔵野女子大）
保 2	白石		遊びの中から造形する心を育てる指導	北村　久好（札幌・白石保） 加藤　輝子（山形・ひばり保）	川合　洋子（札幌・日の丸保）	渡村　容子（福島・しゃべ幼） 松村　容子（福島・しゃべ幼）
小A 1	東山	総合	子どもの側からの教育課程づくり	早弓　弘竹（岩見沢・南小） 紀谷　満彦（滝島・鈴分小）	一の戸信雄（空知・恵比島小） 西　弘治（釧路・朝陽小）	西野　政男（新潟・十日町西小） 安井　強美（和歌山・橋見小） 宮林　泰俊（函館・教育大）
小A 2		絵画 A	夢や願いを生みだす教材のえらび方とそのつなぎ方	佐藤　光子（福島・湯上小） 中川慎一郎（桧山・江差小）	秋田　武蔵（札幌・　　） 三枝　佑喜（釧路・寿小）	辻田　義郎（大阪・玄関小） 伊東　義雄（青森・子湯小） 今井智恵雄（滝上・戸田小）
小A 3		絵画 B	見方・感じ方を育てる教材のえらび方とそのつなぎ方	勝田アツ子（勝毎・澄花小） 中村　市郎（室蘭・大谷小）	佐藤　圭（札幌・本通小） 志賀　輝（室蘭・中島小）	岡田　悠秀（山口・鳴山小） 福田　哲夫（青森・浪打小）
小A 4		版画	版のもつ特性を生かし、子どもの夢や願いを表現する手だて	斎藤　俊子（青森・金崎小） 安藤　忠昭（日高・門別小） 葛西　貞子（札幌・札幌小）	倉山　渉（札幌・西野小） 笠原　金一（阿寒・伊達西小）	仲岡　英（青森・十和田市教育） 金沢　一生（岩手・　　） 鮫島　裕茂（秋田・高山山王小）
小A 5		デザイン	色と形の感覚をみがく子どものためのデザインについて	大内　忠三（名寄旭・陽寒所小） 前田　守一（釧路・浦水高部小） 谷　勲（札幌・真駒内緑小）	金子　正（西小牧・清水小） 小林　幸義（札幌・東橋小）	斎藤　一郎（新潟・初納小） 佐藤　和雄（滝江・美水小） 鈴木　宗（東京・お茶の水女子大）
小A 6		彫塑 A	子どもの想を豊感覚かにつくりだす仕事について	野中　敏信（福岡・教大附小） 岩本　昌宏（東京・稲城小） 花田　正義（札幌・桜東小）	長野　昭（札幌・南の沢小） 本田　哲也（空知・新志内小）	斎藤　國治（東京・共立女子大） 平城京太郎（山形・教大附小）
小A 7	中	彫塑 B	イメージをふかめ、土のもつ特質を生かす仕事について	渡辺　正路（栃木・宇都宮大附小）	内藤　光義（西小牧・北光小） 三浦　哲（札幌・富樋小）	宮原　吉郎（東京・教大附小） 菅原　昭一（函館・西小）
小A 8		工作 A	子どもの発想と材料のかかわり合いを考えよう。	千葉　勝一（日高・高野小） 山本金次郎（札幌・之町北小） 小笠　俊（東京・新町小）	鈴木　好夫（札幌・和光小） 白鳥友次郎（空知・南保小）	佐藤　誠（東京・芳林小） 小関　武明（東京・南山小）
小A 9		工作 B	製作する中で夢や願いを満していく仕事について	仙波れい子（茨城・岩瀬小） 白井　国義（札幌・豊水小）	今野　陸二（横内・声間小） 鮫者　昭弘（札幌・西野第二小）	中村　勝美（神戸・東灘小） 市毛津　三郎（茨城・岩間第1小） 西野　範夫（東京・新町小）
小B 1	羊丘	総合	地域や風土性を大事にした学校づくりと造形活動	渡本　真三（西小牧・西東小） 佐藤　待賢（鶴足・羊花小）	石堀　忠（室蘭・本室蘭小） 田崎宇太郎（札幌・羊花小）	勝沢　真男（東京・和光大） 松本　泰輔（静岡・浜田東小）
小B 2		絵画 A	感動を表現に結びつける手だてのある造形実践（低学年）	日高　晴美（札幌・しらかば台小）	佐藤吉五郎（札幌・西野第二小） 藤井　正（白糸・金沢小）	金森　弘子（鳥取・山崎小） 斎藤　富男（空知・滝川第一小）
小B 3	小	絵画 B	同　上　（中学年）	田家　建久（空知・滝川小） 高杉　正和（札幌・新川中央小） 柴崎　克弘（山形・山形大附小）	和田　衛次（札幌・北野小） 青山　清輝（岩見沢・岩小）	遠藤　満男（道造形連盟顧問） 阿部　英俊（鹿児・大島小） 山本　孝（和歌山・今福小）
小B 4	羊丘	絵画 C	感動を表現に結びつける手だてのある造形実践（高学年）	小野ゆう子（秋田・土崎小） 西林　松蔵（青森・八戸小）	三上　晴（千歳・高台小） 高橋　一美（札幌・手稲北中）	太久保正義（大阪・河田小） 井上　義美（盛岡・滝沢小） 石崎　義政（北見・北見小）
小B 5		版画	生活の驚きや喜びを版画の強しさに表現するこころろ	桑田　好明（岐阜・高山西小） 佐藤　一之（旭川・嶋川小） 中嶋　藤（青森・八戸小）	吉田　純晴（紋別・滝上小） 遠藤　昇（旭川・剣別西小）	伊藤弥四夫（東京・船橋小） 馬場　晴明（鹿倉・今泉小）
小B 6		デザインA	イメージをひろげていく子どものデザインづくり（低）	伊藤　喜彦（札幌・月寒小）	山本寒一郎（札幌・西野第二小） 中塩　傳（空知・硫山小）	亀山三代喜（札幌・教育大） 福井　雄弥（東京・深戸小）
小B 7		デザインB	くらしと結び合った子どものデザインづくり（高）	荒井　登子（茨城・岩間第一小） 黒　長一（旭川・多賀小） 佐藤　隆（札幌・琴似小）	近倉　俊行（滝島・森野小） 井内　利道（札幌・廻野小）	西光寺　立（愛知・教育大） 宮本　保（東京・権田小）
小B 8	小	彫塑	表現材料を生かし。発見的な個性的表現を助長する	佃松　隆夫（会津・村木町小） 長田　剛（札幌・南月寒小） 佐藤　功（岩手・平笠小） 綾塚　礼二（旭川・教大附小）	伊藤　英世（札幌・新琴似西小） 渡辺　正輝（旭川・知新小）	内田　興夫（埼玉・鳴教委） 田中　隆（和歌山・　　）
小B 9		工作	思をねり、ふかめながら製作する造形活動について	中村　紀雄（釧路・教大附小） 長津　寛代（札幌・伏見小）	蛯子　信也（札幌・新陽小） 信永　昭三（函館・東小）	吉田　一夫（岐阜・横蔵小） 渡谷喜久二（東京・教大附小） 鈴木　三郎（東京・成城丘小）
中 1	向陽中	印章	●共通テーマ ●人間育成における美術科の独自性を確立するためにはどのように究明すべきかについて話し合おう ●ゆとりある教育思考に対する美術科のあり方について話し合おう ●分科会テーマ ●表現の学習を通して創造的自己実現をはかる造形活動はどうあればよいかについて話し合おう	佐野　千尋（札幌・羊花中） 樋本　東（函館・鳴学中） 中　敦（和歌山・藤中）	高橋　清（札幌・羊花中）	中山　清（札幌・天香保中） 竹原　義雄（岩手・盛岡中） 大山正道（山形・塩欧中）
中 2		模様		奥田　尚彦（秋田・白石中） 大塚　博（札幌・高台中）	今本　哲夫（札幌・札幌中）	山平　慧隆（札幌・信濃中） 菅原　隆治（北見・美留中）
中 3		彫刻		森　優（札幌・中島中） 横居　元義（釧路・城南中）	石岡　博（札幌・啓明中）	山崎　定郎（函館委） 山田　康夫（函館・新川中）
中 4		塑造		中尾　孝典（札幌・真駒内緑中）	菅原　健三（札幌・真駒内中）	山添　茂（大阪市教委） 加地　保夫（十勝・幕内中） 小林　登一（札幌・琴似中）
中 5		使用		金盛　与一（札幌・八軒中）	蝦名　直治（札幌・手稲中）	小林　勝（札幌・福住中） 福地　正巳（釧路・東富中） 上野　貞三（和歌山・城東中）
中 6		伝達		早田　輝彦（札幌・新川中）	米谷　哲夫（札幌・新琴似中）	新谷　崎輔（札幌市教委） 鷹野　英雄（室蘭・東中）
中 7		工芸		加藤五十和（札幌・北区中） 渡野　宏（宗像・　　）	魚　善二（札幌・札幌中）	三谷　哲司（札幌・琴中） 大谷　博義（上川教育局） 魚村　義一（高知・大月中）
高大	北高校		青年期における創造性を育成する美術工芸教育	渡辺　芳夫（北見・白樺高） 岡沢　英明（釧路・北陽高） 鈴木　吾郎（石狩・樂山高） 野崎　義男（岩見沢・岩大附高） 海谷　初治（函館・東高） 竹内　正治（東京・大附高）	笠原　晴生（留萌・留萌高） 中村　矢一（札幌・月寒高）	北村　四郎（小樽・桜陽高） 吉田　徹（東京・駒場高） 向坂　一弥（東京・西高）
			美術教育養成についての諸問題	全国大学美術教育教員養成課程協議会事務局	村上　晩郎（武蔵野美大）	全国大学美術教育教員養成課程協議会役員

10. 授業者

校種	領域	授業者
幼稚園	山の手	横沢由美子・幾島多美枝 高橋　博
	中の島	小山内利遙子・莉野　智子 芝木　捷子
	大通	林　摩里子・山本　容子 石井　雅子
保育所	白石	全員公開
	光華	全員公開

校種	会場		授業者
小学校	羊ヶ丘小学校	絵・版	羊ヶ丘小学校全学年 公開
		絵画	毛馬内国夫(月寒東小) 日高　晴美(しらかば台小) 高杉　正和(新川中央小) 古瀬　正敏(栄東小) 山崎　裕子(南月寒小) 河野　暁見(真駒内南小)
		デザイン	佐藤　靖(琴似小)
		彫塑	富田　泰(南月寒小)
		工作	長津　喜代(伏見小) 伊藤　暢紀(附小)

校種	領域		授業者
小学校	東山小学校	絵画	能山瑳規子(中の島小) 坂口　清一(東山小) 板田　仏恭(東山小)
		デザイン	谷　勲(真駒内緑小)
		版画	葛西　良子(札苗小)
		彫塑	花田　正雄(幌東小) 伊藤　寿郎(西野小)
		工	白井　圀毅(豊水小) 山本金次郎(元町北小) 芝木　秀昭(東光小)
		作	亀田　寿子・筒井　真三 石川　勝男・葛西秀四郎 藪田正美・吉成孝志(東山小)

校種	会場		授業者
中学校	向陵中学校	絵画 印象	大橋　郁夫(清田中) 前田　哲雄(陵陽中)
		絵画 構想	山本　国夫(もみじ台中) 寺島　文憲
		彫塑 彫刻	香取　正人(啓明中) 山田　礼二(柏中)
		彫塑 塑造	武田　郁代(藻岩中) 広沢　正俊(みずまい中)
		デザイン 使用	土居　洋公(手稲東中) 多田　紘一(西陵中)
		デザイン 伝達	田口　哲(新琴似北中) 三島和加子(新琴似中)
		工作 材～用	田中　潤(北栄中)
		工作 用～材	竹村　五郎(美香保中)

第28回　函館大会

日時　一九七七年　七月二十八・二十九日

会場　函館市立西小学校
　　函館市立西中学校

主題　「すべての子どもが生き生きととりくむ造形学習」

- ●喜びや意欲がわいてくる造形学習
- ●ひとりひとりがくいついていける造形学習
- ●ひとりひとりに成功感を味わわせる造形学習
- ●ひとりひとりの子どもの造形能力を伸ばす造形学習

1、研究の推移

○函館市美術教育研究会の基本テーマ
「ひとりひとりの創造的表現力を伸ばす造形教育」

○研究テーマについて

造形教育のねらいは、人格の完成を目指す教育の一環として、見て、描いて、考えて作る諸活動を通し、ひとりひとりの児童生徒の美的感覚や構想力を養い、計画性を高め、造形技能を拡充し、人間理解や日本文化の理解、国際理解を深める等のところにあるが、中でも最も重要なねらいを、概念的、画一的な見方や感じ方、描き方、作り方を排し、個性的、創造的な造形能力を育成することにおいている。

この「造形的表現力の育成」が、この教科の中心的な研究主題に据えられてすでに三十年を経て幾多のすぐれた実践や研究が各地で積み重ねられてきているが、時代の進展や社社の変動、それに研究の発展にともなって、課題はなお新たである。

ことに、最近の研究の反省として、研究に子どもをはめ込む傾向が強くなり、もう一度子どもをみつめた研究に戻るべきであるということがいわれている。

また、学習指導上の問題として、最近は「落ちこぼれのない授業」「すべての子どもに学習のよろこびを」などのテーマで教育の方向を求めつつある。

個性の伸長とか、創造性の育成とかは、もともとひとりひとりに即したものであるが、いま一度、学級のすべての子どもに指導が行き届き、学習の基礎や基本が身について、自信に満ちた造形活動がなされ、どの子も学習のよろこびを味わっているかどうか、この機会にふりかえってみたい。

前記テーマは昭和五十年度に設定され、研究内容を次のように定めた。

(1) 領域目標を見定め、教材を基本的なものと発展的なものに精選する。(目標の明確化・教材の精選)

(2) 子どもひとりひとりの問題に応じて、育てる手だてをくふうする。(指導プログラム、学習プログラム)

(3) 子どもひとりひとりの学習のスピード、学習コースに応じて、授業の展開をくふうする。(指導の個別化)

右記の三項目とも日常の学習展開に欠くべからざるものという認識の上にたって研究を進めているが、どの項目も長期的に積み上げていかなければならないと考えている。

昨年の全国大会テーマであり全道造形連盟のテーマでもある「みずみずしい中味で、しなやかな子どもを育てる造形実践」とも関連づけ、函館市の基本テーマを中味に加えて、大会テーマを設定した。なお、大会において目指したいものについては、分科会で十分ご討議ねがい、今後の函館市美術教育研究に大いなるご助言を残していただきたい。

2、渡島・桧山の協力を得えて

開催地は函館市がお引受けしたものの、道南三地区は、各種研究集会で同一の場を設定することがよくあり今回も大会開催については、渡島・桧山から快よく提言その他について協力していただいた。

全道的視野にたてば、当然全道各地からその任をお願いしたいところでしたが、函館大会も三回目を迎え、今回は三地区の意気を示したいというささやかな望みを満たさしていただいた。

改めて渡島・桧山の研究会の皆様に感謝申し上げる。

加えて、各地からの司会者が、これも即刻快諾いただいたことも感謝したい。

大会の経過

札幌大会のあとおうけて第28回大会が函館で開催された。

函館でこの大会が開かれるのは過去第4回（昭29）第17回（昭42）に次いで今回が3回目である。昭和51年にこの大会が函館で開催されることに決まり、函館市美術教育研究会が渡島美術教育研究会と桧山造形教育研究会と連携をとりながら計画をすすめることになった。

函館では、この春退任された**乙部幸吉**会長（現大谷短大講師）が中心となって昭和51年度から準備に着手した。先ず仲間の結束と研究の積み重ねが図られた。毎月の研究例会のほかに研究推進委員会が設置され、研究の方向が討議され、**テーマ**は「**ひとりひとりの創造的表現力を伸ばす造形教育**」ときまった。

これは、個々の子どもの生育歴の違い、能力差を肯定し、より高い次元へ引き上げていくことであり、どの子にも学習を成立させようとするものであった。

子ども達ひとりひとりが、よりよく意図し、工夫し、実現しようとする意欲を喚起する教師の働きかけが課題となった。みんながこのテーマの意義を理解するまでには多くの時間を要した。能力差が多様な子ども達の授業を担当している私達の日常実践と距りがあまりに大きく「本当にどの子にも学習を成立させることなんて出来るのか？」「速さの差、質の差をどうするのか？」「授業時間内で完成できず未完成のままで家へ持ち帰って、次の題材へ進む子ども達のいる現状から、どの子にも完成の喜びを味わわせることができるのか？」このテーマを検討していく中で様々な問題が出された。

しかし憲法、教育基本法の精神とこのテーマは完全にマッチし、全道の仲間に提示してもみんなが納得し、共に研究できる方向と信じ、これの実現にむけて具体的な研究へ発展する。函館市美術教育研究会に加盟する100名の会員が小、中学校別に絵画、彫塑、デザイン、工作工芸、鑑賞の5領域のグループにわかれテーマに沿った授業研究が始まった。折しも組合教研では「すべての子どもに行き届いた学習を」文部省、道教委は「基礎学力の充実、人間性豊かな子どもの育成」を標ぼうし、私達の研究の方向が裏打ちされたのである。

さてグループ毎の**授業研究**は順次実施されていったが、大会授業者が決まるに至って活発となる。「その時間の学習のねらいに応じた条件を与えることによって子ども達の学習課題の把あくが容易になる」「教師の用意する学習資料の提示のしかたによってどの子も次への発展が容易になる」などの実践が積み上げられていった。「落ちこぼれは止むを得ない」現実から「どの子にも学習を成立させることができる」という学習が出てきた。大きな目標と個々の子どもの多様な能力差をおさえ、個々の能力がより高められて学習が成立していく。

一方、授業研究と並行して函館市基準カリュキュラムの検討と教材精選の作業が進められた。大会当日の授業者、提言者等がきまり、いよいよ当日までの準備に追込まれる。

会場校が西小・西中学校にきまり大会日程も確定した。両校とも市の西端に位置し、函館の街の最初に開かれた所で、近年学校統廃合でできた最新の校舎をもち、函館港を一望に見下す風光明眉な地に立つ。ドック会社から長くのびる防波堤のかなたに秀峰駒が岳が望まれ、全道からの仲間を迎えるのに最適と

両校に会場をお願いし快諾を得た。

昭和52年度後半から**大会事務局**が発足、大会運営について物心両面にわたる諸準備がすすめられた。事務局は美研幹事長と各部の部長で構成し、総務、企画、渉外を担当し、その下に授業と提言に関して**研究部**、作品展示と児童生徒輸送をうけもつ**事業部**、会場設営と接待を**会場部**、案内と受付を**庶務部**、記録と速報を**記録部**、経理の**会計部**と設けて、きめ細かな準備をすすめてきた。

渡島、桧山との連携は連絡会議の時間設定や文通の便、旅費等の制約をうけて深めることができず、僅かに提言者、司会者連絡会議を開催したにとどまった。毎日の授業のあとに会議が重ねられていった。**大会案内状**が完成し、道内各市町村教委宛に管内小・中学校分の配布をお願いして郵送、札幌など市単位で連盟役員に配布をお願いできるところはそこへ郵送した。いざ最低の郵送料で全道くまなく配布しようとするとむずかしいものである。

昭和53年4月大会運営委員長に**越田一喜**(函館市美術教育研究会長・上湯川小長)が就任。渡島教育局と函館市教委へ後援要請と補助金申請の手続きをし快諾を得る。なお、道連盟よりも主要メンバーが来函され各方面にあいさつまわりを頂き力強い。

7月28日**大会第1日目**。微風快晴の絶好の日和に恵まれ、この日を待って準備を進めてきた運営本部のスタッフは早朝から会場に待機。続々とつめかける全道の仲間を迎えた。会場のあちこちで「おゝ」「やあ」と再会を喜びあう、この大会ならではの光景がみられた。9時に**開会式**が始まり、道連盟委員長より本大会の意義が格調高く述べられ、続いて大会運営委員長より歓迎のあいさつがあって、9時30分より授業参観へ移った。教室には市内各校からバスで到着した子ども達が授業開始を待っている。**授業公開**と**分科会**のようすは、速報部がとらえた参会者の声から次に紹介する。

△**幼稚園**「大変楽しい保育で子ども達が生き生きと活動していたのが印象的でした。会場が変わると子ども達が落着かないものですが、それをカバーする先生方の助言と環境の素晴らしさが良い結果を生み出したのではないか。フロアの先生方の発言がもっと欲しいと思います。」「幼稚園の公開保育を見て船の作り方だけをとり上げても、すばらしいものが出来ていると感じました。函館という海に接している地域の子どもにとっては、船や海の生き物の作品に無理がなく素直な気持ちで作られていて大変うれしい学習でした。」「これまで幾度か保育参観を経験していますが、今回のように総合的なねらいのもとで、またクラス合同保育を参観したのは初めてで、保育の無限の広がりを改めて感じました。子ども達の表情も大変すばらしく、遊びに参加している姿は躍動的でありました。私の保育園でも今回のようなダイナミックさを取り入れたいと思っています。」△**小学校低学年デザイン**「浦野先生の授業『ＵＦＯのそうじゅう』を参観してデザイン学習の鑑賞の場面で、子ども達がこんなにも生き生きと楽しく自己主張している姿には驚いた。それだけに材料に取組んでがんばっている製作過程も見られたら……という思いももった。デザイン部会は人数こそ少なかったが、子どもを中心とした実践に基づいた本音の話合いがなされ、総花的に流れなかったのがとても良かったと思う。松原髭両先生の提言も大会テーマをふまえ気どりのない人柄と態度に好感がもてた。」△**小学校中学年工作**「教室からはみ出す造形、子どもの生活にダイナミックにかかわっていく造形など観点が広がってきたことは喜ばしい限

りです。広がりと深まりの造形教育の話合いの中でしっかりした教師の意図をもってきびしい展開を期待する。」「ねん土を前に生き生きした児童のまなこ 早く作品を仕上げたい。そんな空気が教室にみなぎっていました。授業された本川先生のご苦労が報いられた。△**小学校高学年絵画**「和紙を使っての絵画指導を参観し、まず先生の熱心さに心打たれました。柔かい筆の感触、にじみのおもしろさなど、これからの研究実践に大いに参考になりました。」△**中学校彫塑**「多い人数とは言えないが他の分科会が終っても最後まで、彫塑指導は如何にあるべきかの原点を探っていく。

抽象的なまとめにならざるを得ないが、題材、材料、時数、教師の姿勢について熱心な意見発表が続く。特に教師自身のエネルギーの蓄積、さらに変革を目指そうとする姿勢、子どもから学んでいこうとする心、明日からの実践の糧となるものをつかんだ。旭川の先生方多数の参加は来年の29回大会へむけての意欲的な着実な歩みと熱意。心より敬意を表す。△**中学校工芸**「参加者は16名と少ないが熱のある討議が続く。まず授業を中心とした話合い。その中で子どもの創る喜びが参加者の肌に感じられる。すばらしい授業、すばらしい参加者に感銘しました。」△**高校**「授業研究がないのがさびしい。参加者の少ないのも残念。でも今年も遠方から参加してくれた。お母さん方の接待が親切。

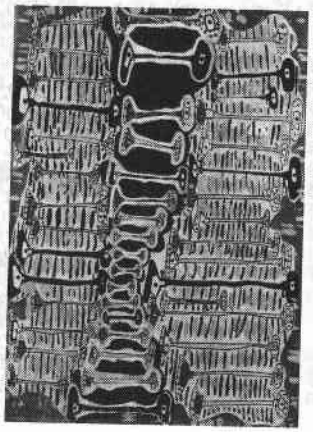
会場の設定など心にくい気の配り方である。来年はとに角、参加者をひとりでも多くするよう工夫したい。」△**全搬にわたって**「いつもながら本大会は子どものなまの姿と作品を通して話合うことから、さまざまの豊かな経験の上に立った先生方の貴重なご意見をきかせて頂きうれしく思いました。」「大会を盛り上げる底力は連盟所属の全員の中から生まれ出るのだと思うが、その項点は毎年その開催地の活動家が担っていることは事実である。本大会は新しく投げかけられている指導要領の改訂を控えてその程行途上の対策として苦心のあとがうかがわれ、いつしか心の緊張を覚える。どの先生も皆グッ！と考え込んでいるのではないだろうか。頼もしい限りです。函館の先生どうもありがとうございます。」

大会第1日目の夜、函館駅前拓銀ビル五嶋軒で恒例の**レセプション**が開かれた。渡島教育局、函館市教委からもご来席をいただき参加数100有余、連盟の面々はもとより、教材業者からも余興やスピーチが飛び出しなごやかな会となった。参考までに会費は二、〇〇〇円だが中味はもっと濃いものになった。

大会第2日目は朝から「実技研究コーナー」と銘打って、新しい造形材料の展示見学と各メーカーによる実技研修に1時間を充てた。参加者は明日からの授業を思い浮かべながら次々と会場を巡り、説明に耳を傾ける。10時より西小全体会場で**記念講演**。**講師西田秀雄氏**は大正2年札幌に生まれ、昭和8年函館師範卒。小学校教員を経て現在京都市在住、京都大学美術教育学会理事。氏の卓越した児童観は美術教育実践の上にも存分に発揮され、我が国児童画教育の先駆者としても名高い。「写生画の指導でくわしく見なさいと言うが、くわしく見ることが美への心を開くことになる。」「一生懸命、下手にかきなさい。」という指導のお話など会場の聴衆を魅了した。**シンボルマーク**は田辺康夫（渡島・大沼中）のデザインで第28回と全道造形のＺＺ、それに函館港の形を円の中にまとめたもの。**速報**は3名のスタッフで取材から発行までを手がけ7号まで出した。ファックスという便利な機械を使っても短時間で次々と書き上げなければならず、指先の感覚がなくなるまで奮戦した。

接待は会場校のＰＴＡのお母さん方が快くひきうけてくださり、氷を入れた麦茶を準備、暑さの折からセルフサービスコーナーは大いに利用された。**宿泊関係**は一切を旅行業者に委託したため事務局はとても助かったが、一部の利用者から「部屋割が窮屈だった」という苦情が寄せられ、やはり担当者を決めておくべきであったと反省している。**経理**面では前回の経験から約800の参加を見込んで諸準備を進めてきたがいざふたをあけてみると400程の参加数で苦労した。結局、道連盟の援助と広告料でなんとか切り抜けた。受入れ態勢や運営面で不行届もあったかと思うが、多くの方々の善意と熱意に支えられて第28回函館大会は終了した。

〈文責　金谷　彊〉



＝特設公開授業＝

学年	領域	題材名	授業者	学校
4歳	総合製作	海底であそぼう	武内信子	函館幼稚園
5歳			松井智美	函館幼稚園
小2	彫塑	あそんでいる友だちをつくろう	佐藤良紀	函館市立本通小学校
小2	デザイン	ＵＦＯのそうじゅうし	浦野喜美江	〃　弥生小学校
小3	絵画	りゅうのお話をかこう	石垣由美子	〃　上湯川小学校
小4	デザイン	ゴロゴロ人間	村国寿英	〃　大森小学校
小4	工作	楽しいかざりのついた風りん	本川陽子	〃　金堀小学校
小6	絵画	お話の絵（つる）	角谷聖子	〃　亀田小学校
中1	絵画	友だちの姿	佐野忠男	〃　湯川中学校
中1	デザイン	私のすきなものは	岡沢邦彦	〃　西中学校
中2	彫塑	友だちの顔をつくる	隅田重明	〃　桐花中学校
中2	工芸	オカリナの制作	近藤貢	〃　的場中学校

＝分科会＝

部会部	提言者 函館	提言者 渡島	提言者 桧山	部会テーマ	司会者
幼年部会4歳		菅原睦子（知内幼稚園）		●ひとりひとりの子どもの造形能力を伸ばす造形学習 ●ひとりひとりに成功感を味わわせる造形学習 ●ひとりひとりがくいついていける造形学習 ●喜びや意欲がわいてくる造形学習	加藤桂子（吉岡幼稚園）
幼年部会5歳		浅田明子（吉岡幼稚園）			斉藤幸子（函館幼稚園）
低学年彫塑	手代木惇（附属小）	渡島提言			徳田幸次郎（苫小牧若草小）
低学年デザイン	松原望（附属小）	髭和子（大野萩野小）			八木橋哲郎（渡島峠下小）
中学年絵画	鎌田還之助（亀田小）	須川マリ子（鹿部鹿部小）			能山瑳規子（札幌中の島小）
中学年デザイン	石井久（弥生小）		堀合隆（上ノ国小）		志津照男（後志泊小）
中学年工作	鈴木正夫（鍛神小）		中川真一郎（江差小）		狩野鉄夫（網走佐呂間小）
高学年絵画	山谷礼司（本通小）	岩島寿光（大野市渡小）			中坪市郎（室蘭大和小）
中学絵画	竹端誠二（湯川中）	戸次正義（七飯峠下中）			稲船正男（釧路景雲中）
中学デザイン	進土継昭（西中）	高田修一（木古内木古内中）			三浦敏勝（桧山湯ノ岱中）
中学彫塑	藤井昭夫（附属中）	阿部隆（鹿部鹿部中）			的場卓（三笠市幾春別中）
中学工芸	伊藤英実（五稜中）				新飯田覚（旭川神威中）
高校部会	外山欽平（函館大谷）	梅谷利治（函館東高）	笹島敏明（留辺蘂高） 横山和郎（江差高）	高校美術教育を考える	米谷京太（函商高） 早川昌利（八雲高）

提言 ――（幼稚園）――

5歳児の特性をふまえた絵画の領域における造形活動の指導はどうしたらよいか

――概念的な絵を描く幼児の原因とその対策――

上磯郡知内町立知内幼稚園
菅原睦子

Ⅰ 主題設定の理由

本園の園児の実態からみて、絵画製作の活動において標準的な表現をすることが困難な幼児がいるのが実情である。自由画を描いているのをみても、男児女児ともマンガ的で、顔には首がなく、手は顔から出ていて、指もない。男児は人を描いてもマンガのロボット的なものが多い。

元来、絵は模倣や繰り返しではなく、創造的でなくてはならない。概念画は悪いものとして見られているが、幼児期のそれは成長過程の一コマであり、いちがいに悪いとは言いきれず、また簡単に切り捨てられないものであろう。ただその概念画を長期にわたり固定されたものにすることは問題であると考える。

このようなことから、幼児期における創造性の啓発は極めて重要であるため、特に造形の分野から切り込んでいくこととし研究の主題を設定した。

Ⅱ 実践内容

1、研究計画（実践計画）

○第一学期

① 造形活動とは何か

② 造形活動における幼児の特性

③ 概念画的な絵を描く幼児の成長・発達段階を把握するとともに、それらの幼児の診断書を作成する。

④ 効果的な指導法のあり方を追求する。

○第二学期

① 概念画を描く原因を調べる。

・家族、特に絵に対する考え方・見方・材料の与え方

・教師の導入の仕方

・友達のえいきょう

・絵画歴及び生活歴

② 絵の実践例をもとに今後の指導方法を考える。

○第三学期

・評価のあり方について

・研究のまとめ

・今後の対策及び指導のあり方

・他の題材を用いての研究

2、指導事例

○題材「なわとび」（観察画）

① 題材設定の理由

なわとびは、手足、髪の毛、なわなどにはっきりした動きがあり、そのものをしているという感じをどのように表現するかをみるのに適していると考えた。

② 指導のねらい

・第一回目　これから絵を描くのだという意識をもたせることなく、ただなわとびをしている様子を見ながら、いろいろな点に気付いたことを話し合わせ、絵を描くという意識をもたずに描く絵は、どのようなものであるかを知る。

・第二回目　一回目に描いた絵を見ながら話し合いをし、気付いてないことなどを助言しながら、もう一度なわとびをしている絵を描く。

③ 評価の観点

・第一回目　第二回目の指導のねらいを変えたことにより、子どもの絵に変化が見られたか。

・変化が見られたとしたらどの点か。

・概念画を描く子どもの絵はどうであったか。

④ 指導の結果

○第一回目

・友達の絵を模倣することが多かった。手は真横又は下で、なわだけ上に上がっている絵が多い。

・色彩やスタイルに気をとられている絵が多い。

○第二回目

・手足、髪の毛、なわとびに動きが現われてきて、飛んでいるという感じを受ける絵が多くなった。

・一回目より堂々と、画用紙いっぱいに描いている絵が目立った。

・正面から見た足の表現が出来ないため、足が極端に短かくなっている。

○評　価

①絵を描くのだという意識をもたせて描かせた絵と、もたせないで描かせた絵には担当絵を描き方が変わっている。

②手足の表現に一番難点がある。

③髪の毛、スカートの表現に変化がみられた。

④概念的な絵を描く子は一、二回目共絵に変化が見られない。

Ⅲ 研究実践結果の考察と今後の課題

・教師の導入の仕方、助言等によって幼児の表現活動にえいきょうを与えることが実証されたと判断する。

・作ること、描くことへの興味や関心、意欲をもたせるような指導の方法を工夫することが最も効果的である。

・概念的な絵を描くと見られる幼児の特徴から言えることは、内向的な子が多く、行動、言語などにおいても幼稚さが目立つ。

・今後の課題

これまでの実践を基礎として、今後はウサギ、カメ等の小動物にさわったりなでたりしながら、遊びの中で充分観察させ、その動きや特徴等をどのようにしてとらえ、どのように表現するかを見るという計画を立案していくこととし、更に概念画を描く幼児については、結果の考察で指摘した点を、幼児の理解を深める中で十分指導をしていかねばならないと考える。

提言――（低学年彫塑）

喜びや意欲をもって立体表現する子ども

北海道教育大学附属函館小学校
手代木　惇

Ⅰ　テーマ設定の理由

自然の中に、子どもたちが、自由に使えるものが少なくなってきている。彫塑学習面からみてみると、特に、その感が強い。自然の材料を自由奔放に使わせてみたいと思う。低学年においては、全身を使い、全感覚を通して、活動が行われる。かれらの全身すべての感覚を激しくゆさぶる材料が身近に手に入らないとなれば、造形する喜びや意欲をもって活動できないのは当然だろう。自らが見つけたものを使って、自ら活動するときこそ、かれらにとって喜びをもった活動といえるし、意欲も生まれよう。

本来、どの子も、「する存在」(近藤正樹氏)としてとらえられ、いろいろな場面に出会った時に、自らが、取り組もうとする心をもち、解決していこうとする。

入学したばかりの1年生に、「ねんどあそび」をさせた。ほとんどの子どもは楽しそうに、はじめは、粘土を「まるめたり」「ちぎったり」「のばしたり」するうちに、人、動物、くだものの形が作られていく。しかし、何人かは、おそるおそる何かきたないものでも触わるかのようにしている子、また作るもののイメージをもっているが作れない子、イメージが希薄な子がいて、表現しようとする喜びや意欲が感じられない様相を示していた。

そのような現状をみるにつけ、すべての子が、喜びや意欲をもって取り組み、立体表現ができるようにするために、どのようなことが準備され、展開されていくのがよいかをこれまでの実践を通したことから考えてみたい。

Ⅱ　研究の経過

これまで、わたしたちは、彫塑学習の本質をふまえながら「教材の精選」や「ひとりひとりの造形的表現力」などについて、実践し、理論研究してきた。

本年度は、それらの研究を基盤にして、より高い次元へと進めるために、テーマを設定した。その具体的な研究内容については、次の通りである。

1、学習目標や学習内容から考える。
　①　創造力、想像力の育成のための手だて
　②　立体感（空間感）の育成のための手だて
　③　教える内容と育てる内容とその構造化
　④　題材設定までの手順
2、学習過程から考える。
　①　造形的思考の違い
　②　表現の遅速の違い
　③　学習の動機、準備性の違い
　④　生活経験の広狭、深浅の違い
3、学習指導方法から考える。
　①　主題提示のしかた
　②　資料作りとその提示のしかた
　③　助言のあり方
4、材料、用具の扱いから考える。
　①　準備、あとしまつのしつけ
　②　材料集め
5、その他

≪立体（対象物）を知り、立体的に表現する≫彫塑学習では、その対象物のもつ特徴や感じを、子ども自らが肌でとらえようとするところに意味があり、立体感としての量感、均衡、比例、動勢などは、結果的に見つけることができればよい。従って手順としては、例えば、量感を表すのは、素材（対象物）を集める→集めたものを提示する→提示したものを見る（知る）→その素材のもつ形体の特徴が造形原理と結びつく、ということは有効である。つまり「すきなものをねんどでつくろう」のときには「すきなもの」は、その形を「知っているもの」と考えることができるからである。

無機物である粘土や石などが、子どもの手によって、世界に唯ひとつの、かけがえのないものに変わるためには、作ろうとするかれらに感動した心がなければならない。いいかえれば主体的に、粘土や石にはたらきかけていく心が必要である。例えば、「ともだちやせんせいのかおをあつめよう」では、集めた石に、「○○ちゃんのようになあれ」といいながら、「泣かせたり」「笑わせたり」「おこらせたり」するように助言する。ここから従来は「わらっているともだち」であったものが、「ねんどをわらわせよう」という発想の転換がみられる。

子どもの創造性は、粘土や石などの材料に、直接的に触れたときに、急速に発現される。ここに、われわれの願う、子どもが意欲的に喜んでいる学習が成立つ。

日常の忙しさに流されがちであるが、きょうの日の話し合いをたいせつにし、次の実践の一歩としたい。

Ⅲ　授業への期待

学校生活にも慣れてきた2年生を対象に、「動きのある人物表現」をさせたいという授業者の意図は、子どもの立体的表現力を、より高めたいと願う気持のあらわれと思う。運動して遊んだ体験が、全身を使い、すべての感覚を通して、粘土にはたらきかけていく中に、生命感のある、躍動的な人物像が誕生することであろう。

大会シンボルマークについて

- 考案者（渡島大沼中教諭　　田辺康夫）
- 第28回の２と８を中央に重ね
- 全道のＺ（ゼット）造形のＺ（ゼット）を中央に
- 函館の街の形（巴）を表わし
- 海と陸とにわけている。

提言――（低学年デザイン）

子どもの造形学習を意欲的にさせるために

北海道教育大学附属函館小学校
松原　望

Ⅰ　テーマ設定の理由

教師は、日常の教育実践の中で、ものを作るという活動が人間本来の欲求であり、子どもは当然その欲求に満ち満ちているものと考えて、指導を進めている場合が多い。それ故に、興味なさそうに半ば義務的に手を動かしている子がいたり、図工の学習を好きじゃないと言う子がいたりすると、教師は解決の手だてに困惑してしまう。これらの多くは、子どもの意欲にかかわっている問題と考える。子どもたちの目がかがやき、意欲的に取り組んでいる時は、教師の助言は多くを要しないし、子どもは自分のうちにあることを喜んでいさえする。このように子どもたちに作りたいという意欲をもたせるには、どのようにしたらいいのかを考えてみたい。

Ⅱ　研究の経過

子どもを意欲的に活動させるための方策については、種々あるだろう。しかし、1つの方法のみが全ての解決にはならない。私どもは、子どもが今よりさらに意欲をもって取り組んでほしいという願いをもって、研究を進めてきた。その視点は次の通りである。

1、子どもが、造形活動に興味や欲求をもっているか。

これは、子供に欲求が存在するかどうかという最も基本的な問題で、無いから与え得るという性質のものではない。しかし、教師の配慮によって、徐々に興味をもたせていくことは可能だろう。

(1)　子どもに、うまく表現できたという成功感を味わわせる。―　既習経験が生かされた題材など

(2)　友だちや教師から認められているというあたたかい学級の風土をつくる。

2、子どもの興味を起こす学習が計画されているか。

(1)　子どもの興味をそそる題材を用意する。―　子どもの生活と題材、幅のある活動内容など

(2)　子どもが喜んで作っていく学習過程を用意する。―　子どものもちあじ、学習過程の節など

(3)　新しい認識の導入がはかられ、しかも子どもの必要を満たしている学習内容である。

3、子ども自身が自分の力を知り、自分のものを大切にしようと努力しているか。

(1)　自分のもちあじや作品について自己評価できるようにする。―　好きなところ、表現の違いなど

(2)　作品を日常から大切にする。―　生活の中に生かされる題材、評価のしかた、掲示のしかたなど

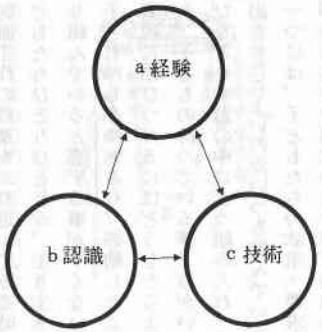
4、子どもが何をどのように作りたいかを明確に決めることができるか。

(1)　子どものイメージを具体化させる手順が考えられている。

(2)　教師は、子どもの実態を知り、その題材を定着させるための工夫をする。

●造形学習を　a子どもの過去の経験　b新しい認識の導入　c材料処理の技術の3点から考えてみると、学習過程は1つのパターンだけによるのではなく、子どもの

既習経験と照し合わせて、興味をもたせ、無理なく目標に向かう方策が必要になろう。



例えば　a経験　→　b認識　→　c技術の流れを考えてみると頭の中のイメージを観察によってより確かなものとし、表現するという過程になる。

c技術　→　a経験　→　b認識　の流れでは、材料や用具と遊ぶうちに、何を作りたいかの想を広げ、新しい認識によって、より強固なものとして表現される。

5、子どもに、困難があっても、のり越えて作っていこうとする根気強さがあるか。

平易な学習は、一時は成功感を味わわせることができても、それがいつも続く場合、子どもにとって喜びでなくなってくる。ある程度困難をおぼえながらもそれに打ち勝った時、子どもにとって本当の喜びであり、身についた力となる。

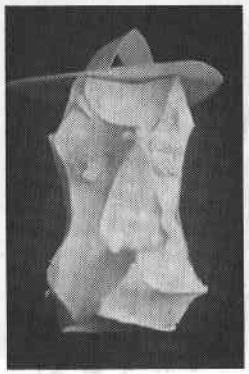
(1)　子ども自身の努力によって、乗り越えることのできる条件を、学習の中に設定する。

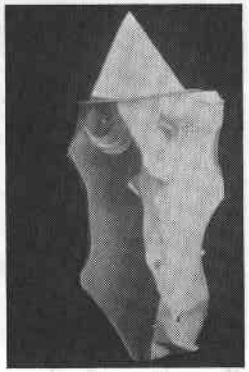
(2)　ひとりひとりの子どもに適した条件を考える。

以上、5つの視点からデザインとのかかわりの中で造形学習をみてきたが、1つの題材でこれら全部が満足されるのではなく、少しでもこの視点に近づけようとする試みであった。

Ⅲ　授業への期待

新学習指導要領にみられるように「デザイン」領域は整理統合された。これは造形活動そのものが、細分化された領域を手がかりに行われるのではなく、総合的な活動であることを意味している。本時の公開授業についても、従来考えられてきた「デザイン」が、子どもたちが身を飾るものをつくるという活動をする中に含まれるものとして考えを進めてきた。したがって、領域論に立つのではなく、子どもの立場からいかに活動を進めているかをご覧いただきたいと考えている。





提言――（中学年工作）

すべての子どもが とりくめる造形活動

――総合的な造形学習について――

江差町立江差小学校
中川 真一郎

Ⅰ テーマ設定について

1、はじめに

図画工作の授業をふり返ってみる時、子どもたちひとりひとりが、生き生きと取り組んでいると感ずる事がすくない。

子どもの心をゆさぶり、感動したことを表現に結びつけるにはどうしたらよいのか。子どもの持っている夢、ねがい、喜びなどを学習の中にどう組み入れ、生み出させたらよいのかいつも悩んでいる。

一つには、子どもたちの欲求・要求と教師のねらいや追求のさせ方、活動の内容と一致しない場合にも原因があるように思われる。

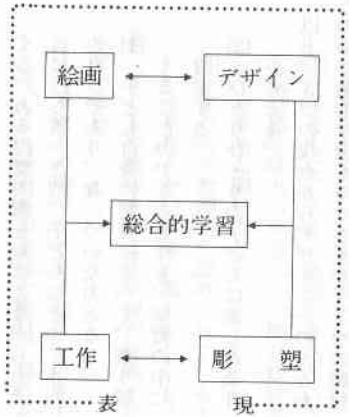
子どもたちが「～してみたい」「～できたらいいなー」という願いから、「できた」「がんばった」と言う成功感、満足感を味わった時、新たな造形意欲に結びついていくものだと思う。

2、総合的な造形学習がねらうもの

総合的な造形学習については、ことさら新しい言葉ではなく、いろいろ実践されてきている。

ただ、今までの表現活動では「絵画」、「工作」「デザイン」など一つの領域を主に指導される場合が多かったし、無理に領域に入れていたような所もあった。

総合的な造形学習では他の領域と意図的に関連させて、学習してみる。このことによって、造形活動がもっと、はばのある子どもの側に立った学習が可能になってくると思われる。



この学習のねらいは、

- ●「ぼくだってできるぞ」という意欲
- ●「ぼくの考えはこうなんだ」という実践力
- ●「やってよかった」という楽しさや満足感etc

体を動かしのびのびと活動し自分の能力にあった仕事を全体の中でできるようにすることである。また、失敗や成功ではなく、ひとりひとりが「何をしたのか」「何かできたのか」という面を大切にすることでもある。

Ⅱ 実践してみたこと

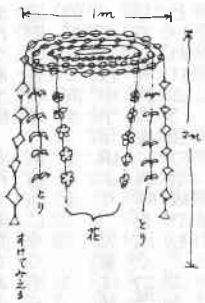
総合的な造形活動は、単におたのしみ会、祭りなど行事やフェスティバル的な活動、体育的な面、音楽的な内容と一緒に行なうだけにとどまることなく、もっと色々な形で授業が行なわれるべきであると思っている。

1、実　践

① ぼくたちのかざり

1つの学年や個人だけにとどまらず、学年をはずして大きな造形活動を行なう。

1年……とり
2年……花



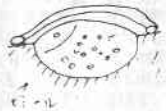
高学年…まわりのかざりみんなでつくったものを持ちより大きなつるすかざりを作る。

〈デザイン〉
↔ 関連
〈工　作〉

② うかべてあそぼう

「うかべてあそぶ」はだれもが実践していることだろうと思う。ただ作ったもので遊ぶだけでなく遊ぶ場所（プール）も作るのである。土をほり、ビニールに耐水性の絵具で絵をかき下にひきプールを作る。自分たちの作ったプールで、うかぶものをうかべ遊ぶ。

〈工　作〉↔〈絵　画〉関連

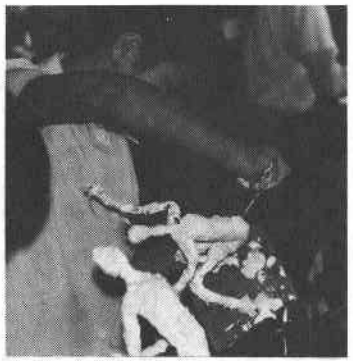


Ⅲ 今後の問題について

総合的な造形学習が造形活動の全てではなく、これだけで十分だとも思っていない。「絵画」「工作」などの表現活動で、欠けている面を補ったり、深めたりする学習でもある。

新指導要領では、総合的な造形活動を低学年で重視している。しかし、高学年や中学年でも配慮しなければならない。また、学習の場は、教室だけでなく、校内でも広いスペースが必要になり、室外においても、造形のための広場などがほしくなる。そして、もっと自然（林、森、川、海など）に適応した造形活動が考えられるべきだと思っている。

総合的な造形学習が、内容的に整理、措置された学校の指導計画にきちんと位置づけられる時、また新たな造形活動が期待できるのではないだろうか。



提言 ――（高学年絵画）――

より豊かな表現をめざして

――単色木版画の実践――

大野町立市渡小学校
岩島寿光

Ⅰ テーマ設定の理由

1、傾向性より

市渡は、函館の北約20kmに位置する純農村地帯である。児童は、田や田野に囲まれた風土柄、温和で素直である。また、造形的表現は、創造性にやや劣るが比較的好んで向かってくる。

小学校中学年頃より、児童は傾向性として写実的表現に興味を注ぐ（擬写実期）といわれる。私の学級でも、こうした傾向が強いようである。また、序々に、意図するところとそぐわないところから苦手意識を持ち始める児童も時折出る。

2、指導の方途を求めて

こうした児童の意図を授業を通した製作過程の中で、単元の幾つかの行動目標を設定することにより、ひとりひとりが目当て向かうことのできるようにし、その各々の目標に対して適切な評価を与えることで、経過の中での成功感とそれが完成時における成功感に結びつくのではと考え実践している。

3、実践の問題と方向

現実の問題として、適切な行動目標が、様々な要因を入れる中で、少しずつ、或いは大きく変えられてきたことや、評価の中で、児童が教師以上に高いねらいを持つことで満足できないこともあるが、子供の造形的意識の高まりを評価することを大切にしている。そして、例年、版画に取り組む中で、反省を重ねながら、2で前述した事を基底にし、子供達が真に喜びを感じえる造形的表現をさせていきたいと望んでいる。

Ⅱ 実践の経過と反省

① 「版画文集の製作」―5年―

生活の喜びや感動的物語の作文、感想文をもとに国語と関連させ実践した。文集にするという目的を持った子供達は「先生できるまで続けてやろう！」と言いながら、休み時間まで利用する。

ひとりひとりが50枚づつ印刷する、そして「前の担任の先生に配ろう！」という。終始意欲的取組み私自身圧倒される思いであった。こうした始めての取組みの中で、題材が個々異なるため、ひとりひとり、主題から画面構成、デッサン等の過程で、造形性を深めるまでには行きえないと感じ、もう一歩技術的彫りを要求して良かったと思っている。

広がりを持つことは自由であり、また、個性的でもあるが、反面深まりを期待するには、グループや学級全体の感覚を意見として交流し、高まった表現を望むことができると考えた。さらに、自由な中にも、子供達は、彫りの効果（心情性）を基礎技法や友達の作風から汲み取り製作している。このことは模倣なのである。しかし、この模倣は選択する模倣なのである。ということは、選択の巾を広げることで表現も豊かになるのではと考えて見た。彫る材料を多くして可能性を追求させることである。

② 「親しい友だち」―5年―

木版画の先行経験のない子供達であったため、基礎的ことを深めるために「頭をどの様に彫ったら良いだろうか」とう様な発問し、表現に幅を持たせたり、気づかない表現法を発見させ、共同思考を幾つかのポイントに焦点化することで、多少の深まりを気づかせることができた。また、作品は、1点1点台紙にはり、全品の作品を教室、ろうかに展示する。

③ 「私と友だち」―6年―

六年間ともに生活してきた友達と私を構想的に表現させて見た。版画の複数性を利用し、1を文集の表紙に、1枚を教室に展示することにする。構想的ではあるが、鏡を用いて直接、版に描くことで、作業を合理的にしたり、いままでの作例をＶＴＲで記録して資料として映して見たり、小さな資料を拡大化して映すことも試みる。また、彫刻刀の彫りあとの特徴と心に感じる質感を考えさせて見る。

彫刻刀以外にも材料を使って見る。こうした中で、序々に表現力が豊かになってきていると感じている。また、子供達も文集の完成を楽しみにしている。

Ⅲ 今後の課題

- より適切な行動目標を探索すること。
- 版画文集を市渡の新しい伝統にしていきたい。
- ＶＴＲの効果的利用について、絵画の領域で研究していきたい。
- 版種を多様させて実践していきたい。
- 他校の研究を参考に実践を深めていくこと。

提言――（中学年デザイン）

表現の喜びを味わわせる教材

――遊ぶ工作をとおして――

函館市立弥生小学校
石井　久

Ⅰ　テーマ設定の理由

デザインの領域は、昭和55年度改定の指導要領で工作との関連で扱かわれるようになった。現行のデザインの領域では、基礎的な構成、装飾、伝達するデザインの3つに大別されている。しかし、新指導要領では、「使うものをつくる（1～4年）」「デザインしてつくる（5～6年）」となり、移行措置期に入った。

今後のデザイン領域をどのように考えたらいいのだろう。工作領域の中に吸収されたと考えるのだろうか。

現在の子どもの生活は豊かになりすぎ、金さえ出せばほしいものが手に入るという時代であり、自分で使ったり遊んだりするものを自らの手で作り出す必要性を感ずる子はほとんどいない。

子どもの身近かな生活の中で、必要や目的を考えて、自分の考えで、機能的でしかも美しい物をつくる学習する場を与えなければならない。

子どもにとって最も身近かな生活は「遊び」である。子どもの夢や遊びを育てる教材に焦点を当て、つくる喜びを味わわせながら、デザインする力を高めたい。

Ⅱ　研究の概要

1、デザイン領域のおさえ

当市の研究会では昭和50年「ひとりひとりの創造的表現力をのばす造形教育」をテーマに研究を積み上げてきている。新指導要領の領域は現行の5領域とは違う構成になっている。デザインは工作との関連において組まれている。このことから造形活動全体を見直さなければならなくなった。新指導要領では現行の内容が大幅に整理統合されている。造形活動はいろいろの領域が結び合っている。今度は、低・中・高学年別に再編成されたものであり、単純に吸収とか合併されたという考えではなく、デザインと工作を有機的に結合させ、総合化した教材で子どもを高めると考えるべきである。

2、つくる喜びを味わわせる教材

(1)　子どもの興味、関心が深いもの

(2)　子どもの発想力や構想力を育てるのに適しているもの

(3)　子どもの発達段階に適応し成功感の味わえるものであり、適当な抵抗のあるもの

(4)　完成後それを使って遊んだり、役立つもの

このような条件を満たす教材が子どもたちの夢を育て創造力を高める力のもとになるだろう。

3、使って遊ぶものをつくる中で、デザインする力をどう高めるか。

学習の中で製作した教材で遊ぶという事は今までもあった。これらの教材を見直し、表現する喜びを味わわせながら、デザインする力を高めたい。

物をつくる場合、目的や用途がある。しかし、私たちは目的や用途（機能）だけが満たされればそれで満足だという事はない。必ずそれに「美しさ」を加える。

例えば、衣服のように保温や身をおお

うという用途より装飾の部面がかなり重要になっているものもある。この目的と美が一致したものが機能美である。この美こそがデザイン学習でねらうものであろう。

子どもにとっては、表現していく過程の偶然美を発見したり、もっと美しく、もっとおもしろくと考えをふくらませていく。子どもたちの夢や興味をかりたてるような教材を与え、意識的に自分のものとして、追求させたい。

生活や遊びの中から必要にせまられ、問題意識を強くもって表現されたものには価値がある。

そこを出発点として、もっともっとこれ以上のものをと考え生みだす力（デザインする力）を高めさせたい。

Ⅲ　授業への期待

この題材は工作的要素が大きい。また、単に作って遊ぶだけであれば、もっと低学年でも扱える教材である。

この教材を使ってデザインする力を高めたいという願いをもっている。今まで装飾するデザインでは、かいたり、はったりの仕事が多かった。

ここでは缶がころがるのに着目し、「動くもよう」を表現させたい。おそらくだまっていれば、彼ら自身の発想からは思いつかないであろうが、教師の提示したひとつの作例を発想の源として、工夫しながらいろいろに変化するもようを表現させたい。

特に頭の中で予想しなかった事がいろいろな形で表現されてくるものと考える。そこから意欲的に新しく発見する努力が生れるだろうし、つくる喜びも味わえると考える。

この学習では偶然性の要素が大きい。しかし、「つくる」場合には計画力が成功、不成功の鍵をにぎっている。発想構想したことを、どのような形で実現するのか。その過程で、デザインする力が大きな位置をしめる。

ここでは身近かな素材をとおし、楽しいおもちゃをつくりながら、ちょっとした発想の転換により楽しいもようができることをも指導したい。

■大会役員

大会委員長	辻　悦平	(造形連盟委員長)
大会副委員長	越田一喜	(函館市美術教育研究会長)
	八幡肇	(桧山　同)
	飯田豊昭	(渡島　同)
参与	宮林繁雄	(連盟顧問・函館教育大)
	加藤彬	(連盟顧問)
	滝村虎雄	(　同　)
	漆崎繁雄	(函美顧問)
	木村良	(　同　)
	乙部幸吉	(　同　)
	鈴木利彦	(　同　)
理事	森川昭夫	(造形連盟事務局長)
	小西菊枝	(函館幼稚園協会長)
大会運営委員長	越田一喜	(函館市美術教育研究会長)
同　副委員長	乳井邦衛	(同　副会長)
同	秋山修世	(同　副会長)
同	古谷格	(同　副会長)
大会運営委員	山上一夫	(函館西小)
	杉山悦夫	(同　西中)
	菅原昭一	(同　千代田小)
	大崎義弘	(同　光成中)
	高野政志	(同　港中)
	斎藤幸子	(同　函館幼稚園)
	外山欽平	(函館大谷高校)
	三浦敏勝	(桧山幹事長)
	近堂俊行	(渡島幹事長)
	信永昭三	(函館小幹事長)
	金谷彊	(同　中幹事長)
	石井久	(同　弥生小)
	伊藤英明	(同　本通中)
	福田隆次	(同　中央小)
	進土継昭	(同　西中)
	酒井義雄	(同　谷地頭小)
	安井孝	(同　中央中)
	千葉利子	(同　深堀小)
	長谷川正雄	(同　新川中)

(事務局)	函館市立上湯川小学校	
	仲倉　昭	(上湯川小)
	八木　久子	(　〃　)
●事務局長	信永　昭三	(東　小)
次長	金谷　彊	(旭　中)
	石井　久	(弥生小)
	伊藤　英明	(本通中)
	福田　隆次	(中央小)
	進土　継昭	(西　中)
	阿部　節子	(西　小)
	及川　俊子	(　〃　)
	酒井　義雄	(谷地頭小)
	安井　孝	(中央中)
	千葉　利子	(深堀小)
	長谷川正雄	(新川中)
●研究部(顧問)	菅原　昭一	(千代田小)
(小部長)	石井　久	(弥生小)
(中　〃)	伊藤　英明	(本通中)
	藤井　昭夫	(附属中)
	手代木　惇	(　〃　小)
	松原　望	(　〃　小)
	鎌田選之助	(亀田小)
	山谷　礼司	(本通小)
	伊藤　英実	(五稜中)
	竹端　誠二	(湯川中)
	進土　継昭	(西　中)
	鈴木　正夫	(鍛神小)
	石垣由美子	(上湯川小)
	角谷　聖子	(亀田小)
	佐野　忠男	(湯川中)
	佐藤　良紀	(本通小)
	隅田　重明	(桐花中)
	浦野喜美江	(弥生小)
	村岡　寿英	(大森小)
	岡沢　邦彦	(西　中)
	本川　陽子	(金堀小)
	近藤　貢	(的場中)
●会計	千葉　利子	(深堀小)
	長谷川正雄	(新川中)
●事務部	◎福田　隆次	(中央小)
	佐々木英樹	(　〃　)
	多胡　豊	(東川小)
	石井　直彦	(若松小)
	柴田　雅史	(柏野小)
	飯田　耕三	(昭和小)
	角田　治義	(深堀中)
	畑中　義和	(潮見中)
	高島　友次	(松川中)
	木村　貴	(大川中)
	佐藤　務	(的場中)
●庶務部	◎安井　孝	(中央中)
	酒井　義雄	(谷地頭小)
	九十　勝子	(　　)
	蛯子　泰子	(本通小)
	清野　恒夫	(戸倉中)
●会場部	金谷　彊	(旭　中)
	阿部　節子	(西　小)
	及川　俊子	(　〃　)
	信永　量子	(青柳小)
	関口　純一	(中島小)
	和田　五月	(駒場小)
	藤川　潔	(東川小)
	星川　嘉克	(八幡小)
	和田鉄之助	(　〃　)
	佐々木和二	(高盛小)
	細谷瑠璃子	(　〃　)
	後藤　慶彦	(中島小)
	野下むつ子	(金堀小)
	岩木　トシ	(日吉丘)
	田畑　和子	(　〃　)
	川岸　巧	(東　小)
	谷本　薫	(　〃　)
	玉野　陽一	(亀田小)
	清野　満敏	(桔梗小)
	奥寺　洋	(　〃　)
	網谷　和雄	(　〃　)
	佐藤　健一	(鍛神小)
	中川原　道	(赤川小)
	福田千衣子	(　〃　)
	高石　悦郎	(昭和小)
	若竹　隆邦	(本通小)
	橋本　紀勝	(北日吉)
	前田　幸吉	(亀田中)
	丸山　恵三	(　〃　)
	高田　敏夫	(桐花中)
	滝本　幸也	(戸倉中)
●記録部	◎舘田　哲郎	(深堀中)
	近堂　隆志	(銭亀中)
	高坂りゅう子	(附属中)
	伊勢　健	(蛾眉野)
	阿部　徹	(万年橋)
	小島　静子	(日吉丘)
	山本　隆夫	(湯川小)
	田中　昭子	(　〃　)
	隅田　節子	(　〃　)
	佐賀　順子	(高丘小)
	谷口　敏彦	(　〃　)
	堀田　カツ	(港　小)
	佐藤　節子	(深堀小)

第29回　旭川大会

●日時　一九七九年七月二十八、九日
●会場　旭川市立知新小学校
　　旭川市民文化会館

生き生きとしたゆとりある子どもを育てる図工美術教育のあり方

1、研究主題について

わたしたちは〝子どもはもともと鋭く目と耳、五感を働かせて生きている〟〝子どもはもともとほんとうのことを見極めて生きている〟〝子どもはもともとすばらしい知恵と表現力を持っている〟のではないか、そして〝子どもは確かに限りない未来を持っている〟のではないか、という仮説と前提にたって毎日の実践の中で〝いまある子どもをどのようにとらえ、どのように育てていくか〟を志向している。

子どもたちはすぐれた造形内容をえらび出してやり、それによって豊かな感情やおもいを、うち出していけることを願っている。

自然や人間の感情的な行為、すばらしい作品し対して深くみつめる目、受けとれる心を大切にしながら、さらに、現在の子どもたちの生活の中で見おとしがちなこれらを、くら

しの中ででも見つけだしていく細やかな感受性を育ててやりたいと思う。

子どもたちは、はき古した、それだけに自らとの心情的なかかわりの深いうわぐつの形のくずれ、色あせやよごれなどを描く。描かれたうわぐつの形くずれ、色あせやよごれは彼等との日頃のかかわりを語りかけてくる。子どもたちは、その声なき声に耳をすまし、より「〜らしさ」に迫ろうとする。このくり返しが絵のつくられていくプロセスである。子どもたちは自分の描いたものの(外)に働きかけられて自分の心（内）を形づくっていく。また、自分の描いたもの（外）に働きかけてよりすぐれた作品を描こうと努め、自分の心（内）を高めていく。このような取組み（表現活動における自覚的形成のはたらき）が自らの手で進められ、深められていくとき、造形活動のすばらしさが身についていくであろうし、さらに、彼等がいつでもどこでも意欲と能動性を発揮していく根源となるであろう。

主題にある〝生き生き〟とは、子どもたちが本来、自分たちがもっている〝もっともっとしたい、表したい、つくりたい、飾りたい、描きたい、といった自己表現欲求の基盤に、自ら、まわりに積極的に働きかける姿勢や行動力を持つことであり、さらに〝ゆとり〟とは、単に時間的な余裕をさすのではなく、より子どもたちの心情をひきつけ、やむにやまれぬ行為として表現にかりたてていくような内容や手だてをもって、造形活動を通して、彼等が価植あるものに積極的に立ち向う姿勢や〝描いてよかった、つくってよかった、飾ってよかった〟という満足感（充実感）につながるものであり、またそれは造形活動にある見通しをもてるものを彼等の内面に蓄積していくことでもあろう。

つまり、〝生き生きとしたゆとりある子ども〟は、今日的課題として、今わたしたちの求めるイメージであり、造形活動のすばらしさに目をひらき、自らの手で深め深め確かめていける子どもを願っての発想に他ならない。

〈求める子ども像〉

●造形活動がすきな子ども
●自分の目で見、自分の心であらわしていく子ども
●自分（自分たち）の課題をねばり強くつきつめる子ども
●ていねいにものをみつめ、思い切った表現のできる子ども
●作品のよさや、とりくみのよさを見つけだせる子ども

〈授業化へのかまえ〉

●子どもが意欲的にとりくめる活動内容であるか——子どもをとらえること——
●子どもが追求できる場や条件が保証されているか——表現過程のたしかめ——
●子どもの力を高めたり深めたりする内容であるか——内容の吟味——

子どもに、どんな見方、感じ方、表現のしかたをしてほしいかという前に、教師の積極的な願いや方向がなければならないが、このことは毎日の実践を積み重ねることによってのみ解決されることである。実践を持ちよって研究を進め、実践の積み重ねの中から理論を生みだすことを基本姿勢としている。

Ⅱ、研究の重点

子どものくらしに深くかかわる題材、しごと、材料を子どものくらしに立ち入って見つけ出し、授業に組み立てていこう。子どもたちの作品を見るとその表現は確か

に向上してきているがその反面、子どもたちの姿が見えにくくなったときく。授業のしくみすぎだ。教師の指導のしすぎだという声も聞かれる。―確かに〝何を教えていくか〟という教科性にかかわる強い意図が働いてきたこと。つまり、表現活動が中核となる、この教科においても、その指導に普遍性と科学性が求められてきたということによるものであろうが、他方、子どもたちの側から考察すれば、彼等のくらしの中で、当然育ってきているであろうはずの、生命に根ざした〝もっともっとしたい、つくりたい、飾りたい、描きたい〟という意欲や素朴に卒直におどろく心や感動する心が失われてきている現実も見逃すことはできない。

さまざまな場で言われることだが、くつのひもがうまくしばれない子どもがいる。道具を扱うと傷つけたり、使えない子も多い。

これは、決して子どもたちの責任ではないのだが、きわめて子どもたちの手先、手の働きが不器用になってしまったという現実は確かである。この不器用さは手の働きだけの問題ではない。子どもたちの心とも深くかかわっている。緊張感や集中、がまん強さ、根気、注意深さややる気など、子どもたちがくらしの中で自らの生活を切り拓いていくための芽がプツリと、断ち切られていることにつながっている。子どものくらしやくらし方が失われてきている以上、子どもたちひとりひとりの感動や心に深くかかわる表現をその中核とする造形活動ではそれを無視して通り過ぎることはできない。

ここに〝子どものくらしに深くかかわる〟つまり〝くらし〟を意識した。あるいは意図的に取りあげていこうとするわたしたちのねがいがある。

では、具体的にどんな題材が用意され子どもたちにぶつけられていけばいいのだろう。

まず、そのひとつめは、教材解釈の上で重要な、教材、教師、子どものかかわりをおさえてみる。

〝教材が用意されて子どもがいる〟のではなく、〝そこに表現したい子どもがいて教材が持ちこまれてくる。

普段わたしたちは〝もっともっとしたい（させたい）、表現したい（表現させたい）、創りたい（創らせたい）〟という子どものありさまを、つぶさに把えて（子どものくらしを把えて）ある考え方を主する（ねがう）教材を用意する。教材を用意した教師はつぶさに子どもたちを把えているのだから〝用意した教材に対応する考え方（ねがい、具体的な指導の手だて）を主張として持ち〟子どもたちは、その表現活動をとおして〝自分なりの用意された教材に対応する考え方つくっていく〟という。教材、教師、子どもを同一次元においたかかわりで、再確認していきたい。

次に、それは、子どもたちの感情と深くかかわる教材であること。更には、当然のことながら、表現をとおして学びとるのできこと る造形課題を含んでいること等おさえてみた。

各領域で実践を進めていきたい。

―〝遊びを広げる〟―幼稚園―

子どもが最も生き生きしている時は「遊び」に取り組んでいる時である。子どもの生活をじっと見ていると生活のすみずみまでが遊びであってそれはもう生活のすべてが「遊び」であるといっても過言でない。

そこで、子どもの生活そのものの遊びをより楽しくさせるためにより多くの素材（題材）にふれさせ、遊びを広げてやり、創造の喜びを味わうようにさせてやりたい。

遊びを広げるということは、量的な側面と質的な側面の二面を考えられる。一口に言って量的に広げるとは多くの遊びを経験させ仲間を増やすことで、質的に広げるとは、一つの遊びをいろいろに発展させることと押えた。

子どもの自然で素朴な遊びから、次第に仲間同士のつながりができ、遊びに対してより一層の意欲があらわれ協力、協調、工夫、創造などの活動が盛んになって、遊びの量と質が広まり、子どもがより生き生きと活動できることを願っている。

しかし、子どもの遊びをそのままにしておくと、いつの間にか立ち消えたり、同じ遊びの繰り返しであったり時間も持続せずにそのまま終ってしまう。そこへ適切な指導助言をして意欲をわかせ、遊びを広げさせてやりたい。

2〝くらしを見つめる〟―小学校―

子どもたちに〝くらしを見つめる〟と言っても彼等には、そうした基盤が非常に薄弱になってきているし更には、ひとりひとりの子どもたちのくらし方も、さまざまに異っているためなかまと共通点を見出すことも難しい。

となるなら、学校、学級経営、あるいは行事、労作活動等、の中に意図的な共通のくらしの場を設定し、話し合い、表現し、それらの制作のプロセスで、くらしを見つめる目、みつめなをす目を育てていくことがまず大切であろう。そうした表現のプロセスできたえられた目を、それぞれ自らのくらしに向けさせていく、自らのくらしを話題にし表現していく。そんな営みのくり返しの中で、子どもたちの見ること。気づくこと、表現すること、考えることなどは相互にからみ合いながら、自分とまわりの人々とのかかわり自分と対象とのかかわり方がわかってくるに違いない。子どもたちの心は、おどろき、激しくゆれ動き、感動する心を取りもどすにちがいない。そうした心をとりもどすなら〝もっともっとしたい、表現したい、創りたい〟という子ども自身の生命に根ざした、激しい表現意欲をわき立たせていくだろう。

そのために

(1)子どものくらしの見出し
(2)視点にそった題材えらび
(3)教師の教材解釈を明確に
(4)系統関連を明確に（たて、よこ、のつなぎ）

など、実践の手がかりとしたい。

3〝くらしをひらく〟――中学校――

心と体の成長に伴い、当然、身のまわりの生活を見つめること、深めることで、より人間としてのつながりを緊密にし、自己をみつめ、自分やまわりを大切にしていこうという行動力や姿が見られるはずなのに、それが次第に失われてきている現実を、わたしたちは〝くらしをひらく〟という観点から切りこむこととした。〝くらしをひらく〟とは希望や願望につながるものであるが、ただ単に夢や未来の世界に短絡するのではなく、自分の生活とのかかわりから発する社会とのつながりの中で題材を構成していきたい。

美術に限らず、広く芸術を求めるところはもっと生活に根ざした人々の心の通うものであるはずである。つまり、自分のなかまたちに対するあたたかい関心と、周囲のできごとに対する鋭い探求心をもつことである。

題材の設定では、指導すべき要素を教材の中で指導するだけにとどまらず、子どもたちの日常性や生活場面、生活活動の中に密着した設定をし、彼等の心の中にある自己主張を強烈にひき出す手だてを工夫していきたい。

そのために

(1)一層観察表現を重視し
(2)導入段階での題材と彼等とのかかわり合いを重視し

(3)題材の内容を焦化し
(4)題材配列を考えていく　など実践の手がかりとしたい。

Ⅲ、具体的な授業づくりのために。

研究主題との関連

・目標（Ⅰ、Ⅱに関連）
自己を大切にすること・造形美に迫っていくこと

・内容（Ⅲに関連）
自己のうちだし（絵画・版画・彫塑）
機能美の表現（デザイン・工作・工芸）
造形美のとらえ（発欠）
鑑賞

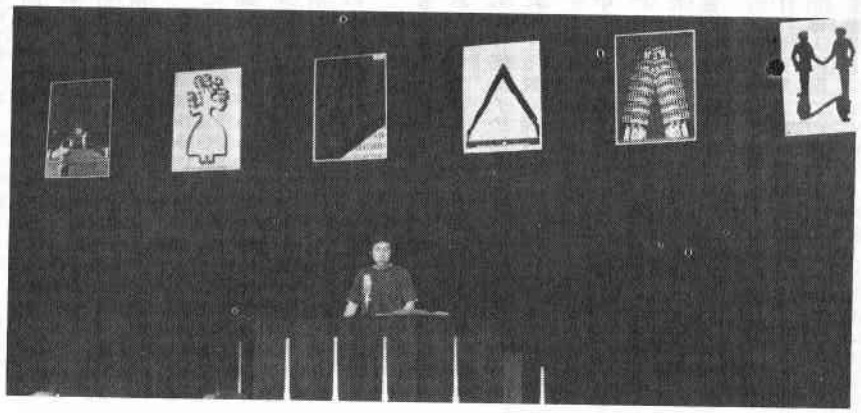
・造形活動の基礎的・基本的事項
（各領域に関連）

・目と手の自由なはたらき・機能を高める。
・ものの特性（形、色、質、量、関連）をとらえること
・素材・機能構造に対する理解
道具を使いこなすこと
・条件の中で造形思考をはたらかせ統一していくこと
・表現・活動のきっかけ――くらしに造形活動を要求する
（Ⅱの1、2に関連）

※内容をたてじくにすれば、基礎、基本にあたるものが横じくになるのではないだろうか。
※本年度の重点が、その内容のえらび出しにあり〝子どものくらしに深くかかわる〟ことでありそれを授業に組み立てるとしたら、そのきっかけである〝くらしに造形活動を要求する〟子どもの目、いわゆる日常のくらしのたがやしが問題となるだろう。
※小学校の場合は、学校のくらしを共通基盤にして、その目をひらき、ひきあげようとするものであり、中学校の場合は、それぞれの子どものもっている見方、考え方を授業の中で共通化し自分のくらしをきりひらいていく目を育てるものではないか。

いずれにしても授業の中で、どのように、ひとりひとりのものにするかがポイントになるだろうし、提言の場合も、授業を広げ、どんな視点から、子ども、造形活動を結びつけようとしているか、一般化するように考えていくべきであろう。

（講演・遊びとデザイン
グラフィック・デザイナー
福田繁雄氏）



■大会の特徴

1　本物との出会い

中原悌二郎を記念して全国的な賞を設けたことから、彫刻の街として街角に多くのオリジナル作品が直接見られることに関連して、市関係者の好意により、会場に代表作品を特別展示し、公開授業でオリジナルとの出会いを大切にし、全道の仲間と一般市民に紹介できた。又市内の彫刻群に親しんでもらうためイラスト入りのパンフレットを製作し配布した。

2　日常活動の証し

会場の展示室に、大会期間前後を含め一週間、旭川市内の幼児から高校生までの作品を一貫した流れの中で、できるだけ多く展示して、理論にうらずけされた教育活動から生れた作品を通して、研究主題や、子どものくらしに深くかかわりある題材を中心として公開し、討議を深めるためのヒントに役立てた。

又、一般市民に開放して造形教育の一端をかいまみていただき関心を深めるのに役立った。

3　造形とあそび

指導要領の改訂と70年代のしめくくり等の意義深い時期であることから、「あそび」についての発想の転換と一層の広がりについて今日的課題としてとりあげ、公開授業の中に「造形あそび」を指向し、ヒントになる提示を多くとり入れた。

関連して講演には、現在国際的にも活躍中のグラフィックデザイナー福田繁雄氏と事前に大会主旨等快諾を得、多角的に有意義な内容で、参会者の絶大な好評を得た。

又、一般市民の関係者にも開放し、造形教育関係者のみの閉ざされた大会とせず、関心を高めることができた。

4　日程の構成

一日目、最初の講演で柔軟な考え方を広げた後に、作品展鑑賞と彫刻群に囲まれての中学校鑑賞授業、午後は会場を移動して、11の公開授業と授業をもとにした11の分科会、夕刻のレセプション。

二日目、伊藤恵先生の貴重な「紙の造形」の全体発展に続いて、各地区サークルの提言による分科会、午後「作品を語る会」を三会場で、それぞれ二日間熱心に語り合った。

主題が決まるまでの過程（おさえ）

一、わたしたちの求めること

〝生き生きとしたゆとりある子ども〟は、わたしたちの求めているイメージである。

〝生き生き〟とは、子どもたちが本来持っている「もっと○○したい、なりたい、表わしたい、知りたい、言いたい……。」といった自己表現欲求を基盤として、ものごとに積極的に働きかける姿勢や行動を身につけていくことである。

〝ゆとり〟とは、単に時間的な余裕をさすだけでなく、より心情をひきつけ、表現にかりたてる内容や手だてを伴った造形活動を通して蓄積されていく満足感につながることであり、次の活動へ向うエネルギー源である。

子どもたちは、自分のあらわそうとするもの(外)に働きかけて自分の心(内)を形づくっていく。また、自分のうちだしたもの（作品）に働きかけて心を高めていく。このようなとりくみ（表現活動における自覚的形成のはたらき）が自らの手で進められ、深められていくとき造形活動の楽しさ、すばらしさが身についていくであろう。

二、実践を通して求める

子どもたちにすぐれた造形内容をえらびだしてわり、それによって豊かな感情やおもいをうちだしていけることを願っている。自然や人間の感動的な行為、すばらしい作品を深くみつめる目、受けとる心を大切にしながら日常のくらしの中で見おとしがちな細やかな思いやり、感受性を育ててやりたいと思う。

また、子どもたちにどんな見方、感じ方、表現のしかたをしてほしいかという前に、教師の積極的な願いや方向がなければならない。このことは毎日の実践を積み重ねることによってのみ解決されることである。実践を持ちよって研究を進め、実践の積み重ねの中から教科のすじ道を生みだすことを基本姿勢としたい。

新鮮な授業、個性的な子どもを求める授業化へのかまえとして

○子どもをとらえること――子どもが意欲的にとりくめる内容であるか。

○内容を吟味すること――子どもの力を高めたり深めたりする内容であるか。

○表現過程をたしかめること――子どもが追求できる場や条件が保証されているか。

三、研究の重点

〝子どものくらしに深くかかわる題材のみつけだしと授業のくみたて〟について。

(1) くらしのみつめなおし

さまざまな場で言われてきたことだが、子どもの目や心の働き、手や体を使う力がおとろえてきているという。

例えば、くつのひもをしっかり結べない子、道具を使うと傷をしたり、扱えない子どもが多い云々……。不器用さは手の働きだけの問題ではなく、子どもの心と深くかかわっている。緊張感や、集中力や、根気強さ、注意深さなど、子どもたちがくらしの中で、自らの生活をきり拓いていくための芽がプツリと断ち切られていることにつながっている。

子どもたちのくらしやくらし方が失われてきている以上、子どもたちひとりひとりの感動や、心に深くかかわる表現をその中核とする造形活動では、そのことを無視して通りすぎることできない。

ここに〝子どものくらしに深くかかわる云々〟つまり〝くらし〟を意識した、あるいは意図的に取りあげていこうとするわたしたちの願いがあるのである。

(2) 造形の目から〝くらし〟をひきあげる

ひとつの教材を授業化していくとき、造形

を支える要素ばかりからとりあげるわけではないはずである。なぜ、何のために、何を、どのようにがかかわっているはずである。

また、子どもたちの追求のしかた。子どもの動き（興味や意欲）に注目しながら、その題材のもつ意味が、ひとりひとりの問題として、ときには、学級づくり、学校の動きとどのようにかかわっているかをみつめていく必要がありそうだ。このことは、その内容も含造形としての要求――

造形活動

個性的なもののうちだし

くらしをひきあげようとする
目、心、手、体…

めて、発達段階とも深くかかわっている。ひとつの教材ですべてをうちだすことはむずかしいが、何をねがい、何を問題にしているかが見える授業をつくりだしたいものである。

〝教材が用意されて子どもがいる〟のでなく、そこに〝表現したい子どもがいて、教材が持ちこまれてくるのである〟

(3) 発達段階に合った視点を

ア、〝遊びを広げる〟――幼稚園

遊びを広げるということは、量的な側面と質的な側面をもっている。量的に広げるということは多くの遊びを経験させ、仲間も増やすことであり、質的に広げるとは、一つの遊びをいろいろに発達させ、まとまりのある内容・方法をつくりだしていくことと考えた。

子どもの自然で素朴な遊びから、次第に仲間どうしのつながりができ、遊びに対して、より一層の意欲があらわれ、協力・協調・工夫・創造などの活動が盛んになって、遊びの量と質が広まり深まって、子どもがより生き生きと活動できることを願う。

- 子どものみつめなおし
- 活動できる場や条件づくり
- 中心になる内容、支える活動の組み立て

イ、〝くらしを見つめる〟――小学校

くらしを見つめる共通な場を、学校を中心に求める。学級経営の中で、学校生活（日常のこと、行事、労作活動等々）の中に意図的に設定し、話し合い、表現し、それらの製作の中で、くらしをみつめる目、みなおす目を育てていく。ここできたえられた目で、自らのくらしを見ること、気づくこと、表現すること、考えることがくりかえされ、自分とまわりの人々、自分と対象とのかかわりがわかってくるに違いない。

- 子どものくらしの見直し
- 視点にそった題材えらび
- 教師の教材解釈を明確に
- 系統関連をたしかに（たて・よこ）

ウ、くらしをひらく――中学校

〝くらしをひらく〟とは希望や願望につながるものであるが、単に夢や未来の世界に短絡に結びつけるのでなく、自分の生活とのかかわりから発する社会とのつながりの中に位置づけることである。つまり、自分の仲間たちに対するあたたかい関心と周囲のできごとに対する鋭い探求心をもつことである。彼等の心の中にある自己主張を強くひきだす手だてを工夫する必要がある、そのために、

- 観察表現の重視
- 題材と彼等のかかわり合いの重視
- 題材内容の焦点化

主なる研究発表の内容

幼稚園1

Ａ分科会

授業「どんな花火ができるかな」

授業者　旭川神楽幼稚園　新徳　弥世生

視点・子供がよろこぶ題材えらび

―導入段階の指導の手だて―

提言者　旭川神楽幼稚園　伊藤　ちず

司会者　旭川神楽幼稚園　平山　エイ子

Ｂ分科会

視点・豊かに感ずる心を育てていくとりくみ

・遊びの中から造形する目を育てていくとりくみ

・目と手のはたらきをのびのびと高めていくとりくみ

提言者　札幌琴似教会幼　荒川　恵吾

上川士別士別幼　谷　義信

司会者　桧山江差幼稚園　池田　順子

札幌第一幼稚園　藤塚　愛子

ＡＢ記録　旭川高台小学校　松藤　美子

ＡＢ進行　旭川旭川小学校　植村　千鶴子

幼稚園2

Ａ分科会

授業「たてもの――紙でつくる――」

授業者　旭川せつれい幼　海老根　泰子

視点・目と手のはたらきをのびのびと高めていくとりくみ

提言者　旭川せつれい幼　木村　典　子

司会者　旭川せつれい幼　古川　香代子

Ｂ分科会

視点・豊かに感ずる心を育てていくとりくみ

・遊びの中から造形する目を育てていくとりくみ

・目と手のはたらきをのびのびと高めていくとりくみ

提言者　釧路めぐみ幼　佐藤　千江子

札幌なかのしま幼　横枕美智子

司会者　釧路めぐみ幼　秋保　和

石狩東小学校　福田　靖之

ＡＢ記録　旭川北光小学校　大沼　勝子

ＡＢ進行　旭川愛宕小学校　菊地　幸子

小学校絵画・版画領域

Ａ分科会

授業「みんなでつくったおまつり」（かたおしあそび）（版）一年生

授業者　旭川永山小学校　新井　好恵

授業「あやとり」（絵）五年生

授業者　旭川陵雲小学校　高野　亮

視点・あらわすことのよろこびを育てる

―生活に根ざした題材のほりおこし―

提言者　旭川神居小学校　加藤　玲子

司会者　旭川神居東小学校　神田　耕治

Ｂ分科会

視点・対象とのかかわりを見つけだし、イメージを広げていくとりくみ

・版のもつ特性を生かし、ひとりひとりの想を深めていくとりくみ

提言者　日高高静小学校　越後　光雄

空知妹背牛小学校　渡辺　貞之

司会者　空知奈井江小学校　田上　功

札幌東山小学校　坂口　清一

ＡＢ記録　旭川神楽小学校　市野　恵美子

ＡＢ　旭川東五条小学校　宮崎　晃

ＡＢ進行　旭川陵雲小学校　鍛治川　明

小学校彫塑領域

Ａ分科会

授業「二人であそぶ――土――」五年生

授業者　旭川向陵小学校　大槻　茂

視点・くらしの中からくらしの中につくり出すよろこびを

提言者　旭川千代田小学校　飛弾野弘尚

司会者　旭川東栄小学校　宮本　義明

Ｂ分科会

視点・ものの特徴をみつめ、表現のなかみを太らせていくとりくみ

提言者　十勝芽室西小学校　荒井　正治

司会者　帯広啓西小学校　森　厚夫

十勝芽室栄小学校　湯川　守

ＡＢ記録　旭川豊岡小学校　長野　晃児

ＡＢ進行　旭川新町小学校　伊藤　順治

小学校デザイン領域

Ａ分科会

授業「かげ絵」四年生

授業者　旭川東栄小学校　工藤　斉

視点・子どものくらしに根ざしたつくりだすよろこびを

提言者　附属旭川小学校　木村　典義

提言者　旭川東五条小学校　新井　絹恵

司会者　旭川向陵小学校　阿部　国良

Ｂ分科会

視点・子どものくらしを楽しく豊かにしていくデザインのとりくみ

提言者　上川比布中央小　北村　昶

網走紋別小学校　高橋　忠昭

司会者　上川上川小学校　黒沢　護

網走紋別小学校　吉田　義晴

ＡＢ記録　旭川大有小学校　土屋　るみ子

旭川東五条小学校　富谷　キヨ

ＡＢ進行　旭川神居小学校　太田　哲嗣

小学校工作・造形あそび領域

Ａ分科会

授業「大きく並べる――造形あそび――」二年生

授業者　旭川末広小学校　角　邦雄

視点・遊びの中から造形する心を育てるとりくみ

提言者　旭川忠和小学校　紙谷　恒

司会者　旭川豊岡小学校　青柳　明雄

Ｂ分科会

視点・表現材料と子どもの発想をつなぎ、意欲的なとりくみをしていく

提言者　上川剣渕小学校　出倉　功
司会者　千歳緑小学校　藤井　正
根室北標津小学校　細見　浩
ＡＢ記録　旭川近文第二小　吉永　一江
旭川近文第二小　山崎　浩子
ＡＢ進行　旭川神居小学校　大谷　伸也

小学校鑑賞領域

Ａ分科会
授業「米づくりの道具（愛宕をひらいた人々）」　六年生
授業者　旭川愛宕小学校　原　良三
視点・くらしをみつめ、みつけだしあらわしていくための鑑賞について
提言者　旭川千代田小学校　飯塚　礼二
司会者　旭川東栄小学校　小倉　孝

Ｂ分科会
視点・表わすこと（もの）、あらわし方、つくりだした作品のかかわりをたしかめていくとりくみ
提言者　札幌豊水小学校　白井　圀彦
司会者　附属札幌小学校　伊藤　暢紀
ＡＢ記録　旭川日新小学校　伊藤　久栄
旭川新富小学校　山科　瑞穂
ＡＢ進行　旭川旭川小学校　根本　正昭

中学校絵画・鑑賞領域

Ａ分科会
授業「中原悌二郎の作品にふれる」二年生
授業者　旭川明星中学校　鳥本　捷夫
視点・くらしと表現をつなげる――地域の文化遺産を題材として――
提言者　旭川東陽中学校　千葉　豊治
司会者　旭川明星中学校　大久保　正義

Ｂ分科会
視点・対象の見方、感じ方を深めひとりひとりの表現を高めていくとりくみ
提言者　上川愛別中学校　小木　正勝
室蘭港北中学校　中村　民夫
司会者　室蘭北辰中学校　高城　啓二
札幌新琴似中学校　安原　正
ＡＢ記録　旭川啓北中学校　鳥本　淳子
ＡＢ進行　旭川神居中学校　氏本　利光

中学校彫塑領域

Ａ分科会
授業「頭像をつくる」一年生
授業者　旭川北門中学校　坂野　潤治
視点・たしかめながらねがいを表現していく彫塑学習
提言者　旭川東陽中学校　及川　輝夫
司会者　旭川第二中学校　宮川　昭雄

Ｂ分科会
視点・表現の基礎づくりから内容を深めていくとりくみ
提言者　苫小牧東中学校　大月　猛
留萌港南中学校　光永　崇彦
司会者　苫小牧凄雲中学校　加藤　正
留萌初山別中学校　坊坂　博
ＡＢ記録　旭川光陽中学校　重山　恵
ＡＢ進行　旭川東光中学校　杉山　徹

中学校デザイン・工芸領域

Ａ分科会
授業「くらしに生かす紙工芸」――あんでつくる――　一年生
授業者　附属旭川中学校　山理　利春
視点・くらしに生かす工芸「あると楽しい」「あるとおもしろい」「あると安心だ」「あると心がなごむ」工芸
提言者　旭川光陽中学校　築山　尚明
司会者　旭川春光台中学校　古屋　栄隆

Ｂ分科会
視点・デザインで発想を高めるとりくみ・材料の特性を生かしたとりくみ
提言者　釧路東中学校　渋木　弘志
後志倶知安中学校　田丸　公記
司会者　札幌もみじ台南中　広沢　正俊
ＡＢ記録・進行　旭川聖園中学校　水谷　忠成

高校部会（全）

Ａ分科会
授業「絵画制作の指導（必修クラブ）」――油絵――
授業者　旭川東高等学校　野上　好彦
視点・必修クラブと授業と部活動の関係を考える
提言者　旭川東高等学校　野上　好彦
司会者　旭川東高等学校　橋詰　忠晴

Ｂ分科会
視点・青年期における美的経験の質と量を豊かにするとりくみ
提言者　札幌北高等学校　土岐　禎次
司会者　札幌月寒高等学校　中村　矢一
紙の造形実習　講師　札幌東山小学校　伊藤　恵
ＡＢ記録　旭川北都商業高校　宮本　俊雄

分科会Ｃ　作品を語る会

幼稚園部会（全）
視点「かきたい、つくりたいという心情を高めた指導と作品」・幼児画、作品の見方について
分科会世話人　旭川第二小学校長　岩間　昇

小学校部会（全）
視点「くらしを見つめ、つくりだす楽しさのある作品」・学校のくらしに変化を求める造形活動・雪ととりくむ造形活動
分科会世話人　附属旭川小学校　小杉　信雄

中学校・高校部会（全）
視点「表現力や感動を深め、くらしをひらく作品」・絵画、彫塑、デザイン、工芸の実践から
分科会世話人　旭川東陽中学校　千葉　豊治
旭川明星中学校　大久保正義

3、生き生き表現を目ざして
――大会で得られたものと課題――

(1)生き生き表現のための授業づくり

㋐わたしたち教師のねがい

授業のあとで「○○を描かせた。創らせた（○○を指導した）」とはっきり言い切れる授業をしたいというも素朴に願う。

そういう授業でこそ見せかけでない子どもたちの内面からほとばしりでるような表現や打ちこむ姿が期待できるからだ。―つまり生き生きとしたゆとりのある子どもたちの具体的な姿が見えてくるからだ。

㋑教材、教師、子どものかかわり

〝もっと～したい、描きたい、創りたい子どもたち〟をつぶさに捉えて、わたしたちは〝ある内容をもった教材――学習目標となり得るもの（①子どもたちの感情と深くかかわり、②学びとることのできる造形課題を含む）を用意する。

わたしたちは、また〝それらに対応する考えを持ち〟子どもたちの表現活動の場に提示していく。

子どもたちは〝それに対して課題（ねらい）を持ち、表現活動を通して自ら追求し自分なりの作品（表現）〟を創っていく。『くらしをみつめ』『切りひらく』を手がかりに実践を進め確かめつつある、造形学習における教材、教師、子どもの同一次元に立つかかわりである。

㋒授業への切り込み

①この教材で何を教えていくか。くらしとかかわらせて明らかにする。

②子どもに、どんな課題を提示し、どんなふうに対象を追求させ、完成に導いていくか①の教師のねらいとからめて、それが十分達せられていくような場面を構成する。

③そんな場面構成の中では、当然、教師には吟味された発問や子どもたちへの働きかけが用意され、子どもたちはそれらに触発されながら課題に向って厳しく追求していく。

故にぼんやりしたり弛感したりした状態は排され、好ましい緊張と集中の表現活動が創り出されていく。

(2)成果としておさえるもの

㋐『ゆとり』がよい造形につながる。精神的なゆなとりがあってこそのびのびとした絵が描けるし、時間的ゆとりがあれば描き創る過程にもゆとりが持てるのではないか。また子どもが熱中しもっと続けたいという欲求が満たされるとあとの活動にも良い影響を与える。

㋑遊びは大切である。遊びを次々に考えていくことが造形のために欠くことのできないことである。そのためにもいつも人間関係を含めてのよい環境づくりを心がけたいものである。

㋒題材の選定、構図のとり方、子どもの発想を大切にするなどの解決には公式はない。くらしを通して子どもの造形能力を課題とし、進んで発見し、表現して喜びと興味を深めていきたい。

㋓一つの題材を取り扱うのであっても、他の領域との結びつきが考えられる。例えば『はだかの王様』という絵画の学習にも、クロッキーで人の動き、デザインで色調の学習、クロッキーで人と人の重なり、デザインで色紙の重ね切りによる人の重なりという手だてもある。

㋔一時間の中に幾つかの造形要素を入れていき、子どもたちが新しいことへの挑戦ができるようにし抵抗を克服させていくようにすることも大切でありそこに学習がある。

㋕子どもの発達段階から考えて、教師は子どもの見えるもの思ったことを的確に描ける力をつけてやりたい。

㋖デザイン学習が他の領域（特活等）、他教科などとかかわりあって子どもたちの学校生活がより楽しいものになるように考えていきたい。

㋗生活との結びつきと、子どもへのほめことばや自信をつけさせ心を豊かにしてやることの大切さと、子どもの『見る目』を育てるための協力を父母へ啓蒙することが必要である。

㋘教材を扱う際考えなければならないことは材料用具、技法、発想、情報（転用、代用、応用、開発）という大きな要素についてである。一つの教材の中でこれらのすべての要素をみたすことは無理な場合が多い。だから教師はねらいをはっきりさせそれに基づいた指導をしなければならない。子どもが豊かに発想させる手だてと、それを実際に製作する上に必要な技術を身につけさせる必要がある。また材料、用具に関する研究、他のジャンル（絵画、デザイン等）との関連も考慮に入れることが大切です。

㋙鑑賞は考えこんだり気ばってするものでもないと考える。子どもたちのくらしを豊かにし感動する子どもに育っていくように指導法やカリキュラムなどを考えていく必要がある。

㋚比較的良質な粘土を身近に求めることのできる旭川では、子どもたちが表現要求を満たすのに十分な量を与えることにより、のびのびと思い切った表現に結びつけている。更に表現活動の段階では生活をみつめ、生活と自分とのかかわりを考え、子ども自らのねがいを持ちながら表現を進めていくことにより、より生き生きとした表現活動が期待されてきた。くらしをきりひらくことは①応用力をつけ、くらしに役立てる。②与えるばかりではなく自分からとりくむ。③自分の手を通して身体を通しての表現。④自分の住んでいる土地からとれる素材を使用する。

㋛旭川のように、じっくりと見つめ堀りさげていくことが大切である。そのための教師の姿勢、意欲を基盤にカリキュラムを立てなおしをし、子どもたちが生き生きとした表現活動ができるように研究を重ねていかなければならない。

㋜美術教育の基礎は「思いやる」ことと、対象をみつめるあたたかさである。表面にとらわれずに、対象の内部をみつめるあたたかい面の認識が必要である。

㋝古いもののよさを知らせることの大切さと共に道具の使い方を教える大切さ。

3、今後の課題

わたしたちが、生き生き表現をねがい、子どものくらしに着目し立ち入ったことに間違いはなかった。しかし立ち入ってみれば子ども自身、子どものくらしは、更に見えにくく遠ざかっていく――

だから、また、わたしは、

㋐子どもひとりひとりのくらしを堀り起こし

㋑造形活動でのわたしたちのねらいをより確かに共通理解し。

㋒具体的な表現の手だてを創っていきたい。

（文責　萩原常良）

●公開授業

学年	領域	題材名	授業者	学校名
幼	全	どんな花火ができるかな	新徳 弥世生	旭川せつれい幼
幼	全	たてもの ―紙でつくる―	海老根 泰子	旭川神楽幼
小1	版画	みんなでつくったおまつり（かたおしあそび）	新井 好恵	旭川永山小
小5	絵画	あやとり	高野 亮	旭川陸雲小
小4	デザイン	かげ絵	工藤 斉	旭川東栄小
小5	彫塑	二人であそぶ ―土―	大槻 茂	旭川向陵小
小2	工作	大きく並べる ―造形あそび―	角 邦雄	旭川末広小
小6	鑑賞	米づくりの道具（愛宕をひらいた人々）	原 良三	旭川愛宕小
中2	絵画・鑑賞	中原悌二郎の作品にふれる	鳥本 捷夫	旭川明星中
中1	デザイン・工芸	くらしに生かす紙工芸 ―あんでつくる―	山理 利春	旭川附属中
中1	彫塑	頭像をつくる	坂野 潤治	旭川北門中
高	全	絵画制作の指導（必修クラブ） ―油絵―	野上 好彦	旭川東高

●分科会A

分科会	分科会における話し合いの視点	提言者（学校名）	司会者（学校名）	記録者（学校名）
幼1	子供がよろこぶ題材えらび ―導入段階の指導の手だて―	伊藤 ちず（旭川神楽幼）	平山 エイ子（旭川神楽幼）	松藤 美子（旭川高台小）
幼2	目と手のはたらきをのびのびと高めていくとりくみ	木村 典子（旭川せつれい幼）	古川 香代子（旭川せつれい幼）	大沼 勝子（旭川北光小）
絵画 版画	あらわすことのよろこびを育てる ―生活に根ざした題材のほりおこし―	加藤 玲子（旭川神居小）	神田 耕治（旭川神居東小）	市野 恵美子（旭川神居小） 宮崎 晃（旭川東五条小）
デザイン	子どものくらしに根ざしたつくりだすよろこびを	新井 絹恵（旭川東五条小） 木村 典義（旭川附属小）	阿部 国良（旭川向陵小）	土屋 るみ子（旭川大有小） 富谷 キヨ（旭川東五条小）

彫塑	くらしの中からくらしの中につくり出すよろこびを	飛弾野 弘尚（旭川千代田小）	宮本 義明（旭川東栄小）	長野 晃児（旭川豊岡小）
工作 造形あそび	遊びの中から造形する心を育てるとりくみ	紙谷 恒（旭川忠和小）	青柳 明雄（旭川豊岡小）	吉永 一江（旭川近文二小） 山崎 浩子（旭川近文二小）
鑑賞	くらしをみつめ、みつけだしあらわしていくための鑑賞について	飯塚 礼二（旭川千代田小）	小倉 孝（旭川東栄小）	伊藤 久江（旭川日新小） 山科 瑞穂（旭川新富小）
絵画 鑑賞	くらしと表現をつなげる	千葉 豊治（旭川東陽中）	大久保 正義（旭川明星中）	鳥本 淳子（旭川啓北中）
デザイン 工芸	くらしに生かす工芸 「あると楽しい」「あるとおもしろい」「あると安心だ」「あると心がなごむ」工芸	築山 尚明（旭川光陽中）	古屋 栄隆（旭川春光台中）	水谷 忠成（旭川聖園中）
彫塑	たしかめながらねがいを表現していく彫塑学習	及川 輝夫（旭川東陽中）	宮川 昭雄（旭川第二中）	重山 恵（旭川光陽中）
全	必修クラブと授業と部活動の関係を考える	野上 好彦（旭川東高）	橋詰 忠高（旭川東高）	宮本 俊雄（旭川北都商高）

●分科会B

分科会	領域	分科会における話し合いの視点	提言者	司会者
幼1	全	・豊かに感ずる心を育てていくとりくみ ・遊びの中から造形する目を育てていくとりくみ ・目と手のはたらきをのびのびと高めていくとりくみ	荒川 恵吾（札幌・琴似教会幼） 谷 義信（上川・士別幼）	池田 順子（桧山・江差幼） 藤塚 愛子（札幌・第一幼）
幼2	全		佐藤 千江子（釧路・めぐみ幼） 芝木 マサ 横枕 美智子（札幌・なかのしま幼）	秋保 和（釧路・めくみ幼） 福田 靖之（石狩・石狩東小）
小	版画 絵画	・対象とのかかわりを見つけだし、イメージを広げていくとりくみ ・版のもつ特性を生かし、ひとりひとりの想を深めていくとりくみ	越後 光雄（日高・高静小） 谷 勲（札幌・伏見小） 渡辺 貞之（空知・妹背牛小）	田上 功（空知・奈井江小） 坂口 清一（札幌・東山小）
小	デザイン	子どものくらしを楽しく豊かにしていくデザインのとりくみ	北村 祝（上川・比布中央小） 高橋 忠昭（網走・紋別小）	片平 浩史（胆振・伊達東小） 黒沢 護（上川・上川小） 吉田 義晴（網走・紋別小）
小	彫塑	ものの特徴をみつめ、表現のなかみを太らせていくとりくみ	荒井 正春（十勝・芽室西小）	森 厚夫（帯広・啓西小） 湯川 守（十勝・芽室栄小）

●分科会C

幼稚園部会（全）

小学校部会

小	工　作	表現材料と子どもの発想をつなぎ、意欲的なとりくみをしていく	出　倉　　功（上川・剣渕小） 伊　藤　　恵（札幌・東山小）
小	鑑　賞	表わすこと、（もの）あらわし方、つくりだした作品のかかわりをたしかめていくとりくみ	白　井　囲　彦（札幌・豊水小）
中	絵　画 鑑　賞	対象の見方、感じ方を深めひとりひとりの表現を高めていくとりくみ	中　村　民　夫（室蘭港北中） 黒　川　洋　輔（網走・滝ノ上中） 小　木　正　勝（上川愛別中）
中	デザイン 工　芸	デザインで発想を高めるとりくみ 材料の特性を生かしたとりくみ	渋　木　弘　志（釧路・東中） 田　丸　公　記（後志・倶知安中）
中	彫　塑	表現の基礎づくりから内容を深めていくとりくみ	大　月　　猛（苫小牧・東中） 光　永　崇　彦（留萌・港南中）
高	全	青年期における美的経験の質と量を豊かにするとりくみ	土　岐　禎　次（札幌・北高）

細　見　　浩（根室・北標津小） 藤　井　　正（千歳・緑小）	
伊　藤　暢　紀（札幌・附属小）	
高　城　啓　二（室蘭・北辰中） 安　原　　正（札幌・新琴似中）	
岩　田　　廣（釧路・景雲中） 広　沢　正　俊（札幌・もみじ台南中）	中学校 高校部会 （全）
坊　坂　　博（苫小牧・凌雲中） 加　藤　　正（留萌・初山別中）	
中　村　矢　一（札幌・月寒高）	

■　分科会　C　■　　作品を語る会

○幼稚園部会（全）

分科会における話し合いの視点

「かきたい、つくりたいという心情を高めた指導と作品」

幼児画、作品の見方について

分科会世話人

旭川第二小学校長　岩　間　　昇

○小学校部会（全）

分科会における話し合いの視点

「くらしを見つめ、つくりだす楽しさのある作品」

・　学校のくらしに変化を求める造形活動

・　雪ととりくむ造形活動

分科会世話人

北教大附属旭川小学校　小　杉　信　雄

○中学校・高校部会（全）

分科会における話し合いの視点

「表現力や感動を深め、くらしをひらく作品」

・　絵画、彫塑、デザイン工芸の実践から

分科会世話人

上川・上富良野中学校　浅　野　富士男

●進行係

旭川市立

幼　1　（新徳、伊藤分科会）植村千鶴子（旭川小）
幼　2　（海老根、木村〃）菊地　幸子（愛宕小）
小1版 } （新井、高野、加藤〃）鍛治川　明（陵雲小）
小5絵 }
小4デ　（工藤、新井、木村〃）太田　哲嗣（陵雲小）神居
小5彫　（大槻、飛弾野〃）伊藤　順治（新町小）
小6鑑　（原、飯塚　〃）長瀬　優（東町小）
小2工　（角、紙谷　〃）大谷　伸也（神居小）
中2絵鑑（鳥本、千葉　〃）氏本　利光（神居小）
中1デ工（山理、築山　〃）清水　啓造（東光中）
中1彫　（坂野、及川　〃）本間　篤（嵐山中）

「第29回全道造形教育研究大会」大会役員

◎　誉大会長　土田武英（旭川市教育長）
◎　大会長　辻悦平（造形連盟委員長）
◎　副大会長　蓑口作蔵（造形連盟副委員長・明星中学校長）
〃　本田清（旭川市教育研究会長）
◎　顧〃問　金野親司（上川教育局長）
〃　木村和義（旭川市教育委員会教育部長）
〃　高田重光（旭川小学校長会長）
〃　蓑口作蔵（旭川市中学校会長）
〃　梅田雪嶺（旭川地方私立幼稚園協会長）
〃　福島恒雄（旭川私立幼稚園連合会長）
〃　平野謹三（高等学校長協会旭川支部長）
〃　白井嘉顕（北海道私学協会旭川支部長）
〃　川崎威（上川教育局指導課長）
〃　大谷勝美（上川教育局義務教育指導班主査）
〃　沢田尚（上川教育局学校教育係長）
〃　菅原隆治（北海道造形連盟副委員長）
〃　一ノ戸信雄（〃）
〃　加藤常吉（〃）
〃　種市誠次郎（〃）
〃　森川昭夫（〃　事務局長）
〃　朝倉力男（〃〈顧問〉）
〃　泉秀雄（〃〈〃〉）
〃　上条雄也（北海道教育大学旭川分校）
〃　神田一明（〃）
〃　板津邦夫（〃）
〃　本庄康伸（〃）
◎　運営委員長　蓑口作蔵（造形連盟副委員長・旭川市立明星中学校長）
副委員長　小田栄作（旭川市立近文第一小学校長）
〃　長谷川秀男（旭川市立知新小学校長）
〃　今野正治（旭川市立神居中学校長）
〃　沢繁雄（旭川市千代ケ岡中学校教頭）
委員　工藤博視（旭川市教育委員会学務課長）
〃　後藤典享（旭川市教育委員会指導室主幹）
〃　植山尚有（旭川市教育委員会教職員係長）
〃　吉本豊（旭川市教育委員会指導主事）

◎ 編集部長　波多野　恭　輔　（旭川市立春光小）
大　西　　勤　（六　合　中）　新　井　絹　恵　（東五条小）
宮　崎　　晃　（東五条小）　大　槻　　茂　（向　陵　小）
中　田　国　守　（北　光　小）　坂　野　潤　治　（北　門　中）
佐々木　チエ子　（神楽岡小）　丸　山　和　恵　（神楽岡小）
大　和　美和子　（緑が丘小）　広　瀬　友　乃　（緑が丘小）
山　内　恵　子　（千代田小）　鈴　木　　勝　（旭川第六小）
有　沢　良　康　（盲）　山　野　照　人　（盲）
岡　崎　秀　明　（豊　里　小）

◎ 事業部長　関　　秋　宏　（旭川市立啓北中）
飛弾野　弘　尚　（千代田小）　高　橋　貞　一　（朝　日　小）
沢　田　　透　（北　鎮　小）　土　屋　るみ子　（大　有　小）
高　橋　キ　ク　（聖　園　中）　橋　本　　章　（日　新　小）
宮　田　雄　一　（旭　川　小）　奥　野　幸　子　（朝　日　小）
宮　川　　稔　（神居古潭小）　柳　沢　正　利　（近　文　小）
本　田　幸　一　（東　栄　小）　長　野　晃　児　（豊　岡　小）
西　亦　節　子　（永　山　小）　小　坂　麗　子　（東五条小）
富　谷　キ　ヨ　（東五条小）　四十物　明　紀　（東　町　小）
宮　川　昭　雄　（旭川第二中）　合　田　道　夫　（西神楽中）
本　間　　篤　（嵐　山　中）

◎ 会場・設営部長　牧　野　和　夫　（旭川市立大町小）
清　水　　明　（知　新　小）　島　　敏　彦　（知　新　小）
杉　山　　徹　（東　光　中）　千　葉　豊　治　（東　陽　中）
阿　部　国　良　（向　陵　小）　青　柳　明　雄　（豊　岡　小）
角　　邦　雄　（未　広　小）　曽我部　　豊　（緑が丘小）
佐　藤　　稔　（六　合　中）　吉　本　博　二　（千代ヶ岡小）
大久保　清　人　（旭川第四小）　氏　家　　貞　（春　光　小）
島　田　俊　博　（知　新　小）　山　科　瑞　穂　（新　富　小）
森　　孝　子　（新　富　小）　長　田　和　代　（新　町　小）
伊　藤　順　治　（新　町　小）　吉　永　一　江　（近文第二小）
山　崎　浩　子　（近文第二小）　水　谷　忠　成　（聖　園　中）
西　村　由　子　（旭川第一中）

◎ 奉仕部長　新飯田　　覚　（旭川市立神居中）
神　田　耕　治　（神居東小）　小　倉　　孝　（東　栄　小）
宮　下　　林　（春　光　小）　相　内　弘　行　（神居東小）
板　橋　正　吾　（未　広　小）　大　沼　勝　子　（北　栄　小）
鳥　本　淳　子　（啓　北　中）　弘　田　洋　子　（東　栄　小）
林　　正　子　（旭川第七小）　山　上　朋　子　（忠　和　小）
阿　部　英　子　（啓　明　小）　福　原　正　豊　（永山西小）
松　尾　十四一　（永山西小）　斉　藤　清　吉　（西神楽小）
松　岡　恵都子　（聾）

◎ 知新小学校会場係
寺　山　明　則　山　田　　功　吉　田　たか子　広　野　真由美
和　田　修　治　滝　口　聖　子　宮　田　静　二
助　則　敏　幸　太　田　善　明　島　田　俊　博
渡　辺　正　勝　畑　山　政　志　鈴　木　教　久
織　田　能　行　大　西　里　美　佐　賀　淑　子
島　　敏　彦　荒　井　和　子　梶　沼　芳　一
森　井　昭　一　清　水　　明　上　村　芳　弘
後　路　和　美　藤　田　昌　子　上　野　克　子
菅　原　晴　一　諸　橋　武　雄　佐々木　栄　一

〃　柳　瀬　包　美　（旭川せつれい幼稚園長）
〃　平　山　エイ子　（旭川市立神楽幼稚園長）
〃　西　村　　隆　（美瑛町立俵真布小中学校長）
〃　伊　賀　　明　（士別市立士別小学校長）
〃　小　林　稲　彦　（旭川市立西神楽小学校長）
〃　岩　間　　昇　（旭川市立旭川第二小学校長）
〃　森　田　喜　昇　（旭川市立神居古潭小中学校長）
〃　喜多見　　武　（旭川市立新町小学校長）
〃　岡　部　二　夫　（旭川市立旭川第一小学校長）
〃　松　浦　正　美　（旭川市立千代ヶ岡中学校長）
〃　庄　司　有　紀　（旭川市立知新小学校教頭）
〃　柳　原　寿　夫　（旭川市立緑が丘中学校長）
〃　滝　田　明　男　（中富良野町立奈江小学校長）
〃　首　藤　　薫　（富良野市立東山小学校教頭）
〃　田　村　　稔　（旭川市立永山東小学校長）教頭
〃　宮　崎　　弘　（士別市立士別中学校）
◎実行委員長　萩　原　常　良　（旭川市立神楽中学校）
副委員長　松　藤　浄　治　（旭川市立啓明小学校）
〃　鈴　木　俊　昭　（旭川市立緑が丘中学校）
◎ 事務局長　中　西　清　治　（旭川市立常盤中学校）
次　長　山　理　利　春　（教育大附属旭川中学校）
局　員　川　島　信　也　（旭川市立日章小学校）
〃　大久保　正　義　（旭川市立明星中学校）
〃　鳥　本　捷　夫　（　〃　）
〃　重　山　　恵　（旭川市立光陽中学校）
◎ 総務部長　渡　辺　正　勝　（旭川市立知新小）
五十嵐　一　之　（東　光　中）　古　屋　栄　隆　（春光台中）
◎ 会計部長　川　島　信　也　（旭川市立日章小）
築　山　尚　明　（光陽中）
◎ 庶務部長　川　口　幸　和　（旭川市立北鎮小）
紙　谷　　恒　（忠　和　小）　川　村　由美子　（旭川第一小）
市　野　恵美子　（神　楽　小）　新　井　好　恵　（永　山　小）
◎ 研究部長　小　杉　信　雄　（教育大附属旭川小）
飯　塚　札　二　（千代田小）　原　　良　二　（愛　宕　小）
及　川　輝　夫　（東　陽　中）　大久保　正　義　（明　星　中）
木　村　典　義　（附属旭川小）　加　藤　玲　子　（神　居　小）
植　村　千鶴子　（旭　川　小）　本　田　和　子　（旭　川　小）
飯　塚　　強　（神居東小）　竹　村　正　治　（愛　宕　小）
菊　地　幸　子　（愛　宕　小）　工　藤　　斉　（東　栄　小）
村　住　久　恵　（北　光　小）　菅　原　　茂　（末　広　小）
伊　藤　久　栄　（日　新　小）　宮　本　義　明　（東　栄　小）
大　谷　伸　也　（神　居　小）　太　田　哲　嗣　（神　居　小）
三　浦　　洋　（東　光　小）　高　野　　亮　（陵　雲　小）
門　脇　　元　（永　山　小）　渡　部　　茂　（永　山　小）
児　玉　恒　子　（高　台　小）　松　藤　美　子　（高　台　小）
鍛治川　　明　（陵　雲　小）　長　瀬　　優　（東　町　小）
根　本　正　昭　（旭　川　小）　杉　本　勝　義　（旭　川　中）
吉　田　一　雄　（神　楽　中）　山　田　　武　（北　都　中）
氏　本　利　光　（神　居　中）　小　嶋　与志夫　（永　山　中）
林　　茂　（北　都　中）　安　達　兼　雄　（北　門　中）
清　水　啓　造　（東　光　中）